

令和4年度 文化庁

令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業

「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業
/ 住民参加のまちづくり」

報告書

令和5(2023)年3月



JACAABE

一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構

〇はじめに

当報告書は、令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業委託業務「カイロ市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」をまとめたものです。

この事業は、「令和3年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）」の後継に当たり、一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構（以下 JCAABE）が受託し、日本学術振興会カイロ研究センターの深見奈緒子センター長を中心としたとエジプト側と日本側との連携によって実施されました。

保存まちづくりにおいて、住民がその地域の価値を理解し、自らの街は自らが作るという住民参加の視点が大切ですが、その意見をまとめるファシリテーター（促進者・調停者）が必要です。JCAABE は日本においてファシリテーター養成講座を実施しており、それをエジプトの専門家に対して実施すると共に、その受講者が、具体的に住民ワークショップに参加してファシリテーションを行うという形で実施しました。この中で、カイロ旧市街、スーク・シラーハの歴史的建築物の利活用を扱い、今後の保存、維持、管理について新たな視点と提案をまとめることができました。これらはシンポジウム（総括会）において、住民、ファシリテーターと共にステークホルダーを招聘し、共有化を図ることができました。

ファシリテーター講座については、11回のレクチャーをオンラインで行い、住民ワークショップはスーク・シラーハを対象に9回実施しました。ファシリテーター講座受講者のモチベーションを上げるべく、最低8回のレクチャー受講とレポート提出、1回以上の住民ワークショップ参加により、JCAABE から修了証を発行し、結果として12名の修了者が得られたことは人材育成という意味で、今後のまちづくりに活かされることが期待できます。

保存まちづくりに限らず、まちづくり活動は行政と専門家と住民が話し合いの中で、ある方向性を共有して進めることが、持続可能性に繋がります。その意味で専門家がファシリテーションをすることにより、専門家と住民のアイデアがブレンドされ、創造的なまちづくりが可能になります。これは、日本においても発展途上であり、当事業を通して、エジプト側のみならず日本側においても多くの学びがあり、それも成果と思われれます。

昨年度はコロナ禍により、日本側から訪問できない状況でしたが、今年度は5名が訪問することができ、実際に住民ワークショップに参加、指導、レクチャーすると共に、現地の歴史的建築物の現況を把握し現地の専門家や住民と意見交換ができたことは、今後のカイロの保存まちづくり活動における一助になったかと思われれます。（JCAABE 代表理事：連健夫）

目次

- ・ はじめに
- ・ 目次

■ 1. 事業概要 (深見奈緒子)

①事業の目的	4
②実施内容	5
(1) カイロ旧市街の評価とその共有 (カイロ旧市街の価値を的確に評価)	5
(2) 住民ワークショップの開催 (住民の遺産に対する共感を喚起)	6
(3) 住民の意見を行政側に伝える	7
・ 観光考古省による利活用計画への提言	
・ 関連行政機関への働きかけ	
・ 本事業の成果についてのシンポジウムの開催	
(4) ファシリテーター・コースの実施 (ファシリテーションによる住民の合意形成)	8

■ 2. まちづくりファシリテーター講座

□ 概要 (連健夫)	9
① ファシリテーターとは何か (連健夫)	10
② ファシリテーション技術 (連健夫)	19
③ 市民と協働するための手助け (松村哲志)	34
④ 事前復興まちづくり (市古太郎)	47
⑤ カイロのイスラーム建築の特徴 (深見奈緒子)	58
⑥ エリアマネジメント (宍戸克実)	65
⑦ 歴史的建造物と景観の保全 (荻谷勇雅)	70
⑧ 文化遺産-ハードとソフト (岡田保良)	82
⑨ 住民参加による遺産の持続可能な活用 (磯野哲郎)	86
ワークショップ用 ; 我が街ルール (連健夫)	91
⑩ 町は今、体験する場に —伝統的な産業の展開 川越の事例— (荒牧澄多)	94
⑪ コスモスとしてのカンポン	
—インドネシアのコミュニティー・ベースの居住環境整備— (布野修司)	99
□ まちづくりファシリテーター受講者アンケート結果 (松村哲志)	108

■ 3. 住民ワークショップ テーマ説明／グループディスカッション／発表／まとめ (深見奈緒子)

□ はじめに	110
① 交通計画	110
ワークショップ・ミニレクチャー：道路のデザイン (連健夫)	120

② ゴミ問題	125
ワークショップ・ミニレクチャー：ゴミ問題（連健夫）	133
③ 防災；事前復興まちづくり	139
ワークショップ・ミニレクチャー：防災（連健夫）	147
④ 歴史的建築物再利用	156
⑤ 無形遺産	164
ファトゥマ・ムスタファ女史の講演録およびワークショップの感想	170
ワークショップ・ミニレクチャー：無形文化遺産について（岡田保良）	177
⑥ 建物のメンテナンス	179
ワークショップ・ミニレクチャー：建物と環境の維持管理（苅谷勇雅）	185
⑦ 伝統工芸	189
⑧ 観光と居住	197
⑨ 空き家、空き地利用	203
■ 4. シンポジウム（事業の総括会／Ceremony of Engagement Program）	
① 概要報告（磯野哲郎）	210
シンポジウム参加者	214
シンポジウムの案内文とスケジュール	216
② ステークホルダーの会合（8月・11月）	218
③ まとめ／終わりに（苅谷勇雅・連健夫）	220
■ 5. 現状調査	
① スーク・シラーハの歴史的建造物の概略調査（苅谷勇雅）	223
② ダルブ・アフマル地区調査（深見奈緒子）	235
③ ダルブ・アフマル調査地図／写真（深見奈緒子）	244
□ 専門家プロフィール	276

■ 1. 事業概要

①事業の目的

本事業の目的は、日本に蓄積された住民参加のまちづくりを紹介し、住民が積極的にまちづくりに参加することを推進することによって、世界遺産「歴史都市カイロ」をリビング・ヘリテージとして持続的に保存していくことである。そのために、エジプト文化省傘下エジプト国立都市景観調和機構（以下 NOUH）およびエジプト観光考古省との協力のもと、エジプトでの政府と住民と専門家をつなぐ人材養成事業を遂行する。本事業においては、カイロ旧市街、ダルブ・アフマル（朱殿地区）のスーク・シラーハ（武器市場通り）を焦点とする。我々の役割は、次世代の旧市街カイロを保全する人材に対して、以下の点に関する日本での蓄積を伝え、一緒に考え、住民参加のまちづくりを実現化していくことと考える。（1）カイロ旧市街の価値を的確に評価し、（2）住民から自分たちの町に対する意見を聞き出し、（3）行政と住民の間を円滑に繋ぎ、（4）ファシリテーションの手法を使って住民の合意形成を図る。上述の通り、今回の事業の拠点となる機関として、エジプト文化省傘下 NOUH およびエジプト観光考古省とする。

（1）に関しては、観光考古省に登録された建造物のほかに、歴史的価値はありながら半ば崩壊状態で撤廃される可能性のある建物の所在を明らかにし、加えて建物だけではなく都市を構成する街路空間自体の歴史的価値を訴えることである。そのために、行政側に働きかける必要があり、今回の事業の拠点となる機関として、NOUH および観光考古省と協力して、この作業を進めることによって、現地技術者に対する人材養成を狙う。

（2）に関しては、上記課題にも通じるが、中東の国々においては、「点としての歴史的建造物保存」は19世紀の植民地時代から根付いているものの、都市組成、リビング・ヘリテージ、町並み、修景といった「面としての歴史地区の保全」はいまだに良好に機能してない。その原因の一つには、そこに住む人々が遺産としての地域に無関心であるために、住民側からの積極的な働きかけが欠如していることにあると考える。この状況を打開するためには、住民の遺産に対する共感を喚起することは欠かせない。そのために、定期的な住民ワークショップを開催する。このワークショップを通して、住民の中からも積極的にまちづくりに関与していく人材が育つことが期待される。

（3）に関しては、たとえ住民が意見を発するようになっても、民主主義が根付いていないエジプトにおいては、その意見が行政側に伝わらないことも多い。住民の意識を高め、彼らの思いを引き出し、それを行政に伝えることが必要である。特に前年度事業において取り組んだ歴史的建造物の再活用という点から、今回の事業の拠点となる機関として、エジプト観光考古省と協力して、両者の間を繋いでいく。またこのコミュニティ参加の方針は、同省が大エジプト博物館などを通じて現在目指しているところでもあり、同省の目論見とも合致する。

（4）に関しては、（2）で提案する住民ワークショップを通して、前年度事業で作成したファシリテーションの英訳をファシリテーター側で共有し、その施行を図る。（2）にも記したように、このワークショップは住民の意識養成およびそれに関わるファシリテーター（技術者、研究者）双方の意識養成を兼ねており、一連の日本人が関与するワークショップを通じてエジプト側で自発的に運営する状態を醸し出すことへの飛躍を目指している。

長期的な計画としては、このダルブ・アフマルにおける業務によって、歴史都市保全に積極的に携わる人材を育て、ダルブ・アフマル地域からその相乗効果によってカイロ旧市街全体に広まり、世界遺産「歴史都市カイロ」がリビング・ヘリテージとして持続的に保存されていくことを目論んでいる。

②実施内容

(1) カイロ旧市街の評価とその共有（カイロ旧市街の価値を的確に評価）

令和3年度事業として、未登録の歴史的建造物を指摘するために、前事業においてダルブ・アフマル地区において悉皆的な調査を行なった。その調査報告書として“Souq al-Silah; Maps & Buildings 2022”をまとめた。当初令和4年度本事業においては「NOUHによるカイロ旧市街の評価への協力」を目論んでいたが、予算の縮小等により、「カイロ旧市街の評価とその共有」へと方向を修正し、事業を推進した。その内容は以下の通りである。

令和4年度事業開始時点において、既調査区域（ダルブ・アフマルのスーク・シラーハから展開する地域）において未整理の地域が残されていた。本事業においては、補充調査未整理の地域に対して、5月から作業を始め、現在冊子としてまとめている段階である。その作業には、前年度事業に参加した現地専門家（ハーガルとファーティマ）が参加し、そのハウトゥを他のエジプト人技術者に伝えられるまでに成長した。なお、情報共有という点から“Souq al-Silah; Maps & Buildings 2022”をアラビア語に翻訳し、印刷、後述するワークショップおよびファシリテーター・コース参加者等に配布した。



“Souq al-Silah; Maps & Buildings 2022”をアラビア語版

ワークショップ報告書

さらに、令和4年度事業開始時点において上記調査地域は世界遺産コアゾーンの一部分に過ぎず、前年度の成果をさらに発展させるために、前年度調査を前提として、本事業拠点となる機関の一つとしてのNOUHに継続作業を依頼することを目論んでいた。しかしながら予算縮小等により、後述するファシリテーターコースと住民ワークショップを事業の主眼においたため、この作業は現在まで執行できていない。ただし事業の継続的發展のために、新たに地理情報システム（GIS）を導入することを本事業においては開始した。その実態として1938年に測量された地図に500分の1の地図40葉について、ArcGISへの入力を行なった。この作業は、カイロ旧市街を歴史的観点から見た建造物台帳の作成に協力する同機構主体で世界遺産のコアゾーン全体への拡張していく事業へとつながるものとする。

今後の課題となる建造物台帳の内容として、令和3年および本事業においてそれぞれの建物（階数、用途、構造、建設年代、入口）や空地・荒廃状況などを調べ、地図に記入し、建物と地区の評価を行ったという素地がある。1938年地図には各戸の敷地、中庭などが記入されているので、ここ100年余りの間にどのように都市が変容してきたか、あるいは保たれてきたかをものがたり、建造物台帳の基礎となる。この意味から、1938年地図をArcGISに入力した。こうした基礎台帳は、歴史都市カイロという広大な地域において歴史的建造物の保全を考える上で欠かせない。加えて、歴史的街路網が重要な意味をもつカイロではなおさらであり、早急の作成が望まれ、今後の課題となる。

ナポレオン遠征によって編まれた『エジプト誌』に挿入されたカイロ旧市街詳細図との比較については、本書「■5. 現状調査②ダルブ・アフマル地区調査」において、その結果を述べる。18世紀末の通りの形状がそのままに残っている部分、道路名称について19世紀末のアリー・ムバラクの著述との比

較を行い、地域における主たる通りの指摘を行なった。これは、今後の当該地域における交通計画を立案するためにも重要である。

これらの作業は、現地専門家に、都市遺産の記録という技法の養成を目指すものであったが、後述するワークショップおよびファシリテーターコースとも関連し、実際の都市の記録の技法が伝授されたと考える。

（２）住民ワークショップの開催（住民の遺産に対する共感を喚起）

都市遺産は万人のものである一方、その保全や保存については行政側や外部者、あるいは専門家の関与が必須である。とはいえ、日々直接に関わり、その価値を享受するのはそこに住む人々で、彼らの積極的な貢献なしには、都市遺産保全の持続的な成功はなしえない。いまだにカイロ旧市街の価値をうまく引き出せていない住民に対して、定期的なワークショップをつうじて、さまざまな価値の創造を問うていくことから、未来への遺産継承・保全をより確固たるものにすることができるといえる考えに本事業は基づいている。

申請機構 JCAABE が専門とする住民参加を促進するために、対面式で 18 回（月に一度男女別）住民ワークショップを行った（詳しくは本著「■ 3. 住民ワークショップ」参照）。ワークショップは、現地専門家のファシリテーター（行政と住民と専門家をつなぐ役割を担う）としての技法を磨く場となるばかりでなく、住民側から積極的にまちづくりに参加する人物を開発するという人材養成の場となった。運営には、令和 3 年度事業に協力したアズハル大学教授サラ氏、メヌーフィヤ大学教授アラ氏をはじめ、ファシリテーター・コース（後述）に参加した若い現地の建築家や観光考古省の若手の職員が参加し、まちづくりに対する住民参加のノウハウを住民との対話の中で実務として経験した。その際に、日本からの訪問者（8 月に 2 名、11 月に 2 名）が参加し、フィードバックを含めた後方支援を行った。また、ワークショップ開催前後に、日本人協力者が現地日本人協力者と日本側協力者の間で zoom ミーティングを行い、また現地日本人と現地専門家が対談し、ワークショップの方針、その成果を双方で共有した。

この一連のワークショップでは、ファシリテーターが参加して住民の遺産意識を啓蒙し、彼らの実務経験を促すと同時に、住民自身の遺産への積極的関与の姿勢を育成できたと考える。会を重ねるごとにファシリテーターと住民の関係が密接になり、住民コミュニティの一要素にファシリテーターが成長したとも言える。ワークショップでは日本の街並み保存で培われた住民参加の方法を紹介するとともに、現在地域で問題となっていること、地域の歴史やその特殊性や普遍性などを話し合い、ワークショップ参加者が共有する希望ある歴史都市の未来像に近づけたと感じている。後述するように現地の建築家や歴史家、あるいは行政側や NGO、日本側からも講師を招いた。

ワークショップの場は、自由な意見を発言できる場となり、しかも女性にとって数少ないコミュニティの場となった。身近なことから始めて、歴史都市に住むということを考える場となり、2 月最後のワークショップの際には、参加者からぜひ継続をとの声が大きかった。一連のワークショップを通して、文化遺産に自分なりの価値を認識することができるようになり、文化遺産に対して自分のものと認識し、少なくともワークショップに参加した住民たちの間には、積極的に介入するコミュニティが形成されたことが観察できる。その一つとして、現地職人を中心とした木工組合の設立が挙げられる。現在政府側に申請中であり、職人でなくても希望者は加入できる仕組みとしたので、さらにコミュニティが強化されることが望まれる。

また、この一連のワークショップ自体がいかに住民参加へとつながっていったのかという軌跡を記録に残し、英語、アラビア語版を作成し、後述する 3 月 5 日のシンポジウム（「■ 4. シンポジウム」参

照)において配布した。これは、カイロ旧市街において住民参加を広めていく際の指針となる。

(3) 住民の意見を行政側に伝える

・観光考古省による利活用計画への提言

カイロにおいて観光考古省に登録された歴史的建造物の多くは、施錠・放置されており、2020年から2021年の修復後でさえ、施錠し鉄柵に囲まれた状況で、都市建築としての機能を十分に果たしているとは言えない。内部空間の利活用は、建物本来がもっていた公共的側面を取り戻すことにつながる。

前事業の住民参加のワークショップにおいて、利活用の合意をえた6つの歴史的建造物について、その所管である観光考古省も現在活用を模索中である。本事業は、後述するファシリテーター・コース(本書「■2. まちづくりファシリテーター講義」参照)において、観光考古省と協働関係を結び、若い所員へのコミュニティ・エンゲージメントを推進することを約束した。これによって毎回のワーク・ショップには観光考古省からの出席者が多くなり、彼らはコミュニティと観光考古省を繋ぐだけでなく、本事業の意向を観光考古省の施作に反映する役割を果たした。その結果、観光考古省により2021年に修復を終えたスーク・シラーハの3つの建物(シナン・パシャ給水所、ルカイヤ・ドウド給水所、コーカリアーン給水所)の利活用をはかり、その運営をコミュニティに任せる案件が進行しつつある。すなわち、対象地における歴史的建造物活用の実現化に対する住民の意見を提示し、行政と住民の間を繋ぎ、実際の事業へと促すことが完遂しつつあると言える。また3月5日の、まとめのシンポジウムにおいて、具体的に日本に蓄積された公共建築の管理維持方法が紹介された。

・関連行政機関への働きかけ

ワークショップに関して、住民と行政側をつないでいくために、ハイイ(区)の長をワークショップに招いた。エジプトにおいて区長は任命制であり、中央集権が徹底しているため、区長の権限はそれほど大きなものではない。しかしながら、住民が集まって、熱心に地域の未来を考えていることを知り、彼女は協力的な姿勢を約束した。

ユネスコを通じたエジプト側行政への働きかけも本事業の一つである。歴史的カイロは、世界遺産に登録されていることから、ユネスコと関わりが深い。本事業とユネスコカイロ事務所との関係は、どう事務所でも文化遺産を担当する高橋暁女史が、ワークショップやファシリテーター・コースに参加、日本人事業協力者がエジプトを訪れた際にユネスコ事務所を訪れるなど、本事業の活動紹介の機会をもうけた。さらにユネスコの無形遺産保全事業に関わるファトマ女史が10月のワークショップで講演し(本書「■3. 住民ワークショップ⑤無形遺産」参照)、また11月に開催されたCOP27で本事業に参加する深見が講演するなど、強化された。また、現在進行中のユネスコプロジェクトの一つであるカイロにおける無形文化遺産保全事業を視野に入れた。特に本事業は都市遺産という有形遺産をターゲットにしているが、地域住民の生業であり地域を支える地場産業としての伝統的木工は無形遺産であり、無形遺産の容器としての有形遺産という両者のつながりを本事業は重視している。ユネスコの世界遺産歴史都市カイロに対する勧告決議には、厳しい評価がなされているが、無形遺産と有形遺産の深いつながり、あるいは本事業を通してコミュニティを巻き込んだ事例に観光考古省が取り組むことは望ましいことで、歴史都市カイロに対する良い評価へと繋がっていくと確信する。

日本人協力者のカイロ訪問に際して、8月と11月にステークホルダーを交えた会合を実施した。観光考古省、NOUH、首相直下に歴史地区の保全を改善するために2020年に組織されたアーバン・デベロップメント・ファンド、カイロの保全プロジェクトに関わる建築家などが参加し、議論を交わした。これがきっかけとなり、スーク・シラーハにおける緑化プロジェクト(Freideriche Eibet Stiftung 支援)および地産食堂の建設のプロジェクト(Drossos 支援)が、現在動きつつある。

加えて、在エジプト日本大使館との関係性の維持も行った。8月の連代表および荻谷氏のエジプト訪問に伴い、大使と面談し、日本の援助の可能性を模索した。岡大使夫妻および大使館一行が9月にバイト・ヤカンを訪問され、日本外務省草の根支援の木工訓練所(バイト・ヤカン内所在)を含め、スーク・シラーハー帯の事業を説明した。さらに11月の荻谷氏、岡田氏訪問の際には、アラール氏夫妻、深見も交えて大使公邸での食事会が催され、更なる意見交換が行われた。大使館関連では12月に上記木工訓練所のオープニングが行われ、日本(金沢)から伝統的建築専門の建築家と大工棟梁が招かれ、1週間にわたる木工ワークショップが開催された。このように、在エジプト日本機関とも良好な関係性を構築できた。

・ 本事業の成果についてのシンポジウムの開催

1年間の事業をまとめる意味から、3月5日にバイト・ヤカンにおいてシンポジウムを開催した(詳細は「■4.シンポジウム」参照)。このシンポジウムは、住民ワークショップ、ファシリテーター・コース、ステークホルダーを交えた会合の参加者を一同に集め、本事業の経過が説明された。同シンポジウムに際して、本事業協力者である磯野氏、穴戸氏がカイロを訪問した。シンポジウムでは、ワークショップを総括する形で、9回のワークショップを4つの課題(公共サービス、都市組成の管理、無形遺産、経済開発)にまとめ、まず住民とファシリテーターが意見を総括し、行政側の前で発表を行った。日本側のオンライン参加者の意見で括られた。

住民を主体としたワークショップ、住民参加のまちづくりの専門家を養成するファシリテーター・コース、さらには行政に対する働きかけが一体となるシンポジウムであった。

(4) ファシリテーター・コースの実施(ファシリテーションによる住民の合意形成)

申請機構 JCAABE が専門とする住民参加を促進するための11回に及ぶファシリテーター・コースをオンラインで実施した(詳しくは「■2.まちづくりファシリテーター講義」参照)。前述のように本コースには観光考古省からの強力なサポートがあり、若い所員たちが参加した。また、建築学科を卒業し、歴史地区に興味がある人材も多く参加した。住民参加が主題であったためか、NOUHからの参加者は限られていた。

コースの中心は各回テーマの講演とそれに伴う質疑応答にあった。毎回活発な質疑応答が繰り返された。前述したようにファシリテーター参加者は、ワークショップで実務を経験する。そのため、コースの内容とワークショップのテーマを関連づけることも重要であり、前回のワークショップの反省や次回のワークショップのテーマ説明等を講演の前後に付け加えた。このことによって、両者が結びついて機能するようになった。

ファシリテーター・コースに8回以上参加してレポートを提出し、ワークショップでファシリテーションを行った人には、申請機構 JCAABE から認定証を出すことを決め、3月5日のシンポジウムの際に、上記条件をクリアした参加者に日本から参加した事業協力者がそれぞれに手渡した。認定証には、コースに参加する人のモチベーションを高める効果があった。

■ 2. まちづくりファシリテーター講座

概要

まちづくりファシリテーター講座はオンライン ZOOM で日本側と繋ぎ、講義は英語で行った。対象はエジプトの建築家や専門家達である。受講後に住民ワークショップのファシリテーションを行うという基本プログラムである。

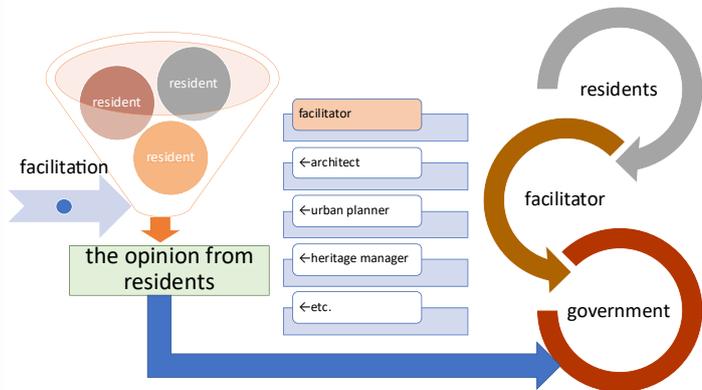
- ① エジプト側代表として深見氏から本日のプログラム説明と講師紹介
- ② 日本側 JCAABE 代表の連から、ファシリテーターが、住民の意見や要望をまとめ、行政と住民と専門家を繋ぐ役割であることを説明
- ③ コースのプログラムが、11 回の講義と、9 回の住民ワークショップで構成されていることを説明
- ④ 講義受講とその感想レポートの提出（最低 8 受講必要）と住民ワークショップの参加（1 回以上）により JCAABE から修了証が授与されること、感想レポートはオンラインで記入することを説明
- ⑤ 本日のプログラムのタイムテーブルの説明

毎回のプログラムは、コース説明を 10 分、講義を 30 分、質疑を 30 分行い、その後、次回のワークショップの説明を 20 分行うという形で行った。

質疑は、深見氏の司会進行により議論が深まった。エジプトの実態を捉えた上で、議論をすることが大切であり、それにより受講者に講義内容のポイントが理解できると共に、日本側の講師にもエジプトの現状を理解する機会となる。講義の知識を下地に、建築家や専門家が住民目前でファシリテーションをすることにより、創造的な住民ワークショップになることが、共有できたと思われる。

Historic Cairo [Urban community development facilitator training course]

“Project for Sustainable Conservation in the Historic Cairo/Community Development with the Participation of Local Residents”
supported by the Agency for Cultural Affairs 2022, International Exchange Program for Cooperation in Cultural Heritage.
JCAABE; Japan Commission for Appropriate Architecture and the Built Environment



1st & 2nd	3rd & 4th	5th & 6th	7th	8th, 9th	10th, 11th
<ul style="list-style-type: none"> What is a facilitator? (by Mr. Muraji) Facilitation techniques (by Mr. Muraji) 	<ul style="list-style-type: none"> Helping to work with citizens (by Mr. Matsumura) Pre-reconstruction community planning (by Prof. Ichiko) 	<ul style="list-style-type: none"> Characteristics of Islamic architecture in Cairo (by Dr. Fukami) Area management (by Prof. Shishido) 	<ul style="list-style-type: none"> Architectural conservation and landscape (by Dr. Kariya) 	<ul style="list-style-type: none"> Cultural heritage hardware and software (by Prof. Okada) Sustainable use of heritage through community participation (by Mr. Isono) 	<ul style="list-style-type: none"> Traditional crafts in Kawagoc (by Mr. Aramaki) Vernacular architecture and the role of architects (by Prof. Funo)
6, 7		8	9, 10	11	12
①transport planning		②waste management	③disaster prevention	④historic building reuse	⑤intangible heritage
				⑥building maintenance	⑦traditional crafts
					⑧tourism and settlement
					⑨vacant houses and vacant land use

Workshops with residents at Bayt Yakan, Souq al-Silah, Darb al-Ahmar

Certificate: Issued by JCAABE upon attendance of at least 8 lectures (feedback comments required).



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdXV9uQ1tQbCqRpALR4hX8t867RdLrA8qCWOQWHLU28g/viewform>

Session 4	8:00-8:10 Explanation of the facilitation course by Muraji
Pre-reconstruction community planning	8:10-8:40 Lecture 4 "Pre-reconstruction community planning by Ichiko
	8:40-9:00 Q&A
	9:00~9:25 Explanation of next workshop by Muraji
	9:25-9:30 Supplementary explanation

① 「ファシリテーターとは何か？」2022年6月16日実施

ファシリテーターとしての建築家、歴史的カイロ【まちづくりファシリテーター養成講座】連健夫（建築家・JCAABE）

私は、日本の大学、大学院で建築を学び、建設会社に10年勤務した後、5年間、英国のAAスクールで学生、教師として過ごしました。帰国後は、建築設計の傍ら、まちづくりにも関わっています。設計としては、ルーテル学院大学新校舎、はくおう幼稚園おもちゃライブラリーなどがあります。著書は、「イギリス色の街」「心と対話する建築・家」、共著として、昨年「建築系のためのまちづくり入門」がJCAABE編著で出版されました。これは、まちづくりファシリテーター養成講座の教科書として使われています。

ファシリテーターの意味（促進者・調停者）

ファシリテーターは、1940年代後半から使われ始めた用語で、もともとはグループカウンセリングで用いられていました。現在では会議で発言や参加を促し、話の内容を整理し、参加者全員の意見をまとめる役割を担っています。そのため公平な立場で、さまざまな方の意見をまとめたり、専門家の言葉を分かりやすく説明したり、住民のつぶやきを意味のある言葉に置き換えたりするなど、調停者の役割を持っています。

参加のデザインとして、(1) 都市計画における市民参加があります。日本では1992年の新都市計画法で市民参加が奨励され、各地でワークショップが行われ、都市マスタープランが作成されました。(2)として建築設計におけるユーザー参加があります。参加型設計は、コーポラティブハウスにおいて発展してきました。その後、多くの公共建築の設計においてもユーザー参加型が用いられるようになってきています。



利用者参加のデザインの2つの意味

利用者参加には2つの意味があり、1 デザインプロセスにおける利用者参加、2 利用者参加のための機会のデザインがあります。

参加のデザインでの建築家の立ち位置

参加のデザインにおける建築家の立ち位置ですが、都市計画家の場合は、計画者でありファシリテーター、これが建築家の場合には、デザイナーかつファシリテーターということになります。ファシリテーションが苦手という建築家の場合には、別な人にファシリテーターをお願いする形になります。慣用的な建築家像として、巨匠・啓蒙・作品という捉え方があります。これが、コミュニティーアーキテクトの場合は、調停者・対話・運動、という捉え方になります。

利用者参加の理論的構築

利用者参加の理論的構築として、ヘンリー・サノフ氏があげられます。ノースカロライナ州立大学教授、都市計画学、社会教育学、まちづくり学、アメリカでの長い実践の中から施設づくりの利用者参加の手法、デザインゲームを確立しました。著書として「環境デザインワークショップ」「まちづくりゲーム」などがあります。ニック・ウェイツは、チャールズ・ネビットと共に10年以上にわたるコミュニティーアーキテクトチャー運動の発展を著書：「コミュニティーアーキテクトチャー」にまとめ、利用者参加を世に広めた先駆者です。日本においては、延藤安弘氏があげられます。都市研究者、教育者、地域プランナー、地域活動家、京都大学助手、熊本大学教授、千葉大学教授を経て、NPO 街の縁側育み隊代表理事でしたが、お亡くなりになりました。「こんな家に住みたいな」「対話による建築・まち育て」等、多くの著書があります。林康義氏は計画技術研究所所長、千葉大学客員教授などを歴任、著書：「協働型まちづ

■ Two meanings of participation in design

- 1: User participation in design process.
- 2: Design to make opportunities for the user participation.

■ Position of architects in participatory design

- Urban planning: planner + facilitator
- Architecture: designer + facilitator
- ▶ Conventional architects: Masters, Enlightenment, Works as art
- ▶ Community architects: Mediator, Dialogue, Movement
- ▶

■ Theoretical construction of user participation

Henry Sarnoff: Professor at North Carolina State University, established a method of user participation as "Design games".

Nick Walts: Pioneer of user-participation who, together with Charles Nevitt, has published the book "Community Architecture".

Yasuhiro Endo: Community activist; was professor at Chiba University; books: "I want to live in such a house" and "Architecture and community development through dialogue" etc.

Yasuyoshi Hayashi: Director of Research Institute of Planning Technology, Author of "Collaborative Town Planning", "Urban Planning for a New Era".

Theory through practice → Action research

■ Architectural design in user participation



Architect: Taro Ashihara, Koho Kitayama
Shiroishi No2 Elementary School 1996

A workshop was held for students to come up with ideas on how to use the proposed plan.

→ Interactive exchange between users and architects

くり」「新時代の都市計画」等があります。これらの方々は、実践を通して理論を確立してきた。すなわちアクションリサーチを実施してきたと言えます。

建築家の設計、利用者参加の萌芽

建築家の利用者参加の設計事例として、芦原太郎氏と北山恒氏による白石第二小学校があげられます。計画案に対して、子供たちが使い方のアイデアを出すワークショップを実施しました。ここには、ユーザーである子供たちと建築家の双方向のやり取りが行われ、子供たちにとって使いやすく、親しみのある学校になりました。

コンペ案から参加のデザインへ

1990年、湘南台文化センターのコンペで長谷川逸子氏の案が選出されました。とてもユニークであったことから、住民から様々な反応がありました。そこで行政は市民との間に意見交換会を実施しました。これをきっかけに市民参加のワークショップが行われました。具体的な設計上の主な変化は、動線計画の変更やバリアフリーへの対応で、当初のコンセプトはしっかり維持され、市民の意見も反映された建築ができました。

建築家、新居千秋氏が設計した大船渡リアスホールは、住民参加のワークショッププロセスにより作られました。従って、住民自身がその建築内容を理解しており、災害時にも避難所としてうまく機能した好事例です。

住民参加のまちづくりのキーポイント

- ① 地域のたから（良い点）を活かしあら（問題点）を解決する。
- ② 地域の特徴、ヴァナキュラー（地域性・土着性）を見出す
- ③ 歴史や文化の視点を大切にする

■ From competition to participation design

- ▶ Shonandai Cultural Center (1990)
- ▶ Architect: Itsuko Hasegawa
- ▶ Many residents expressed their opinions on the competition proposal.
- ▶ This led to a workshop with citizen participation.
- ▶ Reflecting citizen's requests in the plan
- ▶ (mainly to make it barrier-free design)



Ofunato Rias City Hall (2009, designed by Chiaki Arai)

When the earthquake hit, residents took shelter in this building. This is because they knew the contents of the building through the workshop.



■ Key Points for Citizen Participation in Urban Development

- ▶ ① Utilize local treasure (good points) and solve local rough (bad points).
- ▶ ② Discover regional characteristics and vernacular aspects.
- ▶ ③ Value historical perspectives in terms of cultural inheritance.
- ▶ ④ Value the perspective of community development
- ▶ ⑤ Value the perspective of community development for welfare.

Workshop Methods

- ▶ ① Walking Tour to Find out the Treasure & Rough
 - ▶ ② Analyze by KJ method※
 - ▶ ③ Make a proposal with collage※
 - ▶ ④ Play design games with block models※
- ※Lecture2

- ④ コミュニティーの視点を大切にする
- ⑤ 福祉のまちづくりを大切にすることがあげられます。

ワークショップの手法

ワークショップの代表的な手法として、

- ① タカラとアラを探す散策ツアー
- ② KJ法で分析する
- ③ コラージュで提案する。
- ④ ブロック模型でデザインゲームをすることがあげられます。これらは、レクチャー2で扱います。

タカラとアラの街歩きワークショップ

当方が関わっている赤坂通りまちづくりの会の事例をお話します。まずは、10名位で街を歩きます。これより人数が多い場合は2グループに分かれて歩きます。

タカラ（良い点）、アラ（問題点や課題）を皆で見つけながら街を歩きます。指示棒（ポインター）係、カメラ係、メモ係を決めます。途中で役割を交代します。

「緑や神社はタカラですね。ゴミや落書きはアラですね」といった具合です。

会場にもどって、グループに分かれて話し合います。グループは4~8人位が話しやすいです。付箋に気づいたことを記入し、それを台紙に貼り付けてまとめます。そしてグループごとに発表し、皆で共有します。

これは通りのリニューアルデザインの事例です。ワークショップで得られた意見をもとにデザインしました。道路は緩やかに曲げ、両側に歩道を設けています。植栽のボラードを設け、電信柱は茶色に塗装しています。



提案の実践

ワークショップで得られた提案をまちづくり活動に実践しています。落書き消しワークショップや、芝桜を植える美観活動などを実施しています。

まちづくり10ヶ条

赤坂通りまちづくりの会では、まちづくり10ヶ条を作成しました。地域で新築や改修の計画があったとき、建設側がまちづくり協議会に来て意見交換会をするのですが、「まちづくり10ヶ条」を元に話し合います。この意見交換会には法的拘束力がなく、あくまで住民側は要望を出すという形です。ホテルの計画事例で、建設側は内容を検討し、3ヶ月後に要望を取り入れた案を持ってきたときには、拍手がおきました。住民にとって、要望を受け入れてくれたという感謝の気持ちが生じたようです。

建築設計における利用者参加の事例

当方が関わった隠岐の島、海士町の農林水産物加工施設の事例をお話しします。ここでは知的障害者がメンバーとして特産物を作っています。ハーブティー、クッションなどがあります。すべて手作りです。

KJ法による現状分析と夢のコラージュづくり

スタッフの方々とKJ法で現状分析をしました。タカラ（良い点）アラ（問題点・課題）とハード（建築、道具等）、ソフト（お金、人等）の4つのマスを台紙に描き、付箋に意見を書き、それを貼り付けていきます。ハードにおいて良い点が少ないことが分かりました。次に、新しい建物への夢をコラージュで表現します。そこから生まれたコンセプトは、「手作りと交流を楽しみ、夢と希望が感じられる場」となり、具体的なデザインとして、「人を迎い入れる建物」としました。



3つのコンセプト模型から選ぶ

3つのコンセプト模型を作り、投票をしました。選ぶという行為によって、参加が可能になりますね。

タイルデザインワークショップ

10センチ角の枠線を書いた紙を参加者に配り、そこに自由に絵を描いてもらいました。その絵を元に陶芸家にタイルを作ってもらいます。これも参加の機会を作ることになりますね。

新聞詰めワークショップ

壁に断熱材代わりに古新聞を丸めて詰めるワークショップを行いました。新聞を丸めるグループ、運ぶグループ、詰めるグループの3つに分けて行い、途中で交代します。塗装ワークショップでは、桐の油を壁と床に塗装します。桐の油は染み込み型の塗料なので塗り斑がめだたないので、素人でも塗ることができます。ウッドデッキと屋根も皆で作りました。屋根の架構はボルトとナットで素人でも作ることができるようにしました。これらにより、施工段階でも利用者が参加できたことになりますね。

完成です。

こげ茶の楕円形部分が管理室、青い部分が下処理室です。色についても投票で決めました。管理室のこげ茶色は当方で決め、下処理室の外壁を青、赤、緑の3色から選ぶという形です。これも参加の機会をつくることになります。

利用の様子

利用者参加でデザインしていますので、利用者にとって使いやすい建築になったようです。また自分たちで作ったという意識が生じるので大切にいただいているようです。特産物のショーケースも作りました。



Create three concept models and vote on them.

—Participation by vote



Design for floor tiles, all together
A ceramic artist make them

—to make an opportunity for many people to participate



Participation in construction



お披露目会

お披露目会ではウッドデッキをステージに見立てて、太鼓の演奏会が催されました。設計者にとって味わい深い時間でした。

ルーテル学院大学新校舎の設計

ルーテル学院大学は東京の三鷹市にあります。神学科、福祉学科に加え、心理学科を設けるに当たり手狭となり、当方に新校舎設計の依頼が来ました。校舎の利用者は学生であることから、学生参加のワークショップを提案したところ、大学側から賛同を得ることができました。1日目は、現校舎のタカラ（良い点）とアラ（問題点・課題）を考えるために、KJ法を用いてワークショップを行いました。現キャンパスは、近代建築屈指の建築家である村野東吾氏の設計であり、その特徴を学生に説明しました。学生はとても嬉しそうに聞いていました。その後、KJ法で、現校舎の分析です。そこでは、ラウンジやホールなどの生活系のスペースが少ないことが指摘されました。2日目は新校舎の夢をコラージュで表現しました。そこからは、十字架、曲線美、木質感などのデザインキーワードが得られました。

それらを元に設計して出来上がったのがこの写真です。ウッドデッキでは演奏会が行われています。ベランダや管理室などに曲線を使い、大教室の屋根の支えは木構造です。手すりにも木格子を用いるなど、コラージュで得られたデザインキーワードが反映されています。



はくおう幼稚園おもちゃライブラリー

幼稚園の先生に、園児が参加できる機会について相談しました。カラーシールを子供たちが自由に切り取り、ガラスに貼ることはできるのではないか、ということで、実施しました。ガラスは透明なのでぶつかる事故が多々ありますが、その防止のためのシール代わりになります。子供達はとても楽しそうにやりました。芝の丘に滑り台を設けたのですが、その位置を子供たちと一緒に決めました。これも利用者参加の機会ですね。

完成です。「建築自体がおもちゃである」、というコンセプトです。丘の下部にも部屋があり、トップライトによって自然光を取り入れています。既存園舎からは、トンネルを通過しておもちゃライブラリーの中に入ります。建物の柱は地元の山に関係者で登り選びました。これも参加のデザインですね。

荻窪家族レジデンスの事例です。

オーナーやその関係者による参加のデザインで作った集合住宅です。オーナーの作成したコラージュをもとにコンセプト模型を作り、それを元に関係者で何度もディスカッションをしました。また、共有部分の使われ方ワークショップを実施し、内装設計に活かしました。施工段階では、タイルづくりワークショップやそれを並べるワークショップ、ウッドデッキづくりや塗装ワークショップを行いました。皆で創った建築という感じがします。

完成写真です。集会室やラウンジでは子育て支援活動や地域の保健相談室、勉強会などが行われており、居住者と地域の人が繋がる場になっています。



実際の利用者による参加のデザイン

設計者は依頼者である発注者の意見をもとに設計しがちですが、発注者が必ずしも利用者であるとは限りません。実際の利用者が参加のデザインに関わる必要があります。例えば、小学校では児童の参加、市民ホールでは市民参加、農林水産物加工施設であれば、そのメンバーの参加、大学校舎では学生の参加、幼稚園であれば園児、集合住宅では、その住人の参加ですね。

以前は、建築設計と都市計画は建築家や専門家のみでデザインされていました。現在では、都市計画における市民参加、建築設計においては利用者が参加してデザインが行われるようになってきました。このことにより、住みやすい街、親しみの持てる建築が生まれます。ワークショップは参加のデザインにおいて有効な方法です。

建築・街の保存と継承

建築や街の保存と継承において、市民が参加することで、意識が広がり、持続可能なものになります。

建築家／専門家と住民との創造性のブレンドによって、深みがあり価値あるまちをつくることができます。そのためには、ファシリテーターが重要な役割ですね。

■Points: Real users participate in the design

- Elementary school → Children participate.
- Civic hall → Citizens participate.
- Agricultural, forestry, and marine product facilities → Staff members participate.
- University building → Students participate.
- Kindergarten → Children participate.
- Housing complexes → Residents participate.

In the past, architectural design and town planning were done only by architects, as specialists

Town Planning — Citizen Participation
Architectural Design — User Participation

Create livable town and user-friendly architecture.
Workshops are effective for participatory design!

Preservation and succession of architecture and town planning will be sustainable through the citizen participation

A blend of creativity between architects/specialists and residents creates a profound and valuable town.

Facilitators are important for this purpose.



「ファシリテーション技術」【まちづくりファシリテーター養成講座】連健夫（建築家・JCAABE）

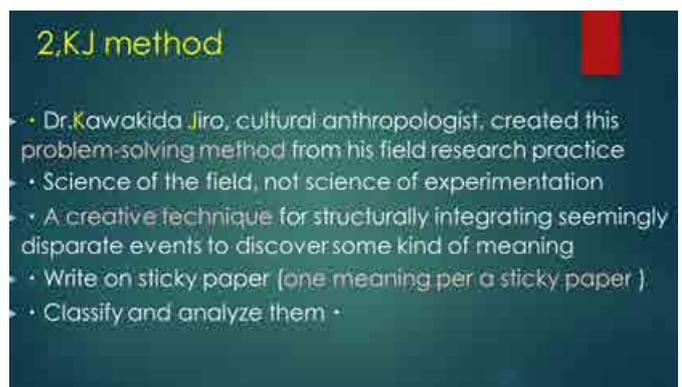
私は、日本の大学、大学院で建築を学び、建設会社に10年勤務した後、5年間、英国のAAスクールで学生、教師として過ごしました。帰国後は、建築設計の傍ら、まちづくりにも関わっています。設計としては、ルーテル学院大学新校舎、はくおう幼稚園おもちゃライブラリーなどがあります。著書は、「イギリス色の街」「心と対話する建築・家」、共著として、昨年「建築系のためのまちづくり入門」がJCAABE編著で出版されました。これは、まちづくりファシリテーター養成講座の教科書として使われています。

ワークショップの手法

ワークショップの手法の事例として、4つあげたいと思います。1つは、タカラとアラを見つける街歩きツアーです。これはレクチャー1でお話しました。2として、KJ法による分析です。次に3、コラージュによる提案です。そして、4として、建築的環境を理解し、配置を検討するデザインゲームがあげられます。

KJ法

KJ法は、文化人類学者、川喜田二郎氏が野外調査の実践から生み出した問題解決の手法であり、実験の科学ではなく現場の科学と言われています。一見バラバラの事象を構造的に統合し、何らかの意味を発見する創造の技法であり、付箋に書き（一枚に一つの意味）それを分類し、重み付けを行います。



2つのタイプ

タイプ①、付箋にアイデアや意見を記入します。→関係する内容ごとにグルーピングします。→グループにタイトルを付けます。→それらを分析します。

タイプ②、台紙に枠をあらかじめ作っておきます。例えば、アラとタカラの枠とハードとソフトの枠です。組み合わせると4つの枠ができます。→そこに付箋に書かれた内容ごとに該当する枠に貼り付けていきます。→それらを分析します。※この方法はグルーピングを貼り付けながら行うことになるので、やりやすいと思います。

タイプ①の事例写真です。関連する付箋を丸で囲み、そこに、タイトルが書かれていますね。例えば、「全体構成」「改廃」「複合あるいは単独」「改修」「管理」「ゴルフ場の開放」などが書かれています。

タイプ②の事例写真です。あらかじめ4つの枠が設けられています。良い点と悪い点、ソフト（人、システム、制度、お金）とハード（施設、設備、道具、家具）です。その4つの枠に該当する内容の付箋が貼られています。両方に関係する内容が書かれている場合は枠の線上にも貼っても良いです。

タカラとアラを見つける街歩きツアーの事例です。東京の芝エリアです。

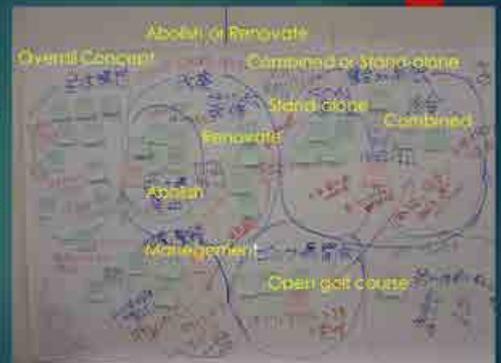
8人位のグループで歩きます。多い場合は2グループに分かれて回ります。

2 types

- ▶ **Type①**: to write down on the sticky-paper → grouping them → to write the title of each grouping → to analyze them
- ▶ **Type②**: to prepare the basic paper where frame to make grouping → to put the sticky papers to the basic paper → to analyze them
- ▶ ※ It can be classified when you put sticky-papers on the basic paper.

Type①

Grouping and Provide each title



Type②

There is a frame. Put them on the frame according to the meaning.

Soft Ware

People
System
Rule
Money

Hard Ware

Facilities
Equipment
Tools
Furniture

Good Points

Bad Points



Walking Tour to Find the Treasure & Rough

(Shiba-area, Tokyo)



2階ベランダに大根が干されていますね。地域の文化が感じられるので、タカラ！ですね。指示棒でポインター係がそれを指し、カメラ係が撮影しています。役割分担をして、不公平が無いよう途中で交代をします。



ベンチは休憩ができるので、タカラ！ですね。ベンチでくつろいでいる人と歩いている人と交流が生まれる可能性もありますね。



屋形船、この地域の特徴なのでタカラ！ですね。1人はポインターで指し、1人の女性は手で○を示しています。



放置自転車は倒れたりすると危ないし、景観としても問題で、アラ！ですね。この女性は手で×を示しています。



会場にもどって、KJ法で分析です。

タイプ②の方法で分類しています。生活や文化のタイトル付けされた付箋は、ソフトのタカラの枠に貼られ、騒音やゴミのタイトル付けされた付箋は、ソフトのアラの枠に貼られていますね。緑や建物のタイトル付けされた付箋は、ハードのタカラの枠、道や電車の付箋は、ハードのアラの枠に貼られています。現状に課題があるようです。

発表です。

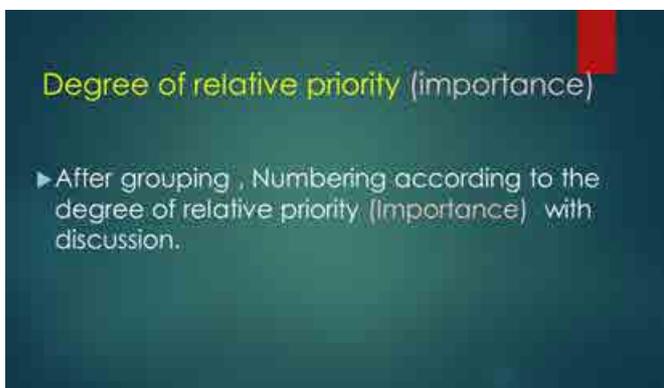
グループで分かれて KJ 法で分析した結果をグループごとに発表します。そのことにより参加者全員で結果を共有することができますね。

重みづけ（優先順位）

問題や課題が共有できれば、どれから先に検討すればよいか、重みづけをします。これは提案についても同様です。つまり優先順位を話し合いの中で決めていくわけです。まちづくり活動はその優先順位に沿って実践されます。

重みづけ（優先順位）の事例です。

提案におけるソフトとして、①行政を巻き込む、②ルールを決める、③コミュニティー活動があげられています。ハードでは、①カフェを作る、②改修する、③避難所の設置、があげられていますね。



コラージュ（切り貼り絵）

コラージュは街の将来の夢を表現するのに有効です。イメージを貼るだけなので簡単に誰でも作ることができます。イメージなので反対や文句が出にくいです。また皆でコラージュづくりをした場合は、グループの成果物・作品として満足感が得られます。準備するものは、台紙、イメージ（写真）、マーカーなどです。事前に写真や雑誌を用意しておくが良いですね。そこから各参加者が気に入ったイメージを切り取り、台紙に貼り付けていきます。出来上がった後、それをプレゼンテーションして皆で共有します。

再開開発においてコラージュづくりをした事例です。六本木エリアで、将来の街のイメージを表現すべくコラージュ大会をしました。

1. 将来の街のイメージを皆で一緒にコラージュとして表現しました。雑誌から切り取ったイメージ（写真）や文字、スケッチも描かれていますね。コラージュ表現は自由なので、楽しんで作成することができます。

2. コラージュからキーワードを見出す。

出来上がったコラージュから、皆で話し合っキーワードを見出します。ここでは、「バリアフリー、第三の居場所、花や緑の街、回遊を楽しめる街、青空が見える、広場と庭の調和、オープンカフェ、旅行、観光、美的統一感、無電柱化、災害に強い街、個性的な街」などがあげられました。

2.Collage (cut and paste pictures)

- ▶ Useful for expressing a Town's future dreams.
- ▶ Easy for anyone to create.
- ▶ No one will complain, because they are images.
- ▶ It is more exciting when it is a group collaborative work.
- ▶ Prepare materials (magazines, photos ,etc.) for cutting and pasting in advance.
- ▶ After creating the image, make a presentation and share it with everyone.

Examples of using collage in Town-redevelopment



2. Finding keywords from the collage

- ▶ Barrier-free. Third place to live. Town with flowers and greenery, and nature. Town where strolling is fun. Sky view. Square and garden need for harmony. Open café. Travel. Tourism. Beautiful city with unity. No electric poles. Resistant to disasters. Town with character. And so on

3. キーワードをもとに話し合い、「理想の街」として何が大切なのかをまとめます。

ここでは、

1. 第三の居場所
2. 快適な街
3. 災害に強い街
4. 老若男女が共存できる街
5. 坂道をほこりに感じる街
6. 隣人同士が仲良くできる街
7. 便利で飲食が楽しめる街
8. 花と緑を楽しむ街

があげられました。

なぜコラージュを用いるのか？

心理学では、コラージュは無意識が意識化されたものと捉えています。創造性とは、無意識から何を意識化する力であり、方向性です。つまり、コラージュに現れたものをデザインに活かすことは、創造性を活かすことに繋がります。つまり、この創造性を活かすことにより癒しや元気の出る建築や街を作ることができます。

心の構造

フロイトは心の構造として無意識と意識の世界があり、心の中心が自己、意識の中心が自我としました。心の治療のためのプロセスとして、フロイトは「告白→解明」、アドラーは「告白→解明→教育」とし、ユングはそれを更に進め、「告白→解明→教育→変容」とし、それを創造性のプロセスと位置づけました。

創造性のメカニズム

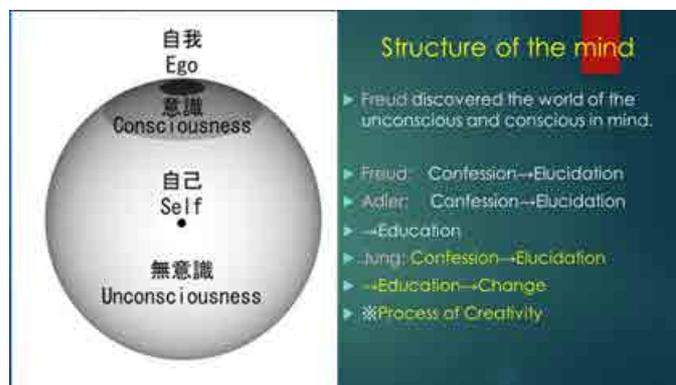
この図において、下部が無意識の世界で、上部が意識の世界です。その間に心像（イメージ）があります。創造性とは、心像（イメージ）を手掛かりとして、何かを無意識から意識化することとしています。

3. Discuss based on the keywords and summarize what is important to you as an ideal town.

- ▶ 1. a third place is important
- ▶ 2. a comfortable town
- ▶ 3. a town resistant to disasters
- ▶ 4. a town with symbiosis (young and old, man and woman)
- ▶ 5. a town that can be proud of its hills.
- ▶ 6. a town where neighbor get along with each other.
- ▶ 7. a town where people can enjoy convenience, food and drink
- ▶ 8. a town where people can enjoy flowers and greenery

Why collage?

- ▶ In psychology, collage is from the unconscious made conscious.
 - ▶ Creativity is the power to make the conscious from unconscious.
 - ▶ To make use of what appears in the collage in design is to make use of creativity.
- This creativity is thought to create architecture and towns that heal and energize.



箱庭療法

箱庭療法は内側を水色に塗った1m角の箱を利用します。そこに砂を敷き、クライアントは砂を動かして、山を作ったり川を作ったり、様々なアイテムを使って、自分のイメージを表現します。そこに表出するものが、心の構造におけるイメージ（心像）であり、箱庭作りをする行為の中でクライアントの創造性を活かすことになり、その行為が治療になるわけです。



コラージュ療法

コラージュ療法は、箱庭療法の簡易版として使われています。街づくりや、建築設計においてコラージュを住民や利用者によってもらうことは、参加者の創造性を活かすことに繋がります。コラージュをもとに話し合うことは夢を共有することになりますね。



赤坂通りまちづくりの会でコラージュづくりをした事例です。皆で、理想の赤坂をコラージュで作ろう、ということでグループワークをしました。そこから街で大切にすべき10か条を作成しました。



理想の赤坂の街を表現したコラージュ

様々な写真が貼られていますね。AKASAKA、住みたい街、出会いの街、などのコメントも記入されています。お花のスケッチも描かれています。皆で楽しんで作ったことが感じられますね。



コラージュからキーワードを見出す。

コラージュをもとに皆で話し合いながらキーワードを見出すと、言葉として共有することができます。ここでは、「和モダン、緑豊かな、大人の街、散歩して楽しい、上質」などがあげられました。

そこから「緑豊かで和モダンの散歩が楽しいまち赤坂」を街のビジョンとしました。

我がまちルール 10 ヶ条

そして、赤坂のまちづくりのルールとして 10 ヶ条を作りました。法的拘束力はありませんが、新築や改築について意見交換する時に役立ちます。

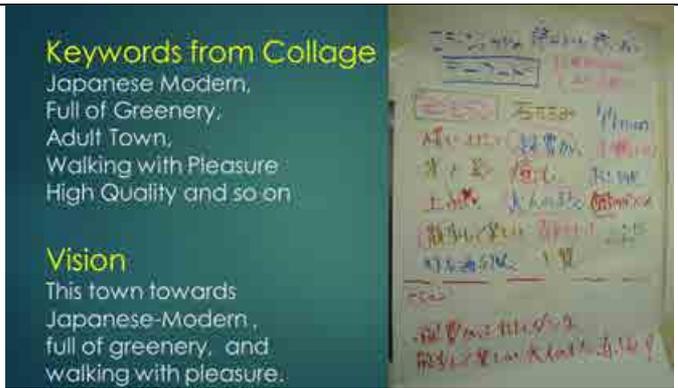
- ① 赤坂通りの会との協議
- ② 赤まちづくりビジョンの理解
- ③ 赤坂通りまちづくりの会、町会、商店会への加入
- ④ 赤坂の歴史文化の継承と創造
- ⑤ バリアフリーへの配慮
- ⑥ 赤坂の景観への配慮
- ⑦ 緑の配置
- ⑧ 広告看板の規制と誘導
- ⑨ 用途の規制（パチンコ店は不可）
- ⑩ 回遊性への配慮

※和モダンがコンセプト

建築設計における利用者参加の事例

当方が関わったシェアハウスの設計事例です。

施主に理想の家をタイトルに、コラージュを作ってもらいました。とても素敵なコラージュですね。



コラージュの読み取り、感じ取り

【特徴】きれいなコラージュ、マイペースでおおらか、花を囲んで動物のイメージ、路地の親密性、市場の活気、水のやすらぎ

【キーワード】快晴、水、囲む、覆う、抜ける、集う、可愛さ、隙間、ブルューグリーン、リラックス、多様性、寛容

【コンセプト】様々な所から空が見える、水が見える。癒され元気になる場が集まる場

【空間構成】路地を抜けると居間とコートヤード。コートヤードを通して空が見える。水が見える。

コラージュの読み取り感じ取りから設計がスタートしており、施主参加のデザインと言えますね。

敷地は西と北に道路がある角地です。

角部に電信柱が立っており、その位置も考慮に入れる必要がありますね。

2つのゾーニングプランの提案

A案「L字型プラン／庭のあるシェアハウス」とB案「コートヤードのあるシェアハウス」の2つのゾーニングプランを作り、施主と話し合いました。ゾーニングプランとは、リビングやダイニングなどの公的なゾーン、個室などの私的なゾーン、水回りのゾーンといった関連する諸室をグルーピングして、建物に配置することを言います。施主は、B案が気に入り、B案で進めることになりました。複数の案を示して、選ぶという行為が、施主参加の機会となっていますね。

B案のブロック模型を作成、

ブロック模型とはボリュームを理解してもらうため、スタイロフォームなどを切って作成した模型です。それを敷地図に載せて、周囲との関係も含めて共有してもらいます。

Reading and Feeling from the collage

- ▶ Characteristics: clean collage, my pace and generous, image of animals around flowers, intimacy of alleys, energy of market, peaceful of water.
- ▶ Keywords: clear sky, water, surround, cover, exit, gather, cute, gap, blue-green, relax, diversity, tolerance
- ▶ Concept: The sky can be seen from various places, and water can be seen. A place where healed and energized places together.
- ▶ Space composition: After passing through the alley, there is a living room and a courtyard. The sky can be seen through the courtyard. Water can be seen, too.



B プランから配置、平面図を描きます。

敷地をどのように使うか、建物周囲の駐車場、アプローチ、コートヤードなども含めて配置平面図を作成し、施主と話し合います。この中で、玄関ホールとコートヤード、リビングを貫く、「水盤」を提案しました。これは施主のカラージュからヒントを得ています。



具体的な模型を作って話し合う。

施主から若い時のニックネームがチューリップちゃん聞き、模型の屋根をその優しく可愛らしいイメージから曲面に調整しました。→単に模型で立体を共有するだけではなく、それを元に話し合い、調整していくことにより参加のデザインとなりますね。



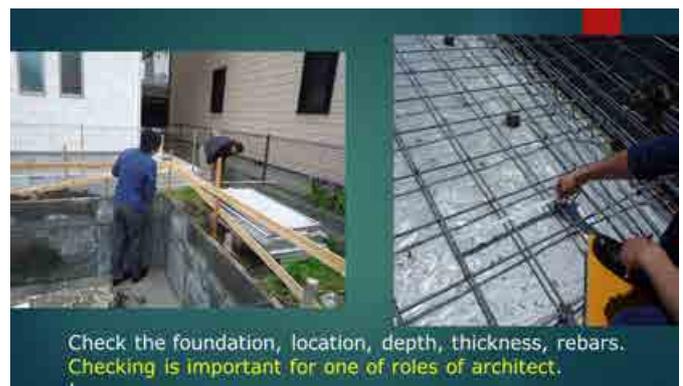
地鎮祭です。

建築工事の安全を願い、神道で地鎮祭を行いました。最近、このような儀式を省略する方もいらっしゃいますが、儀式によって、安全祈願と共に、気持ちの切り替え、施主、設計者、施工者の繋がりを持つ機会になるので、私は施主に勧めています。



設計監理を行います。

図面通りに施工者が施工しているかを設計者がチェックをします。基礎では、鉄筋の太さやピッチ、型枠との距離などをチェックします。施主（発注者）、施工者（請負者）のどちらでもない設計者による監理は、第三者監理とも言い、中立的な立場で客観的にチェックすることが可能となります。



上棟式で施主の家づくりの思いを共有する。

上棟式は、上棟までの工事への感謝と今後の工事の安全を祈願すると共に、施主から職人への思いを伝える機会になります。ここで施主、職人、設計者が飲食を共にして、コミュニケーションを図ることができます。現場に施主が足を運んだ時にも、気軽に声を掛けることができますね。

施主にはなるべく現場に足を運んでもらっています。工事プロセスを共有することにより一緒に作っているという意識が生じます。

丸い窓枠施工は難しく、大工の腕の発揮どころですね。

現場で設計と職人と何度も打合せを行い調整します。ここでは、水盤の水を循環させる設備ポンプについて調整をしています。

外構のアプローチに施主がタイルを気に入った位置に置いています。職人はその位置にタイルを貼ります。外構工事における施主参加のデザインですね。



施主による塗装工事

コストコントロールの時に、塗装工事は施主でもできることを伝えたところ、自分たちでやってみる、となりました。つまり施主施工が行われたということです。コストダウンにより施主が参加する機会が生まれたという訳です。もちろん素人なりの仕上がりですが、それも個性（味）と感じられますね。



完成です。

玄関ホールからの写真、ホールの床から水盤が伸び、コートヤードを通して奥のリビングに繋がっています。室内では透明ガラスの床の下に、水盤が見えますね。



ダイニングとリビングの写真です。

リビングの水盤とコートヤードとの関係が分かりますね。



リビングとキッチンの写真です。

シェアハウスは、公的なスペースを共有できるという良さがあります。つまり、自分の部屋（私的空間）と共有空間であるリビングやダイニング、コートヤードなどを利用できますね。

LDKは36㎡ありますが、それをシェアできる良さです。



シェアハウスでは居住者や友人とイベントを共有できる楽しさがあります。これは、お披露目の様子です。皆で食べ、飲み、おしゃべりを楽しむ、つまり集住の良さですね。



癒され元気になるチューリップハウス

水盤が外と中を繋ぐ！→自然を繋ぐ
→人を繋ぐ、ことになります。

シェアの良さ→個人のスペース＋共有スペースですね。

参加のデザインにより、施主にとって、利用者にとって、親しみの持てる建築になりました。

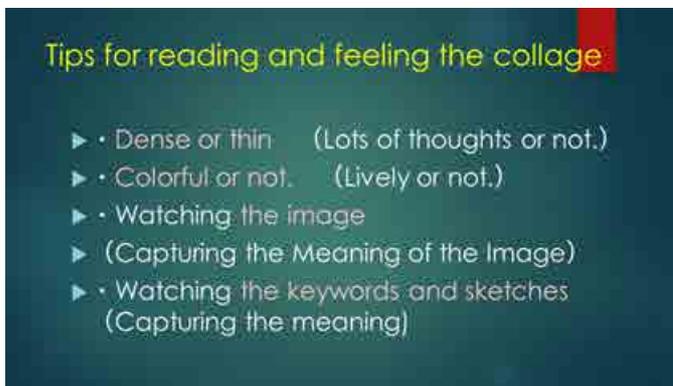


コラージュの読み取り、感じ取りのコツ
まず全体を見て、

- ・密度が濃いか薄いか（思いが多いか否か）
- ・カラフルか、そうでないか（生き活きしているか、そうでないか）

次に、部分を見ます。

- ・どのようなイメージが貼られているか。
→そのイメージにどのような意味があるか
- ・書かれているキーワードやスケッチ
→どのような意味を捉えることができるか



デザインゲーム

ヘンリー・サノフによって確立されたこの手法は、参加者が楽しみながら参加できるゲーム的な手法を、都市開発の疑似体験に応用したものです。調査カードやボードゲームなど、さまざまな方法があります。敷地図にブロック模型を置いて説明することで、参加者は建築環境を理解しやすくなります。



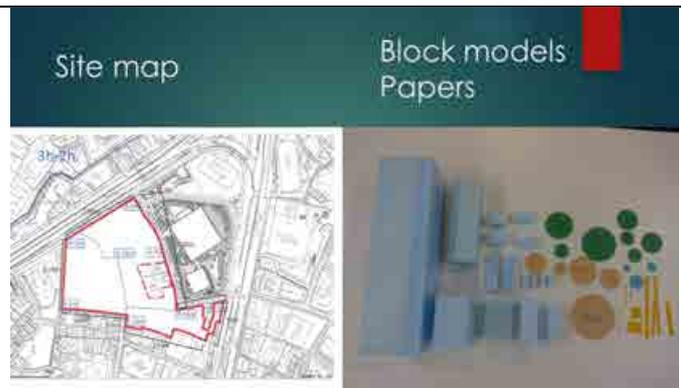
敷地図とブロック模型やペーパーを準備します。ブロック模型は建物、ペーパーは広場や公園を表現します。

ファシリテーターは、ブロックモデルを敷地に配置し、それを動かしながら、外部空間との関係など、特徴を説明します。

1つの提案よりも複数の提案のほうが、

複数案あると比較ができるので、意見が出やすいです。建物の位置によって、広場や公園の形が変化します。囲まれた感じ、あるいは開かれた感じ、などの雰囲気も捉えることができますね。

広場や公園は建物の間にできますね。つまり建物によって外部空間が生じるということが理解されます。



話し合ったことをまとめます。

- ①事務所棟は六本木通り沿いに配置する。
- ②住居棟は南側に配置する。
- ③広場や公園はその2つの間に配置する。
- ④寺の周りは緑のスペースとする。
- ⑤遊歩道は建物の周りに設ける。
- ⑥店舗は広場や公園の横に設ける。
- ⑦大階段やスロープは広場と公園を繋ぐ。
- ⑧公園には池や噴水を設ける。

選択は誰でも参加できるので大切

選択肢は参加の機会を作ります。例えば、3つのコンセプト模型から1つを選んでもらう、というやり方や、建物の色について、3色の案から選んでもらい、投票をしてもらうというやり方などです。

2~3のゾーニング案から選んでももらうというやり方。この事例では、住宅の配置計画と平面計画について、公的な部屋や私的な部屋、水回りなどをゾーニングして、タイプA~Cの案から、選んでももらうという方法です。

ポイントをまとめますと、

- 1、誰にとっても簡単に理解できるような方法を用いる。(キーワード、写真、模型等)
- 2、KJ法やコラージュは参加者のアイデアや創造性を引き出すことができる。
- 3、ブロック模型を使ったデザインゲームは参加者が建築環境を理解するのに役立つ。
- 4、選択肢は参加の機会を作ることになる。
- 5、目的や参加者の属性によって、適切な方法を選ぶことが大切です。

ファシリテーターはこれらに留意することが大切です。

Summarize what we discussed

- ▶ ①The office building will be located on the Roppongi street side.
- ▶ ②Residential buildings will be located on the south side.
- ▶ ③A plaza and park will be located between the two buildings.
- ▶ ④The area around the temple should be green.
- ▶ ⑤A promenade will be built around the buildings.
- ▶ ⑥Shops should be set up around the plaza and park.
- ▶ ⑦A grand staircase and a ramp will connect the plaza and the park.
- ▶ ⑧Put a pond and a fountain in the park.

Choice is important for open to all.
Choice creates opportunities for participation.



- ▶ To choose from
- ▶ two or three
- ▶ zoning proposals



points

- ▶ 1. Use methods that are easy for anyone to understand. (keywords, photos, models, etc.)
- ▶ 2. KJ method and collage can bring out participants' ideas and creativity.
- ▶ 3. Design games using block models is helpful for the participants to understand the architectural environment.
- ▶ 4. Choice will create opportunities for the participants.
- ▶ 5. It is important to use appropriate methods depending on the object, the purpose, and the participants.

レクチャー3「市民と協働するための手助け」について講義をいたします。

まず、最初に市民との協働とはどのようなものなのか、その概要をお伝えし、イメージをつかんでいただこうと思います。

具体的には「市民と協働することはどのようなことなのか?」、「市民と協働した時の効果はどのようなものか?」そして、「そこでは何が重要なのか?」について考えていきたいと思ひます。ここでは題材として日本における市民・住民との協働の先駆けであるコーポラティブハウジングを取り上げます。

日本におけるコーポラティブハウジングについて簡単に説明します。一般の集合住宅では先に住宅の建設が行われます。すでに建っている集合住宅に対し、居住者を募集、そして住みはじめます。一方、コーポラティブハウジングではまず住む人を募集します。建物を作る前に募集を行います。その後、住む人とともにワークショップやディスカッションなどを行います。「どの様な住まいにするか?」「どんな共用施設を作るか?」など。これらを生計者と市民・住民たちが一緒に協同し合意形成を行います。その上で設計、建設が行われ、完成し、居住が開始されます。このように、大きな特徴は協働し、合意形成を行うプロセスを経ていることです。

コーポラティブハウジングの特徴を見るためにコーポラティブハウジングと一般的な集合住宅の違いについて調査結果を見て行きたいと思ひます。こちらはその一例であるかつて研究対象としたことがあるコープタウン松が谷とその隣に立地しているグリーンコープ松が谷です。

Lecture3 “市民と協働するための手助け”

Historic Cairo [Urban community development facilitator training course]

SATOSHI MATSUMURA,
(ARCHITECT, JCAABE, 日本工学院教師)

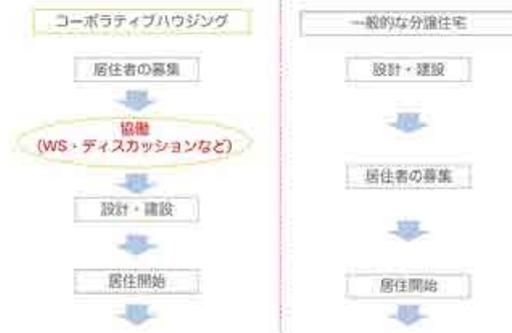
□最初に“市民と協働すること”重要なポイントと効果について見てみよう!

- ・それはどういったことなのか?
- ・何が重要なのか?
- ・その効果は?
- ・ポイントは?

市民と協働するまちづくりの先駆けであるコーポラティブハウジングについて見てみることでイメージしてみましょう!



◎コーポラティブハウジングとは何か?



コーポラティブハウジング 一般的な分譲住宅

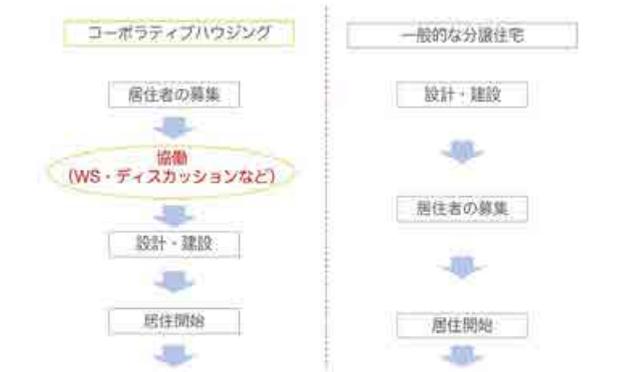
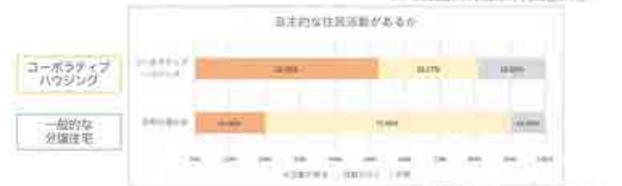
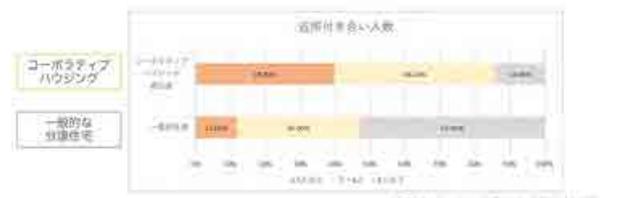
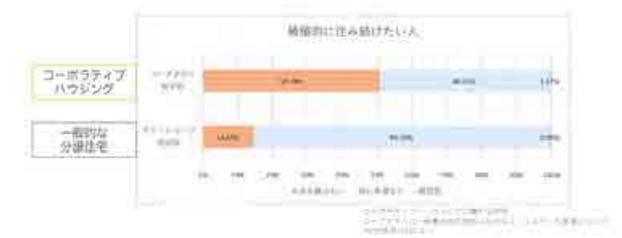


このグラフはコーポラティブハウジングと一般集合住宅の比較です。1と2、どちらのグラフもグラフの上がコーポラティブハウジング、下が一般集合住宅の結果です。1は近所で友人が何人いるかを示しています。オレンジ色が7人以上、黄色が3人から6人です。コーポラティブハウジングが一般集合住宅に比べて近所に友人が多いことがわかります。2は自主的な活動が行われているかについてのグラフです。オレンジ色は活動が行われていることを示しています。コーポラティブハウジングの方が一般集合住宅より活動が活発であることがわかります。市民との協働のプロセスを行うことは近所で友人が多くなり、自主的な活動が活発になります。

協働によるまちづくりの先駆けであるコーポラティブハウジングは以下のポイントがあります。

- ① 自分の求めている住宅を作ることができる。
- ② 話し合い、協働することの大切さを実感。
- ③ 集まって住むことの楽しさや意義を実感できる。
- ④ 共用部が充実したものになる。
- ⑤ イベント・維持管理を自主的に行う。

協働のプロセスを行うこと自体が大切であるとわかります。このことをまずは理解した上で「市民と協働するための手助け」について考えていきます。



まちづくりファシリテーターに必要なコミュニケーション能力は次の二つがあげられます。

A:「目的のあるコミュニケーション能力」 : 目的や意図を持ったコミュニケーション力

B:「T字型コミュニケーション能力」 : 建築のスキルを持った上で他と繋がることのできるコミュニケーション力 です

そもそも A と B は密接な関係を持っています。まずは A:「目的のあるコミュニケーション能力」 を身につけましょう！

この目的とは「まちをどうしたいか？」というビジョンです。

その目的（ビジョン）の特徴を理解し、その上で多様な人たちと対話し、議論します。

まずはそれをまとめ上げていくための心構えをイメージして、理解することが大切です。

具体的にその特性をイメージしてみましよう。

皆さんは建築の専門家、またはこれから専門家になっていく方々です。すでに図のように軸となる建築・まちづくりの専門力を身につけています。

まずはその専門力を軸にして A「目的のあるコミュニケーション能力」 の態度 (Attitude) を身につけましょう！

○まちづくりファシリテーターのコミュニケーション力とは何か？

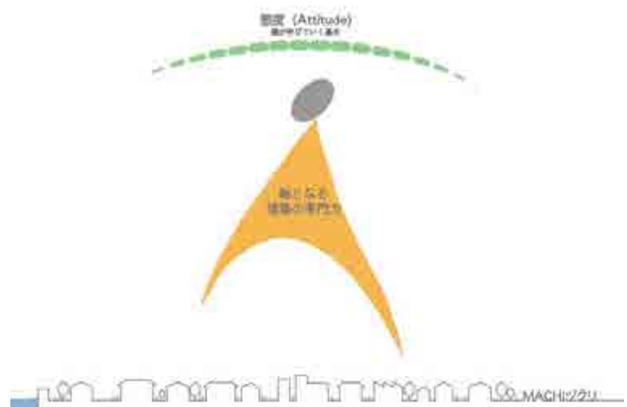
A:「目的のあるコミュニケーション能力」
: 目的や意図を持ったコミュニケーション力

B:「T字型コミュニケーション能力」
: 建築のスキルを持った上で他と繋がることのできるコミュニケーション力



○コミュニケーション能力の基本となる態度

「目的を持ったコミュニケーション能力」
の目的とは
↓
「まちをどうしたいか？」というビジョン



その上でこの講座で行われる幅広い知識や技術に関する講義・実践について、能動的な議論への参加、WSでの実践を実行することで、

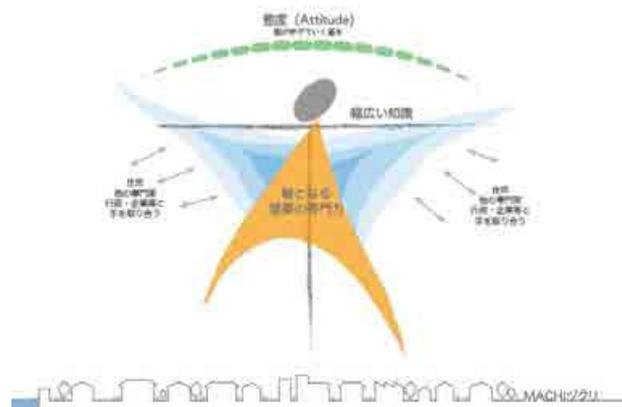
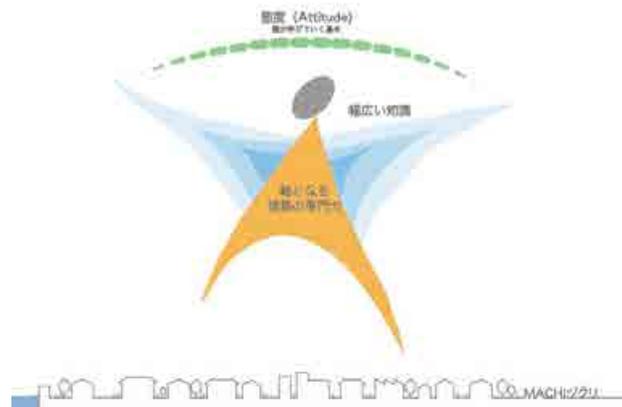
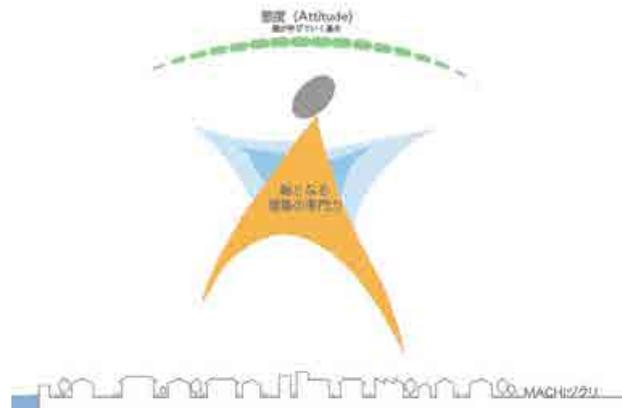
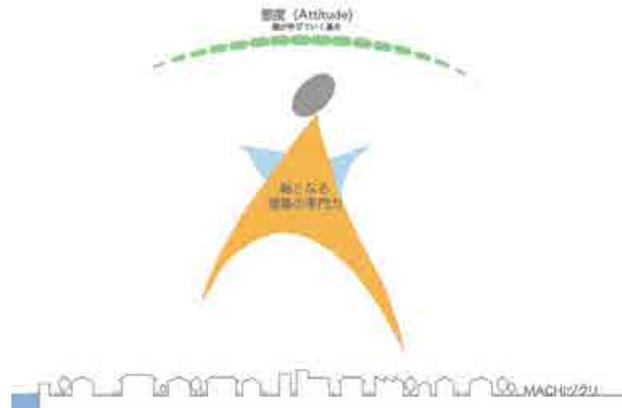
図のようにまるで腕が伸びるように幅広い知識とコミュニケーション力が身についていきます。

それを踏まえて実践を繰り返していくことで**B:「T字型コミュニケーション能力」**: 建築のスキルを持った上で他と繋がることのできるコミュニケーション力を習得することができるでしょう。

まずは「目的を持ったコミュニケーション能力」の基本となる態度(Attitude)を身につけることを目指してください。

しかし、このことはそれほど容易なことではありません。

これから解説していく心構えを常に意識して、経験を積み重ねることで徐々に身につけていきます。



最初にファシリテーターの心構えの前提として以下のポイントを意識しましょう！

- ① 市民の意見を引き出す。すなわち主役は市民です。
- ② ファシリテーターはビジョンを形にするために情報の提供、アドバイスを行います。
- ③ ファシリテーターは未来思考の方向性を持ってください。

具体的なコミュニケーション能力の基本となる態度は右の7つがあります。

ここからは多様な人たちと対話し、議論し、それをまとめていくための心構えを解説します。

また日本での実践例も交えてお話ししますので参考としてください。

1_多様だから面白い、みんなで創るから面白い！

まずは「まちにはさまざまな人がいる」ということ理解しましょう。

「まちはだから面白いのだ」というポジティブな立ち位置からスタートすることが重要です。

例えばこの写真は私がプレイヤーの1人として携わっているまちづくり活動の様子です。

皆、職業も違います。住んでいる人もいれば仕事場という人もいます。ただ近くに住んでいるだけの人もいます。見方を変えると全く正反対の立場の人もいます。

○まちづくりにおける目的（ビジョン）
：特徴を理解して議論をすすめる上での心がまえを得よう！

○コミュニケーション能力の基本となる態度

「目的を持ったコミュニケーション能力」の目的とは「まちをどうしたいか？」というビジョンであります。そのビジョンの特徴を理解した上で多様な人たちと対話し、議論し、それをまとめていくための心構えを解説いたします。

- 1_多様だから面白い、みんなで創るから面白い！
- 2_良い意味での「ゆるさ」を持ちましょう！
- 3_プロセスが大事！
- 4_否定せず！意見を盛りだくさんに！
- 5_共有しよう！
- 6_未来志向
- 7_街はみんなのもの！だから誰一人取り残さない。

1_多様だから面白い、みんなで創るから面白い！

まず理解しなければいけないことは「まちにはさまざまな人がいる」ということです。「まちはだから面白いのだ」というポジティブな立ち位置からスタートすることが重要です。ワークショップやディスカッションでは、常に、まずはこのことを思い出して「みんなであつくることに意義がある」という心構えからスタートしてください。



まちは多様だから面白いのです。
ワークショップやディスカッションでは、常に、まずはこのことを思い出しましょう！

「みんなで作ることに意義がある」という心構えからスタートしてください。

そのためのポイントとして明るい雰囲気づくりが大切です。

写真はワークショップでの様子を写したものです。みんな楽しそうでしょう！

時には食事をしながら行うのも良いかもしれません。

記念撮影をするなど、楽しい雰囲気を作ることも心がけていきましょう！

2_いい意味での「ゆるさ」を持ちましょう！

結論を出すことも大切です。しかし、決めることだけに焦らず進めることが重要です。決めるというと、一つの方向に絞り切るイメージがあります。しかし、まちづくりにおいて議論を進めていく場合は多様な人たちの思いを受け取り、共感を促す方がうまくいきます。決めすぎず、良い意味での「ゆるさ」を持ちましょう！個人の思いをみんなが受け取り、緩やかに束ねていくようなイメージでのぞむことが大切です。

例えばこれはワークショップ中まとめを行っている用紙の実際の写真です。

付箋の色で誰の意見かわかるように進めています。付箋の色が足りないときは名前を書いてもらうとわかりやすいですね。左の写真では意見を残したまま位置を変えて似ている意見を近い位置に寄せています。同じ意見でも捨てずに残して重ねていってください。

意見が多いことや誰の意見であるかも重要です。また右の写真では集約した後にさらに意見を用紙に追記、線をひいてグルーピングをしています。グループ同士の関係性を記

1_多様だから面白い、みんなで創るから面白い！

まず理解しなければいけないことは「まちにはさまざまな人がいる」ということです。

「まちはだから面白いのだ」というポジティブな立ち位置からスタートすることが重要です。

ワークショップやディスカッションでは、常に、まずはこのことを思い出して「みんなで作ることに意義がある」という心構えからスタートしてください。



2_良い意味での「ゆるさ」を持ちましょう！

目的（ビジョン）を決めるという、一つの方向に絞り切るイメージがある。様々な意見の中から正解に近いものを選び取り、さらに集約していくのが一般的な方法として認識している人も多いと思われる。しかし、まちづくりにおいて議論を進めていく場合は多様な人たちの思いを受け取り、共感を促す方がうまくいきます。良い意味での「ゆるさ」も必要になってきます。個人の思いをみんなが受け取り、緩やかに束ねていくようなイメージでのぞむことが大切です。

2_良い意味での「ゆるさ」を持ちましょう！



参考例

- ・付箋の色で誰の意見かわかるようにする。
- ・意見を残したまま位置を変えてゆるくまとめていく
→同じ意見は残して重ねていく 意見が多さ、誰の意見を可視化
- ・議論しながら行う。みなさんに見ていただくことも重要。
- ・集約した後にさらに意見を直接書き込み、線をひいてグルーピング
- ・グループ同士の関係性を記入。

入することも良い方法です。このようなことを参加者の前で議論しながら行うこと、みなさんに見ていただくことも重要です。

3_プロセスが大事！

想いを共有するために最も大切なのはプロセスです。その重要な第一歩が対話です。対話によって新たな気づきが得られることがあります。やり取りの中で個人やチームの考えを深めていく。考えを共有した仲間との協働は非常にポジティブで素晴らしいものです。こうしたプロセスを進めるためには、自分の思いを押し付けない、決めつけない態度が重要です。

最初から方向性を用意するのではなく、フラットな気持ちでのぞみましょう。

これは具体的な進め方の資料です。参加者にテーマ、方法を周知する。参加者のみんなが発言する。そしてみんなで作り上げていくプロセスを踏みましょう。参加者の満足が得られるとこを意識してください。なかなか皆さん全員に発言してもらうことは難しいことです。その為にも最初に参加者に流れや時間が決まっていることを知らせておくことも必要です。司会をしているファシリテーターとは別にタイムキーパーもいることでスムーズにいくことが多くあります。また、タイムキーパー自体を参加者のみなさんに体験してもらうのも一つの方法です。

4_否定せず！意見を盛りだくさんに！

みんなの意見を引き出してそこから共有ビジョンを導き出すことが目的です。意見は否定せず、まずは足し算的に意見をてんこ盛りにするところから始めていきましょう。写真のようにまずはどんどんと足していきましょう！場合によっては皆さんに自主的に書いてもらう方法もあります。

3_プロセスが大事！



想いを共有するために最も大切なのはプロセスです。その重要な第一歩が対話です。対話によって新たな気づきを得られることもあり、こうしたやり取りの中で個人やチームの考えを深めていく。考えを共有した仲間との協働は非常にポジティブで、喜びすら感じられます。こうしたプロセスを進めるためには、自分の思いを押し付けない、決めつけない態度が必要であり、最初から方向性を用意するのではなく、フラットな気持ちでのぞみましょう。



3_プロセスが大事！



4_否定せず！意見を盛りだくさんに！



みんなの意見を引き出してそこから共有ビジョンを導き出すことが目的であるので、人の意見は否定せず、まずは足し算的に意見をてんこ盛りにするところから始めていきましょう。



右の写真はワークショップでの成果物です。てんこ盛りになった意見を残しているのです。どのようなプロセスかわかります。一つのことについて全く正反対の意見が出ることもよくあることです。まずは相手の意見を全て聞いた上で一度受け取ります。その上で別の意見として足していきましょう。そうすることでポジティブな意見交換ができて新たな化学反応が起こりやすくなります。立場が違い、見方が違うと全く反対の意見が出てもおかしくありません。そのこと自体をしっかり記録しておきましょう。記録することが大切です。そこから意見交換をすることで新たな第3案が発想されるなど、お互いを理解することで緩やかな合意形成が起こっていきます。

また、議論が一段落したところで重み付けをしましょう！考えを深めること、まとめに役立ちます。最後には多数決をとることになるかもしれません。十分に話し合いを尽くし、その過程を共有していればみんなの納得が得られることが多いです。また、参加者の人にまとめてもらうのも合意度の高い議論になる有効な方法であります。

5_共有しよう！

目的（ビジョン）は何らかの形で残し、その場にいなかった人と共有することも重要です。言葉で残していくことと同時に図や写真、絵なども使いましょう！この時の表現は完成度を求めるものではありません。対話にいなかった人が議論の内容や場の雰囲気を知ることが目的です。言葉のチョイスやデザインにこだわることも大切です。記録することで議論を可視化し、プロセスも含めてみんなで共有することができます。

もし自分の意見が違ったときは、相手意見を全て聞いた上で一度受け取り、その上で別の意見として足していく。そうすることでポジティブな意見交換ができて新たな化学反応が起こりやすくなります。



また、議論が一段落したところで重み付けをすると、もう一歩考えを深めること、まとめに役立ちます。最後には多数決をとることになるかもしれませんが、十分に話し合いを尽くし、その過程を共有していればみんなの納得が得られることが多いものです。あえて参加者の人にまとめてもらうのも合意度の高い議論になる有効な方法であります。

5_共有しよう！

目的（ビジョン）は何らかの形で残し、その場にいなかった人と共有することも重要です。言葉で残していくことと同時に図や写真、絵なども使って誰やかに束ねられた目的（ビジョン）を表現して残しておきましょう。この時の表現は完成度を求めるものではありません。対話にいなかった人が議論の内容や場の雰囲気を教諭できることが一番の目的であります。その場にいなかった第三者がみたときに共有でき、心動かされて一緒に対話が生まれる様に言葉のチョイスやデザインにこだわることも大切です。記録することで議論を「見える化」し、プロセスも含めてみんなで共有することができる。決して綺麗に残すことだけを考えずに、話し合った過程や展開もそのまま残しておくようにしましょう。



右の写真は図の例です。道を蛇行させる、行き止まりにすることで車の侵入しにくくすることを図にしています。簡単な図ですがわかりやすい図です。その右は自分達の理想の食堂について議論した際の成果物です。写真が貼ってあるだけで美味しさがこちらにも伝わってきます。また右下の写真を見てみると、同じ人が図を描いているのがわかります。ファシリテーターが市民から聞いて描いてもいいですね。得意な人、苦手な人もいます。得意な人がいたら手伝ってもらうことも協働を深めていきます。複数いるファシリテーターが協力して、声にならない声を引き出したり、記録を可視化することをしていきましょう！

右の写真の例はすごくイメージしやすいですよ！写真や絵を皆で手分けして貼ったりするなど、ファシリテーターはその手助けをしましょう。

6_未来志向

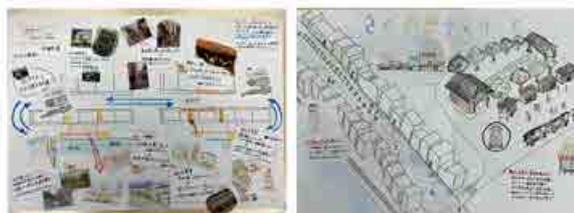
ここで語られる目的（ビジョン）はより良い未来に繋がっている必要があります。その未来とは、単に遠い先のことだけではありません。5年後、10年後など近い未来を思い描くことも重要です。今、国際的な目標であるSDGsも2030年をゴールに設定し、そこまでの道のりを逆算しています。理想的な遠い未来とそこに続く近い未来の両方を考えることが必要です。夢を語る大胆さをもてる雰囲気作りを行いましょ。一方で具体的に近い未来にはどういったことを目指すべきなのか？を考える。理想と現実、遠い未来と近い未来を行き来する意識づけを促す必要があります。

それがうまく成功すると、すごく明るい未来が具体的にイメージとして湧いてきますね！



6_未来志向

ここで語られる目的（ビジョン）はより良い未来に繋がっているべきであります。その未来とは、単に遠い先のことだけでなく、5年後、10年後など近い未来を思い描くことも重要であります。今、国際的な目標であるSDGsも2030年をゴールに設定し、そこまでの道のりを逆算している。理想的な遠い未来とそこに続く近い未来の両方を考えることでもあります。夢を語る大胆さをもてる雰囲気を作り、一方でそれに向かって近い未来にどういったことを目指すべきなのか？という理想と現実を行き来する意識づけを中身促す必要があります。



7_まちみんなのもの、だから誰1人取り残さない

ファシリテーターの目的は幾つもあります。

- ・ 市民の声にならない声を引き出す。
- ・ 記録を可視化すること など

有効な方法として役割分担があります。

ファシリテーターが1人で全てを行うのではなく分担をしてください。分担された役割を持つ複数のファシリテーターが同じ方向を向いて助け合うことが大切です。

まずは全体ファシリテーターがいます。全体ファシリテーターはフラットに進行とまとめを行います。各グループでのプロセスを尊重しましょう！その上で全体の意識づけ、まとめ。グループ間の議論の共有に注力しましょう。

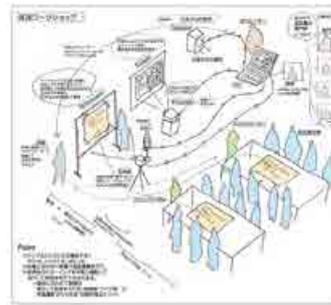
グループごとに複数の役割がいます。声にならない声を引き出す、記録を可視化することなどを協力して行います。主な役割分担としては三つあります。

ファシリテーター：議論の進行、司会など

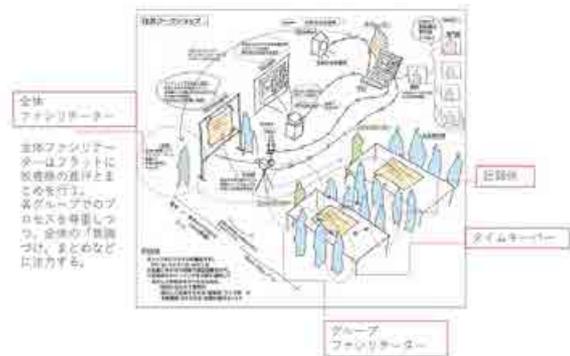
記録係：記録を行うビジョンを形にする。

タイムキーパー：全体の時間で全ての人がこの過程を満足するために時間を区切るなど、ファシリテーターとは違う立場で進行の手助けをします。どの役割の人もファシリテーターと協働して意見を引き出すことにも目を配りましょう。参加者に役割を手伝ってもらうことも良い方法です。ワークショップ自体が市民自らのものになっていく一つの方法です。

7_街はみんなのもの！だから誰一人取り残さない。



声にならない声を引き出したり、記録を可視化することなどファシリテーターにはいくつもの目的があります。その意味でワークショップが行われている各グループで担当するファシリテーターが複数いる場合は役割分担を行うことも一つの重要なテクニックになります。1人で全てを行うのではなく分担をし、分担された役割を持つ複数のファシリテーターが同じ方向を向いて助け合うことも大切なこととなります。



- 主な役割分担**
- ファシリテーター：議論の進行、司会など
 - 記録係：記録を行うビジョンを形にしていく。
 - タイムキーパー：全体の時間で全ての人がこの過程を満足するために時間を区切るなど、ファシリテーターとは違う立場で進行の手助けをする
- ※ファシリテーターと協働して意見を引き出すことにも目を配ろう！
- 参加者に役割を手伝ってもらうこともワークショップ自体が市民自らのものになっていく一つの方法です。



○共有を一步進めよう！

まちづくり通信」の発行は、私たちの活動を広く知ってもらうための手段です。

参加できなかった市民や、初めて参加する市民を対象にしています。

また、記録を残すという意味でも重要です。

○まとめとしてポイントを確認してみましょう！

□ファシリテーターは自分の意見を言い過ぎないこと

または、邪魔にならないように準備し、判断しすぎないようにする。判断しすぎないようにすること

□常にフェアな態度でのぞみましょう！

□参加者にhookを与えることを心がけよう

Hook：考えるための手がかり

態度(Attitude)を理解したら、次は実践してみましょう！体験は最も効果的な学習です。

実践例として 私がプレイヤーの1人として参加しているまちづくり施設「KOCA」での活動を紹介したいと思います。ぜひ、実践の参考にしてください。

「KOCA」は東京都大田区蒲田の高架下にあるインキュベーションスペースです。

高架下という都市の余剰空間を有効活用した施設です。

○もう一歩進んだ共有をしてみよう！

今回参加できなかった市民や初めて参加する市民に向けて「まちづくり通信」を発行することで、さらに広がりを持たせることができます。

また、記録を残すという意味でも重要です。

まちづくりニュースとは何か
ワークショップの結果をA4サイズ1枚程度にまとめ直して発行します。

内容
何を実施したか？
何が得られたのか？
どのような課題があるか？ etc

Community Development News

Sharing and recording of workshop content



A little moment sharing with every participant



○まとめとしてポイントを確認してみましょう！

□ファシリテーターは自分の意見を言い過ぎないこと
または、邪魔にならないように準備し、判断しすぎないようにする。判断しすぎないようにすること

□常にフェアな態度でのぞみましょう！

□参加者にhookを与えることを心がけよう
Hook：考えるための手がかり



○ Practical Examples KOCA



「KOCA」は東京都大田区蒲田の高架下にあるインキュベーションスペースです。高架下という都市の余剰空間を有効活用した施設です。



蒲田は古くから金属加工業の工場が多く、金属加工の職人の街として発展してきました。

町工場の設備は、生産には適していますが、施策などを行うには不向きです。

そこで、この施設は町工場の機能を補完することを目的としています。

試作などに適した工作機械（3D プリンター、レーザーカッターなど）を備えたインキュベーションオフィスとなっております。

この施設も、建設前のワークショップが行われ、市民との協働で作られました。

現在、ここには、建築家、プロダクトデザイナー、職人など、さまざまな人が集まっています。

みんなで力を合わせて、さまざまなクリエイティブなコラボレーションを行っています。

また、子どもたちのための楽しいパーティーや工作教室なども開催しています。

○ Practical Examples KOCA



蒲田は古くから金属加工業の工場が多く、金属加工の職人の街として発展してきました。



○ Practical Examples KOCA



町工場の設備は、生産には適していますが、施策などを行うには不向きです。そこで、この施設は町工場の機能を補完することを目的としています。試作などに適した工作機械（3Dプリンター、レーザーカッターなど）を備えたインキュベーションオフィスとなっております。



○ Practical Examples KOCA



写真は、職人とクリエイターが共同で照明器具を開発したプロジェクトです。

この照明には、職人の繊細な技で作られた0.8mmの見えない穴があります。

点灯させると、その穴から光の模様が浮かび上がります。

ブランド名の「FACTRIALIZE」は、合意形成のプロセスを経て作られた造語で、ロゴのデザインも、ワークショップの結果をもとにしたものです。

これはもともとワークショップ中の1人の落書きがデザインの原型になっています。

○楽しんで実践しよう！

市民との協働する具体的な形は国や地域、そこにある文化や風土によって大きく異なります。その一例であるコーポラティブハウジングがその場所に合わせた方法に実践の中から成熟してきたように、まちづくりにおいても地域に根ざしたものになっていけば良いと思います。しかし、そこにある市民との協働するための態度、根底にある考え方は共通しているものがあるのではないのでしょうか？

各国で行われている具体的な方法も参考になるとでしょう。

本日の講義を参考にして、皆さんが楽しんで皆さんのワークショップを実践して行ってください。

そこからその場所にあったファシリテーションが成熟していくことのだと考えておきます。

ぜひ楽しんで実践を行なってください。

○ Practical Examples KOCA



FACTRIALIZE



写真は、職人とクリエイターが共同で照明器具を開発したプロジェクトです。この照明には、職人の繊細な技で作られた0.8mmの見えない穴があります。点灯させると、その穴から光の模様が浮かび上がります。ブランド名の「FACTRIALIZE」は、合意形成のプロセスを経て作られた造語で、ロゴのデザインも、ワークショップの結果をもとにしたものです。これはもともとワークショップ中の1人の落書きがデザインの原型になっています。

○楽しんで実践しよう！

市民との協働する具体的な形は国や地域、そこにある文化や風土によって大きく異なります。市民と協働する建築づくりの先駆けとなったコーポラティブハウジングでも発祥のイギリス、ヨーロッパの各国、アメリカ、日本など、各場所に合わせたやり方に実践の中から成熟していきました。しかし、そこにある市民との協働するための態度など根底にある考え方は同じであり、各国で行われている具体的な方法も参考になると思います。本日の講義を参考にして、皆さんが楽しんで実践し、その場所にあったファシリテーションに成熟させて行ってもらえればと思います。



まちづくりファシリテーター講座として、自然災害リスクのとらえ方と防災まちづくりの方法論について講義をします。1枚目のスライドは、東京都豊島区で、地域コミュニティのみなさんと「防災ワークショップ」を実施している写真です。このようなプロジェクト事例を通して、話をしていきます。

市古の自己紹介です。専門は都市計画・まちづくりで、研究テーマは、都市防災・災害復興まちづくりです。現在、東京都立大学で教育と研究に従事しています。

これまでに従事してきた災害復興調査の系譜と主要な研究テーマです。研究室として東京都のコミュニティ防災の方法論構築を主要テーマとして活動してきました。

本日のプレゼンテーションは2つの内容で構成しています。最初に、自然災害リスクのとらえ方について、IPCC AR6も参照しながら解説します。その後、東京での2つのプロジェクトを紹介します。



My Curriculum Vitae



1. Profile

- Professor of Tokyo Metropolitan University since 2017 <https://www.usp-tmu.jp/en/about-us.html>
- Ph.D in Urban Science at Tokyo Metropolitan University in 2000
- Awarded the research prize from the City Planning Institute of Japan(2021) <https://www.cpij.or.jp/cons/prize/awards.html>

2. Major Outreach Activities

- The planning research council of urban seismic risk reduction plan by Tokyo Metropolitan Government (TMG) since 2010
- Chairman of the city planning board in Inagi city and Koganei city, Tokyo
- Representative of a board of directors in Disaster Collaboration Support Tokyo <https://tokyo-saigaivc.jimdofree.com>



Two Research Subjects

I. Disaster research from the planning theory

Japanese domestic	International
<input checked="" type="checkbox"/> 1995 Hanshin-awaji	<input checked="" type="checkbox"/> 1999 East marmara, Turkey
<input checked="" type="checkbox"/> 2004 Cyuetsu	<input checked="" type="checkbox"/> 1999 Chichi, Taiwan
<input checked="" type="checkbox"/> 2007 Cyuetu-Oki (Kashiwazaki)	<input checked="" type="checkbox"/> 2004 the coast of Sumatra, Indonesia
<input checked="" type="checkbox"/> 2011 Great East Japan	<input checked="" type="checkbox"/> 2009 East Sumatra, Indonesia
<input checked="" type="checkbox"/> 2016 Kumamoto	<input checked="" type="checkbox"/> 2015 Golka, Nepal

II. Community Resilience in Tokyo Metropolitan area

- Vulnerability analysis both building env. and society aspect
- Developing cope with capacity for the disaster
- Pre-disaster planning for post-disaster recovery



Presentation Outline

1. What is a disaster? How to conceptualize a disaster?

- Classification from a Lead and Frequency time
- Vulnerability Model: Risk = Hazard × Vulnerability

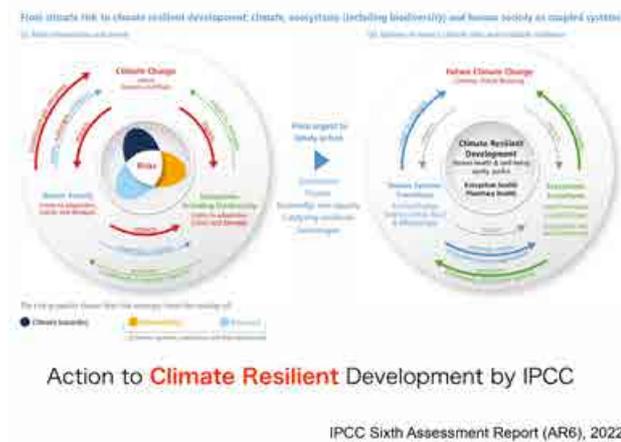
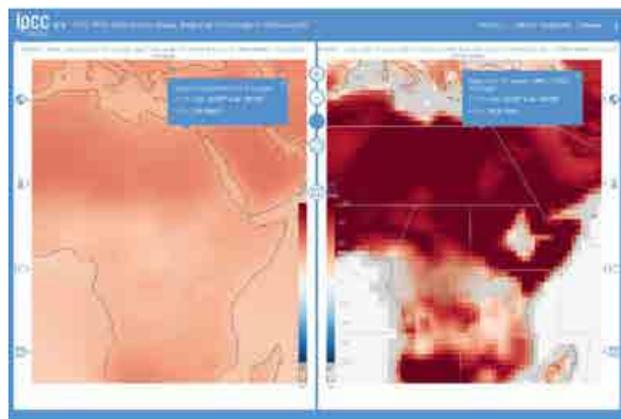
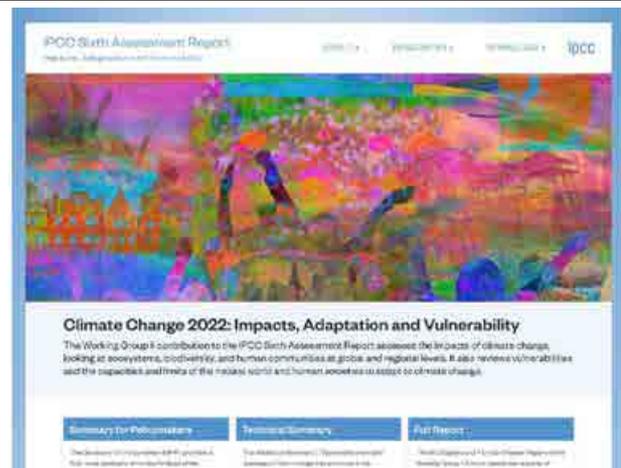
2. Case study for Resilient vicinity community

- "East Ikebukuro" : near Tokyo central area
- "Kinugaoka, Hachioji" : hillside suburb area

これは 2022 年 5 月に IPCC が公表した気候変動に関する報告書 (AR6) です。自然災害リスクのとらえ方について、災害研究の理論が反映されています。

これは IPCC AR6 気温上昇シナリオを一例です。エジプト国地域は、地震・火山といった自然災害リスクは確かに相対的に見て低い地域ですが、気候変動についてはアフリカ大陸北部において、気温上昇予測が公表されています。少なくとも気温上昇の高温による人体への影響が危惧されています。

IPCC AR6 では、気候変動のリスクを、ハザード、バリエラビリティ、暴露の 3 つの要素が重なり合うことで評価しています。このスライドはその考え方を整理したものです。この重なりによるリスク上昇を逆回転させることで、リスクを低減していこうという戦略です。

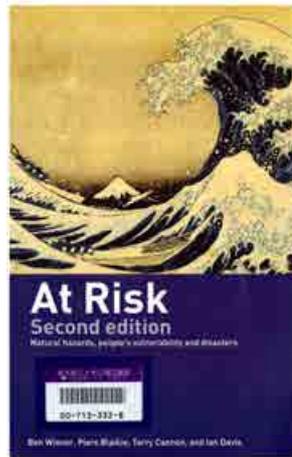


この IPCC の自然災害リスク定義は、災害研究の知見がベースとなっています。スライドは 1994 年に英国研究チームが公表した At Risk です。世界各地の自然災害とそこからの回復調査を踏まえて、自然現象としてのハザードだけでなく、人とコミュニティ集団の属性であるバルネラビリティが理論化されました。後に説明する東京の事前復興まちづくりの事例でも、このバルネラビリティモデルが継承されています。

近年では研究学術および被災地支援現場において、バルネラビリティに加えて、レジリエンシーが用いられています。先行研究に基づいて、これから説明する東京のプロジェクトでも、バルネラビリティモデルを継承した地域コミュニティの災害被害軽減に向けた営み、と捉えています。

それでは、具体のコミュニティベースの地域防災活動について紹介してみましょう。2つの地区を紹介します。豊島区東池袋地区と八王子市絹ヶ丘地区です。

このスライドは東京都が公表している地震災害危険度の調査結果です。赤い部分がリスクが高いことを示し、ここでの地震災害危険度とは、揺れと延焼火災による建物焼失可能性を示しています。東京中心部から 10km 圏のリング上でリスクの高いエリアが郊外に向けてクラスター状に広がっていることがわかります。



$$R(D)=H \times V$$

R:Risk, H: Hazard, V: Vulnerability

Definition of Vulnerability :

The characteristics of a person or group and their situation that influence their capacity to anticipate, cope with, resist and recover from the impact of a natural hazard (Ben Wisner, 1994)

It's not simply mean a fragility or a susceptibility or a weakness. It involves a combination of factors that determine the degree to which someone's life, livelihood, property and other assets are put at risk by a discrete and identifiable event in nature and in society.

Vulnerability to Resiliency

1. Academic discussion

- It is similar meaning both Vulnerability and Resiliency
- Actually, there is some kinds of academic papers.

i.e.

Kathleen Tierney(2014) The Social Roots of Risk, Stanford University press

Fiona Miller , Henny Osbahr, et.al.(2010)Resilience and Vulnerability: Complementary or Conflicting Concepts?

<https://www.ecologyandsociety.org/vol15/iss3/art11/>

2. In my presentation

- Resilience means community activities toward disaster prevention which was advanced through the concept of vulnerability.

Case study for Resilient vicinity community

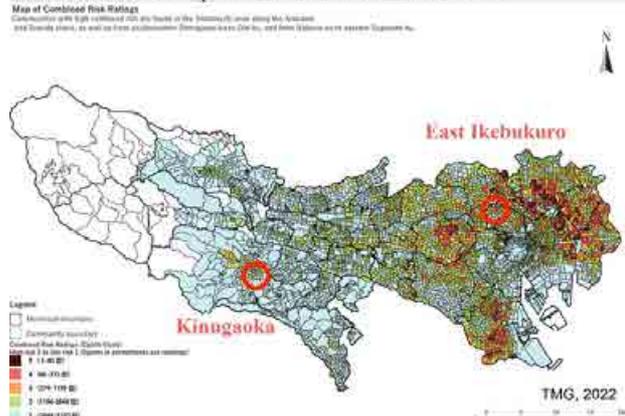
1."East Ikebukuro" : near Tokyo central area

- High wooden housing density that is fragile for ground shaking and a fire
- Disaster prevention projects has been conducting since mid 1980's.
- In 2018, resilient community workshops were worked on.experts

2."Kinugaoka, Hachioji" : hillside suburb area

- Large-scale residential development since 1970's which have a landslide risk due to steep terrain
- Middle income families purchased and make a vicinity community.
- In 2019, disaster life-continuity workshops were worked on.

Earthquake Risk Assessment 2022



地震に伴う延焼火災被害、エジプトではあまりなじみがないかもしれませんが。このスライドは 1995 年の阪神淡路大震災時の様子です。木造住家から出火し、炎と煙が出ています。住家が密集していることにより、輻射熱によって火災が広がってしまう様子も見て取れます。

東京全体のリスクアセスメントを踏まえて、東京都では約 50 年前から都市構造全体の改善と同時に、地区を単位とした防災まちづくり事業を実施してきました。これから紹介する東池袋地区は、このスライドの 5 番に位置しています。

2019 年に実施された東池袋地区での震災復興まちづくり訓練の目標と参加者属性です。地域自治組織で活動する住民 20 人、地元自治体職員、建築・不動産に関する専門家、大学研究室が参加し、各回 50 人ほどの参加者数でした。

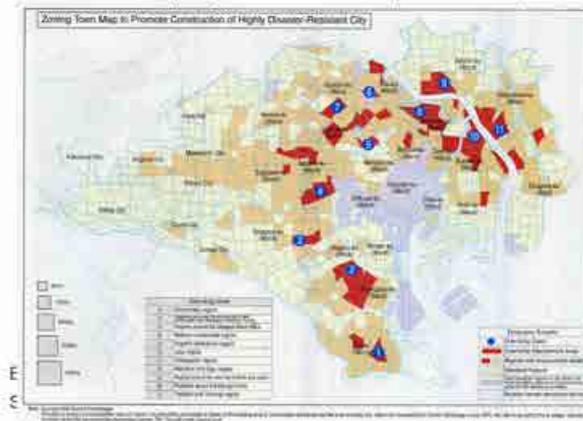
こちらは全 4 回の実施プログラムです。半年間をかけて実施しました。目標は訓練を通して、過去の防災事業進捗と効果を共有し、それでも避けられない震災被害からの回復戦略について方針を作成することです。

The great fire after Hanshin-Awaji earthquake



阪神・淡路大震災（1995年1月17日5:47）、灘区六甲台午前7時頃

Rehabilitation projects for disaster prevention (1981~)



Total Workshop Program & Results in East Ikebukuro(1/2)

1. Goal

- Verifying disaster prevention projects over 30 years and developing life continuation and town recovery plans after disasters

2. Participants

- Resident leader about 20 people
- Local government officials about 10 people
- Various practitioners about 10 people
- Helper students about 10 people



Total Workshop Program & Results in East Ikebukuro(2/2)

1. Program

- 1st: Town walking and drawing a map
- 2nd: Imagine succession from evacuation to a long-term recovery
- 3rd: Designing temporary shelter
- 4th: Considering town-recovery plan by photo collage

2. Goal outputs

- Drawing a verification map of projects results about 30 years
- Formulating pre-disaster plan for post-disaster recovery



こちらの写真は第1回訓練時に実施した「防災復興まちあるき」の様子です。10人くらいのグループとなって、建築や広場、街路の点検をしています。



こちらは地域参加者が先導して幅員が狭く両側に建物が建て込んでいる「路地」を点検している様子です。



路地の中には、人は一人、やっと通り抜けられる路地もあります。第1回の訓練の中で、参加者で現地を歩き、その空間特性を共有します。



こちらの写真は「路地」を改善して街路を拡幅し、その両側には耐震性能をもった新しい住家が建築されているまちかどの様子です。



こちらの写真は防災復興まちあるきから戻ってきて、現地で調査した内容を写真と付箋紙を使ってコメントをつけ、地図上で整理したものです。地図上の整理を踏まえて、くらしとまち、の震災時の復興課題についてグループディスカッションし第1回のまとめとなります。

こちらは 30 年前に策定された東池袋地区の「まちづくり計画」です。現在の道路を拡幅し、その両側には、まちの風景に馴染む耐震・耐火性能の高い建築を、地区の複数には住民が休める樹木を植えた「広場」を整備していくプランとなっています。

まち点検では、この写真のように、30 年前のまちづくり計画が実現されている地点を訪問し、30 年前と比べて、着実にまちの被害軽減が図られていることが確認されました。

同時に 30 年前には想定していなかった変化もあります。写真は高層階の集合住宅が見えます。そして集合住宅の地上部分には、広場や緑の空間が創出されています。東池袋地区は都心に近く、これはいわばジェントリフィケーションが発生している様子とも言えます。



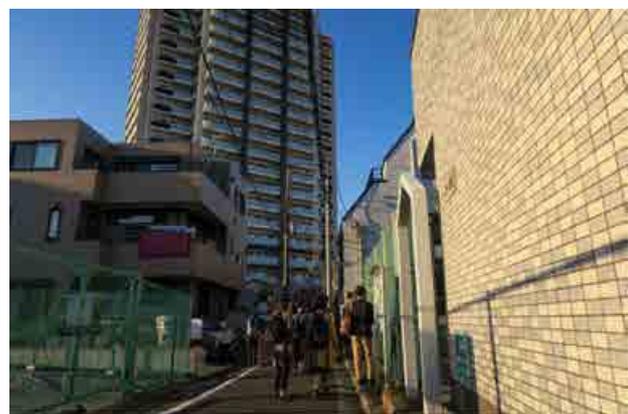
The results of the 1st workshop also served as confirmation of the results of the community projects over the past 30 years. It was an opportunity to review the community plan and reflect on the community's efforts to date.



Community Development Plan in 1986
Housing Construction Policy: construction for low-rise residential buildings based on a three-story structure.



Widening road and Updated residential architectures



Updated residential architectures

東池袋地区の復興まちづくり訓練を通して、深めた点は2点あります。1点目に、30年をかけて実施してきたまちづくり事業の被害軽減効果を確認すると同時に、被害ゼロは避けられず、震災からのすまいの回復に向けて、まちづくり事業施設がどう活用できるか、という点の検討です。2点目に、確保してきたまちの共用空間（広場と公園）の災害時活動に結びつく日常的な活用や追加施設デザインを検討することです。

そのために検討したのが、まちづくり事業で確保してきた小広場です。スライドにあるように地域内では老朽住家を除去することで広場が整備されていました。

この広場は、樹木や花壇の手入れがなされ、また清掃活動も地域が担って適切な管理を行っています。

こちらの小公園では「もちつき大会」とありますが、お正月前後で日本の地域コミュニティで取り込まれるイベントです。まちづくりで確保されたオープンスペースは、地域組織の大事な地域活動の舞台となっています。

Today, I will focus on the following points

- 1.How developed parks and open-spaces can be an effective resource in times of disaster that in the restoration phase in addition to the immediate response phase?
- 2.How are these parks and open-spaces utilized under normal circumstances?
 - The system is effective in times of disaster if it can be utilized under normal circumstances.



Square maintained green by resident volunteers.



Mochitsuki (rice cake pounding) festival held every year in community play park

またこのように日常的に活用することで、災害発生時の適切で効果的な活用方法に結びつくものと考えられます。

次に東京での 2 つ目の事例をお話しましょう。東京中心部からみて西へ 30km ほどの場所に位置する八王子市絹ヶ丘地区です。鉄道が敷設され、東京で働く人たちのベッドタウンになっています。絹ヶ丘地区では近年、降雨に加えて地震でも発生する土砂災害を対象にコミュニティベースの取組を展開してきました。報告するワークショップの参加者は、地域住民が 30 人ほど、加えて地元八王子市役所職員、専門家、都立大学チームとなっています。

絹ヶ丘地区での事前復興まちづくりワークショップのプログラムです。全 3 回で構成され、1 回目にまち点検、2 回目に在宅避難生活を中心として生活回復過程、3 回目にこれまでも取り組んできた地域防災活動の改善アイデアを検討しました。

絹ヶ丘地区のワークショップで対象とした災害リスクは 2 つの側面を持っています。第 1 に自然ハザードとして、土砂災害の要因となる急傾斜地です。1970 年代の丘陵地開発で誕生した郊外住宅地ですが住宅地域の周辺に急傾斜地が存在しています。第 2 に高齢化と子どもの独立による家族構成変化です。高齢化に伴い災害時要配慮者が増えることとなりますが、支援体制が課題と認識されています。



In addition to the elderly, children and their parents who have moved into new housing also participate.

Total Workshop Program & Results in Kinugaoka (1/2)

1. Goal

- Coming up with the adaptation scenario for landslide risk and natural disasters

2. Participants

- Resident leader & general neighbors about 30 people
- Local government officials about 10 people
- Various practitioners about 10 people
- Helper students about 10 people

Total Workshop Program & Results in Kinugaoka (2/2)

1. Program

- 1st:** Walking around the town and thinking about post-disaster issues
- 2nd:** Imagine life recovery after a disaster
- 3rd:** Enriching the issues for life continuation and town recovery

2. Goal outputs

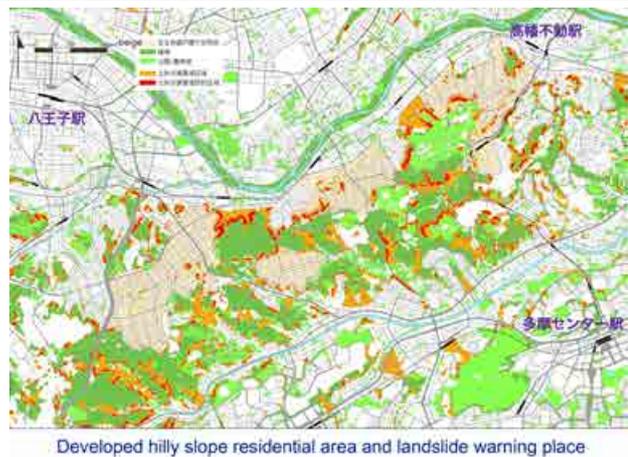
- Drawing a verification map of projects results about 30 years
- Formulating pre-disaster plan for post-disaster recovery

Disaster prevention issues faced in Kinugaoka

1. Landslide Risk. However, the slope provides a good vantage point and a pleasant breeze. Steep slopes and cliffs are both danger and resources.

2. Population Aging. Heads of households who purchased their homes around 1980 and moved in all at once are now 75 years of age or older. Elderly couple households are increasing.

こちらは、絹ヶ丘地区を含む周辺地域の地図です。緑地の多くが丘陵地となっています。大規模な自然公園も整備されています。丘陵地を造成することで地域一帯に戸建て住宅地が整備されました。住宅地の周辺に橙色と赤色の土砂災害ハザード地が存在していることがわかります。



Developed hilly slope residential area and landslide warning place

こちらは絹ヶ丘地区の一番高い場所から住宅地の様子を展望した写真です。遠くには八王子中心部が見えます。



Outlook of Kinugaoka

こちらの写真は地区内の様子です。街路基盤が整備されていますが、住宅地内は緩やかに傾斜していることが分かります。



Outlook of Kinugaoka

こちらは住宅地開発で整備された街区公園です。地域自治組織では、このような地区内にある3つの街区公園を災害時の安否確認や炊き出し場所として想定し、訓練等も実施してきました。



Playing Park / Space for safety confirmation

こちらは第1回訓練の様子です。土砂災害リスクの崖地を参加者で現地点検し、ガケ地や生の様子、また降雨時の様子などについて情報共有を行いました。



Checking a Steep Cliff in 1st workshop

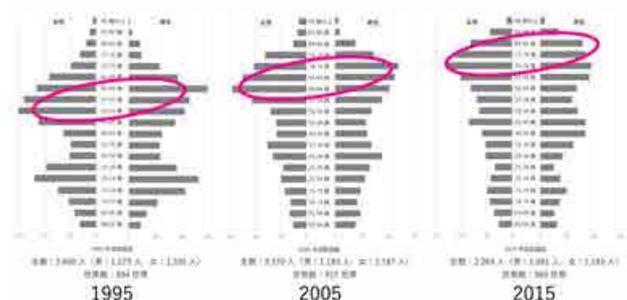
この図面は第1回のまち点検を踏まえて参加者で作成した点検マップです。土砂災害リスク地の点検が行われたことがわかります。



Created map in 1st workshop

このグラフは、1995年、2005年、2015年の5歳階級別・男女別人口推移です。主要年齢階層の高齢化の様子がわかります。2020年時点で70代後半の住民が地域防災活動の主要な担い手ですが、10年後にどう新しい世代につないでいくか、意見交換が行われました。

Population composition by gender, age group 5 in Kinugaoka



Population groups from the 1930s to 1950s, aged 65 to 85 as of 2015, constitute the main resident groups.
The community population aging is progressing.

こちらの図は、絹ヶ丘地区と行政が指定している災害避難所の位置です。災害避難所は絹ヶ丘地区外で坂を下りた中学校が指定されています。この中学校まで急傾斜地もあり、移動支障のある高齢者のみでの避難行動には厳しい面を有しています。



今回のワークショップでも避難生活場所について話し合いが行われました。そこで出されたアイデアは、自宅および地域に留まって避難生活ができないか、というアイデアです。この写真は日常的に開催されている地域のサロン活動の様子です。このような日常的な地域活動とその環境が災害時にも力を発揮するのではないか、というアイデアがワークショップ成果として取りまとめられました。

発表のまとめです。2つのことを話しました。1点目に自然災害をどう定義するか、という話です。IPCCの定義も紹介しつつ、バルネラビリティとレジリエンシーという学術的かつ被災地支援現場で用いられている考え方を説明しました。第2にこのようなモデルに基づいて平時からのコミュニティベースの取組として東京の2つのコミュニティの事例をお話しました。日常的に取り組んでいる地域活動の中に、災害への備え、生活回復の資源が見出されること、事前復興まちづくりワークショップを通して、それぞれのコミュニティで認識が深まりました。またそれを支える大学研究室の支援の方法論も紹介をさせていただきました。



Conclusion

1. What is a disaster? How to conceptualize a disaster?

- Classification from a Lead and Frequency time
- Vulnerability Model; Risk = Hazard x Vulnerability

2. Case study for Resilient vicinity community

(1) "East Ikebukuro" : near Tokyo central area

Participants share that developed facilities can be effective resource in times of disaster that in the restoration phase in addition to the immediate response phase. And **if it is used on a daily basis can it be utilized in times of disaster.**

(2) "Kinugaoka, Hachioji" : hillside suburb area

Daily social activities such as community salon activities are linked to disaster preparedness and lead to mutual aid in times of disaster.

カイロには、数多くの歴史的建築がある。その地区が、歴史都市カイロとしてユネスコの世界遺産に登録される。現在のカイロの地へのイスラーム教徒の到来は、7世紀半ばであり、10世紀末、北アフリカのチュニジアから東進してきたファーティマ朝がカーヒラを築いたことにより、大きく発展する。そこには、為政者の宗教であるモスクや彼らの廟、あるいは宗教やイスラーム法学を学ぶマドラサ（寄宿制高等教育機関）、聖者の廟や宗教教団の施設などが作られた（いわゆる狭義のイスラーム建築）。しかしながら、市民が使う世俗の建築（公衆浴場、商館、住宅など）や為政者の宮殿なども建設され、そればかりではなく、キリスト教徒やユダヤ教徒も共存していたので、彼らの宗教建築も存在する。

今まで、20世紀以来のイスラーム建築の枠組みとして、狭義のイスラームの宗教建築だけではなく、イスラームの為政者の元に作られた世俗建築をも含めて、イスラーム建築という場合が多い。

今回の話題として、地域の価値を捉えるために、イスラーム建築史の中に認められるグローバルズムをまず指摘して、その後カイロのモニュメントの特殊性を指摘したい。

イスラーム教は7世紀にアラビア半島に興り、早いスピードで8世紀の初頭にはイベリア半島から中央アジアまでの中緯度乾燥地域にその支配を広げていった。これらの地域には、古代エジプトを筆頭に、地中海には古代ギリシア、古代ローマに続くキリスト教ビザンツ文化が継続し開花し、一方東方には、古くはメソポタミア文明までさかのぼるペルシアの文化が、当時優勢を誇っていた。これら2つの文化（地中海周辺は石造、ペルシアはレンガ造という特性をもつ）の継承者としてイスラーム建築が形成されるのであるが、乾燥地域という風土の共通性からの類似性が生じた。多くのモスク建築は、中庭を使

Characteristics of Islamic architecture in Cairo; reusing historic buildings

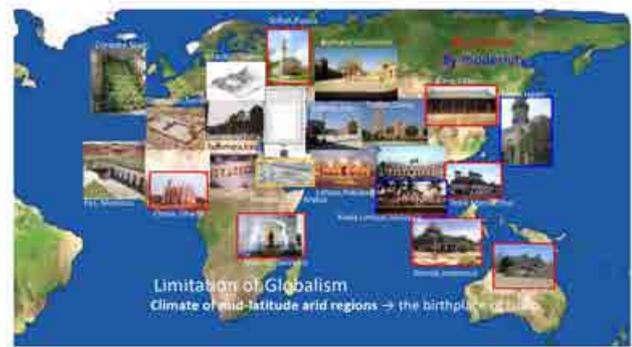
ファシリテーターコースの話題として、自らの文化に気づいてもらうために、他者としての日本人研究者の講義ということにした。また、エジプトでは、エジプトを中心としたイスラーム建築は語られるが、より広い世界を対象にして、それぞれの地域性を解くような授業はない。エジプトのイスラーム建築の特殊性を認識することは、文化遺産保全の価値創出へとつながっていく

today's agenda

- History of Islamic Architecture
Global architectural culture
Geometry-Muqarnas;
- Special features of Cairo's monument
Napoleon's map, Hala
Value of historic buildings along street
Sultan Hasan; Sabil Kuttab

話題

- イスラーム建築とは、その歴史
グローバルな建築文化とは／ムカルナスの幾何学性
- カイロのモニュメントの特徴
ナポレオン地図にあるハーラ／通り沿いの歴史的建築の価値
／スルタン・ハサンとサビール・クッターブ



イスラーム建築の広がりとそのグローバルズムの限界
中緯度乾燥地域、あるいは近代以前という時代が、文化の同質性を担保してきた。その域外においては、地方色や時代色が強い。



14世紀中葉の、それぞれのイスラーム政権の支配地

用した。また、偶像崇拝を禁じるというイスラームの宗教的側面から幾何学文様、アラベスク紋様が発展するという傾向も共通する。中緯度乾燥地域を超えて、イスラームは拡張していくが、東南アジアや中国、あるいはサブサハラやロシアなどの風土が異なる地域のイスラーム建築には、グローバルな部分もありながら、地域独自の傾向が強い。

地域を超えたグローバルな文化の実例として、エジプトに関わる例を指摘したい。13世紀初頭のモンゴルの西進は、中東地域に大きな文化的交流をもたらした。14世紀初頭、モンゴル帝国の分派としてのイラン一帯を統治したイル・ハーン朝は、地中海周域のマムルーク朝と争い、オスマン朝が勃興しようとする時期に当たっていた。

この時代、14世紀前半にイル・ハーン朝のタイルが、カイロのマムルーク朝へと導入される。しかし土を焼いて作るタイルの文化は、エジプトに定着することはなかった。

また、2重殻ドームという、内側ドームと外側ドームを乖離させ、高さを強調するドームは、14世紀中頃から末にかけて、各地でその萌芽的な形態が確認でき、カイロにもその一例がのこる。その起源については、ロシア正教の木造ドームが共通することから、今は残っていないチャグタイ・ハーン国には、木造を起源とするような存在があったのではないかと推察される。

さらにムカルナス（鍾乳石飾り）と呼ばれるイスラーム建築特有の細部は、幾何学的な存在であり、幾何学的な図面が介在し、各地へと技法が伝播していく。14世紀第4四半期、と15世紀の第3四半期に、カイロの石造ムカルナスからイランや中央アジアのスタッコ造のムカルナスへと大きな影響があったことを指摘できる。

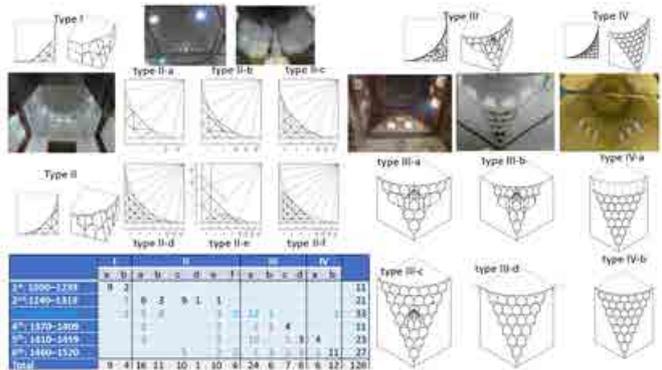
このようにイスラーム建築には、地域を超えて伝わる文化があり、それによってグローバルな建築が創出される。



カイロに残る14世紀前半のマムルーク朝建築におけるタイル。マリダーニー・モスクの打ち抜き部分のタイル、ナーセルの城塞のモスクのミナレットのタイル。



ダブル・ドームの発生とその伝播経路。ユーラシアからエジプトを含み、大きな技術交流があったと想定される。そこにはイスラームという宗教が介在する場合、材料の同一性が推進する場合がある。



カイロの1050年から1520年までドームの移行部に用いられたムカルナスのタイプ。外界から新たなアイデアが持ち込まれた様子を語る。特に1320年からの40年間に新しいタイプが現れる。



マムルーク朝の石造ムカルナスからの影響でイラン中央アジアに極座標系の複雑なムカルナスが生じたと考えられる。

次に、カイロの都市や建築に関する文化遺産の特殊性について、指摘したい。歴史的カイロには、18世紀末の様相を描いたナポレオンの地図の都市組成がそのまま残っている部分が多い地域を占める。フトゥーフ門（カーヒラの北門）からズウェイラ門（同南門）へと続く、ムイッズ通りは、ナポレオン地図によるといくつかの通りに分割されているが、多くの歴史的建造物が、残されている。これに加えて、太さが変化しながら凸凹のある道、あるいは狭くて曲がりくねった袋小路など、いわゆる整然とした街路網ではなく、歴史によって形成された道が残されているという点は、非常に重要である。

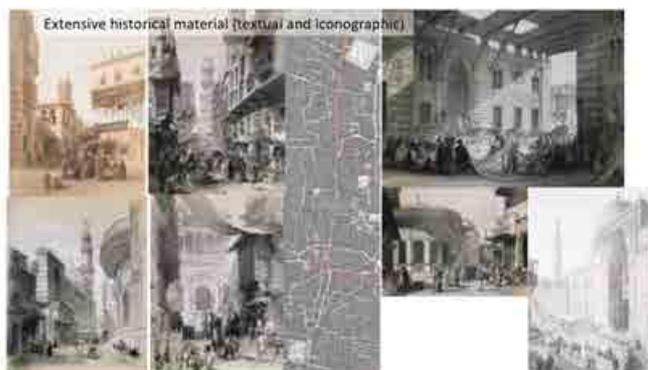
ムイッズ通りの19世紀の絵画や古い写真には、このメインストリートはかつて賑わっており、通りの角に佇む人や、通りで商売をする人々もたくさんいたことが見てとれる。現在の同じ地域の写真と見比べると、多くの歴史的建造物が修復されて現存しており、近頃では車両入場制限があるために、観光客が街を楽しんでいる。このように、カイロにおいては、歴史的建造物だけが魅力なのではなく、歴史的建造物が所属する古い道の景観、すなわち街並みが重要な遺産となるべきで、それこそが歴史的カイロの一つの特色であることがわかる。

この特色は、本来は袋小路などのコミュニティをも形成していた。ガマレイヤ地区にあるハーラ・マビヤダには、サビール・クッターブ（給水所兼寺子屋）の横に、長く複雑に枝分かれする街区門の痕跡が残っている。ここに昔は門があり、それを閉じることによって、街区のプライバシーや安全を守ることができたのである。

ナポレオンの地図には、街区門から続くこの一塊の通りがさらに3つの部分に分けて記載され、もしかしたら、さらに下位のコミュニティからなっていたのかもしれない。小路に住む人々は、日本の隣組のような地域コミ



カイロの現在のムイッズ通りのフトゥーフ門（左上図）からズウェイラ門（右上図）までのナポレオン地図の通りの様相（下図）と道路の名称（上中央の表）



ムイッズ通りを描いた19世紀の絵画。建物敷地によって凸凹のある道の様相が描かれる。人々が通りを通行するだけでなく、通りがたたずむ場として描かれている。



上記絵画の場所の現況。歴史的建造物は修復され、維持されている。ムイッズ通りは車両の通行が制限されているために、観光客に人気のスポットとなっている。観光用の電気自動車も導入された。



マビヤダ地区への街区門の痕跡と同地のナポレオン地図。

コミュニティを作って、大きなカイロの中に自己を位置付けていたのである。

1938年の500分の1の地図を見ると、これらの通りはさらに小さく分割され、それぞれに名前がついている。

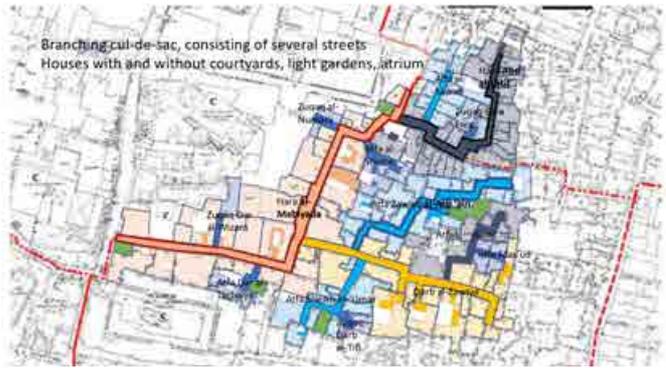
現在の歴史的カイロを保全していくためにはそこに住む人々の協力が必要で、みんなの意見から何かを決めていくときには、集団としてのコミュニティが必須となる。こうした集団を復活していくことも重要な課題であるとともに、バイトヤカンを中心として新たな地域コミュニティも育ちつつある。

街並みについては、前近代においては、古い写真に見るように高さや技法が建設に関わり必然的に統一されてきた。そこにはマシュラビヤ（伝統的轆轤木工格子細工）の出窓や組積造の壁、入口などいわゆる調和的な街並みが存在した。そうした街並みをもつ通りではさまざまな行事が施され、地域を通りすぎるような祭礼も行われてきた。先に袋小路におけるプライヴヴァーシーについて記したが、通りは決して他者を拒むものではなく、都市の一部として機能してきたのである。

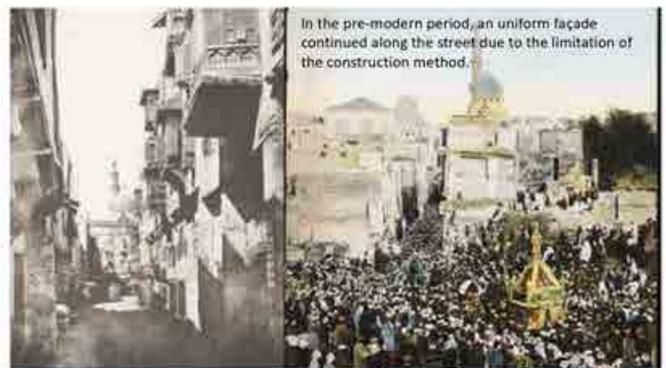
ところが、現在のスーク・シラーハ通りを調査して見ると、歴史的建造物の間に、8階以上もあるような高いアパートが建ったり、古い建物が崩壊するままに放置されたり、思い思いのファサードで建築を分節したりと、調和という点では大きな問題がある。

こうした問題に対して、景観保全という点から、サラール・ザキー教授は、さまざまな提案を試みているけれど、広い地域においてはなかなか景観保全を実現できていない。

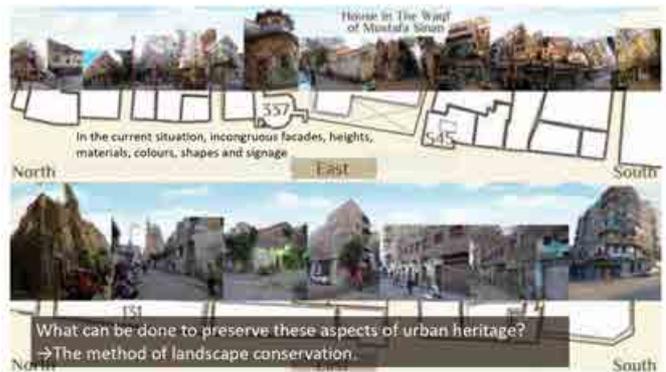
近頃、インフォーマルな居住地を撤去し、フォーマルな居住地に変えるという政府の方針が取られている。このプロジェクトの中で、不整形な街路網を持ち、朽ちかけた古い建物がそのまま残る歴史地区カイロの一部は、インフォーマルな地域に認定され、今までの建築が撤去されてしまうことが起こり



マビヤダ地区を1938年の1/500の地図に落とした。それぞれの住宅敷地に番号が振られ、通りに所属している。こうした住居の塊がコミュニティの下位の単位となっていたことが想定される。



昔のスーク・シラーハ通りの写真と、そこを練り歩くキスワ（カアバ神殿の布製の覆い）をメッカへと運ぶ神輿の行列。前近代の街並みは、建築技法や材料の制約により調和的であった。



スーク・シラーハ通りの2022年初頭のファサードの現状、歴史的建造物の間を埋める建物は、さまざまで、中には、高さ、色、形状など不調和な新建築や傷んだままの古い建築が存在する。



サラール・ザキー教授によるガマレイヤの現状（下）と修復案（上）

つつある。

そうした地に立つ代替物としての建築は、出窓などを取り入れた4から5階建ての統一されたいわゆる現代の伝統的ファサードである。歴史的カイロでもアーバン・デベロップメント・ファンドによって、統一されたファサードへと更新されつつある。しかしながら地域全体を同一のパターンで覆うということは、逆に街並みのファジーな部分を取り去ってしまい、魅力が半減する。

少なくとも、現在まで歴史的な都市組成は守られている部分では、その魅力を発揮できるような街の景観（街並み）を考えていく必要がある。

カイロのイスラームの建築は、700を超えるモニュメントが観光考古省によって登録され、まさに千のミナレット（モスクの呼びかけの塔）の街というにふさわしい数々の歴史的モスクが残されている。

そんな中から代表的な事例を挙げれば、9世紀のイブン・トゥールーン・モスク、14世紀のスルタン・ハサン・モスク、19世紀のムハンマド・アリー・モスクということが出来るだろう。

東京外国語大学のプロジェクトでは、こうした歴史的建造物を Esri マップに落とし、そこにそれらの建築の写真を撮影場所付きでアップするという作業を行っている。

<https://islamic-architecture.aa-ken.jp>

また、同プロジェクトでは有名建築カラーウーンの建築を選び、ヴァーチャル・リアリティを用いて建物の中を実際に歩き回り、いろいろな情報を得ることのサイトも構築している。<https://qalawun.aa-ken.jp/en/>

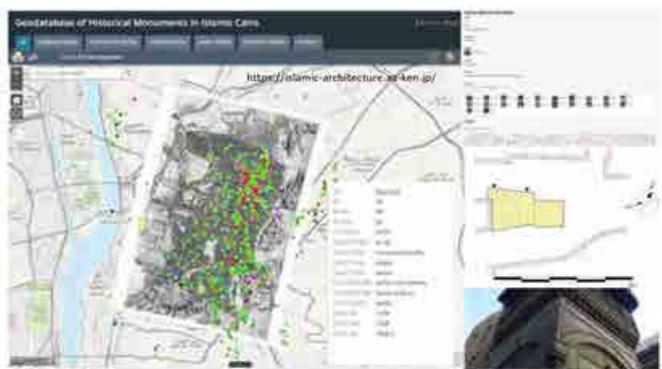
このように、歴史的カイロの魅力他者に伝えていくために、現地だけでなく遠方から後方支援することに対して、地域住民へどのように還元したら良いのかを考えねばならない。歴史的カイロには世界中の人の目を引く魅力がある。



インフォーマルな地区（左上図）を撤去し新たな伝統様式を加味したアパートが建設された（左下図）。世界遺産のコアゾーンにおいて、古い都市組成（右上図）が2022年に撤去された（右下図）。



イブン・トゥールーン・モスク（左3枚）、スルタン・ハサン・モスク（中2枚）、ムハンマド・アリー・モスク（右2枚）は、カイロのイスラーム建築のそれぞれの時代の代表例である。



東京外国語大学 AA 研によるジオデータベースのサイト。トップページでは現在の地図にナポレオンの地図を重ね、それぞれのモニュメントから建物写真に飛ぶことができる。



同 AA 研によるヴァーチャル・リアリティのサイト。

次にスーク・シラーハ通りについて、その特色とそれに対する活用の方法を捉えてみたい。通りの起点には、カイロの代表とも言えるスルターン・ハサン・モスクがある。現在は観光考古省管轄のもと、観光客に有料でオープンしている。また金曜の昼の礼拝では、ムスリムの合同礼拝に使用される。

中庭を周囲の4つのマドラサ、入口近くの水場、隣り合う水車施設部分は現時点ではほとんど利用されていない。かつての複合建築の敷地が遺跡公園となっているが、整備が不十分である。こうした部分を活性化して住民や観光客のために利用していくことが望まれる。また、リファーイー・モスクと並び立っていることから、住民との結びつきという点では、聖者リファーイーの生誕祭（マウリド）が重要である。2つの建築の周囲には広い空地があることから、この空地の有効利用も視野に入れて欲しい。

マドラサという点では、スーク・シラーハのイルガイ・ユーズフィー・モスクも同様で、現在は中庭周囲の部分だけが礼拝時に利用されている。しかし創立者の墓廟、学生居室部分、給水所と寺子屋部分は修理もされずに放置されている。こうした部分はイスラームの宗教建築という点から利用に対する配慮や規制が必要ではあるが、上手に活用することが望まれる。

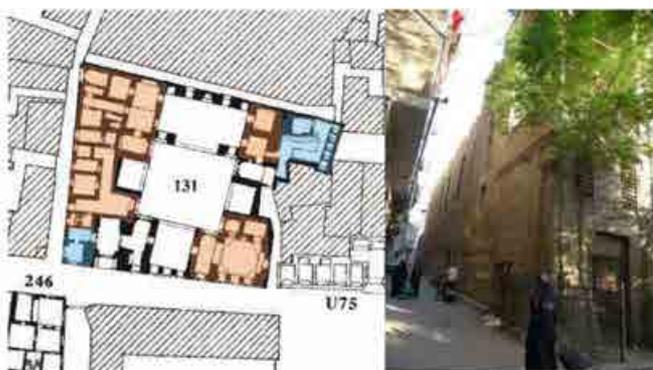
さらにスーク・シラーハには給水所兼寺子屋、公衆浴場、邸宅の門なども残っており、本プロジェクトでも活用の方針を模索してきた。

さらにスーク・シラーハから地域を広げれば、数多くの歴史的建築が、未だ修復されずに残っている。これらの建築を活用しながら街並みを整えていくことは、カイロの魅力を外へ向かって表現することになり、かつ住民生活の利便性をあげ、さらに魅力から引き出される観光によって住民生活が潤うという循環を期待できる。



With regard to the use of historic buildings, mosques are often used for daily prayer. Some mosques are undergoing restoration or are no longer usable due to damage, though. However, many madrasas, mausoleums, khanqahs and hospitals are no longer in use due to changes in function. Sultan Hassan's madrasas is one example: the four madrasas are used for events, but are usually locked.

スルタン・ハサン・モスク。左の平面図にはリファーイー・モスクとの広場の様子等を表す。右上写真は現在利用されていないマドラサ部分。右下写真は遺跡公園だが、あまりうまく利用されていない。



イルガイ・ユーズフィーモスクの平面図（左）利用されていないマドラサと墓廟の部分をオレンジで、水回り施設を水色で表す。右図は、建物の北側を走るハラワート通り沿いのファサード。



スーク・シラーハ沿いの観光考古省によって登録された建物とバイトヤカンの中庭（左下）。3つの給水所兼寺子屋は2021年から22年にかけて修復され、住民の意見を汲んだ活用が始まることが望まれる。



Make use of unused historical buildings. In particular, the Sahil has been replaced by the installation of a water supply system. The idea of using an underground cistern in addition to the GI and 1st floor was conceived at a residents' workshop.

スーク・シラーハの属するダルブ・アフマルの歴史的建造物。

今までの本プロジェクトの住民ワークショップでは、給水所兼寺子屋の地下貯水槽を、緊急時の水の貯水に使うという案が住民から提案された。現代的な技術を使えば、水を安全に貯水し、火災の際の消化に使い、あるいは飲料水に使えるような可能性もあるかもしれない。カイロにおいては地下構造物に関する調査研究はまだできておらず、その利用はこれからの課題である。

ファシリテーターの役割は、住民と一緒にあって、歴史的価値とは何かということを考え、それを上手に行政側に伝えていくことだと思う。現代的生活や持続的な未来に向かって、歴史的建築の魅力・価値や可能性を引き出し、それを住民と一緒に考えることが、さらには住民がより遺産を身近に感じられるようになるような情報を準備し、行政側と折衝することが望まれる。

歴史的建造物の活用や、都市景観の保全は、単に他者に提供する観光のためだけに必要なのではなく、住民生活自体に役立つように考え、住民が納得する方法をとらねばならない。都市には多様な人々が住んでいる。スーク・シラーハも同様で、その中でみんなの意見をまとめていくことが、ファシリテーターの役割の一つだ。

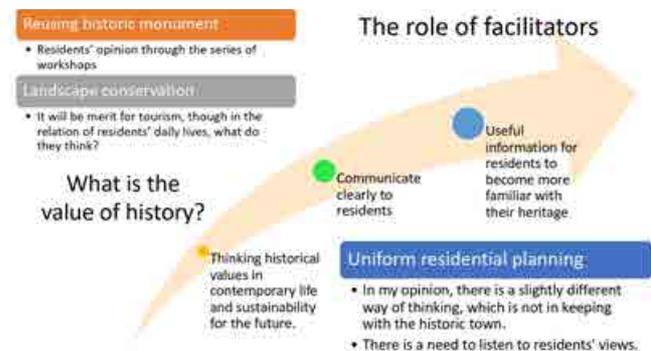
イスラーム建築のグローバル性を話題にしたが、グローバリズムとローカリズムとは相反するものではなく、双方がそれぞれの利点や欠点を認識しながら、利用し合うようなものではないかと思う。

カイロ旧市街の保全活動において、ローカルな住民の意見を聞き取りながら、グローバルな保全制度や観光への取り組みを住民に伝え、行政に働きかけ、歴史都市が持続的に保全されるための潤滑油になるのが、ファシリテーターであろう。

カイロにおける歴史的建築の価値は、素晴らしい建築が都市組成とともに存在することだ。旧ソ連においては、歴史的建造物だけ

- History of Islamic Architecture; Global architectural culture Geometry-Muqarnas
 - Special features of Cairo's monument Napoleon's map→Urban Tissue; Hala Value of historic buildings along → street, landscape preservation Sultan Hasan, Sabil Kuttab →reusing historic building
- Underground cisterns at Sabil Kuttab are used as emergency water tanks. Modern technology may be used to store drinking water or to store water for planting or for use as water in case of fire. Underground structures as a historic resource remain under-recognised. For example, channels for drainage could be considered for some modern use.

住民とファシリテーターが協働するワークショップは、未来の地域を考える基礎となる。このワークショップで話し合われたことを明文化し、行政側にきちんと伝え、粘り強い摂政によって実現していく必要がある。行政側の対応を住民に伝え、住民と行政の接点を作ることもファシリテーターの役割の一つである。



が街並みから切り離され、空地にポツンと保存されるという手法がとられた。中央アジアの国々では、そのような情景が広がる。

しかし、カイロにおいては古い通りがその名称とともに存在し、そこから歴史的建造物に入ることができる。幅員を変え、凹凸を繰り返し、袋小路をもつ都市組成を、インフォーマルと判断するのではなく、魅力に転化する。この特殊性の、このメリットを活かし、街並みとして景観保全を推進すれば、きっと素晴らしい雰囲気をもった観光資源になることが予想される。その場合に注意せねばいけないのは、歴史が作ったファジーな空間には全体統一様式ではなく、ある幅をもったデザインが必要であることだ。

同時に歴史的建造物に鍵をかけてしまうのではなく、また他者に見せるだけの観光資源のために利用するのではなく、住民のために、住民と一緒に考えて利用を推進していくことが必要である。

ファシリテーターとして活躍するためには、ぜひこんなカイロの特殊性に気づいて欲しい。

地域コミュニティの価値向上を目的とした「エリアマネジメント」について（国土交通省土地・水資源局発行の「エリアマネジメントのすすめ」を参照）紹介する。

エリアマネジメントとは、良好な環境と価値を維持・向上させ、快適で魅力的な環境や美しい街並みをつくることである。その結果として「地域」や「個人」の資産価値が向上する。重要なのは住民・事業主・地権者が主体的に行動することである。行政はエリアマネジメントを主導するのではなく、あくまでサポートする。

都市や地域は、多くのエリアから構成されている。それぞれのエリアには、その地域固有の背景と特徴があり、それが地域の魅力となっている。環境や活力を向上させることは、住民・企業・地権者にとって有益である。行政は平均的で画一的な都市計画を行うことが得意である一方、地域の細かなニーズに即応するのは苦手である。

地域には異なる目的を持った組織がいくつか存在する。これらの組織は互いに協力し合って推進する。行政はそれらを支援・協力する。ファシリテーターはこれらすべての場面で活躍することになる。エリアマネジメント組織は、地域の価値の向上と活性化のために活動する。

Area Management Increasing the value of the community

Online Facilitator Course
29th Oct.
Katsumi Shishido

Definition of Area Management

Maintain and improve the value of the local good environment and Area.

- Creation of a comfortable and attractive environment
- Creation of beautiful cityscapes
- Preservation and promotion of property values
- Formation of an attractive brand power
- Creating a safe and secure community
- Formation of a good community
- Preservation of traditions and culture of the Area
- Includes not only tangible elements but also intangible elements

Residents, business owners, and landowners act independently.

- Not government-led
- Led by community leaders and participants

What is Area Management?

What is Area Management?

- A city or region consists of many areas. Each area has its own unique background and characteristics.
- Improving the environment and vitality of an area benefits its residents, businesses, and landowners.
- It is important for the various organizations within a region to cooperate and work proactively.
- To improve a region, it is not enough to simply rely on, wish for, or expect the government to do so.

Why is area management necessary?

- **Government is good at**
 - Average and uniform city planning
 - Maintenance, management, and operation with uniform rules
- **Government is not good at**
 - Responding to the detailed needs of the region.
 - Focusing on the individuality of each region
 - Flexible maintenance, management, and operation

Example of Area Management Organization Structure



(1) エリアマネジメントはボランティア活動ではない。参加者にはビジネス的な視点が必要である。もちろん、ボランティア精神は必要である。(2) 活動でお金を稼ぐ必要がある。公共空間・公共施設・民間施設を利用し、資金を得る活動が重要である。(3) 収益は地域整備の費用に充当する。地域の清掃・緑化・防犯などに使われる。(4) その結果、状態が改善され資産価値が向上する。住民の参加は、自分たちの「利益にもつながる。

エリアマネジメントには高収益の活動と、低収益の活動がある。高収益の活動で得た資金を公益的な費用に充てる。公共空間を利用した活動で収入を得、それを公共空間の維持管理費に充てる。国が文化財や公共施設を地域団体に開放し、地域自身がそれを使って活動資金を得る。政府はエリアマネジメント団体を公的な組織として認め、公共空間維持管理の委託料を支払う。

持続可能な資金を確保することは容易ではない。政府からの補助金や委託料は、安定した収益源ではない。また、複数の異なる利害関係者を一つの組織にまとめることは容易ではない。さらに、組織や活動を維持・拡大するためには、多大な労力が必要となる。

日本で最も一般的な活動の例は、公共空間を活用したイベント開催である。季節ごとに文化的なイベントが開催され、多くの訪問者があり地域の賑わいを創出する。地元企業、学校、地域団体など、さまざまな組織が連携して活動する。

Participation in Activities Benefits the Residents Themselves



Financial Resources for Area Management



Difficulties in Area Management

- Sustainably earning operational funds.**
 - It is not enough to rely on government subsidies and consignment funds.
 - This funding source has problems with continuity and stability.
 - Should not rely on collecting membership fees
 - Area management promotion organizations need to earn funds
- Organizing multiple stakeholders**
 - It is not easy to bring together multiple different stakeholders into one organization.
- Sustaining and expanding the organization and its activities**
 - Maintaining consensus
 - Securing leadership and activity staff
 - Developing a staff structure

Examples of Area Management Activities

- Event activities**
 - Plan and organize events and activities
 - Attracting more people
 - Seasonal events
 - Religious events
 - Businesses, schools, community organizations
 - Cooperation between various organizations



環境整備、防犯・防災活動も盛んである。地域住民が公共空間をより快適にするために清掃を行う。住民と地域の労働者が一緒になって清掃に参加する。防災・防犯の訓練を行政と連携して行う。

地域のルールづくりも重要な活動である。美しい街並みを実現するために、地域固有のルールを作ることもエリアマネジメント活動に含まれる。ルールとは、まちづくりの方針・指針である。

エリアとその魅力に関する情報を広め、共有する。地域の施設、イベント、観光、お役立ち情報などの有益な情報を発信し、地域情報板や情報共有サイトなどを運営する。

これらはエリアマネジメントのための財源を確保するための活動である。団体は公共スペースを事業者に貸し出し使用料を得る。また、街路や広場、私有地の屋外広告スペースを販売し収益を得る。歩行者空間のカフェ事業者に屋外の座席スペースを貸すことで収益を得る。

Examples of Area Management Activities

Beautification, Crime and Disaster Prevention

- Activities to improve the comfort of the community
- Cleanup activities in public spaces
- Crime prevention workshops
- Residents and workers work together
- Improvement of local disaster prevention capacity
- Practice disaster prevention activities



<https://www.chicago.gov/so/isei/about/areamanagement/>

Examples of Area Management Activities

Community Rule Making

- Regional Landscape Guidelines
- Streetscape, green space, public open space
- Properly maintained and managed
- Create pleasant and high quality landscapes
- Voluntary community rules
- Promote community interaction
- Nurture leaders of community development



<https://www.chicago.gov/so/isei/about/areamanagement/>

Examples of Area Management Activities

Publicity and Promotional Activities about the Region

- Active use of SNS
- Introduction of local attractions by experts and residents
- Promote local attractions
- Raise the profile of the region
- Local information signage
- Information boards
- Website operation



<https://www.chicago.gov/so/isei/about/areamanagement/>

Examples of Area Management Activities

Advertising and rental income from public spaces

- Streets, squares, public spaces, private property
- Outdoor advertising space for sale to businesses
- Public and outdoor spaces for cafes and events
- Use proceeds to fund area management activities
- Contribute to creating a lively community



<https://www.chicago.gov/so/isei/about/areamanagement/>

日本の地方の都市部では、空き家や空き地が増加している。空き家となった民間施設を再利用し、コミュニティセンターとして活用する試みが多数行われている。特に、民間の歴史的建造物・住居を再生、活用した事例が多くある。

ファシリテーターは利害関係者の本音を理解し、お互いをつなぐ中心的存在となる必要がある。ファシリテーターには持続的で建設的な議論を誘導するスキルが必要である。利害関係者、専門家、行政の間を取り持ち、調整するスキルが必要である。場合によっては、不動産や金融の専門家に協力を依頼することもある。建築家はファシリテーターとしての役割が期待されている。

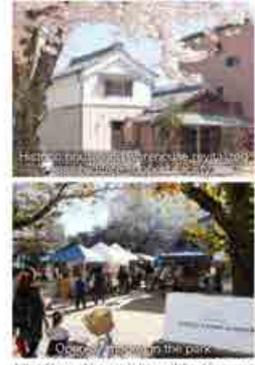
エリアマネジメントの主な活動対象は公共空間である。中間領域（緩衝空間）が街並みの表層を構成している。公共空間だけでなく「緩衝空間」「空き家」「空き地」「袋小路」なども重要なターゲットである。

日本ではカフェが公共空間を利用することは容易ではない。カフェがエリアマネジメントの中で公共空間を利用することもあるが、それは稀なケースである。カイロではカフェが公共空間を利用（占有・占拠）し街並みを作っている。洗練されたデザインやルールを採用すればより質の高い街並みができると思う。

Examples of Area Management Activities

Public use of vacant houses and land

- Public use of private facilities
- Vacant houses and sites
- Utilization by local residents
- Reuse as community facilities



<https://www.chisou.go.jp/houmei/about/areamanagement/>

Role of Facilitators in Area Management

- Role of the Facilitator**
- The facilitator needs to understand the real intentions and interests of the stakeholders and to be a central point to connect stakeholders.
 - The facilitator needs to be able to guide the discussion into an continuous and constructive discussion.
 - The facilitator must be able to coordinate the relationships among the region's residents, business owners, landowners, various experts, and the government while nurturing the project.
 - In some cases, projects may require the cooperation of real estate or financial experts.
 - Architects are expected to act as facilitators in order to improve and grow the value of the region.

Activity Space for Area Management



Examples of Ahwa Integrated with a public space



エリアマネジメントでは、公共空間を活用してイベントを開催する。カイロではすでに公共空間の活用が盛んである。カイロの公共空間では、さまざまなイベントがすでに開催されており、これらをエリアマネジメント活動の一環として取り込むことも可能と考える。

歴史的・文化的都市の公共空間には、魅力的な要素が多く存在する。しかし、あまりにも日常的かつ身近であるため見逃してしまうことも少なくない。地域のささやかな魅力に目を向けることが、エリアマネジメント活動の出発点であると考えられる。

最後にまとめる。

エリアマネジメント活動には、経営の視点を入れることが重要である。修繕や改修のための資金を稼ぐ必要がある。その中で、ファシリテーターは住民、専門家、行政をつなぎ、建設的な議論へと導くことが重要である。ファシリテーターは、エリアマネジメントの仕組みを構築する重要な役割を担っている。

以上

Examples of Using Public Space for Events



Rediscovering Attractive Elements in Public Spaces



Summary

Adding a management perspective to community development

- To earn money for repairs and renovations.
- Possibility for participating residents to earn income
- A management perspective can lead to region branding
- Residents should be proud of their own area

Role of the Facilitator

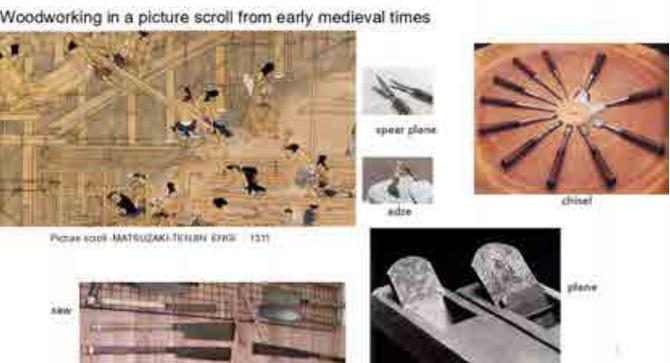
- Conducting discussions with residents, experts, and government
- It is important to create an area management structure

1. はじめに：日本での歴史的建造物と景観の保存、活性化について、事例を中心に紹介する。私は大学院修了後、日本の代表的な歴史都市である京都の都市計画局に長く勤め、その後文化庁に移り、文化財建造物や歴史地区の保存事業に関わってきた。現在は日本イコモス国内委員会に所属するとともに、日本のいくつかの歴史都市の保存審議会委員等を務めている。

2. 日本の歴史的建造物、歴史的町並の代表例：この写真や図のほとんどは世界文化遺産の構成資産で、すべて木造建物である。左上の建物は法隆寺の金堂と五重塔とともに7世紀の末に建立された。左中段は姫路城天守、左下段は白川村の合掌造り集落、中央は石見銀山の集落の景観である。右上は神社本殿、右下は寺院の五重塔の例である。

3. 木造建築物の建築や修理に使われる道具：日本の木造建造物は、多様な道具を巧みに使う職人たちによって受け継がれてきた。左上は、1311年の屏風絵に描かれた職人たちの姿で、槍鉋や手斧等を使っていた。右上の各種の鑿や下段の鋸、台鉋は後世、職人たちが使いやすいうように工夫し、発展させた物である。

4. 建造物の保存のための技術：日本の大工たちは巧みな加工技術とともに、寺院や神社の建築について、木割といわれる特別な寸法体系や規矩と呼ばれる寺院等の軒先の曲線を幾何学的に導き出す手法を14世紀頃から17世紀までに開発・発展させた。また、木と木を直角方向、長さ方向に正確かつ美しくつなぐ高度な技法を生み出し、発展させた。



5. 歴史的建造物の屋根の葺替：日本の歴史的建造物の多くは植物性の材料で葺かれている。これは桧皮葺の葺替の事例である。熟練の職人が桧の皮を何枚も重ねて竹釘で留め、流麗な曲線を形作る。自然材料であるため通常 20～30 年、長くても 40 年程度で葺き替える必要がある。

6. 日本における文化遺産や景観の保護制度の近年の発展：日本では 1970 年代から 2000 年代初めにかけて、文化遺産保護や景観保護の法制度が整ってきた。1975 年には文化財保護法の改正で伝統的建造物群保存制度ができ、1996 年には有形文化財の登録制度が、2004 年には文化的景観の保護制度が生まれた。同じ 2004 年には景観法、さらに 2008 年には歴史まちづくり法ができた。

7. 指定・登録・選定されている文化遺産及び認定されている歴史まちづくり計画の数—2022 年 11 月現在：重要文化財建造物は 5373 棟あり、このうち 294 棟は国宝に指定されている。登録有形文化財は 13,546 件、重要伝統的建造物群保存地区は 126 地区で、約 30000 件の伝統的建造物や庭園等が含まれる。重要文化的景観は 71 地区が選定され、歴史まちづくり計画は 87 プランが認定されている。

8. 登録有形文化財制度について：登録有形文化財制度は 1995 年に発生した阪神淡路大震災後に、地震により傷んだ歴史的建造物の多くが調査や評価がされないまま除却されてしまったことの反省から、1996 年の文化財保護法の改正により実現した。建造物、土木構造物等で、建設から原則 50 年以上を経過した建造物を登録対象にしている。所有者と近隣社会の理解によって保護と活用を図るものである。現在までの 26 年間で 13,546 件の住宅、小学校、役場、駅舎、銀行、旅館、ホテル、工場、砂防ダム等様々な建造物が登録されている。



Recent development of Cultural Heritage and Landscape protection System in Japan

1. System of Preservation Districts for Groups of Traditional Buildings, 1975, prescribed in the Law for Cultural Properties Protection (MEXT)
2. System of Registration for the preservation of buildings, 1996, prescribed in the Law for Cultural Properties Protection (MEXT)
3. System of Cultural Landscape, 2004, prescribed in the Law for Cultural Properties Protection (MEXT)
4. Landscape Act, 2004, (MLIT)
5. Law on the Maintenance and Improvement of Historical Landscape in Communities, 2008, (MEXT, MLIT, MAFF)

MEXT: Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology; MLIT: Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism; MAFF: Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan

Number of Cultural Property Buildings - National Designation /Registration/ Selection as of November 2022

Important Cultural Property (National Treasure)	2,557 items, 5,373 buildings	230 items, 294 buildings
Registered Cultural Buildings	13,546 items	
Important Preservation Districts for Groups of Traditional Buildings	126 districts, around 30,000 items, 4,024ha	
Important Cultural Landscape	71 districts,	121,775ha

Number of approved Plans for the Maintenance and Improvement of Historical landscape in Communities as of November 2022

87 plans

Registration of Cultural Property Buildings

Institutionalized in 1996 after the Great Hanshin-Awaji Earthquake of 1995 with the amendment of the Law for the Protection of Cultural Properties.

Registration Criteria for Registered Tangible Cultural Properties
—Buildings, civil engineering structures and other structures—

- 50 years have passed since its construction in principle, and which falls under any of the following items.
 - (1) Buildings that contribute to the historical landscape of the country
 - Buildings that are widely known by a special nickname, etc.
 - Buildings that are useful for learning about a place
 - Buildings that appear in a painting or other work of art
 - (2) Buildings that have become the norm for modeling
 - Buildings with outstanding design
 - Buildings with prominent designers and builders
 - Buildings that are early works of many later builders
 - Buildings that are characteristic of the period or type of building
 - (3) Buildings that are not easy to recreate
 - Buildings with superior technology and skills
 - Buildings that use techniques and skills that are now rare
 - A building with an unusual shape of design, of which there are few similar examples

9. 歴史まちづくりに関する法律の制定—「地域における歴史的風致の維持向上に関する法律」：2008年に「地域における歴史的風致の維持向上に関する法律」が制定された。地域の城跡等の史跡、神社・寺院・住宅などの重要文化財、伝統的建造物群保存地区等国指定・選定の文化財とその周辺地域の歴史的環境を保存するために様々な優遇措置を講じるもの。これらと密接な関係を持つ祭礼等の伝統行事も保護対象。市町村は、その歴史的風致の維持向上のための計画を作成し、現在87の計画が認定されている。

10. 伝統的建造物群保存地区について：周囲の環境と一体となって歴史的景観を形成している価値の高い伝統的な建造物群の保護のために周辺も含めて、市町村が都市計画で保存地区を指定する制度。国は市町村の申出により重要伝統的建造物群保存地区として選定し、保存事業を支援する。現在は126地区が選定されている。

11. 伝統的建造物群保存地区の種類：地域の歴史、文化を反映して宿場町、城下町、商家町、港町、農村、山村、門前町、茶屋町、鉾山町などいろいろな種類がある。各地区では住民と地方自治体の協力により、保存活用計画に基づいて、修理修景事業、活用事業等が続けられている。

12. 重要伝統的建造物群保存地区数の推移：1976年に選定が始まり、その後順調に増加し、45年後の今日では全国で126地区、合計面積4000ha余に達している。全国の保存地区内の全建築物約42000棟のうち約15000棟が伝統的建造物として特定され、修理や構造補強等により保存が図られている。その他の建築物も修景等により、伝統的景観との調和が図られてとともに、地区全体の防災施設整備が進んでいる。

Law on the Maintenance and Improvement of Historical Landscape in Communities, Established in 2008

Plan for the maintenance and improvement of historic landscape
The municipality will create plans to preserve and improve its historic landscapes. The government will assist and provide support in such and financial plan and technical advice. Landmarks around historical cultural properties and high historical value.

The law aims of preserving and enhancing historic environment surrounding the built heritage that is protected under the Cultural Properties Protection Law. And the law also supports traditional activities, so called intangible operations, relating to the built heritage.

Currently, 87 city plans have been approved.

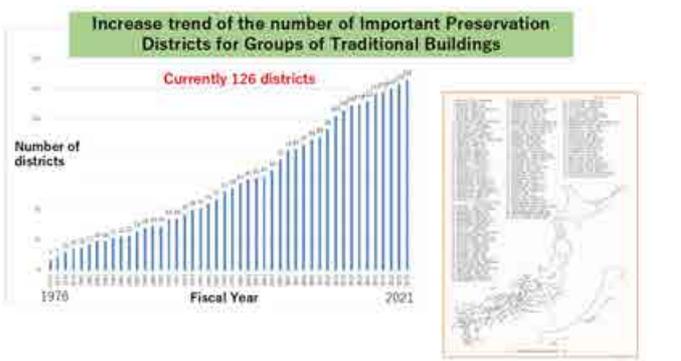
1 Built heritage of historically high values
2 Historic buildings related to the built heritage
3 Traditional activities related to the built heritage and/or its relevant historic buildings

Preservation District for Groups of Traditional Buildings
=Groups of traditional buildings of high value which form certain historic landscapes in combination with their surroundings=

126 districts are classified as Important Preservation Districts

Representative examples of Preservation District for Groups of Traditional Buildings

<p>Post town, Senjū culture manuf.</p> <p>Utsunomiya-juku, Tokushima</p>	<p>Castle town, Samurai quarter</p> <p>Maeda, Yamaguchi</p>	<p>Merchant town</p> <p>Sumida, Tokyo</p>	<p>Port town</p> <p>Yokohama, Kanagawa</p>
<p>Mountain village, Farming village, Island village</p> <p>Yamanashi, Yamanashi</p>	<p>Temple town, Shrine town</p> <p>Yamanashi, Yamanashi</p>	<p>Chaya-machi (the town of entertainment quarters)</p> <p>Nagasaki, Nagasaki</p>	<p>Mine town, Historic industrial town</p> <p>Osaka, Osaka</p>



13. 伝統的建造物群保存地区に関する規定：

保存地区内の建物や土地の現状変更は地方自治体の長の許可が必要である。伝統的建造物として特定された建物は外観の保存が義務づけられ、その他の一般建物や新築建物も歴史的景観を乱さないように外観を整える必要がある。これら伝統的建造物の修理や一般建物の修景等の事業は、国や市町村から補助金を得ることができる。固定資産税や相続税の免除・軽減等税制上の優遇措置もある。

14. 日本における歴史的町並み保存の取組の経過と効果：

1960年代から歴史的地区の住民の保存運動が始まり、それに応じて自治体も独自の保存条例を制定した。そして、1975年に文化財保護法改正により国の制度として伝統的建造物群保存地区制度ができた。今日、伝建地区は文化遺産の保存だけでなく、周辺環境の保全と改善が進み、人口減や空き家の増加の一定の歯止め役に立っている。観光客の増加等の経済効果も生まれている。

15. 町並保存と地域の活性化：MACHI-NAMI。

「町並み」は、歴史的な集落や都市地域をあらわす日本語である。全国各地の歴史的地域の住民団体が「全国町並み保存連盟」を組織し、活発に活動している。右は活動団体の分布を示す。歴史的町並みについての本もいろいろ出版されている。左は私が全国の仲間と執筆編集した町並みのガイドブックの表紙で、上下2巻ある。

16. 伝統的建造物群保存地区の概要：

伝統的建造物群とは、伝統的建造物の集合で、建築や都市の発展の証左であり、その土地の地理的、歴史的、文化的コンテキストを示している。左は丹波篠山市の伝建地区で、城を中心に侍屋敷地区と商家町地区を含んでいる。右上は修理の例を示している。右下は白川村の集落全体の消火施設、放水銃や消火栓の設置状況を示している。

Keywords to understand the Preservation District System

Groups of Traditional Buildings: as a type of Cultural Properties defined in the Protection Law	As regulation: Rules of permission for alterations of the present condition of all buildings and	Determination of Preservation District Inside of the City Planning Area and Quasi City Planning Area: Municipality defines in accordance with the City Planning Act. Outside of the City Planning Area and Quasi City Planning Area: Municipal Board of Education defines in accordance with the Regulation
Preservation Districts for Groups of Traditional Buildings: defined by municipalities, to preserve groups of traditional buildings and its associated historic landscapes	As incentive: - Standard for financial assistance to repair and restoration work of the Traditional Buildings - Standard for financial assistance to conduct facade enhancement work of non-traditional buildings	
Important Preservation Districts for Groups of Traditional Buildings: designated by the Government as preservation districts with especially high value in and for Japan		

- During 1960's - 1970's, efforts to preserve the townscape of villages and urban neighborhoods started with local residents' movements. Around 1967, the townscape preservation movement by local residents in Takayama, Tsumago, Shirakawa Village, etc. started, and the Japanese Association for MACHI-NAMI Conservation and Regeneration was established in 1974.
- Municipal Regulations for Conservation of Historic Landscapes have established in accordance with the local residents' movement. 1966: Kanazawa, Kurashiki, 1972: Kyoto, Takahashi, Hagi, Hirado, Takayama, Kobe, 1973: Matsue, Tsuwano, Tsumago etc.
- The system of Preservation District for Groups of Traditional Buildings was institutionalized in 1975 with the amendment of the Law for the Protection of Cultural Properties.

↓

- About 55 years have passed since the townscape preservation movement by local residents began, and about 47 years have already passed since the system of Preservation District for Groups of Traditional Buildings was institutionalized, and examples of designation, selection, and good results of preservation projects have been accumulated in various areas.
- In the process, the advantages of the preservation districts project have become clear: the project is not only for the protection of cultural assets, but also for the comprehensive and permanent preservation and maintenance of the living environment, and the support system for repair, landscaping, and disaster prevention projects is well-developed.
- In addition, it is expected to help halt the decline in population, the increase in vacant houses, and the aging of the population, as well as increase tourism through the reuse of traditional buildings.

MACHI-NAMI Conservation and Regeneration

Machi-Nami, 町並み, means Historic towns and settlements of Japan.

The Japanese Association for MACHI-NAMI Conservation and Regeneration (Established 1974, 67 resident associations)
 President: Masahiko Iijima, mijiijima@nifty.com

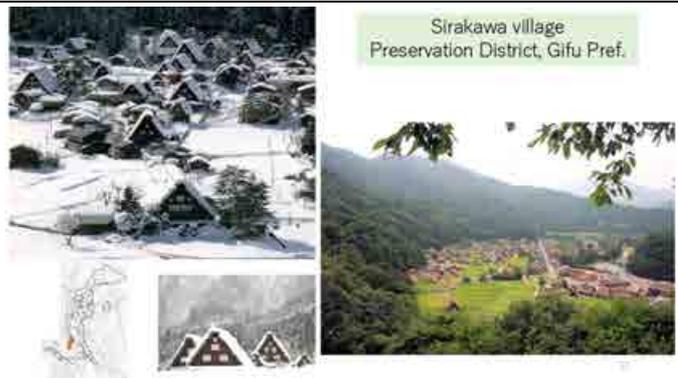
Overview of Preservation Districts for Groups of Traditional Buildings

What is a Group of Traditional Buildings?

- A package of traditional buildings,
- which is an evidence of architectural or urban development
- which has been brought in the geological, historic, and cultural context of the place

The Preservation system

17. 岐阜県白川村荻町の伝統的建造物群保存地区：18 世から 19 世紀にかけて建造された合掌造りと呼ばれる伝統的な大型茅葺民家が 100 棟近く集中している。山間部の川沿いの平地に位置し、茅葺屋根の内部ではかつて養蚕が行われていた。左は城跡の丘から見た冬の景観、右は夏の景観。富山県南砺市の 2 つの集落とともに世界文化遺産に登録されている。



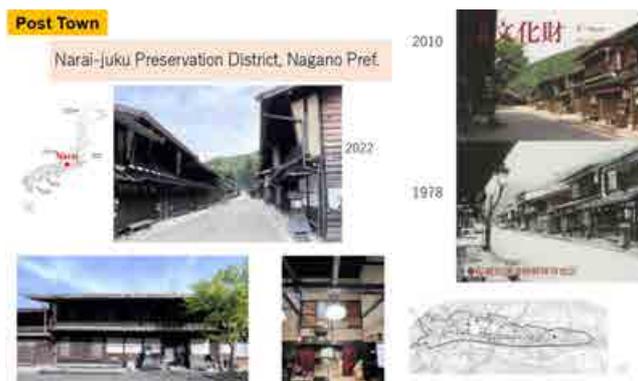
18. 「結い」とボランティアによる茅屋根の葺替：白川村の大きな合掌造りの茅屋根は「結い」という、労働力の貸し借りという相互扶助のシステムで村人全員が加わって 30-40 年ごとに葺き替えられる。最近では全国各地からの茅葺ボランティアも参加している。合掌造り屋根の葺替には大量の茅が必要で、その確保と刈り取り、乾燥、貯蔵にも大きなエネルギーが注がれる。刈り取りには中学生たちも参加する。



19. 伝統的建造物群保存地区における保存事業の成果—かつての景観と現在の景観の比較 その 1：長野県の中山道の旧宿場町である妻籠。保存事業が始まる前は、木材運搬の大型トラックが通り、また傷んだ建物が並ぶさびれた町であった。1970 年代からの保存事業により、現在はかつての宿場町の風景がよみがえり、多くの観光客が訪れている。



20. 伝統的建造物群保存地区における保存事業の成果—かつての景観と現在の景観の比較 その 2：同じく中山道の宿場町であった長野県塩尻市の奈良井宿である。1978 年、2010 年、2022 年と時代が違ふ写真を見ると、伝統的な建物の修理や一般建物の修景が進んで、整った景観に変わっていく様子が見て取れる。



21. 伝統的建造物群保存地区における保存事業の成果—かつての景観と現在の景観の比較 その3：福島県の宿場町である大内地区は旧宿場町としての機能を失ってからはほそぼそとした農業の町になっていた。1960年代末に茅葺屋根が並ぶ姿が新聞や雑誌に紹介され、その後保存地区となり、保存と復原が進んで、その風情を楽しむ多くの観光客が訪れる町となった。



22. 伝統的建造物群保存地区における保存事業の成果—かつての景観と現在の景観の比較 その4：岐阜県飛騨地方の高山は古くから高い建築技術に裏打ちされた優れたデザインの町家が並ぶところとして知られている。春、秋の華麗な山車が巡行する高山祭りもよく知られている。早くから保存事業が行われていたが、伝建地区となってからいっそう修理、修景が進み、より美しい町へと進化している。防災施設も充実している。



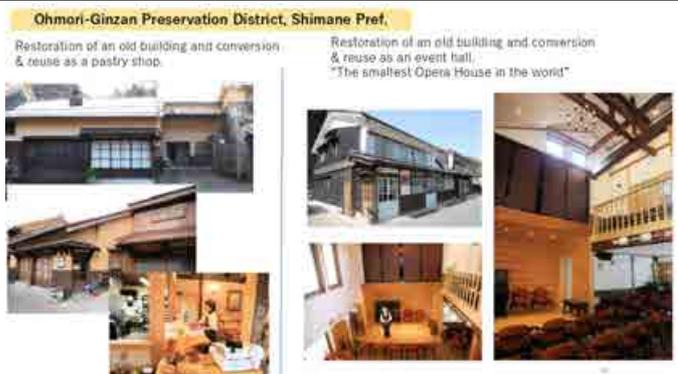
23. 世界文化遺産の石見銀山の伝建地区 その1：島根県大田市の大森銀山伝統的建造物群保存地区は、石見銀山を管理する役人や商人の家屋が並んでいたところで、今も赤い屋根瓦が特徴の伝統的建物が軒を並べている。周辺にはかつて銀山の坑道や精錬所の遺構、また銀を運んだ街道などが残っている。



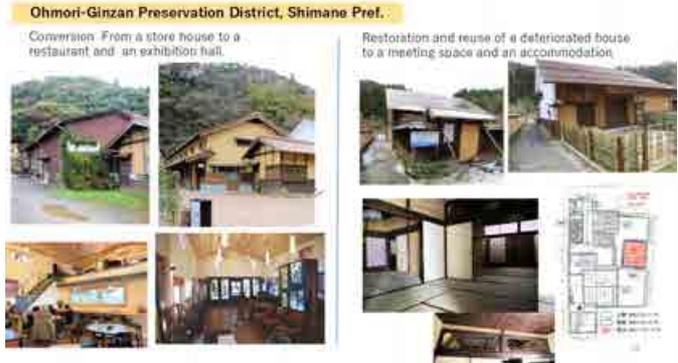
24. 世界文化遺産の石見銀山の伝建地区 その2：伝建地区の中心にある旧熊谷家は、酒造業などを営んだ有力商人の家で1801年に建設された。重要文化財としての修理後、内部が公開され、音楽会、茶会、美術展示会、講演会、子どもたちの体験学習会等様々なイベントがなされる。また、残されていた家財道具約3000点を整理し、展示している。この歴史的建物の運営は地元の女性達のグループに任されている。



25. 世界文化遺産の石見銀山の伝建地区 その3：同じく伝建地区の保存活用事例。左は既存建物を修理・改修してパン屋を営業している事例。右は既存建物を修理・改修して音楽ホールにしたもの。世界で一番小さなオペラハウスと自称している。ステージに立っているのは歌手ではなく、オーナーである。



26. 世界文化遺産の石見銀山の伝建地区 その4：同じく大森銀山保存地区の修理や改修の例。左は古い工場の内外を修景・改修し、レストランと展示ホールを設けたもの。右は傷んでいた侍屋敷を修理し、公開施設、宿泊施設として市が整備したもの。



27. 世界文化遺産の石見銀山の伝建地区 その5：同じく大森銀山保存地区。古い侍屋敷の主屋や土蔵などを改修し、快適、上質な小規模宿泊施設としたもの。宿泊客は夕食はオーナーの女性と一緒に食べ、保存修理の苦労話等を聞くことができる。



28. 岐阜県美濃市の伝建地区 その1：美濃市は和紙産業が繁栄し、かつての紙問屋が並ぶ町が残っている。家の境には「うだつ」と呼ばれる屋根付きの壁が立ち上がっている。春には和紙で作った神輿（左下）が練り歩く花祭りが催される。保存地区となると間もなく電線類の地中化工事が行われ、広くて青い空が回復した。下の中央は重要文化財の酒屋。



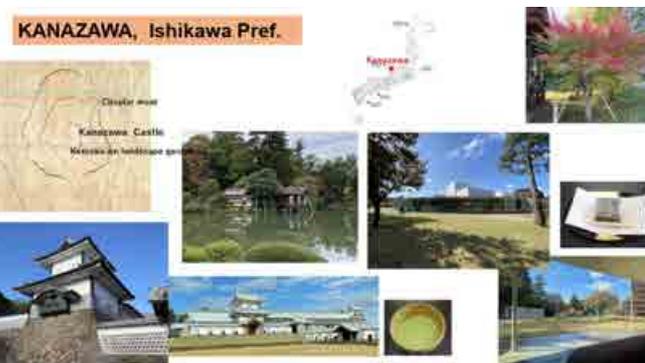
29. 岐阜県美濃市の伝建地区 その 2 : 空き家であったかつての美濃和紙の問屋の大きな邸宅と倉庫が修理・改修され、良質の宿泊施設、店舗・カフェとして活用されている。



30. 岐阜県美濃市の伝建地区 その 3 : 左一保存地区の伝統的建物が修理改修され、日本茶専門のカフェとなった。右一美濃の保存地区の夜景。毎年秋には、和紙を使った照明のデザインコンクールが開催され、約 400 点の作品から選ばれた優秀作品が家々の前に並ぶ。



31. 石川県金沢市 : 金沢市は日本の代表的な歴史都市の一つで、早くから歴史を生かしたまちづくりを進めてきた。中心には 16 世紀末からの大規模な金沢城があり、櫓等の保存修復と復元が進んでいる。また隣接する兼六園庭園は江戸時代の代表的な大名庭園である。伝統的な手工芸や和菓子製造は今も盛んであるが、一方では魅力的な現代の美術館、博物館等も整備され、歴史都市の魅力が増している。

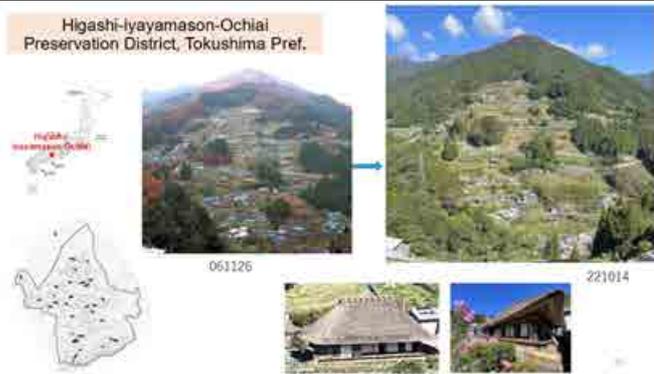


32. 石川県金沢市の伝建地区 : 金沢市には 4 つの伝建地区がある。その一つが東山ひがしの茶屋街である。左は 1974 年と 2020 年の町並景観を比較したもの。修理・修景事業が進み、伝統的景観が回復し、地区の魅力が増加している。右下図は伝建地区の範囲と伝統的建造物（黒塗り）の分布を示す。



33. 徳島県三好市東祖谷山村落合の伝建地区

その 1：四国の山奥の急峻な山の斜面に展開する集落。左の重要伝統的建造物群保存地区二選定された直後の 2006 年の写真ではほとんどすべての建物の屋根は鉄板葺で青や赤に塗られている。右は 16 年後の 2022 年の景観。多くの建造物が修理され、屋根は本来の茅葺に復旧されている。下段は代表的な茅葺民家の例で、修理復元され公開されている。



34. 徳島県三好市東祖谷山村落合の伝建地区

その 2：上記と同様、保存事業の伸展により多くの民家の鉄板葺屋根が本来の茅葺屋根に復旧されている。



35. 徳島県三好市東祖谷山村落合の伝建地区

その 3：地区内には 8 棟の茅葺の宿泊施設がある。民家が修理改修、復旧により 1 棟貸しの宿泊施設として活用されている。茅葺の伝統的建物の内部は現代的台所・浴室、床暖房など設備され、快適な宿泊ができるようになっている。市が所有者から建物を借り、修復整備し、運営を民間に委託している。左上が 2006 年の修理前の状況、右が 2022 年の修理改修後の状況。

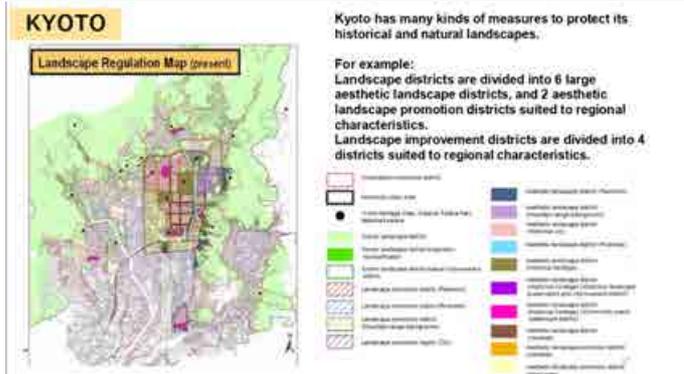


36. 京都：京都は 794 年に平安京が置かれ、

以後約 1200 年に渡って天皇が居住する都であった。中心の地図で示す平安京の方格の街路パターンは中国・唐の長安の街路パターンを取り入れたもので、147 万人の現代都市においても継承されている。国宝、重要文化財、登録有形文化財の建造物が多数あり、また重要伝建地区も 4 地区ある。



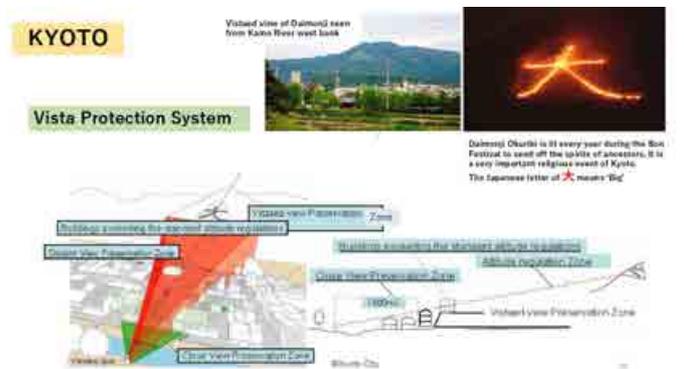
37. 京都の歴史的景観と自然景観保全のための規制誘導制度 その1:京都市は1930年に市街地周辺に風致地区を指定して以来、景観の保全に努力を重ねている。現在は歴史的市街地周辺の山地・山麓等に広大な風致地区、市街地には地域特性に応じ、広い範囲に6種的美観地区、2種的美観形成地区を定め、また4種の建造物修景地区を定めてきめ細かく景観保全を図っている。



38. 京都の歴史的景観と自然景観保全のための規制誘導制度 その2:左は上賀茂、産寧坂、嵯峨鳥居本、祇園新橋の市内の4つの重要伝建地区を示す。右上は界わい景観整備地区、右下は歴史的景観保全修景地区の例を示す。それぞれ、住民の合意を得て景観規制と補助金等による支援誘導施策を実施している。



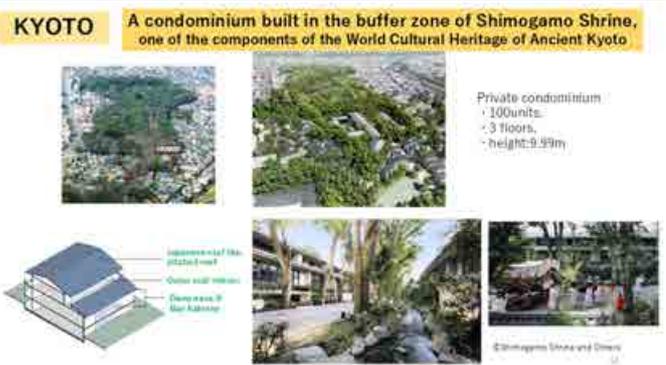
39. 京都の歴史的景観と自然景観保全のための規制誘導制度 その3:神社、寺院、城などの歴史的建造物や公園、河川、橋等からの優れた眺望景観を確保することは京都にとって非常に重要であるとして、条例により様々な保全策を設けている。たとえば、鴨川の西岸から東山地区の大文字山の眺望、特に毎年8月のお盆行事の時に山頂近くに灯される「大」の字の眺望確保のために眺望空間保全区域が指定されている。



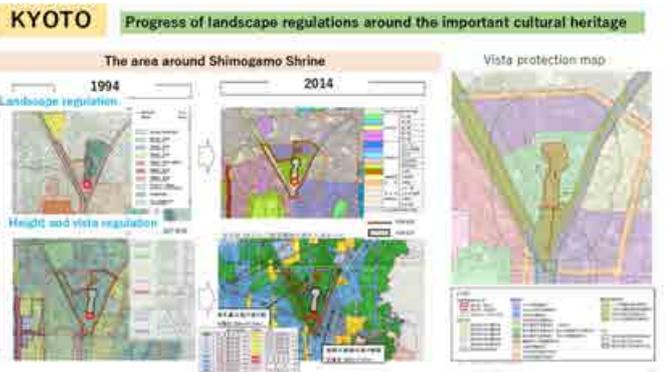
40. 下鴨神社:世界遺産「古都京都の文化財」の構成資産の一つである下鴨神社は多くの文化財建造物で構成され、まわりは多くの樹木で覆われています。神社へのメインアプローチ沿いの「糺の森」(右上の写真)は神聖な森として特に重要視されています。7月下旬には境内の池に裸足で入ってお祓いを受ける行事がある。



41. 下鴨神社のバッファゾーンでのマンション建設：近年、その紵の森の中に 100 戸のマンションが計画された。敷地が世界遺産のバッファゾーン内にあることから、その建設の是非をめぐって様々な議論があったが、京都市の景観行政による指導により、この図に見るように高さは 10m 以下、瓦葺の勾配屋根を持つ京都らしいデザインとなって建設された。



42. 重要な文化財の周辺での景観規制の発展：この図は下鴨神社周辺の景観デザイン規制、高さ規制、眺望規制等の 1994 年と 2014 年の 20 年間の発展の状況を示している。より厳しく、細やかに規制・誘導されていることがわかる。このように、歴史都市京都の景観施策は格段の進歩を遂げている。



43. 京都における屋外広告物の規制強化による景観の改善：京都では建物だけでなく屋外広告物の規制も強め、成果を挙げている。上の写真は 2007 年から 2016 年までの、京都の中心商業地区である四条通に並ぶビルの屋外広告物、特に袖看板の減少を示している。これらはいずれも祇園祭時の写真である。下はもう一つの繁華街である三条通での屋外広告物の 2006 年から 2014 年の減少を示している。



44. 京都における屋外広告物の規制強化による景観の改善：この写真は前掲の四条通での 2019 年の祇園祭りの山鉾巡行時のものである。両側の建物にはほとんど広告物は付いておらず、青い空がすっきりと見える。京都の景観保護政策は、市民、事業者、観光客の支持を得て、年々進化を遂げ、成果を挙げているといえよう。



45. 終わりに：日本での建築物や景観の保存、保全、活性化の様々な努力の一端をご紹介した。エジプトにおいても、カイロにおいても、特にスーク・シラーハにおいても、市民、住民、行政の一致した絶え間ない、また長期間の努力が必要であろう。その努力によりエジプト、カイロ、特にスーク・シラーハにおける歴史的建造物と景観の保存と再生の成果が挙がることを期待して、私の発表を終わることとする。

KEYWORDS

Machi-Nami: historical settlements and urban areas including rows of historical buildings.

Den-ken: a group of traditional buildings.
(Den-Ken District: Preservation District for the Group of Traditional Buildings)

Reki-Machi: a plan for the Maintenance and Improvement of Historical Landscape in Communities.

Thank you for your attention.

先月11月、私はベイトヤカンで数日間とても快適に時間を過ごしました。スークシラーハなど、有形無形の多くのことを見て経験した一方で、危険な交通やほこりっぽい空気、家屋の崩壊や深刻な被害など、いくつかネガティブな要素も体験しました。今日は、文化財、とくに世界の歴史的・伝統的な町の価値についてお話をします。地区の活性化や街づくりの一助となればうれしく思います。

まず自己紹介から。学生時代は日本の歴史的な町並みを学び、その後1977年に初めて西アジア、イラクの遺跡に接しました。1980年にイラン・イラク戦争、そして湾岸危機が1990年に起こります。これらの深刻な出来事を通して、ユネスコの諮問機関ICOMOSの活動に参加し、現在、深見先生、連先生らとともに、この地区の保全と再生のプロジェクトを進めています。

ユネスコの世界遺産サイトにある「カイロ歴史地区」です。10世紀に建設された世界最古のイスラーム都市の一つで、14世紀に黄金時代を迎えました。世界遺産に登録された理由は次のとおりです。まず偉大なモニュメントが多数保存されていること(基準i)。次いで伝統的な都市構造の中に中世にまでさかのぼる居住形態を維持していること(基準v)。さらにその中心部は、中世の政治や商業の重要な証人でもあること(基準vi)。このうち基準viは遺産を物理的に評価しない代わりに歴史的事実の証拠として評価している点が重要です。

ユネスコのウェブサイトは、スークシラーハでの私たちの活動について、歴史地区の商店街を活性化し、地域社会と文化遺産をつなぐために取り組んできたと紹介しています。これは、ユネスコがコミュニティの活性化を「カイロ歴史地区」の価値の一部として認めていることを意味します。つづいて世界的視点から参考になる歴史遺産の例をいくつか紹介します。

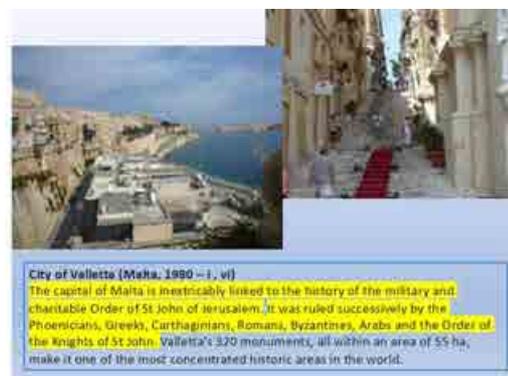
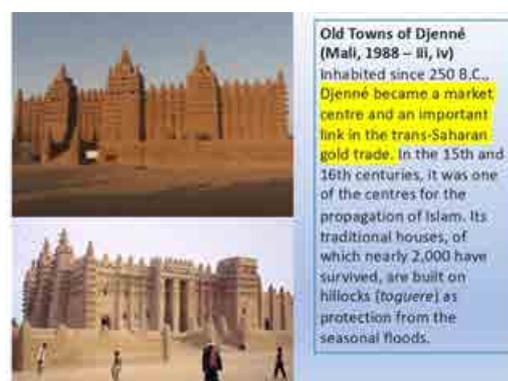
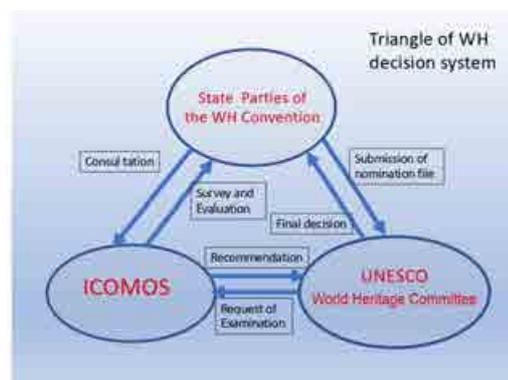


まずはユネスコのウェブサイトを利用して世界遺産の全体像を見てみましょう。数字を見て下さい。1154 は世界遺産の総数、そのうちの 43 は国境を越えて登録されている遺産。167 は世界遺産条約加盟国数、3 はいったん登録された後削除された件数。52 は危機遺産リストに登載、897 は文化遺産、218 は自然遺産、39 は複合遺産。直近の委員会で確定された最新の数字です。

世界遺産条約の制度は、文化遺産の場合、締約国、世界遺産委員会、そしてイコモスという3者の関係から成り立っています。締約国に責任があることはもちろんですが、世界遺産の価値を保つリビングヘリテージというべき歴史的都市の街づくりには、地域住民、行政、研究者が連携して取り組むしかありません。では、同様の遺産のいくつかについて、とくに目に見えないソフトの側面を見ていきましょう。各遺産の説明はユネスコのサイトによります。

最初にジェンネの旧市街を紹介します。紀元前 250 年から人が住み、サハラを越えた金貿易の中継地でした。15-16 世紀、イスラーム教普及の中心地で、モスクや伝統的日乾燥瓦造りの家屋が 2000 棟近く残っています。豊富なテラコッタ製品や金属により、住居、産業、工芸技術の進歩を研究するために欠かせない遺跡となっています(基準 iii に該当)。

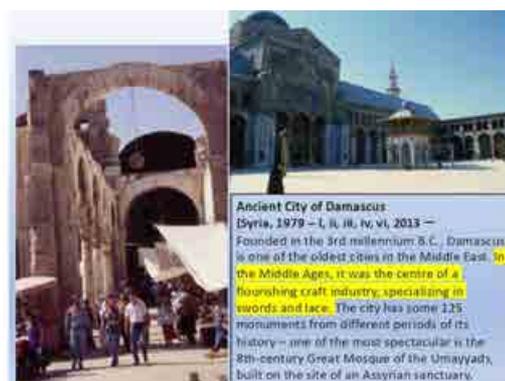
マルタの首都ヴァレッタは、後期ルネサンスの都市計画によって自然地形を利用して創出された世界で最も集中した歴史地区の一つです。また軍事と慈善にわたる聖ヨハネ騎士団の土地として有名で、騎士団は近代ヨーロッパで最も偉大な軍事かつ道徳の歴史的集団として名高い(基準 vi に該当)。



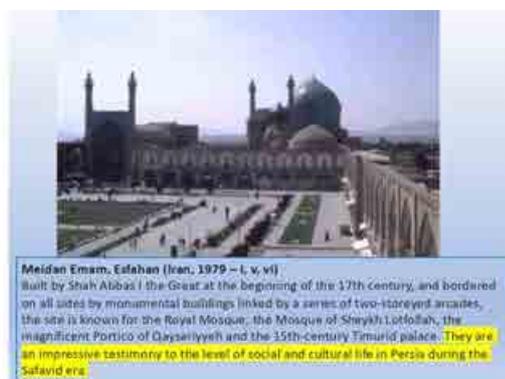
つぎはイスタンブール歴史地区です。ボスフォラス半島の戦略的な位置を占め、2000年以上にわたって政治的、宗教的、芸術的イベントの舞台であり、アヤソフィアは教会とその後のモスクの規範となった。ビザンチン、オスマン両文明にわたる多様な建築とそれに伴うモザイクやフレスコ画に優れ、主要なモスク周辺の伝統住宅は、オスマン帝国後期の都市の様相を伝える稀有な証拠を提供しています。現在、人口圧力、産業汚染など制御不能の都市化の脅威にさらされています（基準 iii に該当）。



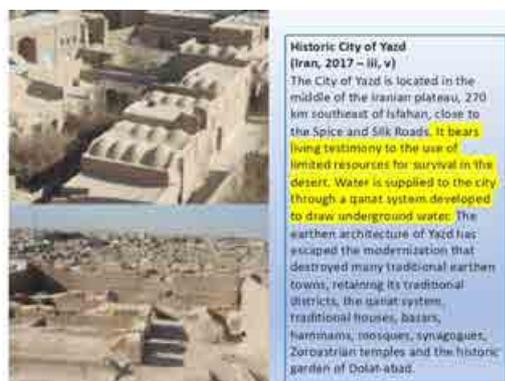
ダマスカスは中東で最も古い都市の1つ。グレコローマン時代に計画された歴史地区の中心に8世紀のウマイヤ・モスクが建ち、中世には剣とレースなど工芸品産業で栄えました。その時代の城壁が今も残り、宮殿や民家を含む街の建築遺産の大部分は、16世紀初頭のオスマン帝国征服後に遡ります（基準 iii に該当）。



イスファハンのイマーム広場です。アーケードで結ばれた一連の2階建ての通路状の建物が矩形の広場を囲み、四方に王のモスクや、時折外交団を迎えた15世紀のティムール朝の宮殿を取り込んでいます。広大な砂地の自由広場は、散策、軍隊の編成、ポロのプレー、祝祭、公開処刑に使用され、全体としては17世紀サファヴィー朝ペルシアの社会的文化的な生活レベルの高さを物語る印象的な遺産です（基準 vi に該当）。



イラン東部の沙漠にある伝統の都市ヤズドです。バザール、ハマーム、貯水槽、モスク、シナゴグ、ゾロアスター教の寺院など、日乾煉瓦で築かれたその市街地は、水を運ぶ入れるカナートシステムの上にひろがり、厚い土壁の家々にはウィンドキャッチャー、中庭が備えられて心地よい微気候を作り出します。イスラーム教、ユダヤ教、ゾロアスター教が平和に共存し、多くの伝統的な土の都市を破壊した近代化を免れた稀有な都市です（基準 iii に該当）。



マラッカ海峡に面したマラッカとジョージタウンは、歴史的な交易都市として両方で一つの世界遺産です。マラッカは政府庁舎や教会、広場、要塞などがスルタンの領土から16世紀にポルトガルやオランダに支配された歴史を物語る一方、ジョージタウンは18世紀以降の英国統治時代の住居や商業用施設が顕著で、言語、宗教習慣、舞踊、衣装、芸術、食品など、西洋と東洋、有形無形の多様な文化が重層的に融合している点が評価されます（基準 ii, iii に該当）。

最後に今までに世界遺産一覧表から削除された二つの事例を紹介します。これはドイツ、ドレスデンのエルベ川渓谷で、2004年、街道の要所、ヨーロッパ的都市の発展、優れた景観、優れた土地利用という観点から登録されました。同じ年に4車線の橋が計画されたために危機遺産とされ、2009年、市が橋の建設を進めたため、世界遺産委員会は景観が損なわれると判断し、削除を決定しました。

次はイギリスの商都リバプールです。歴史的な中心部とドックランドのエリアは、18-19世紀に世界有数の貿易センターでした。最新のドック技術、輸送システム、港湾管理のパイオニアで、多数の建築がそれを反映しており、1990年代には再生に成功していました。2004年に登録されましたが、多額の投資を伴う再開発の進行を止めることができず、2021年に削除となりました。

結論として、歴史的街区のようなリビングヘリテージとされる文化遺産に対する脅威とは何か、ユネスコの専門家 R.エンゲルハルト氏は次のように言います。1.文化的空間やコミュニティからの遺産の分離、2.有形遺産と無形遺産の乖離、3.有形無形それぞれの文化資源の価値の低下、という3点を指摘し、それらの回復を求めています。有形と無形の側面、あるいはハードウェアとソフトウェアの両面において、このカイロの街とその遺産の未来を、あなたたちはどのようにイメージするでしょうか。



Malacca and George Town, Historic Cities of the Straits of Malacca (Malaysia, 2008 – ii, iii, iv)
Malacca and George Town, historic cities of the Straits of Malacca have developed over 500 years of trading and cultural exchanges between East and West in the Straits of Malacca. The influences of Asia and Europe have endowed the towns with a specific multicultural heritage that is both tangible and intangible. With its government buildings, churches, squares and fortifications, Malacca demonstrates the early stages of this history originating in the 15th-century Malay sultanate and the Portuguese and Dutch periods beginning in the early 16th century. Featuring residential and commercial buildings, George Town represents the British era from the end of the 18th century. The two towns constitute a unique architectural and cultural townscape without parallel anywhere in East and Southeast Asia.

Special attention No.1: Dresden Elbe Valley (Germany)

Date of Inscription: 2004, Delisted Date: 2009

- Criteria: [\(i\)\(ii\)\(iii\)\(iv\)](#)
 (ii) the crossroads in Europe
 (iii) European urban development
 (iv) outstanding cultural landscape
 (v) outstanding example of land use

Background of deletion:

- 2004: Warning of four-lane bridge construction plan.
- 2006: Included in the List of World Heritage in Danger.
- 2008: The World Heritage Committee issued an alternative.
- 2009: The authority of the city had proceeded with the construction of the bridge. It is why the WH Committee decided to delete the site from both lists of World Heritage and heritage in danger at the same time. However, remained room for re-registration.



Special attention No.2:

Liverpool – Maritime Mercantile City

Date of Inscription: 2004

Delisted Date: 2021

Criteria: [\(i\)\(ii\)\(iii\)\(v\)](#)

Six areas in the historic centre and docklands of the maritime mercantile City of Liverpool bear witness to the development of one of the world's major trading centres in the 18th and 19th centuries.

Liverpool was a pioneer in the development of modern dock technology, transport systems and port management. The listed sites feature a great number of significant commercial, civic and public buildings, including St George's Plateau. Since 1960s, urban redevelopment, 1990s, success of revitalization by reusing brick-made storehouses.

2012, listed as an in-danger WH site, then in 2021, finally deleted from the WH List.



As a conclusive remarks, let us consider what is threats to properties under the category of the Living Heritage. Here, I follow some suggestions which were once given by a UNESCO expert, Mr. R. Engerhalt:

1. Separation from cultural spaces and communities.
2. Separation of tangible and intangible heritage.
3. Deterioration of the value of tangible and intangible cultural resources.

⑨住民参加による遺産の持続可能な活用】磯野哲郎

レクチャーのタイトルである「住民参加による遺産の持続可能な活用」はかなり広い概念である。
 本日は、現在、ジンバブエ環境気候観光ホスピタリティ産業省向けに執筆中のコミュニティ・ベースド・ツーリズム（CBT）ガイドブックに基づいて、貴重なコミュニティの共有遺産をどのように保全し活用していくかの全体プロセスを説明する。

私の略歴はこのスライドのとおりである。

まず、CBT の運営プロセスの全体の流れを説明する。
 10 段階のプロセスと、この図のオレンジ色で示している全体を通してのステークホルダーとの協力というプロセスが必要だと考えている。
 全体の流れ図に沿って、それぞれの段階を説明する。

最初のステップは、コミュニティの合意形成である。

- CBT は、文化遺産や自然景観など、コミュニティが所有する資源を、程度の差こそあれ、活用する観光の形態である。個人が私有地内の観光施設を経営するのとは異なる。
- 観光が経済活動である以上、地域住民に不利益や不都合をもたらす可能性がある。そのため、CBT の目的や方向性、活動内容、使用する空間的範囲などについて、コミュニティ内で合意することが重要である。
- CBT は、経済的な利益だけでなく、地域が共有する文化遺産や自然景観の適切かつ持続可能な保全に貢献するため、できるだけ多くの地域住民の同意と参加のもとに実施されるべきものである。

Sustainable use of heritage through community participation

based on
 "Community-Based Tourism Guidebook"

Online Facilitator Course
 December 17, 2022
 Eng. Arch. Tetsuo Isono

Professional Background Eng. Arch. Tetsuo Isono
 Senior Researcher at International Development Center of Japan (IDCJ)

2020-Present:
 Community-Based Tourism Advisor at Ministry of Environment, Climate, Tourism and Hospitality Industry (MECTHI), Zimbabwe

2019:
 Tourism Development Expert at Iranian Cultural Heritage, Handicrafts, Tourism Organization (ICHHTO), Iran

2015-2018:
 Chief Advisor, Regional Community-Based Tourism Project at Petra Development and Tourism Authority (PDTRA), Jordan

2007-2015:
 Tourism Development Advisor at Lao National Tourism Administration (LNTA), Laos

1995-2002:
 Tourism Development Mater Plans in Jordan, Syria, Lebanon, Tunisia



1. Community consensus building

- Community-Based Tourism (CBT) is a form of tourism that takes advantage of resources owned by the community, such as cultural heritage and natural landscapes, even if to varying degrees, unlike when an individual manages a tourist facility such as a cottage on private land.
- Since tourism is also economic activity, it may cause disadvantages or inconvenience to community members in some cases. Therefore, it is crucial to agree within the community on the purpose and direction of the CBT, the activity content, and the spatial extent to be used.
- CBT should be carried out with the consent and participation of as many community members as possible, not only for economic benefit but also because it will contribute to the appropriate and sustainable conservation of the community's shared cultural heritage and natural landscapes.

次のステップは、CBT の運営母体 (CBTE) の設立である。

- 一般的に、CBTE に法人格を持たせる形態として、非政府組織 (NGO)、パートナーシップ、協同組合、民間企業 (中小企業)、一般企業等がある。
- これらの図は、CBTE と CBT サイトの関係を示している。

2. Establishment of operating entity

- In the next step, establish a Community-Based Tourism Enterprise (CBTE) as a governing body of CBT after sufficient consultation and agreement within the community.
- In general, the forms that may be appropriate to give legal personality to organizations that operate CBTs are non-governmental organizations (NGOs), partnerships, cooperatives, private business (SME), and ordinary companies.

次のステップでは、観光資源を評価する。

- コミュニティ内には、様々な文化資源や自然資源が存在する。
- これらのうち、持続的に利用でき、コミュニティの生活や習慣などの社会環境を損なわないものを選び、コミュニティの合意のもと、CBT に利用する。

色々なものが観光資源になり得るが、通常は、自然、文化、人工、有形、無形に分けて考える。

表からわかるように、身の回りの多くのものが CBT に利用できる可能性を持っている。

3. Evaluation of tourism resources

- A variety of cultural or natural resources exist within the community.
- Among these resources, those that can be used sustainably and do not harm the social environment, such as community life and customs, will be selected and used for CBT with the community's agreement.

	Tangible Resources	Intangible Resources
Natural	Flora/fauna, caves, waterfalls, beaches, mountains, rivers, lakes, plants, soil/fossils, etc. Hot springs	Wildlife, seasons, natural phenomena
Cultural	Relig. monuments Historic sites Museums galleries	Customs, habits, rituals, traditions, legends, Music, singing, dancing, festivals, Art, sports activities
Artificial	Agriculture, structures (temples, dams), railway, Hydroparks Sports facilities, swimming pools, golf courses	Events, festivals, Sports

次のステップは、観光商品開発である。

- 商品開発は、ガイドツアーや体験などの観光活動において、資源を持続的に利用できるようにすることを目的とする。
- 上記の実現には、資源を保護し、その価値を正しく説明することが必要である。また、衛生面や健康面を含め、訪問者が安全で快適な体験ができるようにすることも不可欠である。

訪問者を受け入れるためのビジターセンター、各アトラクションをつなぐトレイル、プライバシーや脆弱な資源を保護するための部外者立ち入り禁止措置も必要である。

表は、観光客を受け入れるために必要な観光商品の要素を示している。

4. Tourism product development

- The objective of product development is to make resources available for sustainable use in tourist activities, such as sightseeing and experiences.
- The above will require protecting the resources and explaining their value correctly. It is also essential to ensure visitors have a safe and comfortable experience, including hygiene and health.

4. Tourism product development (Cont.)

- The table below shows the elements of tourism products needed to accommodate visitors.

	Elements	Remarks
General Element	Attraction	Source or activities that are the subject of tourism
	Trail	The route connecting an attraction to the other attraction
Visitor Facilities	Signposting and Tourist Information	Direction of routes, opening, closing, orientation
	Resting, Rest Area, AV	Rest facilities for visitors
	Practical	Providing necessary information and services
Service	Spencer, Food & Beverage	Installation is expected.
	Signage	Signage system, information for accessibility and security
Personal	Information	Explanation of attractions (facts, practices, CBT issues, etc.)
	Tour Guide	Guide and explain to visitors
	Other (Hillside, Culture)	Mountain, Hillside and Culture

次のステップのマーケティングでは、以下のような観点から潜在的な来訪者の見極めが必要である。

- セグメント：潜在的な訪問者を、出身地や居住地、年齢、性別などの特徴によって分類する。
- ターゲティング：次に、ターゲットとなる訪問者のセグメントを特定する。優先順位を考慮しながら、複数設定することも可能である。
- プライシング：付帯サービスを含め、CBTが提供する観光商品の価格を設定する。
- 販売チャネルと手段：設定したターゲットに到達するための販売チャネルと手段を検討する。

次のステップは、ビジネスプランと目標を設定する。

- CBTの重要性を考えると、持続可能な事業運営は不可欠である。しかし、現実には、多くのCBTEが業績不振に陥っている。
- そのような事態を避けるために、CBTEは現実的で堅実な事業計画を立て、目標を設定し、CBTの関係者間で共有する必要がある。

次のステップでは、各種研修を行う。

- CBTを正しく運営するために、直接接客する人、バックエンドで業務を統括する人等、様々な立場でCBTに関わる全ての人に、観光・旅行サービスに関する基本的な理解と各業務に必要なスキルの研修を行う。
- 原則として、観光サービスに関する基本理解は、関係者全員に提供することが望ましい。一方で、各業務の担当者に対しては、具体的な訓練を行うことが必要である。

次のステップは、プロモーション活動である。

- 優れた観光商品であっても、興味を持つ潜在的な訪問者がその存在と価値を知らなければ意味がない。観光商品の基本的な情報を、適切なコミュニケーション・チャネルを通じて市場に届け、人々がその商品を訪れたい、体験したいと思うようにしなければならない。
- 対象は、個人観光客と、潜在的な観光客にツアー商品を提供したい旅行会社の二つに分けられる。前者は小売りで、後者は卸売りであり、それぞれ求められる情報や商品価格が微妙に異なる。
- 手段としては、テレビや新聞などのメディア、SNSなどのインターネット、チラシやパンフレットなどの印刷物、旅行博や展示会などのイベントなど、さまざまなものがある。

5. Marketing



At this stage, it is particularly important to figure out the potential visitors by examining the following aspects.

Segments

- Potential visitors can be classified by characteristics such as place of origin/residence, age, and gender.

Targeting

- Then, identify target visitor segments for your CBT. Multiple targets may be set while considering priorities.

Pricing

- Set prices for tourism products offered by your CBT, including ancillary services.

Sales Channel and Means

- Consider and identify sales channels and means to reach the established targets.

6. Business planning and Goal setting



- Given the significance of CBT, sustainable business operations are essential. In reality, however, many CBTEs are underperforming.
- To avoid such a situation, each CBTE needs to have a realistic and solid business plan and set goals, which should be shared among those involved in CBT.



7. Various CBT training



- To correctly manage CBT, train all those involved in CBT in various capacities, including those who directly serve customers and those who oversee operations on the back end, in the basic understanding of tourism and tourist services and the skills required for each task.
- In principle, a basic understanding of tourism and tourist services should be provided to all involved. In contrast, specific training should be provided to those in charge of different tasks, and the content acquired should be evaluated through examinations and certificates of completion to ensure that the necessary level is reached.

Category	Outline
Proper Understanding of Tourism	What is Tourism, Services in Tourism, What Tourism Will
Tourist Services and Hospitality	Tourist Services, How to deal with visitors
Source Information and Sales	How to get information, How to guide, How to speak to visitors
Marketing and Promotion	How to effectively reach potential customers, Digital marketing skills
Operations and Administration, Accounting	Basic Business Planning, Accounting and bookkeeping

8. Promotional activities



- No matter how excellent the tourism product is, it doesn't make sense unless potential visitors who would be interested in know its existence and value. The basic information about the created tourism products must be delivered to the market through appropriate communication channels to make people want to visit and experience the products.
- The target customers for promotion can be divided into two categories: individual potential tourists who want to visit and experience CBT and travel agencies that want to offer tour products to these potential tourists. The former is retailed to individual visitors, while the latter is sold wholesale to intermediaries, each with slightly different information and product pricing requirements.
- There are also various means of communication, including media such as television and newspapers, the Internet such as SNS, printed materials such as flyers and pamphlets, and events such as travel expos and exhibitions.

表は、さまざまなプロモーション活動をリストアップしたものである。異なる年齢層や対象に届くには、複数を組み合わせて行うことが望ましい。

8. Promotional activities (Cont.)

	Major Examples	Pros and Cons	Cost
Printed Materials	<ul style="list-style-type: none"> • Pamphlets • Map • Postcard 	<ul style="list-style-type: none"> • Easy to make & use • The needed effect depends on where and whom to distribute 	• Moderate
Internet	<ul style="list-style-type: none"> • Website • SNS (Facebook, Instagram, etc.) • Google Maps 	<ul style="list-style-type: none"> • Access can update frequently • Info is updated, so it is necessary to devise ways to get interested people to see it 	• Lowest cost
TV and Radio	<ul style="list-style-type: none"> • TV Advertisement • Weekly and half-hour 	<ul style="list-style-type: none"> • Advertisement through radio to some people is hard to be visible to get focused in the program 	• Fairly high cost
Others	<ul style="list-style-type: none"> • Newspaper and other items • Travel Information Center • Travel agencies • Direct mail • Mail them for travel agents • Mail them for municipalities 	<ul style="list-style-type: none"> • You can reach a large number of people (in a way) • You can reach customers interested in similar business products • You need to get information about events 	• Relatively expensive

次のステップは、CBT の運営と資源の管理で、実際に来訪者の受入れ開始する。

- 予約受付: 来訪者は直接訪れることもできるが、予約を受けておけば、受け入れ準備を整えることができる。電話、WhatsApp、メールなどでの予約受付をスタンバイしておくが良い。
- 案内: 案内係が観光商品・サービスを案内する。必要に応じて、観光ガイドが案内を行う。
- 維持・管理: 観光商品の状態は、常に衛生的で安全、かつ良好な状態を維持するよう努めること。地域の宝の価値を維持することも忘れてはならない。

9. CBT operation and Resource management

Reservation

- Visitors may visit the site directly. But with reservations, CBTE can prepare to receive them. Be ready and on standby to accept reservations by phone, WhatsApp, e-mail, etc.

Reception of visitors

- When visitors arrive, do not keep them waiting but greet them with a welcome.

Fee collection and ticket issuance

- Collect fees and issue tickets.

Guidance

- The information staff will then guide visitors to tourism products and services. If necessary, a tourist guide at the CBT site will guide visitors.

Feedback, Maintenance of Tourism Products and Preservation of Tourism Resources

- The state of tourism products should always strive to be maintained in a sanitary, safe, and good condition. Don't forget to preserve the value of the community's "treasure"

最後のステップは、問題解決と改善のために、定期的なフィードバックである。

- 実績評価: CBT が地域社会に持続的な利益をもたらすには、事業計画が達成されているかどうか、達成されていない場合はどこに課題があるかを判断する必要がある。定期的に、1) 訪問者数、2) 観光収入、3) 訪問者の特徴と層、4) 訪問者の満足度、を調査し評価する。
- 地域社会への便益の評価: CBT が地域社会にもたらす恩恵についても、定期的に評価する。
- 評価結果の反映: 評価結果を議論し、次の観光シーズンの事業計画に反映させる。なお、3~5年ごとに、CBTE 理事会メンバーの再編成を行うべきである。

最後に、CBT の運営全体を通してステークホルダーとの協働について考える。

- CBT の開発と運営には、官民のステークホルダーとのネットワークづくりと連携が不可欠である。
- 一般的に、立ち上げ期には公的機関、運営期には業界団体や地域の観光事業者・オペレーター（ホテル、民宿、旅行会社、ツアーオペレーター、ツアーガイドなど）と連携することが効果的・効率的である。
- ステークホルダーとのネットワークや連携では、技術支援と事業連携の2つのプラットフォームを意識することが重要である。

10. Monitoring, evaluation and improvement

Evaluation of Performance

- In order for CBT to bring sustainable benefits to the community, it is necessary to determine whether the established business plan is being achieved and, if not, where the challenges lie. CBTE will annually evaluate 1) the number of visitors, 2) tourism revenue, 3) the characteristics and segments of visitors, 4) the level of visitor satisfaction.

Assessment of Benefits to the Community

- Similarly, the benefits of CBT to the community should be evaluated annually at the end of the tourism season.

Reflection of Evaluation Results

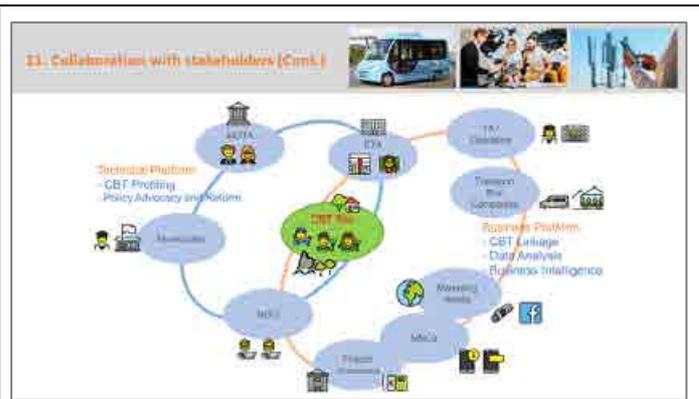
- Based on the evaluation of the above perspectives, areas for improvement in marketing and promotion, tourism products and services should be discussed and reflected in the business plan for the next tourism season.
- In addition, every 3 to 5 years, the CBTE should be asked to reorganize its Board members.

11. Collaboration with stakeholders

- Networking and collaboration with public and private stakeholders are essential to the development and operation of CBT.
- Generally, it is effective and efficient to collaborate with ministries and government-affiliated public sector organizations during the start-up phase and with tourism industry trade associations and local tourism businesses and operators (hotels, guest lodges, travel agencies, tour operators, tour guides, etc.) during the operational phase of the CBT.
- In networking and collaborating with related organizations, it is necessary to be aware of two different platforms, technical assistance, and business collaboration, even if they are not officially established, to strengthen cooperation.

図は、上述の2つのプラットフォームの概念を、CBTサイトを中心に示したものである。

以上の10段階のステップとステークホルダーとの協働を念頭に、スークシラーフの貴重な有形無形の文化遺産を持続的に運営、維持管理していくことに役立つのであれば幸いである。



Sustainable use of heritage through community participation

based on
"Community-Based Tourism Guidebook"

Online Facilitator Course
December 17, 2022
Eng. Arch. Tetsuo Isono

地域ルール／我が街ルール

→自分たちの街のルールを自分たちで決める

日本の建築や都市計画の法律の話をしていきます。日本では、国全体のルールの上に地方のルールが乗っている構造です。国全体共通のルールとしての法律、地方自治体が決める条例があります。国全体のルールには、都市計画法、建築基準法、景観法などがあります。

ローカルルール

①Legal Rule：法制度に基づくルールで、法的拘束力を持つものです。

②Non Legal Rule：法的拘束力はないが、居住者が自主的に設定するルールです。

→ まちづくり憲章・我が街ルール

地域づくりの理念や方針を明確にし、住民一人ひとりが主体的に地域づくりに関わることを促す「行動規範・行動目標」が憲章や我が街ルールです。

事例、田園調布憲章

1918年、渋沢栄一卿らによって田園調布の街が作られました。コンセプトとして「理想の住宅地、ガーデンシティ構想」が掲げられました。田園調布の駅を中心に放射状に配された道、並木が美しいです。

Local Rule/Wagamachi Rule
→Our Town Rule, Voluntary Rule

Takeo MURAJI, Architect,
Chairman of Japan Commission for Appropriate Architecture and the Built Environment

The Legal System of Architecture and Urban Development in Japan

Local Rule

- Ordinance
- Decided by local government → Local Individuality

National Rule

- City Planning Act
- Building Standards Act
- Landscape Act
- etc.

Local Rule

① **Legal Rule** : It is a rule based on the legal system and is legally binding.

② **Non Legal Rule** : Rules that are not legally binding but voluntarily set by residents

→Town Planning Charter・Our Town Rule (Wagamachi Rule)

※"Code of Conduct and Goals of Conduct" to clarify the philosophy of community development and the policy in the community and to encourage each resident to be proactively involved in community development.

Example: Denenchofu

Town, Denenchofu established in 1918 by Sir Eiichi Shibusawa and as an "ideal residential area, the Garden City concept."






事例：田園調布憲章

- ①この由緒ある田園調布を、わが街として愛し大切にしましょう。
- ②創設者渋沢翁が掲げた街作りの精神と理想を知り自治協同の伝統を受継ぎましょう。
- ③私たちの家や庭園、垣根、塀などが、この公園的な街を構成していることを考え、新築や改造に際しては、これにふさわしいものとし、常に緑化、美化に努めましょう。
- ④この街の公園や並木、道路等の公共のものを大切にし、清潔にしましょう。
- ⑤互いに協力して環境の保全に努め、平和と静けさのある地域社会を維持しましょう。
- ⑥不慮の災害に備え、常日頃から助け合いましょう。
- ⑦隣人や街の人々との交わりを大切にし、田園調布にふさわしい内容豊かな文化活動を行いましょう。

事例：銀座デザインルール

自主ルールの有効性から、行政は法的ルールに位置付けた事例です。

建築計画の申請後に、銀座デザインルールに従って、住民と専門家が審査をします。問題があれば差し戻し、問題なければ、確認申請に進み、建設されるという流れです。

銀座ルールにより、街の景観が保たれています。審査（デザインレビュー）では、時には模型を使って具体的に話し合いが行われます。

事例：赤坂我が街ルール10ヶ条

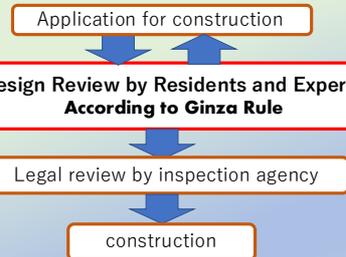
- ①赤坂通りまちづくりの会との協議
 - ②赤坂まちづくりビジョンの理解
 - ③赤坂まちづくりの会、町会、商店会に加入
 - ④赤坂の歴史文化の継承と創造
 - ⑤バリアフリーへの配慮
 - ⑥赤坂の景観への配慮
 - ⑦緑の配置
 - ⑧広告看板の規制と誘導
 - ⑨用途の規制（パチンコ店など設置不可）
 - ⑩回遊性への配慮
- 和モダンを基調にする。

Example: Denenchofu Charter

- ①Let's love and cherish this historic Denenchofu as our town.
- ②Learn about the spirit and ideals of urban development set forth by the founder, Sir Eiichi Shibusawa, and carry on the tradition of self-governing cooperation.
- ③Considering that our houses, fields, hedges, fences, etc. make up this park-like town, we should make sure that our new buildings and renovations are appropriate for this and always strive to keep the area green and beautiful.
- ④Take care of the public things in this town, such as parks, rows of trees, streets, etc., and keep them clean.
- ⑤Work together to preserve the environment and maintain peace and quiet in our communities.
- ⑥Prepare for unexpected disasters and help each other on a daily basis.
- ⑦Value fellowship with neighbors and the people of this town and engage in cultural activities rich in content appropriate to Denenchofu.

Example: Ginza Design Rule

- Due to the effectiveness of the voluntary rules, the administration has positioned it as a legal rule.



Example: Akasaka Wagamachi Rule

Ten Articles of Our Town

- ①to discuss with Akasaka community
 - ②to understand the ten Article
 - ③to be a member of Akasaka community
 - ④to understand culture in Akasaka
 - ⑤to regard barrier-free design
 - ⑥to regard land-scape design
 - ⑦to regard greenery design
 - ⑧to regard proper advertisement
 - ⑨no to built Pachinko parlors
 - ⑩to regard walking with pleasure
- Japanese-Modern style

我がまちルール10箇条



赤坂通りまちづくりの会で、建築計画についての意見交換会（デザインレビュー）を、我が街ルール 10 ケ条のもとに行っています。



Exchange opinions on a building plan based on Akasaka Wagamachi rules. (Design Review)

3ヶ月後に、住民の要望を取り入れた案を、建築計画側が説明し、拍手が起きました。我が街ルールや意見交換会は法的拘束力を持たないので、そこでの要望については取り入れても取り入れなくても法的には問題ない状況です。それであるがゆえに、取り入れられた場合には喜びもあり、拍手が起こったと思われまます。



After three months, the design incorporated our requests was explained to us, everyone clap!

ポイント

- 1 我が街ルールは、住民が決めたルールで、住民のためのまちづくりの指針です。
- 2 法的拘束力はありませんが、新築や改築の際の基準となります。
- 3 議論の手がかりとなり、内容を深め、共有することができます。
- 4 歴史、保存、観光など、幅広い内容に対応します。ソフトとハードの両方の要素で構成されています。
- 5 細かいことではなく、基本的なことを決めることが大切であり、それが持続可能性につながります。

スーク・シラーハでも「我が街ルール」を作ってはいかがでしょうか？

POINTS

- 1 Our Town Rules are rules set by residents and are a guideline for community development for residents.
- 2, Although not legally binding, it is a criterion for new construction and renovation.
- 3, It provides a cue for discussion, deepens the content, and allows for sharing.
- 4, It can handle a wide Variety of contents including history, preservation, and tourism, because the rule includes the both soft ware and hard ware elements.
- 5, It is important to decide on the basics, not the details, and that will lead to sustainability.

※Why not make the Our Town Rule in Souq al -Silah, too?

1 はじめに

川越は、歴史的な資産を数多く残している東京に最も近い町です。伝統産業は多くないものの、今回、いくつかの事例を紹介します。右は、蔵造りの町並みといわれている伝統的建造物群保存地区で行われた川越祭りの様子です。

この祭礼は、ユネスコの世界無形文化遺産に登録されています。ここ数年、コロナウィルスの影響で中止していましたが、昨年、3年ぶりに開催されました。

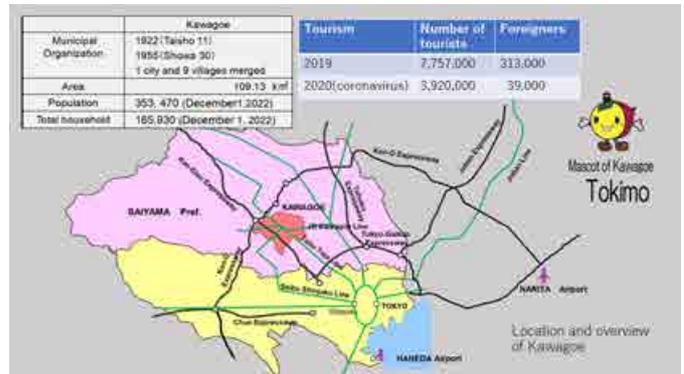


↑1 はじめに

2 川越の位置

次に、東京との位置関係を確認しましょう。都心から鉄道を使って、約1時間の距離にあります。また、高速道路を使ったアクセスもよく、成田空港や羽田空港などの国際空港から、2時間程度の距離にあります。

都市の規模は左上の表の通り、面積約109.13 km²、人口約35万人です。



↑2 川越の位置

3 川越の歴史的資産

次に、中心市街地の状況です。近世は城下町として、地域の政治経済の中心でした。現在の中心市街地の北部に位置します。

右上の写真のような城郭の御殿建築が残っています。城があった場所には、左上のように歴史系の博物館や、美術館が建っています。また、神社やお寺も多く、国の重要文化財になっているものも数多くあります。

右下は、子供向けの昔ながらのお菓子を売るお店が集まっている菓子屋横丁と呼ばれる一画です。



↑3 川越の歴史的資産

↓4 現代都市川越

4 現代都市川越

一方、近代になり鉄道の駅ができたエリアは、中心市街地の南に位置し、ごらんの通り、高層のビルが立ち並ぶ、現代都市です。

中央上の写真の商店街は、日本の地方都市の中でも最も栄えている商店街の一つです。この地区では、今も高層住宅の建設が続いています。



5 職人の技体験

ここから今日のテーマに入ります。

歴史的な町並みを維持していくためには、職人の技が不可欠です。しかし、日本では伝統的な技術を持った職人が減ってきています。さらに、人々がその技（わざ）にふれる機会も減っています。

そこで、「NPO 法人川越蔵の会」では、職人の技（わざ）を体験するイベントを開催しました。左上の写真の大工の体験では、くぎを使わずに木だけでジャングルジムを作りました。鉋掛けの体験では、そこででた削りかすを使って造花を作りました。木挽き職人や鍛冶職人、左官職人や家具職人、瓦職人や造園職人なども参加し、多くの人々がその技の一端にふれることができました。

6 見学できる醤油工場

次に、体験ができるお店を紹介します。

190年ほど前に建てられた醤油工場では、醤油の製造方法を、工場内を見ながら教えていただけます。さらに、ここで作られた商品の説明と、その味見です。帰りには、思わず、このお店の商品を買ってしまいます。

7 起業したガラス工房

この醤油工場の一角を借りて、ガラス工芸家が店を開いています。

20年ほど前に、川越商工会議所が主催した新しくお店を起こしたい人への、訓練の場を経て独立しました。工房では、職人さんの指導を受けながら、自分だけのガラスの器が作れます。ゆがんでいても、世界に一つしかない自分だけの器です。

8 ガラス工房

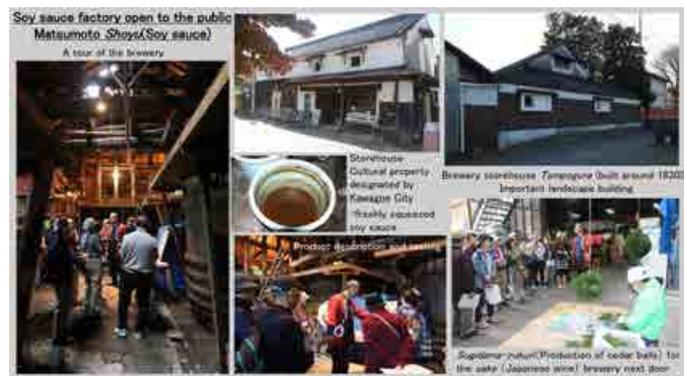
右の写真は、町並み保存地区にある別のガラスのお店です

ここでは、昆虫のトンボの目に似ているため、トンボ玉と名のついた絵が入った小さなガラス玉を作る体験工房です。

体験している人は皆、炎の先に集中しています。



↑5 職人の技体験



↑6 見学できる醤油工場



↑7 起業したガラス工房

↓8 ガラス工房



9 煎餅体験

ここでは、日本の代表的な焼き菓子である煎餅を焼く体験ができます。

煎餅は、米を練って平たく伸ばし、焼いて仕上げるお菓子の一つです。焼くと膨らみますが、その大きさによって超人、名人、ベテラン、新人とランク付けがなされます。大人から子供まで、ゲーム感覚で楽しめます。

10 陶芸教室

古くから続く陶器店が経営する、陶芸の体験教室です。店舗の改装に合わせ、使わなくなっていた伝統的な倉庫である土蔵を活用しました。たまたま、日本の伝統的衣装である和服姿の女性たちが器造りに挑戦中です。

陶芸家の指導の下、見本を見ながら形を作っていきます。乾燥させてから、選んだ釉薬を塗ってもらい、焼き上げます。敷地内には、小さな窯をもうけています。

11 鉄の作家

次に紹介するのは、鉄を扱う作家です。工房は東京にあります。アンテナショップとして、川越の伝統的な建物を使っています。

工房といっても、硬い鉄を扱うため、内部はまるで工場です。店先に、金床（アンビル）を置いて、希望者に真鍮をたたいてもらい、自分だけのメダルを作る体験ができます。彼は、伝統的な建物を使うことに興味を持っていたため、出店先に川越を選びました。

12 和服の着付

日本では、19世紀中ごろまで「着物」という伝統的な服を着ていました。着物の着方は難しく、なれないと一人ではなかなか着ることができません。そこで、着方を教えてもらう必要があります。この日は、七五三という、子どもの成長を祝う伝統的な行事に参加する親子が着物を着せてもらっていました。

川越では、着物をファッションとして楽しめる町です。着物を着たことがない若者たちを中心に、今や非日常となった着物ファッションを楽しむことが流行となっています。



↑9 煎餅体験



↑10 陶芸教室



↑11 鉄の作家

↓12 和服の着付



13 革細工職人

この革細工職人さんは、もともと古い町が好きだったので、川越に来ました。さまざまな場所で、革製のカバン修理の実演をしています。この工房には、川越以外からも、多くの方々がカバンを持って修理に訪れています。伝統的な建物だからこそ、その雰囲気にかかれてお店を出した方です。

14 サツマイモの魅力

川越近郊では、18世紀よりサツマイモの栽培が盛んになり、当時江戸と呼ばれた東京で、「川越いも」としてのブランドが確立しました。そのサツマイモをキーワードに、多くの商品が開発されています。サツマイモは、焼いたり蒸かしたり、干したりして食べるのが伝統的な食べ方です。川越では、薄く切って生姜を入れた砂糖をまぶして焼く、「いもせんべい」が伝統的なお菓子でした。また、細く切って油で揚げたものや、輪切りにして砂糖をまぶしたものなどがあります。

15 サツマイモの展開

サツマイモは、これまで限定的な使い方しかされていませんでした。しかし今では、チップス状にしたものやソフトクリーム、まんじゅうをはじめ様々なお菓子に使われるようになりました。さらに、麺類に練り込んだり、調理方法を工夫してレストランのメニューの一つとして提供されるようになりました。サツマイモを使ったビールは、日本でも有名なブランドの一つとなっています。

16 川越唐棧

19世紀中ごろにブランドを確立した織物、「川越唐棧(かわごえとうざん)」は、木綿を使った織物で縦縞模様が特徴です。一時期、木綿の縦縞模様の織物といえば、すべて「川越唐棧」といわれるほどでした。しかし、その後、すたれていきます。近年、着物を愛する市民活動がその復活を試みた結果、新たなブランドとして復活しました。

左の写真は、男物に仕立てて着ています。



↑13 革細工職人



↑14 サツマイモの魅力



↑15 サツマイモの展開

↓16 川越唐棧



17 唐棧の展開

この織物を、伝統的な衣装としてだけでなく、現代の生活にも応用できないかと考えました。川越商工会議所主催の、2014年の「唐棧 reborn プロジェクト」です。それまでも、財布や名刺入れなどの小物が、民間の手によって開発されてきました。このプロジェクトは、商工会議所が主導して進めました。上の段は、呉服店のショーウィンドウです。下の段は、このプロジェクトの開発商品です。ワイシャツは、日本の大手経済新聞にも取り上げられました。

18 デザインとしての応用

川越唐棧を、様々なものに応用しました。左上の写真は、トイレのピクトグラムです。アクリル板に本物の唐棧を挟み込み背景としました。右上は、本の装丁に使った事例です。これらは、実際の織物を使っています。

左下の写真は、歩道の路面のデザインに適用したものです。その右は、橋の親柱のデザインとして、タイルに表現しました。右下のイラストは、商工会議所のプロジェクトに参加した地元の工業高校の生徒のアイディアスケッチです。このように、伝統的な織物でも、そのデザイン性を利用することによって、現代への応用が可能です。また、地元の若い世代の参加によって、次世代に受け継ぐことができることでしょう。

19 おわりに

伝統的な産業が生き続ける町は、個性豊かな町づくりをできる可能性を持っています。

産業の工業化とグローバル化は、安価で便利かもしれませんが、画一的で無個性になりがちです。そこには、人の温もりを感じるのが難しくなっています。

伝統的産業の多くは、手作業です。作った人の顔を見ることができます。人と人のつながりがもたらす安心感。その場でしか体験できない思い出とともに、永く愛されることになるでしょう。



↑17 唐棧の展開



↑18 デザインとしての応用



↑19 おわりに

⑪ コスモスとしてのカンポン 布野修司 2023年2月11日実施

—インドネシアのコミュニティー・ベースの居住環境整備—

概要

1. 今日は、インドネシアのカンポンのコミュニティについてお話ししたいと思います。私は1978年以来、40年以上にわたりアジアの都市および建築分野の研究に深く関わってきました。1978年に同僚と東南アジアの人間居住に関する研究プロジェクトを開始し、教授が率いる ITS (Institute Teknologi Surabaya) 研究グループと共同で、ヨハン・サイラス。1991年と2019年に2冊のカンポンに関する本を執筆しました。今日は、2冊の本のエッセンス、つまり、カンポン コミュニティから学んだいくつかの発見とそのコミュニティ ベースの開発についてお話ししたいと思います。1つは、1987年に私の博士論文『インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究——ハウジング計画論に関する方法論的考察』（東京大学、1987年）、日本建築学会賞受賞(1991年)をもとに一般向けに書いたという『カンポンの世界 ジャワの庶民住居誌』（パルコ出版、1991年）という本です。2つ目は、2年前に出した『スラバヤ 東南アジア都市の起源・形成・変容・転生—コスモスとしてのカンポン—』（京都大学学術出版会、2021年）という本です。

2. カンポンとはインドネシア語で「村」を意味します。「カンポンガン」と言えば「田舎者」という意味です。都会の住宅街なのにカンポン(村)と呼ばれる。興味深いことに、OED (Oxford English Dictionary) によると、Kampung は「コンパウンド」の語源です。バタビアとマラッカの閉鎖された居住区が「カンポン」と呼ばれていたことを聞いた英国人は、19世紀初頭にインドの先住民の定住に「コンパウンド」という言葉を使い始め、その後アフリカでも他の国でも使われるようになります。KIP (Kampung Improvement Program) が国際的に高い評価を得ていることはご存知でしょうか (アガカーン賞、国連ハビタット賞)。Post-KIP プロジェクトを含む、さらなる新しい試みを紹介したいと思います。



1 ↑

2 ↓



3 ↑

4 ↓



3. 私の経歴は省略します。東京大学を卒業後、日本の国公立私立の5大学で建築と都市計画を教えました。

- 1976年 5月 東京大学助手 (工学部)
- 1978年 5月 東洋大学講師・助教授 (工学部)
- 1991年 9月 京都大学助教授 (工学部)
- 2005年 4月 滋賀県立大学大学院環境科学部教授

・評議員(2009年)環境科学部長・副学長理事 2015年 4月 日本大学特任教授 生産工学部建築工学科(～2020年3月)・客員教授 生産工学部建築工学科(～2025年) / 北京工業大学客員教授(2015年10月～) 西安工程大学特任教授(2018年10月～)

4. 2016年から2017年にかけて、エジプトに日本式の学校を100校建設するプロジェクトに携わり、教育省の設計委員会を支援して4つのモデルプランを設計しました(資料1 報告書)。

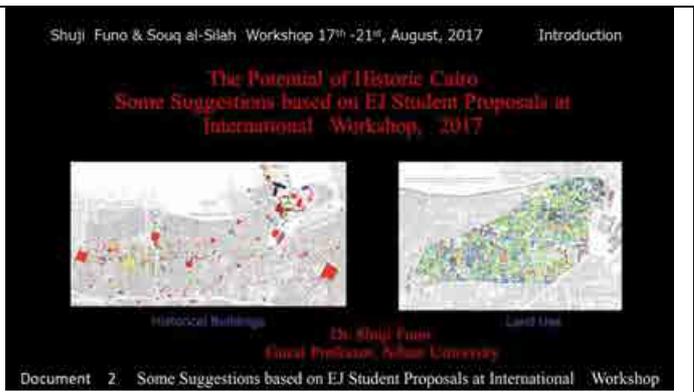
5. 昨年の2月、1年前、2017年に開催された国際ワークショップでの学生による様々な提案について報告しました(資料2)。

6. パワーポイントの最後のシートです。様々なアイデアを実現するための重要なポイントをいくつか挙げました。基金の必要性、持続可能な場所と組織の設立、マルチプレーヤーとしてのファシリテーター(コミュニティアーキテクト)の重要性、・・・などです。

7. また、バイト・ヤカンで、京都の町屋のリノベーションや古都・京都の街並みについてお話させていただく機会がありました(資料3)。

8. 今日の話は、以下のような内容です。

- 1 カンポンとは?
 - 2 カンポンの世界
 - 3 カンポン改善プログラム KIP
 - 4 ルスン & スラバヤ エコハウス
 - 5 Post KIP クリーン&グリーン KIP
- 結論 コミュニティ・ベースの居住環境整備に関するいくつかの提言



5↑

6↓



7↑

8↓



【1 カンポンとは？】

9. カンポンという言葉の起源についての学問的な議論は省きますが、コンパウンドという英語が西側諸国の植民地化の過程で一般的に使われるようになったということははっきりしています。バンテンの18世紀の地図には、ヤシの木とフェンスで囲まれたカンポンが密集した様子が描かれています。バンテンはジャカルタの西60~70kmに位置し、当時は、タイ王国の都アユタヤに匹敵する大都市でしたが、現在はジャカルタ大都市圏に含まれています。

10. インドネシアの各民族や地域の伝統的な村落は、さまざまな名前では呼ばれていました。現在公的に使われるデサ(村)はもともとジャワの村を意味する言葉でした。一方、スンダ(西ジャワ)では、クルラハンが村を意味する言葉として使われていました。クルラハンは、次に説明しますが、最小単位であるRT(隣組)、RW(町内会)の上位の近隣単位として現在都市部でも農村部でも使われています。都市部ではその上位単位がクチャマタン kecamatan です。

11. カンポンは、デサの要素を保持しながら都市においてそれを再統合した居住地と考えられます。ジャワの村は、強固な共同体的性格をもっており、この特徴は都市部のカンポンに何らかの形で受け継がれています。カンポンの生活を支える、ジャワの人々の最高の価値とされるゴトン・ロヨン(相互扶助)とルクン(調和、団結)は、デサの伝統と関係していて、インドネシアの国家的スローガンになっています。

12. 現代のインドネシアの都市の最小の行政単位はRTとRWです。RTはルクン・タタンガです。タタンガは隣人です。実はこのRT、RWは日本統治時代に持ち込まれたものです。日本軍は1942年から1945年までインドネシアを占領しただけです。詳しく説明する時間はありませんが、この地域に根ざした共鳴関係は興味深い事実です。

1 Kampung? Kampung as a World

Kampung: A residential area with a group of houses covered with trees surrounded by fences and earthworks. Compound, Homestead, Settlement...

In the process of transformation, the word **Kampung** (in Indonesian, Indonesian: kampung) was used to refer to a block of settlements fenced off by ethnic groups, and similar urban blocks in India came to be called that as well (Anglo-Indian). English, compound is also used for enclosed settlements on the African continent.

Conspicuous Kampung is in Aceh (OED.)
 1. (In the Orient) A walled residence (especially with enclosures, compound, homestead, houses, trading houses, etc.)
 2. Enclosed place (concentration camps, etc.) (usually) separately

Kampung is the origin of the English word **compound** (OED) (in the sense of "enclosure" and "settlement"). A historical dictionary of anthropological terminology (University of Michigan, Ann Arbor, 2000) also notes that the word "compound" (used in the sense of "enclosed place") in the West entered by the British from...




9↑

10↓

1 Kampung? Desa, Kelurahan, Kampung Kampung as a World

The traditional villages of each ethnic group and region in Indonesia have been called various names such as Nagari, Desa in Minangkabau, Muja, Desa in Bali, Banjar, Maja, Jagan in Madura, Desa in Flores, and Kampung in Aceh, and so on.

Desa originally referred to a village in Madura, Java. The 14th-century chronicle of the Majapahit kingdom, Deshawarnana (Nagarakertagama), means "rural description".

On the other hand, in Sunda (West Java) **ka(e)lurahan** was used to mean a village. **Kampung** was the unit that made up the ka(e)lurahan.



11↑

12↓

1 Kampung? Kampung = Urban Village Kampung as a World

Kampung = Reintegration of Desa in the city. An Primitive Formation of Kampung

Remaining Elements of Desa = a strong "Communal" character

the highest values of Javanese people
 Gotong royong (mutual assistance) & Rukun (harmony)



1 Kampung? kampung RW/RT aza/joukal/tonarigumi Kampung as a World

Japanese military government (March 1943-August 1945) Neighborhood association system introduced in Java.

Japan's Neighborhood Association System: September 11, 1940 "Burakukai Neighborhood Association Development Guidelines" (Ministry of Home Affairs Directive No. 17) ("Neighborhood Association Reinforcement Law")

A group consisting of 5 to 10 households was obliged to mobilize, supply supplies, distribute control items, and carry out air defense activities. Promote unity and self-government, control thoughts, and play a role in mutual monitoring.

Japanese 16th Army, Sans "Outline of Neighborhood Policy Organization" (January 1944)



【2 カンボンの特性】

13. 初めてスラバヤを訪れて以来、ほぼ毎年スラバヤを訪れ、カンボンのコミュニティについて多くのことを学びました。カンボンは物理的には貧しかったですが、コミュニティ組織は本当にしっかりしていて活発でした。カンボン コミュニティの興味深い特徴のいくつかをまとめたいと思います。

14. スラバヤ市の人口は、現在、約 350 万人ですが、スラバヤ大都市圏の人口は 1,500 万人で、ジャカルタ首都圏に次ぐ規模です。ジャカルタ大都市圏は 3000 万人を超えますが、カイロ都大市圏は 2000 万人規模でしょうか？ スラバヤ市は、東、西、北、南、中央の 5 つの区、合計 31 のクチャマタンによって構成されています。合計 1,362 RW、そして 9,096 RT があります。クチャマタンの人口は 45,000 ~ 200,000 人で、日本の都市と同じ規模です。平均人口は、RW で 2273 人、RT で 345 人になります。

15. 私が 40 年間観察してきたカンボンが 3 つあります。1 つは北部の港湾施設に近いカンボンで、人口密度は約 1,500 人/ha。一つは都心部のカンボンで、オランダ植民地時代に住宅地として開発されたカンボンで、人口密度は約 600 人/ha。最後の 1 つは、市内中心部近くのダウンタウン カンボンです。QR コードから 3 カンボンの雰囲気、日常を動画で閲覧いただけます。3 つのカンボンとも大きく変わってないように思えますが、当然、住民の代替わりがありますし、転入者、転入者があります。都心のカンボンには空家も目立ち始めています。

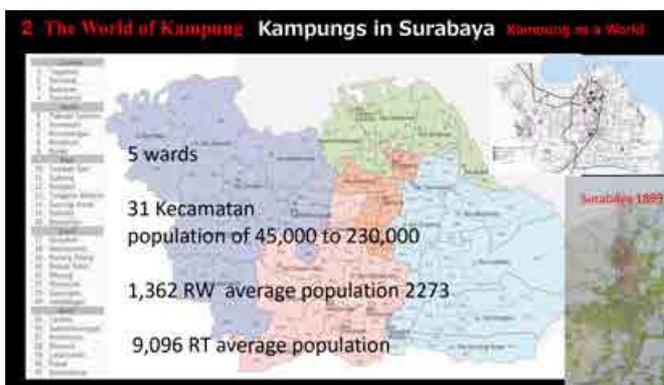
16. カンボンの居住地の特性をまとめると以下のようになります。

(1) 多様なカンボン: カンボンは、立地 (市の中心部からの距離)、所得層の構成、住民の移住背景や人口の流動性、歴史、空間パターンなどによって様々です。最も貧しい所得層でも、居住できるカンボンを見つけることができます。多様なカンボンの存在が、住宅問題解決の唯一の方法であるという研究者もいます。



13↑

14↓



15↑

16↓



17.

(2)カンポンの全体性：カンポンは単なる居住地ではなく、一般的に生産と消費の両方の機能を持っています。職住近接です。ほぼすべての日常活動は近隣住区で行うことができます。カンポン自体は、雇用機会のためのさまざまな施設がある市内中心部に寄生していることは指摘する必要があります。彼らはカンポンの外からお金を稼がなければ生きていけない。しかし、カンポンは主に自律的で自己完結型のコミュニティを形成しています。

(3)異質性：カンポンは複合社会を形成しており、同質のコミュニティではありません。混合居住は、カンポンの特徴です。富裕な人々がしばしば貧しい人々の隣に住んでいます。富裕者が貧しい人々の生活を支えていることに注目する必要があります。

18.

(4) 高度サービス社会としてのカンポン:露天商やホーカー（行商人）によって、誰もが日常生活に必要なほとんどすべての種類の食品や商品を手に入れることができます。カンポンでは雇用機会が非常に少ないからです。

(5)相互扶助についてはすでに説明しました。

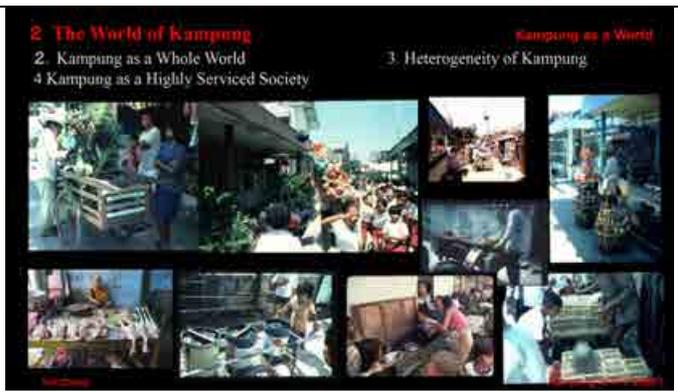
(6) 伝統文化の保存:人々は伝統的な生活様式を守る傾向があります。カンポンは、独自ヴァナキュラーな価値観を持つ都市村落なのです。

(7) プロセスとしての住宅：都市村落は、そこに住む人々の多様性を含む無限の住宅プロセスの蓄積によって生成されます。

(8) 複雑な所有関係:複雑な土地所有関係が都市の不動産投機に抵抗するのに役立つ場合があります。

19. カンポンの生活と共同体に関する長年の現地調査から学んだ最大のことはアーバン・インボリューションの原理です。拡大・成長ではなく、内側への進化という意味です。資源、エネルギー、環境、地球の共有ですね。

20. インボリューションについての解説、注釈です。参照ください。



17↑

18↓



19↑

20↓



【3 KIP】

2 1. スラバヤには、1960 年代後半から今日までスラバヤの住宅政策、都市計画に尽力してきた J. シラスという名の偉大な教授がいます。彼はスラバヤのシティ・アーキテクトで、スラバヤ工科大学を拠点とする多くのコミュニティ アーキテクトを育ててきました。2021 年までの 10 年間、スラバヤ市長を務めたリスマハリニも弟子の一人です。

2 2. KIP 自体は、カンポンの生活構造を大きく変えることなく、公共サービスと最小限のインフラストラクチャー、上下水道システム、歩道と道路の開発、公衆トイレと風呂を設置する、オンサイトで物理的な居住環境を改善する試みです。直接的な住宅供給は行いません。住宅の改善、増改築などは居住者自身に委ねられます。

2 3. KIP の歴史はオランダの植民地時代にさかのぼります。カンボン・フォアベタルング Kampung Vorbeterung と呼ばれました。ただその改善は、ヨーロッパ人入植地に限定されていました。インドネシアは第二次世界大戦後、爆発的な人口増加を遂げましたが、都市インフラや生活環境の問題は 1960 年代末まで手付かずのままでした。スラバヤ市が 1968 年に完全に独立して KIP を開始したことは非常に重要です。インドネシア国歌の作曲者に因んで W.R.Supratman KIP と呼ばれています。KIP の投資効果の高さに着目した世界銀行は遅れてやってきたのです。

2 4. 私はフィールド調査に基づいて学位論文を書き、最初の本を出版しました。そこで、J.シラス先生たちとの議論を踏まえて、カンボン・ハウジング・システムの新しい基本戦略を提案しています。基本原則は ①総合的アプローチ②コミュニティイニシアチブ③参加 ④段階的アプローチ ⑤小規模プロジェクト などです。住宅システムは (i) プロトタイプデザイン (ii) 集合形態：賃貸住宅の設計 (iii) ビルシステムの開発 などからなっています。



2 1 ↑

2 2 ↓



2 3 ↑

2 4 ↓



【4 RUSUN とスラバヤ・エコハウス】

25. 1980 年代の終わりまでに、KIP は市内のほぼすべてのカンボンで実施されます。1990 年代の初めから、RUSUN (Rumah Susun) と呼ばれる集合住宅の建設が開始されます。戦後まもなくに集合住宅建設は行われますが、公務員など特別な居住者のためのものでした。また、そのプランニングは、伝統的な生活スタイルに会わず、コストも高く普及しませんでした。Rumah は住宅、Susun はスタックを意味します。積層住宅ですね。

26. これは 1990 年に ITS チームによって設計された最初の RUSUN です。通常のマンションとは異なり、一戸あたりの面積は $3m \times 6m = 18m^2$ と小さいですが、共有スペースを広くとったユニークな間取りです。コレクティブハウスの一種ですね。キッチンとバスルームは 1 か所にあります。各階にランガーと呼ばれる小さな礼拝室と小さな売店などがあります。要するに、カンボンを路地ごと立体化するコンセプトで KASUN(Kampung Susun)とも呼ばれます。

27. 原則として、カンボンの跡地に住んでいた人々が RT 単位で RUSUN に入ります。共用スペースにはテレビなどが置かれて共有リビングとして使われます。また、作業スペースにもなります。さらにカンボン会議、結婚式などのイベントにも使用されます。

28. 東南アジア (湿潤熱帯地域) における集合住宅のモデル開発を目指したスラバヤ・エコハウスという実験住宅を建設するチャンスを得ました。この実験的なプロジェクトは、カンボンに関するこれまでの研究に基づいて、まず基本計画を作成しました。私たちの提案は幸運にも IDI (International Foundation Development of Infrastructure) のプロジェクトとして受け入れられ、1998 年 6 月にモデルハウスがスラバヤ (ITS キャンパス) に建設されました。



25↑

26↓



27↑

28↓



29. 基本的なテクニックと方法についてはスキップします。基本的に、パッシブテクノロジーに基づいています。

30.

- A. スケルトン・インフィル Skeleton-Infill 構法
- B. 地域のライフスタイルに合わせたプランニング

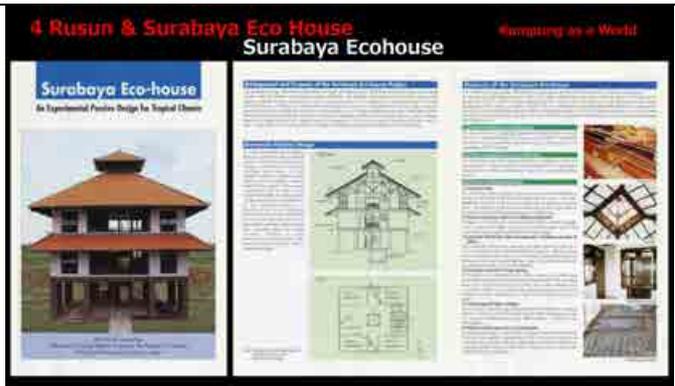
C. パッシブ冷却技術

- ① 二重屋根
- ② 日射熱を遮る窓と外壁
- ③ 共有オープンスペースの配置、換気
- ④ 換気チャンネル 煙突効果
- ⑤ 夜間換気による保冷
- ⑥ 循環水による放射冷却システム コンクリートスラブ床にポリプロピレンパイプを埋設し、井戸水を循環させて放射冷却効果を実現。井戸水は1階地下タンクに貯め、太陽光発電ポンプで循環させています。循環水はトイレの洗浄水や散水に再利用しています。

31. 建物の完成後、熱条件が監視されています。通気層や断熱材の効果は絶大です。ココナッツ繊維の耐熱性は推定でき、断熱材として優れた熱特性を持っていることが証明されています。まだ様々な検討が必要ですが、エコ・サイクル・アーキテクチャーは、世界中で研究すべきテーマです。

【5 クリーン&グリーン KIP】

32. スハルトが辞任した後 (1998 年)、20 世紀末以降、J.シラスが率いる KIP が再開されました。スラバヤ市の自主財源に基づいています。それは、包括的 Comprehensive KIP または統合 Integrated KIP と呼ばれます。このプログラムは、すべての活動へのコミュニティの参加を呼びかけ、環境、社会、経済の強化を促進することを目的としています。物理的な環境の改善だけでなく、生活水準の向上、職業訓練や中小企業の起業支援による雇用の創出を目的としています。



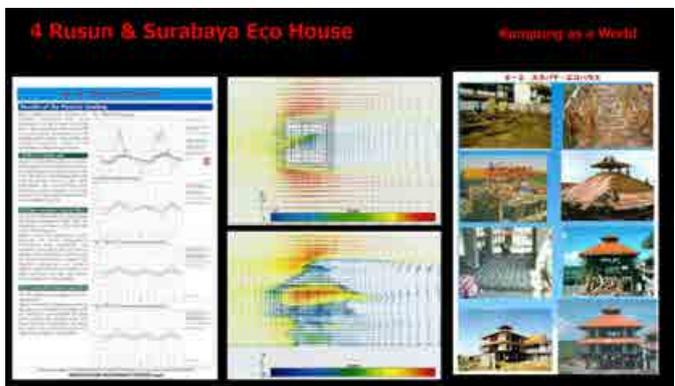
29↑

30↓



31↑

32↓



33. そして、リスマ市長と & ITS チームは、Clean & Green KIP と呼ばれる Post KIP プログラムを開始しました。A: 緑化・都市農業 緑とクリーンを促進する上で最も重要な要素です。B: コンポスト家庭から出る生ゴミを発酵・腐敗させるコンポストシステムを導入しています。C: 浄水システム。D: 廃棄物で、バッグ、財布、傘などの手工芸品の製造、子供のおもちゃやコンテスト参加用のコスチューム(ドレス)を作製します。

34. 各カンポンにはさまざまなアクティビティがあります。このカンポンでは、伝統的なゲーム、料理、工芸品などを利用して、以前の生活を体験することができます。

35. 昨年の提案は、私のインドネシアでの40年間の経験に基づいていました。

【結論】

36. 1. スラバヤの都市開発プロジェクトの歴史を見て、まず頭に浮かぶのはリーダーシップの重要性です。2. 市長は基本的に最高のコミュニティアーキテクトですが、政治家のリーダーシップだけでは常に機能するとは限りません。官・産・学・民の連携が重要であり、スラバヤの場合、歴代の市長だけでなく中央政府をもつなぐことができた J.シラスの活躍が大きかったと思います。3. 行政組織(RT/RW)としてのリーダーだけでなく、専門知識を持ったコミュニティアーキテクト、コミュニティリーダーも必要です。そして、4. 経験の国際交換は非常に重要です。昨年もいいましたが、5. できることから始めようということです。

私が日本で関わっているプロジェクトについては、APPENDIX にいくつかのビジュアルイメージを挙げています(省略)。スラバヤについては、毎年、大学院の演習の一環として、様々なカンポンについての提案をまとめてきています。現在はオンラインで多くの議論を行うことができます。具体的なプロジェクトが始まることを願っています。



33↑

34↓



35↑

36↓



□ まちづくりファシリテーター養成講座 受講者アンケート 松村哲志

まちづくりファシリテーター養成講座において全 11 回行われたレクチャーについて、各回の受講者を対象にアンケート調査を実施した。実施概要を以下に示す。

・実施概要（言語 英語）

対象 まちづくりファシリテーター養成講座各回受講者

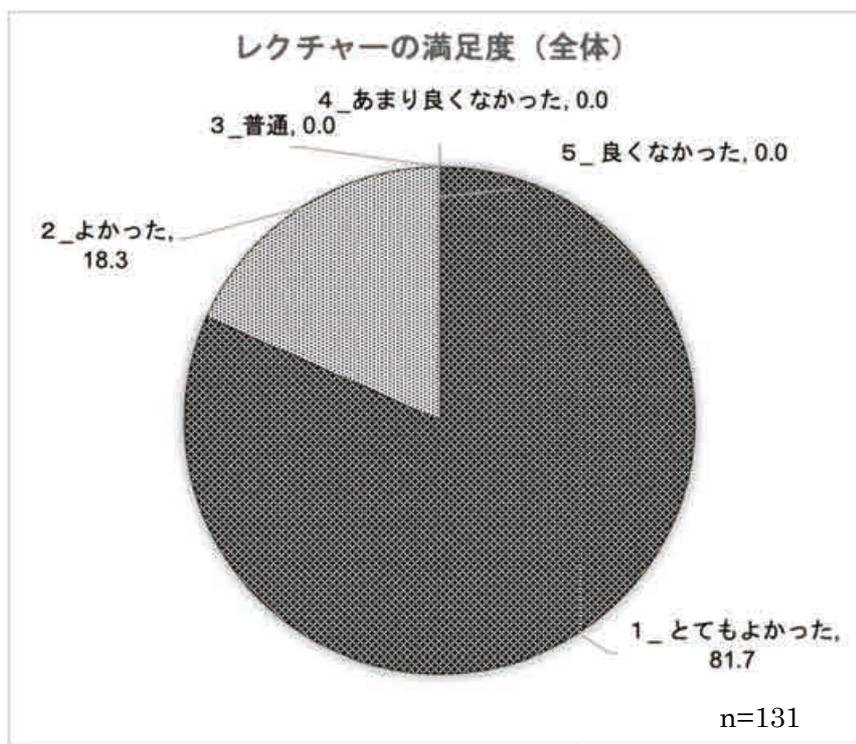
方法 レクチャーの最後に zoom のチャットから記入フォームを配信。

レクチャー後に Google フォームで記入を実施。

内容 満足度について（5 段階）

レスポンスペーパー（自由記述形式 意見、質問など 300Words 程度）

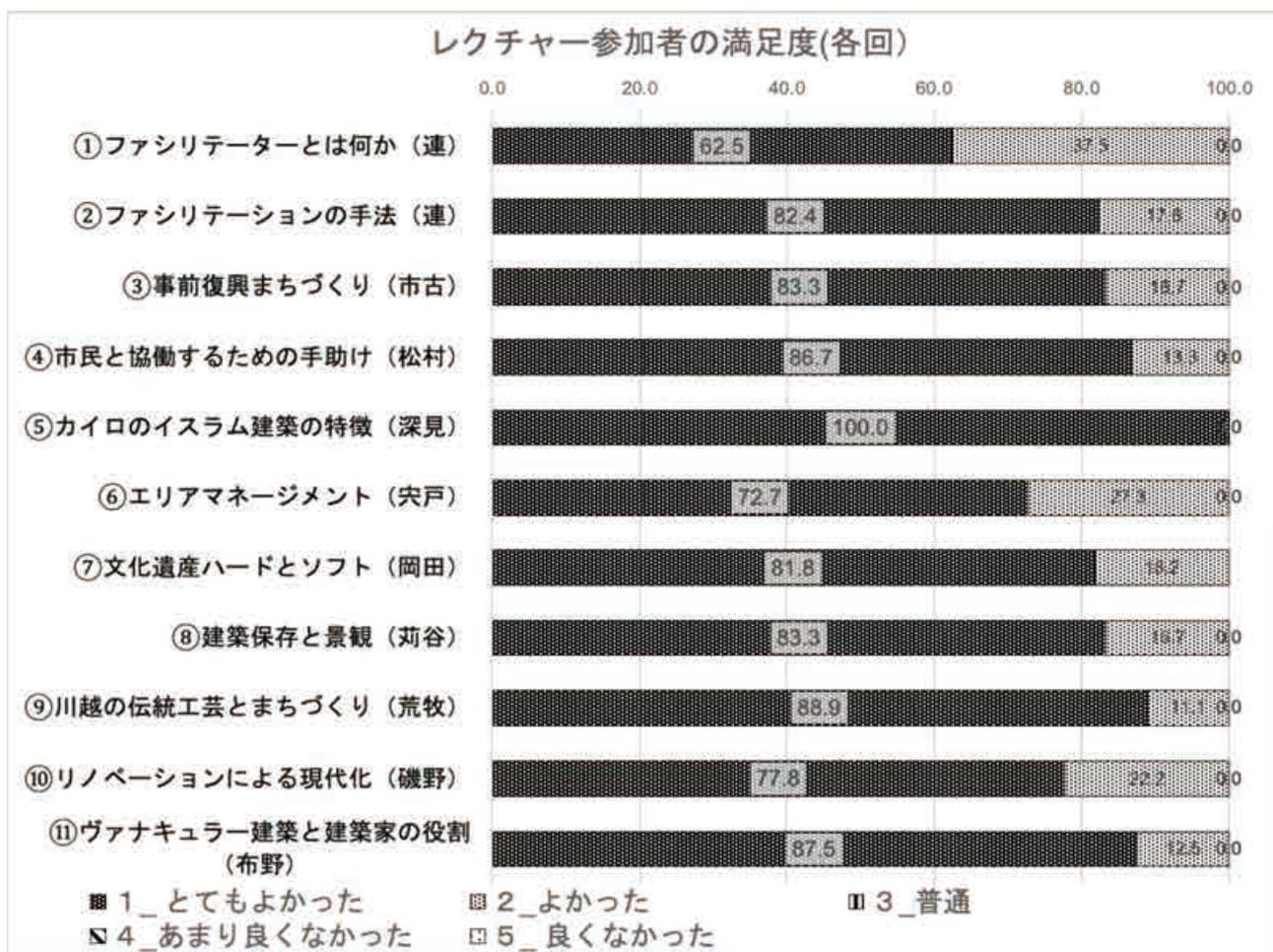
○結果 1_レクチャー全体を通じた満足度の集計結果



全 11 回のレクチャーでの満足度を合計した全体満足度の結果を図_1 に示す。この結果から「とても良かった」(81.7%)「良かった」(18.3%)を合わせた満足層は合計すると 100%となっており、満足度の高いレクチャーであったことがわかる。特に 8 割を超える受講生が「とても良かった」という積極的な満足層があり、その満足度の高さを伺うことができる。また、「普通」、「あまり良くなかった」「良くなかった」と回答した人はいない結果となっており、今回のレクチャーで行われた内容がカイロでのまちづくりにおいて重要な内容であると評価されたことがわかった。すなわちそれはそこで紹介されている日本での事例がカイロでのまちづくりにおいても参考となる可能性を秘めていることが伺い知れる。

○結果2 各回のレクチャー参加者の満足度

全 11 回行われた講義の各回のレクチャー参加者の満足度を図_2に示す。最も満足度が高い値を示しているテーマは「⑤カイロのイスラム建築の特徴」であり、すべての受講者が「大変良かった」と満足度が高いことがわかる。続いて「⑨川越の伝統工芸とまちづくり」が 88.9%、「⑪ヴァナキュラー建築と建築家の役割」が 87.5%と満足度が高い層が 9 割程度となっており、レクチャーの中で特に興味関心が特に高いことが示された。



○まとめ

これらのレクチャー満足度アンケートの結果から本講座は満足度が高く、カイロでのまちづくりにおいて講演者が経験した住民参加を導入した手法が可能性を持っていると捉えられていることが考えられる。また、各回の満足度の結果を踏まえるとイスラム建築というバックグラウンドを持つまちを背景として、伝統工芸のまちであったというこれまでの生活に根ざした地域性を生かすことに興味があり、それらを生かしたまちづくりに可能性があるかと捉えられていることが考えられる。

さらに一步、特に満足度が高かった「9_川越の伝統工芸とまちづくり」での自由記述項目に着目してみると、そこには「伝統 (tradition)」、「工芸 (crafts)」、「職人 (craftsmen)」というキーワードが多くの受講者の記述項目に複数回、登場しており、それらのことがさらに伺える結果となった。

■ 3. 住民ワークショップ

□ はじめに

以下の日程で、男女別計 18 回のワークショップを開催した。参加者には、住民とオンライン講座を受講したファシリテーターがいる。

① 交通計画

- ・ 男性 6月26日(日) ファシリテーター：6名 男性住民参加者：8名
- ・ 女性 6月27日(月) ファシリテーター：11名 女性住民参加者：13名

② ゴミ問題

- ・ 女性 7月23日(土) ファシリテーター：14名 女性住民参加者：5名
- ・ 男性 7月24日(日) ファシリテーター：9名 男性住民参加者：14名

③ 防災(事前復興まちづくり)

- ・ 女性 8月20日(土) ファシリテーター：16名 女性住民参加者：13名
- ・ 男性 8月21日(日) ファシリテーター：15名 男性住民参加者：13名

④ 歴史的建造物再利用

- ・ 女性 9月17日(土) ファシリテーター：8名 女性住民参加者：10名
- ・ 男性 9月18日(日) ファシリテーター：5名 男性住民参加者：13名

⑤ 無形遺産

- ・ 女性 10月22日(土) ファシリテーター：9名 女性住民参加者：9名
- ・ 男性 10月23日(日) ファシリテーター：7名 男性住民参加者：8名

⑥ 建物のメンテナンス

- ・ 女性 11月26日(土) ファシリテーター：5名 女性住民参加者：6名
- ・ 男性 11月27日(日) ファシリテーター：7名 男性住民参加者：9名

⑦ 伝統工芸

- ・ 男性 12月18日(日) ファシリテーター：5名 男性住民参加者：18名
- ・ 女性 12月19日(月) ファシリテーター：6名 女性住民参加者：10名

⑧ 観光と居住

- ・ 女性 1月21日(土) ファシリテーター：8名 女性住民参加者：11名
- ・ 男性 1月22日(日) ファシリテーター：2名 男性住民参加者：8名

⑨ 空き家、空き地利用

- ・ 女性 2月11日(土) ファシリテーター：6名 女性住民参加者：8名
- ・ 男性 2月12日(日) ファシリテーター：6名 男性住民参加者：7名

① 交通計画

〈テーマ説明〉アラー氏、サラ氏によって、以下のような点が述べられた。

ダルブ・アフマルにおける交通とその問題点、解決法／混雑の原因のトゥクトゥク／規制や一方通行、歩行者天国、コミュニティバスなど方法／工房の営業車の問題／道の拡張という方法は、歴史都市に合うのかどうか／住民のメリットは何か／テヘランの事例。都市計画の制限緩和。下がったところに車が並ぶ。／住宅を撤去したところが駐車場になる。／歴史的景観が崩れてしまう／住民同士が話し合っ
て住民自身が問題意識を高め、それが行政に伝えることが必要である。

〈ミニ・レクチャー：道路のデザイン〉 連健夫続いて、連氏から日本での事例の紹介があった。内容は

① 交通計画末に掲載

〈グループディスカッション〉 ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載した A0 シートが作成された。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

- ・ 通りの最初の半分（マンジャク・シラフダール門からハンマーム・バシュタークまで）は歴史的建造物が沢山残っているので、朝 11 時から 23 時までトゥクトゥクや車の通行を禁止し、残りの半分は、一方通行にするという方法もある。
- ・ スーク・シラーハから外に行くためのバス停やトゥクトゥクの集合場所（駅）をスーク・シラーハ通りの外側に作って、バスやトゥクトゥクはスーク・シラーハの回りや平行する道だけを走るようにする方法が望まれる。
- ・ 狭い道は問題ない。昔からの通り（ハーラ）を歩くと気持ちがよいので、道を広くする必要はない。
- ・ 車のサイズが古い街並みに合わないので、カイロの歴史的な街並みにふさわしい快適な車を探し出す必要がある。
- ・ 観光客のための交通網を作る必要がある。
- ・ 車のための大きなガレージを準備し、トゥクトゥクを撤去する必要がある。トゥクトゥクを運転する若者のために良い仕事、現代的な仕事を見つける必要がある。
- ・ 工房が沢山あり住民に騒音などの迷惑がかかるので、工房は違うエリア（サラフ・サーレム通り）に移ることが望ましい。あるいは、時間を限って、夜だけ働き、部品等を運ぶ車は夜だけ通行を許可することが望ましい。
- ・ 犠牲祭の前なので、道に動物（牛）などが沢山いる。スーク・シラーハの外側に決められた場所に土地を借り動物を預かってもらい、犠牲祭にはそこで殺してもらうという方法が望ましい。
- ・ 土地所有者は利益を上げる必要があるので、土地所有権は大きな問題の 1 つである。道路が広がっているオープンエリアを一時的な店の広場として再利用したい。
- ・ 店舗経営者が自分の店の前で馬車（物売りの車）や仮設売店を許可する問題について、店のオーナーは店舗を借りているだけなのに、店舗の前の通りの空気を貸すという形で仮設の店舗を出したい人からお金を徴収しているので、道が狭くなることを気にしていない。この問題は私達だけの力では解決できないので、政府の力を借りたい。彼らが通りを貸すことを辞めないなら、時間を設定して（例えば週に何時間とか）貸し出しを許可するべきである。
- ・ 荒廃して無人になっているエリアや、通りがセットバックして空地になっている空間を、停（駅）や駐車場にするのは良いと思う。例えば、イルゲイ・ユーズフィー・モスクの前とガンドゥール通りにあるアルティ・バルマク・モスクの近くの土地である。倒壊した建物の敷地にはワクフ省（宗教省）の土地があるはずだが、そのままに放置されているので利用の可能性がある。
- ・ 通りの利用について、月一回に通りでハンドクラフトの展覧会を開催するようにして、Facebook で宣伝したい。
- ・ インフラの劣悪な状況は、最も重要な問題の 1 つである。下水道問題を解決し、道路の両側に緑の木々を植樹したい。スーク・シラーハから分岐する通りに照明をつけてほしい。
- ・ モニュメントが閉鎖されていることは、嘆かわしい。
- ・ 昔は家にゴミを収集人が来ていた。ムバラク時代に、政府が収集場所を用意して、ゴミ収集を始め、電気代金の強制的にごみ収集代が含まれるようになった。しかし、ゴミ収集に対して、政府（収集車

が来ない)、個人(収集場所に行かない)ともうまくいかないために、道にゴミを捨てる人が沢山いる。一方、家庭まで来てゴミを運んで片づける人はいるが、別途支払いの必要がある。政府のゴミ収集は片づける人が来ないとゴミが増え、通りがひどい状態になる。特にイード中にゴミを片づける人もお休みになるので、犠牲祭前の現在、犠牲祭の時の道の状況を心配している。

- ・ アル・リファイ学校前のゴミ捨て場を所有するナディアは通りに問題を起こしている。
- ・ サビール・シナーンの前に座っている女性(ナディア)はゴミ関係の分別の仕事をしているので、ゴミが彼女の場所に沢山捨てられると仕事が増えるので彼女は嬉しそうだ。以前に、サビール・シナーンの近くの学校の中がアメリカのプロジェクトによって綺麗にされたが、学校の外には収集箱があり、そこからゴミが溢れてゴミだらけになっている。私たちは、あそこが汚くなるのは、あの女性がゴミ収集箱からリサイクルのためにゴミをひっくり返しているからだと思っている。彼女の存在をどのようにしたらよいのだろうか？
- ・ 通りの交通問題を解決するには、まず人間の行動から始めなければならない。人々が必要とするものと権利を与え、快適に過ごせるようにする必要がある。
- ・ スーク・シラーハの問題は意識の問題である。交通法を守らない者には罰を与えるべきだ。
- ・ 単なるスローガンや言葉ではなく、実際の行動に移す必要がある。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉

- ・ 火事になった時に消防車が通れないので、サビール(給水所)を復活して、サビールの水を火事の時に使えばよいと思う。
- ・ 子供が学校に行く途中、犬が子供たちを追いかける。不健康な動物から子供たちを守るために、犬を通りから遠ざけるか、家の近くではなく安全な場所に保管してほしい。
- ・ トウクトウクの数がとても増えてきた。ビーバニー(キャバブ店、ムハンマド・アリー通り)の辺りはトウクトウクが多く、人や車が通ることができない。少なくとも、スーク・シラーハ通りの半分をトウクトウクが通らないようにしたい。
- ・ トウクトウクやバイクの運転速度が事故を起こす
- ・ 購入品を家に届けるために手押し車を使用する場合がある
- ・ 私たちがいつも買い物をする道路なので、通りを通過交通に使う車は排除したい
- ・ 子供たちと一緒に街を歩くには注意が必要で、事故に遭う危険を含んでいる
- ・ スーク・シラーハ通りを ムイッズ通りのように歩行者専用の観光通りにし、そこから分岐する通りのプライバシーを守る方がよい、観光の通りにするためには通りの両側の建物の高さを揃え、同じ建築様式にすることに焦点を当てるべきである。そのためにはイスラームのモニュメントの再利用が望まれる。
- ・ モスクのすぐ隣に喫茶店がある。モスクの中で静かに礼拝して、外に出ると隣の喫茶店が大音量で音楽を流し、うるさく、近くにモスクがあるということを考えていない。
- ・ 壊れている家や無人となって空地は誰も使っていない。これらの土地には所有者がいるので、誰でも使いたい時に使えるわけではない。これらの土地を使えるように政府が土地所有者と交渉する必要がある。使えるようになったら色々なことに使いたい。例えば、展覧会や駐車場など。
- ・ ゴミ問題を解決するには、家にゴミ収集に来てくれる人を頼む必要がある。こうすると犬の数が減っていくだろうと考える。
- ・ 私はゴミを集める人、家までゴミを集めて来てもらおう。朝7時半に来て月に15ポンドを支払う。たった15ポンドだが、それも払えない人は自分でゴミを収集箱まで捨てに行く。しかしゴミ収集箱が

少ないので、道が汚くなる。特にナディアさんの前（学校の前）はとても汚い。犠牲祭の牛など屠殺した後のゴミはひどいことになる。

- ・ 通りからゴミを取り除き、ルールを追加し、「自分から始める」というスローガンの下で、平和で清潔な地域を維持することを奨励したい。
- ・ 店の仕事が終わったら、すぐに電気を消して帰ってしまうので、周りが暗くなるという問題があり、道路の照明の必要がある。
- ・ 近隣居住者が地区の管理をするには、まず彼らに権利を与え、彼ら自身で通りをきれいにする必要がある。
- ・ 無料のガレージなどのサービスがあれば、駐車場が家の近くになくても便利である
- ・ 人々の生活や伝統、文化、ニーズに合わせて通りを整備する必要がある
- ・ 私達は簡単なことしか出来ない。例えば、街路照明の電球が切れたら新しいランプを買って取りかえることはできる。大きな問題を解決しやすくするためには、子供に遺産の価値を教育しなければならない。例えば、学校でスーク・シラーハの見学ツアーを行って、歴史的建造物を見せることは大切なことだと思う。

〈発表（男性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0シート参照。

スーク・シラーハ通りの中で、道路問題や人が歩いたり車を横切ったりするときに直面しそうなことについて話をした。

- 作業場では、歩行者と車両が互いに妨害しあう問題が主な議題となった。違反行為とその種類、防止方法、店主や物売りが法律を守っているかどうかなど。
 - 火災や救急の際に救急車を要請するサービスカーが不適切である件について、解決策を提案する。
- 1- 学校やモスクで交通法規を守ることの重要性について国民に認識を広める。
 - 2- 通りでの交通問題を解決するために、通りを歩行者用とし、車は一方通行向にする。
 - 3- 路上に駐車して占拠するのではなく、立体車庫を用意する。
 - 4- 道路標識、警告、通り名を掲示して、交通を円滑にする。
 - 5- 野菜店やパン屋に限り、午前中に道路に侵入することを許可する。
 - 6- 狭い車線にも入る適切な大きさのサービスカーを設計する。
 - 7- スーク・シラーハ通りからの交通量を減らすために、脇道の使用を許可する。
 - 8- 電気自動車（トゥクトゥクの代替として）用のステーションを別の場所に用意する。
 - 9- 道路不法侵入者や交通法違反者に対する法律と罰金を設定する。
 - 10- 工房のために特定の場所を割り当てる（利用者がその前に車を駐車する必要があるため）。
 - 11- 路上の野良猫や野良犬の問題を減らすために、動物のためのシェルターを提供する。
 - 12- 空地を利用して、適切なガレージを作る。
 - 13- スーク・シラーハの製品を店頭で展示するのではなく、週一回の展示会を設立する。休日には駐車場を利用する。
 - 14- スークシラーハ通りの消火栓を再開し、ダルブ・アフマル地区全体にサービスを提供する。
 - 15- スークシラーハ内の歴史的建造物エリアの重要性を示すため、通りを歩行者天国にする必要性を説明し、実験的に歩行者天国を実施し、通りへの観光客を誘致する。

〈発表（女性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0シート参照。

女性は参加者が多く、問題に気づきながらも、買物の後に家まで届けてくれるなどトゥクトゥクが必要であることを説明した。提案された解決策として、

- 1- トックトックの運転免許を取得するための条件を設定し、まずトレーニングを受けさせること。
- 2- 犬のせいで子供たちが被害にあうかもしれないので、犬を完全に排除する。
- 3- 何度もパイプが詰まり、汚水が道路に溢れるのを防ぐために、インフラを整備すること。
- 4- 交通法規に違反した場合の罰則を設ける。
- 5- 通りを、店主の活気を耳にできるような、人気のある朝市を催すこと。
- 6- 通りに植林をし、照明の柱といくつかの美しい噴水の追加すること。
- 7- 火災の際に水を汲み上げられるよう道路地下システムを開発する
- 8- 主婦が買物の後、必要なものを家まで運ぶのに役立つショッピングカートをいくつか提供する。
- 9- 人気のあるコーヒーショップの夜間利用を許可する。
- 10- 地域の所有者の車しか入れないようにする。
- 11- 路上に駐車し、路上を占拠している古くて老朽化した車を処分する。
- 12- 空地を利用して、適当な車庫にする。
- 13- 家庭からの回収されたごみを戻し、通りのごみの量を制限する。
- 14- 歩行者と車が一定時間通れるように、対面通行を区切り、残りの時間帯は歩行者だけにする。
- 15- 建物の正面の修復と通りの舗装。

〈まとめ〉

26日の男性のワークショップについては、日曜日、午後6時からという時間設定が悪かったのか、住民、専門家（講座出席者および広報により集まった人を含む。後述するようにファシリテーターの定義が今回の場合難しいので専門家という言葉を使う）ともに集まりが悪かった。他に、住民参加者は顔馴染みの人々で、三々五々集まる中で、専門家たちから、今日の話題について住民それぞれに説明が進んだという点では、開始前の時間も有効に使えたと考える。同時に、最初から最後まで参加した住民と、途中参加の住民ができてしまったことは、時間の概念の比較的薄いエジプトにおいて、いつをもって開始時間にしたら良いのかという問題を提起した。

専門家に関しては、アズハル大学教授サラ氏、メヌーフィヤ大学教授アラ氏、JSPSで調査整理作業補助を行なう若い女性建築家（ハーガルとファーティマ）、アラ氏の学生の2名（ヤスミンとサーラ）、アフマド・セドキー氏（建築家）が参加した。私の運営法も悪かったのだが、住民参加者と専門家が同数くらいだったので、2グループに分けた時の各グループのファシリテーターを指名せずに始めてしまった。また、サラ氏とアラ氏もそれぞれのグループに加わり、議論を主導する役割を果たしていた。ファシリテーター指名という方法がエジプトでのグループディスカッションに有効かどうかという点は、今後の議論となると思われる。

6時半頃になって、ようやくWSを始めることができた。深見からの簡単な挨拶に続いて、交通問題についての、アラ氏、サラ氏からの解説が行われた。前年度同様にとともに30分弱と長引いてしまったが、解説中の質疑応答などもあり、参加者は熱心に聞いていたので、途中で切り上げることはしなかった。この点は、今後も引き継がれる予定で、サラ氏とアラ氏が参加する場合は、問題提起をそれぞれのグループでもってもらうことも考えられ、その場合にはまとめの時間を少しゆっくり取ることで、解消されると考える。また、6月にプリントしたスークシラーハの調査結果と未来へのビジョンの本を皆に紹介することができたことは一つの成果であるとともに、アラビア語版の必要性を住民たちも訴えていた。

2つのグループに分かれてのディスカッションについては、発言は積極的ながら、議論の攻防というよりは、自分の意見を述べきるという形が目立った。ファシリテーションという形になっていたかは疑

問ながら住民の意見を集めることはできた。その点からも、問題点とその解決法という2部構成はうまくいったと判断する。サラ氏とアラ氏が a、b それぞれのグループに加わった。議論の時間は、説明の延長もあり、問題点、解決法ともに 20 分弱としたが、時間的には濃密な議論となって功を奏したと考える。

a グループは議論開始当初は、サラ氏が議論を引っ張っていたが、模造紙に意見を書いていく過程で、ファティマが主導的な働きをし、それをアフマドが補うという形となった。サラは、あまり声の大きくない住民に丁寧に意見を聞く役割を果たしていた。

一方、b グループの議論は、終始アラ氏が模造紙にスーク・シラーハの略図を書いて、地図に即して問題点を書き込むという手法を取り、それぞれの解決法が提案された。ハーガルが主に付箋紙の記入を行い、ヤスミンは a グループのサラ同様に丁寧に住民からの意見を聴取した。

発表に関しては、それぞれのグループの住民の代表が 5 分程度ずつ行なった。詳細は他のレポートに任せるが、b グループからの区間と時間を区切って歩行者道路にしたいなど、建設的な意見もあった。作成した A0 の用紙に基づいているために、わかりやすい発表になったと感じた。最後のまとめについては、深見から次回のゴミのワークショップのことを伝えるとともに、サラ氏、アラ氏から成功裡に終わったとの評価の短いコメントがあった。アンケートののちに、用意した食事を提供した。

ユネスコの高橋氏に駆けつけていただけたことは、住民たちにユネスコも注目している点をアピールすることになった。ワークショップは全てアラビア語で行われ、通訳のサブリーンが高橋氏とサブリーンに逐次通訳を行った。8 月の日本人が多く参加するワークショップに関して、どのように対応していくのかは課題となる。反省点としては、電池切れでビデオが途中で切れてしまったことに気づけなかった点が挙げられる。

一方、27 日女性のワークショップについては、住民、専門家ともに、男性の場合を上回った。ワークショップ自体は 3 時開始で、専門家は 2 時半頃から、住民は 3 時頃から漸次集合していった。専門家に対するワークショップの説明に関しては、集合状況から一括で説明することが難しく、昨日のワークショップに参加し二日目となる専門家から説明してもらった形をとった。開始前の住民との会話も進んでいたために、昨日同様ファシリテーターを指名する形とはならなかった。

男性の場合にも感じたことだが、2つの机を用意しておき、こちらから座席を指定するわけではなく、参加者自身が席を選択する形をとったので、顔馴染みの人がグループになったという傾向がある。この良し悪しについては、議論となると思われるが、参加者への強制という形は望ましくないと考えている。

3 時 15 分頃から開始し、昨日同様 30 分程度のサラ氏とアラ氏の説明があった。サラ氏はフィレンツェの例を紹介し、車の侵入禁止、ファサードの修復、人々の場所などを訴えていた。アラ氏は、車の交通（緊急車両や営業車両の必要性）、空地、駐車場など、住民から問題点を引き出せるようなキーワードを説明した。

今回も 2つのグループにそれぞれ、サラ氏とアラ氏が張り付く形となったが、2名の他は全員女性（専門家も）だったこともあり、こうしたやり方を続けていくことの是非については、課題となる。最初のレクチャーのような場合には、その話しに集中することはできても、グループ討議の場合、おしゃべりや自分の意見の強調に終わってしまう部分があり、人の意見を聞いてそれにリアクションすることが難しいように感じた。それぞれのグループ内の意見については、問題点とその解決法という 2枚の成果物、および専門家のレポートに記載される予定である。

発表に関しては同じく 2名の住民が、説明を行った。a グループの代表決定には、恥ずかしいからと譲り合いがあったが、2名ともに話し合いの内容を成果物に従って上手にまとめていた点は、素晴ら

しいと感じた。

全体としては、ワークショップの雛形をエジプトに適應することの難しさを感じたと同時に、エジプト流という方法を考案するのも良いのではないかと考えた。交通のワークショップからは、通りという点からゴミの問題が指摘されたことは興味深い。さらにゴミのワークショップからは、火災のリスクや空地の利用が指摘されたことは8月のリスク・マネジメントのワークショップとの深い関連が住民自身の問題意識として存在することがわかった。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉合計8名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い (20名) : 普通 (1名) : 悪い (0名) : 無回答 (0名)

2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ 周囲の環境に気づくことによって人間の行動が改善される
- ・ 歴史的遺構を人々に使わせることによって、遺構がより安全に保全される
- ・ スーク・シラーハで求められる仕事は何か？
- ・ それらの仕事をどのようにマーケティングをしたら良いのか？
- ・ 仕事を提供するにはどうしたら良いのか
- ・ モラル／マナーに問題がある
- ・ 道が混んでいること、トゥクトゥクが道を混ませている。
- ・ 一部の若者のマナーが悪いこと。
- ・ トゥクトゥクの問題と犬の問題。
- ・ 消防団がない
- ・ インフラストラクチャの問題 (下水、水、電気)
- ・ 喫茶店 (アフワ) がモスクのすぐ側にあることは問題。静寂と尊敬が求められるモスクに対して、通りやアフワは騒音を出すので、条例などを定めて、規制する必要がある。
- ・ 若者のマナーに注目して、若者によって若者のためのプロジェクトを開催する必要がある。
- ・ 交通の規則、特にトゥクトゥクに問題がある。交通が激しいために古い建物の美しさを見ることができない状況である。
- ・ トゥクトゥクはスーク・シラーハには相応しくなく、細い道だけにあることが望ましい。
- ・ インフラストラクチャー (上水、下水を含む) 悪く、断水問題がひどい。
- ・ スークシラーハには一方通行が望ましい
- ・ 犬の問題 (無くして欲しい)
- ・ トゥクトゥクの問題 (人が歩くルートと別のルートを走って欲しい)
- ・ トゥクトゥクよりシンプルで使いやすい交通が欲しい。
- ・ Souq El Selah 通りと平行する通りにトゥクトゥクを通せば良い。
- ・ 犬を排除するためには動物愛護協会に依頼する、あるいは殺すという方法も必要である。
- ・ 美しい装飾が残る古い家の価値を理解せずに、壊すことが続く。
- ・ 駐車場ないので車が道に駐車する。
- ・ 街灯が整備されていないので、家の前や遺跡の前が暗い。

3- 自由記述

- ・ 地域の問題を解決するためには住民の参加が必要で、加えて住民自らが手伝えること、責任を持つことを認識しなければならない

- ・ 人間を大切にすること、健康を保つために健康保険や医療の充実が必要
- ・ 精神面、知的に考えるという教育が必要である
- ・ エジプトは鉄道敷設という点では、イギリスについて早い時期であったにもかかわらず、現在は多くの交通問題を抱えている。一步一步進めることと、交通の信頼性が重要である。
- ・ クッターブで講話を行い、若者が参加できるようにすれば、彼らのマナーが変わっていく。
- ・ 年上の人や、全ての人々を尊敬できるようなマナーを身につけるべきである
- ・ 消防団はないこと
- ・ Souq El Selah を歩行者の道にしてトゥクトゥクを排除したい
- ・ ソーシャルクラブがない
- ・ トゥクトゥクの駅を作ること
- ・ 議論に対する解決法が見出せていない。行政側に対して、自由に意見を言える場所が必要で、合理的な解決方法が選択されなければならない。
- ・ 子供のために子供の才能を開発する数多くのワークショップを開催してほしい
- ・ 新しい Souq El Selah の本が印刷され、驚いた
- ・ 早く問題を解決して、この場所の美しさを取り戻し、地域の発展できることをのぞむ。
- ・ 人が歩くところ、トゥクトゥクが走る場所を決める
- ・ 子供が遊べる場所、駐車場を決めるべきである
- ・ 街に緑を増やす必要がる。特に歴史的な建築の近くに、人が集まるので。
- ・ 通りの雰囲気をよくするために、街灯と人が座れる場所を作ってほしい。
- ・ 遺跡と観光客を守るためにセキュリティオフィスが近くに欲しい。



6月ワークショップ（ディスカッション）



6月ワークショップ（ディスカッション）

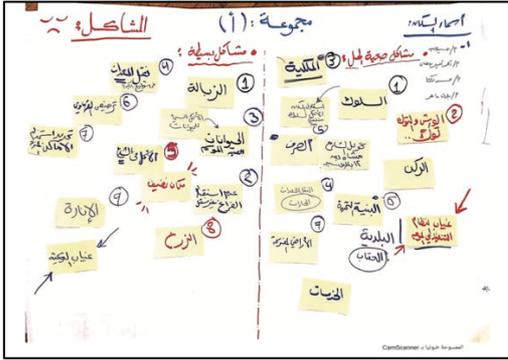


6月ワークショップ（発表）



6月ワークショップ（発表）

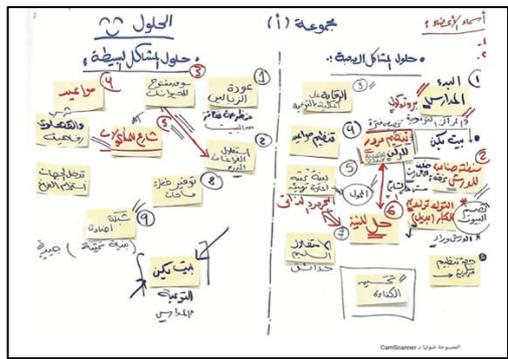
① 交通計画：6月26日（日）住民ワークショップ（男性）A0シート



男性グループ (A) 地域の課題 (アラビア語)



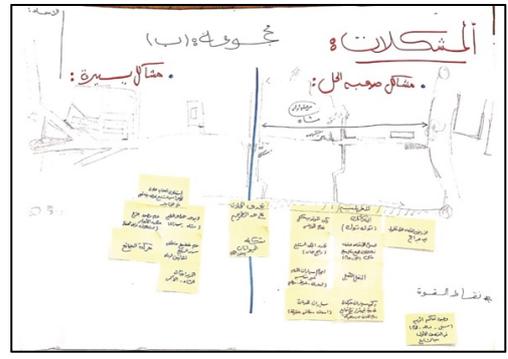
男性グループ (A) 地域の課題 (英語訳)



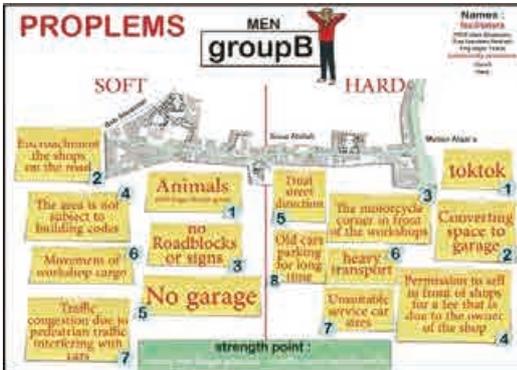
男性グループ (A) 解決方法 (アラビア語)



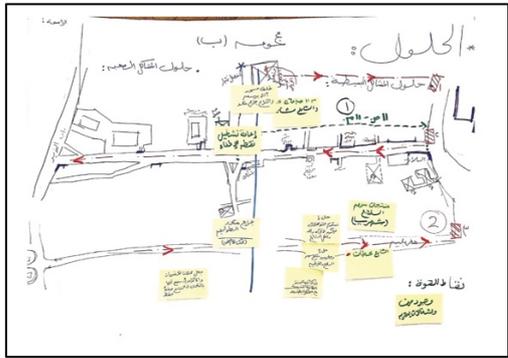
男性グループ (A) 解決方法 (英語訳)



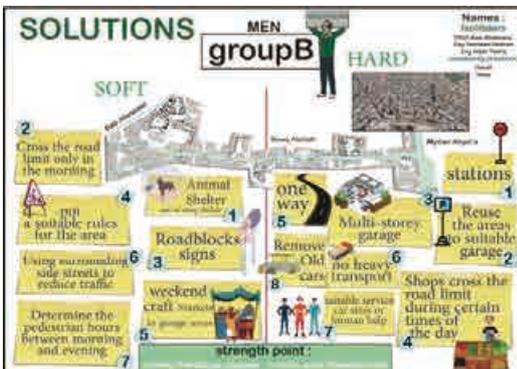
男性グループ (B) 地域の課題 (アラビア語)



男性グループ (B) 地域の課題 (英語訳)



男性グループ (B) 解決方法 (アラビア語)



男性グループ (B) 解決方法 (英語訳)

① 交通計画：6月27日（月） 住民ワークショップ（女性）A0シート

女性グループ（A）地域の課題（アラビア語）

女性グループ（A）地域の課題（英語訳）

女性グループ（A）解決方法（アラビア語）

女性グループ（A）解決方法（英語訳）

女性グループ（B）地域の課題（アラビア語）

女性グループ（B）地域の課題（英語訳）

女性グループ（B）解決方法（アラビア語）

女性グループ（B）解決方法（英語訳）

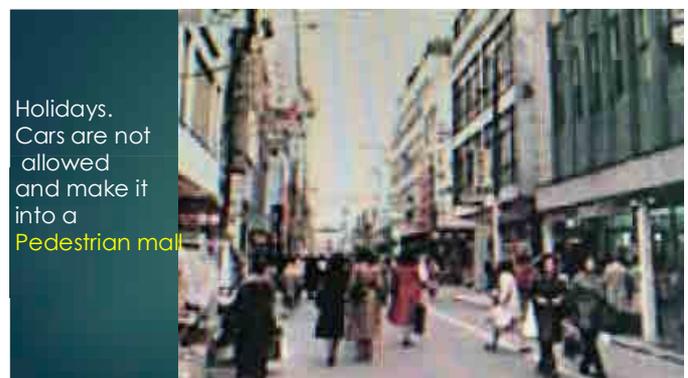
□ ワークショップ、ミニレクチャー：道路のデザイン 連健夫

交通と通りのデザインの参考として、横浜元町の事例を観てみましょう。

横浜元町の通りの昔の状況です。
多くの車と人で混雑していますね。

その対策として、休日に、車が入れないようにしました。歩行者天国ですね。

まちづくり協議会では、通りのデザインについて何度もディスカッションがなされました。



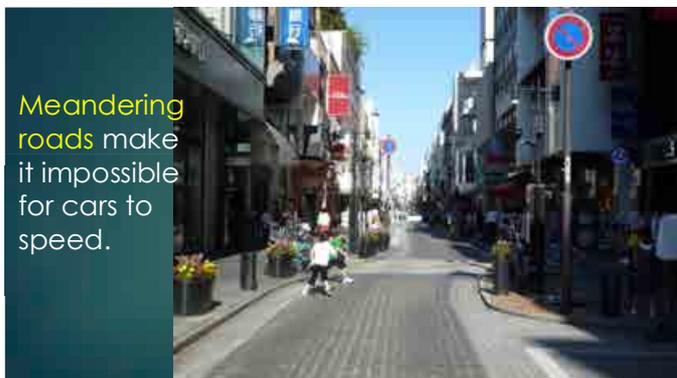
通りのリニューアルデザインです。
道路を緩やかに曲げ、歩道を広くし、ベンチ
やボラード、ストリートファーニチャーが配
置されています。



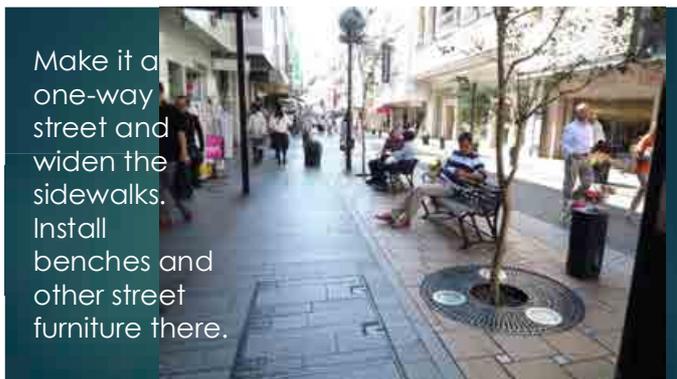
通りの入口にゲートが設けられました。
ここからが元町！という雰囲気がありますね。



緩やかに曲がった道により、車はスピードを
出すことができなくなりますね。また道の雰
囲気にもメリハリが出ます。



一方通行にすることにより、両側の歩道を広
くすることができますね。ベンチなどのスト
リートファーニチャーが配されています。



所々に駐車スペースが確保されています。これで店への品物搬入もうまくいきます。

Parking spaces in some places.



交差点では、道路と歩道の段差を無くすなど、車椅子利用者にも配慮がなされています。

At intersections, the difference in level between the sidewalk and the roadway is eliminated..



道の要所に、元町のシンボルマークが印されています。おしゃれな感じがしますね。

Designing city symbols on streets.



ボラードは、ガードレールのように道路と歩道を分断することなく、歩道を意識させることができます。照明器具が入っているものや植栽できるものなど、色々な種類があります。

Gentle Separation of sidewalk and roadway by bollards



花が植えられたボラードです。きれいですね。道に潤いを与えます。

Bollards
with flower
baskets



ポストの色は、落ちついた濃い焦げ茶色です。一般のポストは赤色ですが、目立ちすぎますね。

Post
painted in
calm dark
brown



床のタイルや敷石も、歩道と車道の違いを意識して選ばれています。

Floors are
designed
tiles



ショウウィンドウのガラスには切り文字が用いられています。品物も見えるし、字体を工夫すればおしゃれになりますね。ここでは切り文字をルールとして推奨しており、街の雰囲気づくりに役立っています。

The rule is to
use cut
letters for
showcases.
This creates
a stylish
atmosphere.



店の看板は、ライトで照らす外照式がルールとなっています。ファッションナブルな雰囲気を作っていますね。



道のデザインやルールについては、住民によって継続的に話し合われています。それによって、街の安全性も維持されます。



住民参加による道の維持管理の流れ

- ①問題を整理し、解決策のアイデアに優先順位をつける。
- ②解決策を実行するための方法、プロセスを検討する。
- ③車を入れない時間制限や、一方通行の交通計画を検討する。→警察や行政と連携し、社会実験を実施する。
- ④社会実験の検証を行い、その課題を解決する。
- ⑤リニューアルデザインを行い、その実現に向けて方法を検討する。
- ⑥リニューアル後も、定期的に道路の使い方を話し合い、調整する。

Flow of Street Maintenance (Resident Participation)

- ▶ (1) Organize problems and prioritize solution ideas.
- ▶ (2) Examine the method and process of implementing the proposed solutions.
- ▶ (3) Consider time limit and one-way traffic plans that do not allow cars to enter the road. →Coordinate with police and administrative departments, and conduct **social experiments**.
- ▶ (4) Verify the **social experiment** and solve the issues.
- ▶ (5) Conduct Renewal design and discuss how to use it.
- ▶ (6) Discuss and adjust the usage of the street on a regular basis after the renewal.

② ゴミ問題

〈テーマ説明〉アラー氏から以下の論点が解説された。

- 建物が廃墟化してしまった土地は、周囲の建物から見下ろす人々にとって、ゴミ箱というか、ポイ捨ての場となる。バイトヤカンはその一例である。
- 家庭への戸別収集と専用ゴミ置き場への持ち込みの長所と短所。
- 現地住民から見た「ゴミ」とは何だろうか？自分たちの用途に合わないモノ？他の人たちの用途を考えた場合どうだろう？物を捨てると決める前に、地域の人々の間で「自分が使わないモノ」を循環させることはできないだろうか？これは、「自分で使わないもの、消費しないものを贈るべきではない」という信念と矛盾するだろうか？
- ゴミ収集所：ゴミの与える負の影響を最小化するための場所、設計、および運用ガイドライン。
- ゴミの分別とは、個人、家族、共同体、ビジネス、あるいは行政の義務？
- 例えば、ハンマーム（共同浴場）の炉でゴミを燃やしてお湯を沸かし、灰をつくって建築に利用するなど、伝統的なゴミのリサイクルシステムを復活させることはできないか。
- ゴミ袋は誰が作っているのか？プラスチックであるべきなのか？自分たちでゴミ袋を作ることはできるのか？ゴミ袋は必要なのか？
- 地域の現在のゴミ収集システムに対する評価は？
- ゴミの集積は病気の温床、悪臭、有害な昆虫の環境となる。
- ゴミと野生動物（犬や猫）の関係
- 公共のゴミと民間のゴミとは何なのか？一般ゴミはあるのか？

続いて、アフマド・アブデル・ハーフェズ・オスマン氏が意見を述べた。「今日、ワークショップに参加するために来たとき、道路の途中がゴミで通行止めになっていて、とてもひどかった。以前はゴミの状況がひどかったが、今では問題が 80% 解消されている。以前、スペインの会社がカイロのすべての街路の清掃を担当していたが、停止した。私たちは、問題の原因とその解決策は個人の行動に依存すると考え、それが危機を解決するための鍵である。アート、モスク、ソーシャル メディアは意識を高める上で非常に重要な役割を果たしており、80%-20%ルールに焦点を当てる必要がある。」

〈ミニ・レクチャー：ゴミ問題〉連健夫 続いて、連氏から日本での事例の紹介があった。内容は■ 3. 章末に掲載

〈グループディスカッション〉ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載した A0 シートが作成された。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉

- ・ ごみは大きな問題を引き起こした。1 伝染病や病気の蔓延。 2 地域火災。
- ・ 隣家には人が住んでいないので、周囲の住人がその屋上にゴミを捨てる。ゴミが沢山溜まって、この家の屋上はゴミだらけになった。問題は溜まったゴミを片づけずに、ゴミに火をつけることだ。すぐ近くにある電気柱に引火して、火事になりそうになったことが何度もある。しかし、ゴミを捨てる行為を辞めるには至らない。皆に注意する老人がいるが、ゴミを捨てる人達は辞めることはなく、彼らはいつも喧嘩になる。
- ・ 空地にゴミが溢れてしまうので、地域の規則に従わない人には罰金を課せるべきである。
- ・ 家の外の掃除人がいない。ゴミが犬や猫などの動物の餌となる。ネズミや爬虫類が増える。
- ・ 推奨される解決策として、工房を改造して特定のゴミ収集所とする。家でゴミを分別し、ゴミ収集センターを作る。

- ・地域の鉄または木の工房と協力して、ゴミ箱を作成する。
- ・家まで来てゴミ収集にきてくれる人がいるが、その日数は少なく週に二回か三回だけである。近所の人は玄関やフラットの前に、彼が来るまでゴミを放置しておくので、悪臭が漂い、ゴミ袋から水が漏れ、階段や廊下が汚くなる。私は、彼が来る日を待たずに、来ない日には自分でゴミを収集場所まで持って行く。周囲の人は、彼にお金を払っているので自分でわざわざ出せに行く必要はないと言うが、自分でゴミを収集場所まで持って行く日が多い。その際、ゴミは適当に道に捨てるのではなく、ゴミ収集が頻繁におこなわれているところまで持って行って捨てるので、結構、長い距離、ゴミを持ち歩かねばならない。
- ・昔のようにゴミを家まで収集にくる人（Door to door）という制度に戻し、ゴミ代を収集人に払うことがゴミ問題の解決方法の一つとなる。その際には、現在の電気代に同梱されている政府が集めるゴミ代を電気代の領収書から除いて欲しい。また、十分なゴミ収集がはかれるように（道路等にゴミを遺棄することのない）、住民の中から責任者を決めて、収集人の回収の回数などを話し合い、管理していくべきである。
- ・ゴミの捨て方だが、生ごみだけを家に収集に来てくれる人がいる。鳥や動物の餌として生ゴミを使っている。これによって、ゴミを捨てる行為が楽になり、ゴミの量も減るので、生ゴミをもらってくれる人を探したらどうだろうか？
- ・生ごみというより、食事の食べ残りをもらいに来てくれる人がいる。動物の餌ではなくて、人が食べるのだが、周囲をよくみわたせば、食事の残りをもらいたい人が絶対にいる。
- ・ナディア（ルカイヤ・ドウドウの隣でゴミを分別している女性）は、スーク・シラーハに悪影響を与える。彼女のせいで通りが汚くなるので、収集場所を通りから遠い所に移すことを希望する。
- ・ナディアはゴミを分別してくれるという点からスーク・シラーハの宝と見なされ、適当な空地进行ゴミ収集、分別、リサイクルの場所として設計し、彼女が責任を持つことが望ましい。
- ・ゴミや廃棄物のリサイクルと再利用に子供たちが参加するよう奨励する
- ・私は学校で教員をしているので、生徒に簡単なリサイクルの仕方を教えている。最初に期待していたよりもリサイクルの意味を子供達が理解し、ペット・ボトルやガラス瓶を使って沢山の物を作ることが出来た。鉛筆ケースなどが作れた時に子供達はとても嬉しく、教室に飾っている。ゴミ問題を解決するのに子供達の力や理解が必要である。
- ・伝統的な木工細工の工房から排出される木材の破片をサツマイモとトウモロコシを焼きに使う。現在でも廃材を買いに来ている人はいるが、スーク・シラーハ名物として、屋台を現地の木工業者作ってもらうことで、街の持続性が高まる。
- ・鳩の糞を使って有機肥料を作り、それを使って木を植える。
- ・また、鳩の塔で飼われている鳩の糞も、色々な作業に使える。エジプトでは鳩の糞は髪の毛に効果的で、髪の毛少ない人は髪の毛を全部剃って、鳩の糞を頭に付けると元気な髪の毛が出ると言われているので、鳩の糞からクリームなど作れると良い。
- ・余剰食料を、貧しい人々のニーズを満たすために使用する。
- ・フェイスブックに本や古着など古着を集めたページを作り、住民に公開する。
- ・人々、特に子供たちを教育する必要がある。なぜなら、彼らは未来を背負っていくのだから。子供達に街を綺麗にしなければならないことの価値観を教えるべきである。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

- ・ハニ・アリ氏が 2012 年に実施したゴミのプロジェクトと、実現可能な解決策について話した。こ

のプロジェクトには、ダルブ・アフマル地域全体が含まれていた。米国国際支援基金（Al-Darb Al-Ahmar Development Initiative Project）によって資金提供され、ゴミ袋が住民に無料配布された。なぜいつも 0 からスタートするのだろうか？度重なる経験を利用しないのだろうか？例えば、アメリカが行ったプロジェクトについては、一年半の間、上手に続けられたが、残念ながらその後、止まってしまった。このワークショップも日本人とのプロジェクトを 0 から始めている！最初のステップからスタートしたくないので、新たにプロジェクトを始める場合には、昔終わったプロジェクトの結果からスタートするべきだと思う。

- ・ なんらかの理由で、このプロジェクトは中止され他ので、現在利用可能なゴミ処理会社でこのアイデアを再び復活させるためには、管轄当局との調整が必要である。
- ・ 家でゴミ分別するためには、毎日ゴミ袋三枚が必要で、月に 90 枚のゴミ袋が必要となる。毎月 90 枚のゴミ袋を買うのは負担なので、自分で買うのは嫌だ。中央区（ハイイ・ワサト）や日本人に買ってもらいたい。
- ・ 工房の廃棄物を収集する必要がある（革や靴の廃棄物）。
- ・ ごみ収集車のサイズが小さいければ、狭い通りにも入ることができる。
- ・ 10 年間外国にいた一人の男性の意見では、「10 年前のダルブ・アフマルと今のゴミの量を比較すれば、今の方がゴミが減ってきたような気がする。自分が住むハーラ（街区）はとても綺麗なので、見に来てほしい。ゴミの量が減って来た理由は、リサイクルの価値が分かってきたからだと思う。ゴミを捨てるとすぐに誰かが持って行って無くなる。特にダルブ・ショグラーンではリサイクルがとても上手に出来ている。スーク・シラーハ通もリサイクルが始めれば良い。」とのことだった。しかし、別の人は「リサイクルの作業をやっている大会社は絶対に私達にやらせない。だからこの地域だけのリサイクルは出来ない。」というリサイクルに対する意見が出た。
- ・ ゴミ問題の解決に対してゴミの捨て方、リサイクルの価値を社会に広めるのにテレビ、ラジオ、アニメも使って欲しい。

〈発表（女性）〉それぞれのグループが発表を行った。

女性たちは、1- 解決が簡単な問題と 2- 解決が困難な問題に分けられるが、大きな問題点は、地域の空き地が日を迫うごとに変化していること、ゴミで空き地が埋まってしまうので、住民は集まって協力して問題を解決し、ポジティブなものに変えていくこと、地域のルールを守らない人には近隣の住民が罰金を設定し、課すという解決策を示した。

- 1- 住民がいくつかの問題を解決することができるので、住民レベルでゴミ問題に貢献する。
- 2- 家からゴミの分別を始め、住民にとって最適で適切な場所をゴミ収集センターにする。
- 3- 余分な鉄や木のスクラップは、ゴミ箱を作るために使用することができる。
- 4- 子供たちにゴミや廃棄物のリサイクル、再利用に参加するよう奨励する。
- 5- 鳩の糞を有機肥料の製造に利用し、それで植樹をする。
- 6- 人口の余剰食糧を貧困層のニーズに合わせて使用する。
- 7- Facebook にページを作り、本や衣服などの中古品を集め、住民のための公募展を開催する。
- 8- 人々、特に子供たちを教育する必要性。子供たちが未来の地域を構築する。
- 9- ナディア（ゴミ収集人）を励ます。空地进行をゴミ収集、分別、リサイクルの場所として設計する。

〈発表（男性）〉それぞれのグループが発表を行った。

男性たちは、2022 年以後に実施可能な解決策と、すでに実施された解決策について話し合った。解決策は、以下のようにいくつかのポイントに分けられた。

- 1- 工房から出るゴミや廃棄物を総合的に回収するシステムを構築する。
- 2- 学校、モスク、公式チャンネル、ソーシャルメディアを通じて意識を広める。
- 3- 地域全体を再計画し、人口密度を考慮した上で、ゴミ収集場所として適切な場所を提供する。
- 4- ゴミを、公衆浴場を開店し、お湯を沸かすのに再利用する。
- 5- ゴミのリサイクルや分別のために空地を利用する。
- 6- 猫や犬のためのスペースを設計する。
- 7- 緑地の面積を増やす。
- 8- 地域に合った箱を使う。例えば、ゴミ置き場は地面や地下に埋まるように置く。
- 9- 家々のゴミを分別することから始める。
- 10- 家からゴミを集める時間を決める。
- 11- 工房のオーナーに、木材の派材からゴミ箱を作るよう奨励する。
- 12- 家の中から収集場所までゴミを投げ入れるようにサービスを設計。戸別訪問によるゴミ収集。
- 13- 路面に植樹し、残滓としての有機食品廃棄物を農業用の天然肥料として利用する。
- 14- 未使用の住宅敷地や狭い通りの天窓を利用して、ゴミ箱の回収場所を確保する。

〈まとめ〉

ゴミ問題に関する問題点が、サラール氏、アラール氏によってまとめられた。サラール氏は、「第一に、地域のゴミ問題がいかに深刻で、地域全体に害を及ぼす可能性があることを、人々に可能な限り伝え、認識させる必要がある。この認識は、次の3つの主要な関係者によって導かれる。1 学校（最初から子どもの意識を大切にすることがポイント）、2 モスクと宗教意識、3 アートとソーシャルメディア。」であると述べた。

一方、アラール氏はまず、問題を整理した（解決しにくい問題と解決しやすい問題がある）：1-ゴミの結果としての伝染病や病気の蔓延。2-空地。3-ゴミを運ぶためのカートが利用できない。4-一部の通りは非常に狭い（ゴミ収集車が通れない）。5-工房の廃棄物。6-車のサイズが大きい。7-人口密度の増加による個人の悪行。8-カイロの都市計画の不規則性。9-ゴミ収集の場所とセンター。10-家庭からゴミを収集する時間の不遵守。11-ごみ収集の料金の差異。12-十分な資金の不足、および現在の状況の不適切な設計。13-昆虫、猫、犬が大量に存在し、通りのゴミを食べる。14-地域資源活用で（もったいない！）地域人口が必要とする食料に大きな余剰ができる。

23日の女性の回については、前回6月時には、住民女性の集まりがよかったのに比べ、今回は広報に問題点があり、地元の女性がわずか5名、専門家が7名という偏りが生じてしまった。住民たちによると、十分にWhatsAppを通したお知らせが回っていなかったとのことで、今後の反省点となった。当初は2つのグループにする予定だったが、5名しか出席者がいなかったため、一つのグループで進めることにした。またスーク・シラーハ・レポート（6月にプリントしたスークシラーハの調査結果と未来へのビジョンの本）を届けるために観光考古省ダリア大使をアラール教授と深見が訪問しファシリテーター養成プロジェクトの説明をしたこともあり、専門家としての観光考古省からの出席者が多かった。

専門家に関しては、メニューフィヤ大学教授アラール氏、調査整理作業補助を行なう若い女性建築家（ファーティマ）、アラール氏の学生（ヤスミン）、考古省関連の女性6名が参加した。ファシリテーターをアラール氏が務め、ワークショップ経験のあるファーティマとヤスミンが主導する形で住民の意見を付箋紙に記入するという形となった。そのほかに、ユネスコの高橋氏、都市の動体を探る日本人女性2名とその同行者エジプト人も参加した。

深見から前年度の文化庁事業のアラビア語字幕ビデオを紹介し、肖像権についての了解を得た。今後

のワークショップにおいても、最初にビデオや写真に関する肖像権を得ておくことは重要な点である。その後、深見から、日本におけるゴミ屋敷（片付けられなくなってしまった人々）のことと、日本の廃棄された携帯電話から金の取り出しの話を通じてゴミは宝であるという点を紹介し、ゴミ問題についてアラー氏から日本の事例（ファシリテーターコースで連氏の提示したプレゼンテーション）を紹介しながら解説が行われた。前会同様に30分弱と長引いてしまったが、参加者は熱心に聞いていた。

ディスカッションについては、住民たちが少数であったために、うまく意見を聞き出せたのかという点については疑問が残る。ただし、住まいの場所や職業の異なるファシリテーターと住民の間で、世間話のような点から、ゴミからの発火による火災、荒廃して無人化した敷地の危険性、ゴミの捨て方の変遷、ゴミリサイクルの方法などの問題点が指摘共有された点は、女性としての経験を基盤としたネットワークづくりに長けている点を垣間見た。

その解決方法にしても、住民自身の行動によって問題が解けると積極的な介入を見せる点は興味深い。また、木工細工職人の多い地域なりの、廃材の利用法、ゴミ分別のためのスペースの確保、子供たちへのリサイクルの教育や Facebook を使った廃品情報共有、飼育鳩の糞の理法、余剰食物を貧者へ分配する点なども指摘された。特にルカイヤ・ドウドウの前にいるゴミ分別のナディア氏に対しては、交通問題を扱った際には問題点として指摘され、排除の方向性が提示されたが、今回は彼女のリサイクルという行為を好意的に捉え、ゴミは宝であるという認識が共有された点は、ワークショップの一つの成果であると思う。

歴史的市街地は、ランダムで、古くて壊れているものも多く、見方によってはゴミと一緒にされ、排除の方向に動いてしまう。しかしながら、そこには人間が長い歴史を重ねて培ってきたものも含まれていて、新しいものにとって変わることが必ずしも良いとは言えない。一度廃棄してしまったら、2度と元に戻せないものも含まれている。どのように残していくのか、利用していくのかという点は、現在の私たちの課題である。ゴミもその利用価値をさぐりながら、再利用できるものは、再利用し、廃棄の方法も考えていかねばならない。

24日の男性のワークショップについては、住民、専門家ともに、女性の場合を上回った。ワークショップ自体は6時開始で、専門家は5時半頃から、住民は6時すぎから漸次集合していった。専門家に対するワークショップの説明に関しては、集合状況から一括で説明することが難しく、昨日のワークショップに参加し二日目となる専門家から説明してもらった形をとった。開始前の住民との会話も進んでいたために、昨日同様ファシリテーターを指名する形とはならなかった。

女性と同じ手順で進められた。男性の場合、以前のごみ収集のプロジェクトが取り上げられ、持続性がないのはどうしてなのかという質問があった。深見から、「現地のことは住民みなさんが一番よくわかっているのだから、持続性を保つのは、みなさんの責任なのではないでしょうか？それができるように地域の意見をまとめて、地域をよくしていくことが大切ですね。」という回答を行なった。

女性の問題点とは異なり、工房の皮の廃材が取り上げられた。またごみ収集の車のサイズは、小路にあうように小型化が図られるべきであること、ゴミを運ぶためのカートの不足、人口密度の過剰などが指摘された。

その解決方法として、包括的なシステムの必要性、ソーシャルメディアから意識を高めること、ごみ収集場所の決定、ハンマームでのゴミの再利用なども提案された。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉合計 19 名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い (18 名)・普通 (1 名)・悪い (0 名)

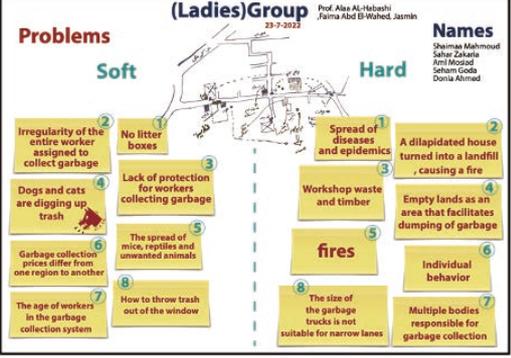
2- 今回のテーマに対する問題や提案

- ・ ゴミは町のあちこちにあります。
- ・ ゴミを片づけるために、ゴミ箱を沢山作るべきです。
- ・ ゴミを分別する必要があります。
- ・ ゴミを捨てるべき場所と時間にあまりに気にしない女性たちがいます。
- ・ 女性や子供にゴミ問題の解決方法やゴミ問題の必要性、ゴミの片づけ方を教えるべきです。
- ・ ゴミ問題
- ・ ゴミの片付け方とゴミのリサイクル方法。
- ・ ゴミ問題を解決しようとした以前のプロジェクトを参考にすること
- ・ トウクトウとゴミ
- ・ 人を育てること
- ・ ゴミ
- ・ 文化的な意識を高めること。
- ・ 掃除の問題
- ・ ゴミ問題を解決する方法の一つは、無料リサイクルのためにゴミを集め人の数を増やすことです。
- ・ ゴミ箱が少ないので、例えば人に見られてもゴミを適当な場所で捨てることができるということが問題です。
- ・ 解決はゴミ箱の数を増やすことと、ゴミの片づけ方の知識を広げることです。
- ・ ゴミ分別およびゴミリサイクルには、経済的な理由と宗教的な理由があります。
- ・ 話し合ったことを実践するべきです。
- ・ ゴミ分別を家での実践からスタートするべきです。

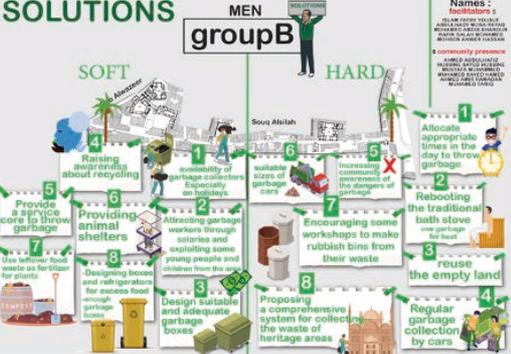
3- 自由記述

- ・ ゴミ問題を解決するには、子供用のワークショップを開催して、子供にどのようにしてゴミを片付け、街をきれいにするかを教えるべきです。
- ・ 一番綺麗なハーラ（街区）を選ぶ競争をして、賞を与えるべきです。
- ・ ゴミ箱をたくさん道に設置するべきです。
- ・ ゴミのリサイクルの仕方とリサイクルの必要性を教えることです。
- ・ ゴミを集めるための場所を決めることです。
- ・ 大人にも子供にもゴミの捨て方をおしえることです。
- ・ 良いマナーや知識を人々に教えることです。
- ・ ゴミの片づけは片付ける人を決めて、その人にお金を払ってごみ収集を任せるべきです。そして、きちんと時間通りに収集に来てくれるようにしなければなりません。
- ・ ゴミの問題について、母親たちや子供たちと話し合う機会を設けるべきです。
- ・ 実はカイロ中央地区・地区長はとても真面目で仕事をちゃんとしています。
- ・ 他人の意見を尊敬するという意識を高めることです。
- ・ 「自分で道を掃除したりゴミを片づけたりすることは恥ずかしいことではない」という意識を社会に広げることが必要で、この知識を広げるためにテレビドラマやアニメを使うことができます。
- ・ ゴミに対する知識を広めるには、モスクと学校を使うことです。ハンマーム（伝統的公衆浴場）を復活して、水を温めるのにゴミを使うことに賛成です。

【②ゴミ問題：7月23日（土）】住民ワークショップ（女性）

	
<p>女性グループ 地域の課題（アラビア語）</p>	<p>女性グループ 地域の課題（英語訳）</p>
	<p>女性グループ 解決方法（英語訳）</p>

【②ゴミ問題：7月24日（日）】住民ワークショップ（男性）

	
<p>男性グループ（A）地域の課題（英語訳）</p>	<p>男性グループ（A）解決方法（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（B）地域の課題（英語訳）</p>	<p>男性グループ（B）解決方法（英語訳）</p>

住民ワークショップ風景（2022年7月）



7月ワークショップ（ディスカッション）



7月ワークショップ（ディスカッション）



7月ワークショップ（発表）



7月ワークショップ（発表）

□ ワークショップ・ミニレクチャー：道路のデザイン 連健夫

ゴミ問題をテーマにしたワークショップのきっかけとして、日本の事例をお話します。

■ゴミ問題検討のための参考事例

(川崎市、京都東山)

■日本では、ゴミは公衆衛生における大きな問題でした。公的な対応が求められていました。

■ゴミは埋め立て事業にも用いられ、生ごみの発酵時に発生したガスによる自然発火や悪臭などが大きな問題でした。

そこで、公的なゴミ収集の仕組みとして、ゴミ収集車と焼却炉の整備が行われました。

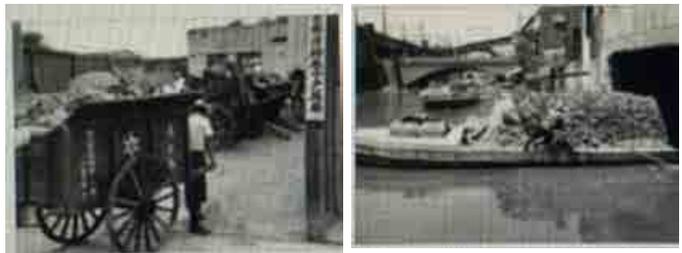
■日本でのゴミ処理の歴史

- ・1940～50年代：環境衛生対策→「清掃法」(1954年)
- ・1950～60年代：公害問題、廃棄物処理問題→「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(1970年)
- ・1980年代：廃棄物処理施設の開発→浄化槽法(1993年)
- ・1990年代：リサイクルの推進と公害対策→産業廃棄物特定処理施設整備法(1992年)
- ・2000年代：循環型社会の形成→リサイクル法(2000年)、PCB特別措置法(2001年)

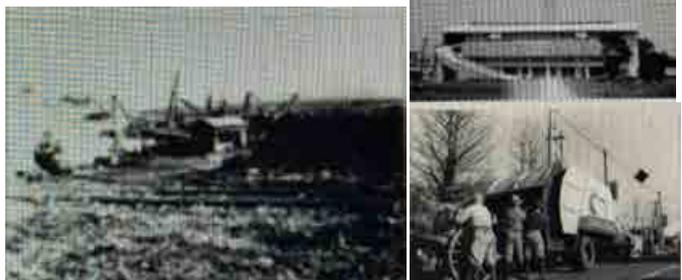
つまり、健康問題が、廃棄物処理システムを生み、それが、ゴミの分別とリサイクルシステムに繋がったという流れです。

Garbage problem , Examples for the Solution in Japan
(Kawasaki-shi Kanagawa, Higashiyama Kyoto)

In Japan,
Garbage was big issue in public health problems.
Public collection of garbage has begun.



Garbage is used for landfills.
Disposed of in an incinerator Facility
and using Road-Packer vehicle.



History of Waste Treatments in Japan

- 1940s, 50s : Environmental Health Measures →Cleaning law(1954)
- 1960s, 70s : pollution problem & Waste Treatments
→Waste Management and Public Cleansing Law (1970)
- 1980s : Development of waste treatment facilities
→Septic Tank Law (1993)
- 1990s : Promotion of recycling & Measures against pollution
→Waste Disposal Facility Improvement Act (1992)
- 2000s : Formation of a Recycling-Oriented Society
→Recycling Law,(2000),PCB Special Law(2001)

Health Issues → Waste Disposal System
→ Separate Disposal & Recycling System

■川崎市の事例、ゴミの収集システム

ゴミ袋やゴミ箱を所定の場所に置き、そこにゴミ収集車が来て収集するシステムです。



Garbage Collection system (Kawasaki-shi)



■ビニルのゴミ袋は、カラスの被害にあいやすいので、ネットをかけて防いでいます。

Plastic bags and Crow defensive netting



■ゴミは収集日に出し、それ以外の日はネットをたたんでいますね。

Garbage is taken out on the collection day. On the other day, nets are folded.



■ゴミの収集日は、ゴミの種類によつて異なります。右側のゴミケースは普通ゴミとポリ袋ゴミ、左側の青いケースは、ガラス瓶や空き缶用です。

Garbage collection days vary depending on the day of the week. The case is for garbage bags, the blue basket is for glass bottles



■折りたたみ式ゴミケースは、収集日でないときはたたんでおきます。

Foldable Garbage Case

The Cases can be folded on the day ,cardboard or paper is put out.



■様々なタイプの既製品のゴミ箱があります。様々な大きさ、デザインがあります。

Various types of ready-made garbage cases



■様々なタイプの既製品のゴミ箱があります。様々な大きさ、デザインがあります。

Garbage Case, handmade by an ironworks



■分別のゴミ収集のシステム

- ・月曜日：無し
- ・火曜日：普通ゴミ
- ・水曜日：プラスチック製容器包装
- ・木曜日：ミックスペーパー
- ・金曜日：普通ゴミ
- ・土曜日：ガラス瓶、ペットボトル

分別はリサイクルに役立っています

Separate garbage collection system



Monday: none
 Tuesday: ordinary garbage
 Wednesday: plastic garbage
 Thursday: cardboard, papers
 Friday: ordinary garbage
 Saturday: glass bottles, Pet bottles

For Recycle Use

■ゴミ収集車（ロードパッカー車）

青い車は一般ゴミ収集車、真ん中はガラス瓶収集車、赤い車はプラスチックゴミの収集車です。

Garbage Collection truck (Road-Packer Vehicle)
General garbage truck, Glass bottles truck and
Plastic garbage truck.



■ゴミ焼却施設とその余熱を利用した温水プールを併設した事例です。（川崎市王禅寺、ヨネッティー）

Garbage incinerator and
heated swimming pool facility
using the residual heat
(Ozenji-Yonetti, Kawasaki-shi)



■京都浸し山の歴史的街並みに配慮したゴミ箱の事例です。周囲の木造民家に合わせた木のゴミ箱です。



Trash cases in
consideration
of the
historic
townscape

(Higashiyama
,Kyoto)

■竹や木で設備機器を隠していますね。エアコンの屋外機やガスメーターなどを、うまく覆っています。手作りですね。

Examples of equipment
concealed by bamboo and
wood



■ベンチも歴史的な街並みに配慮して作られています。右側の事例は、民家の壁にうまく折りたたんでいますね。

Benches are also designed with the historic townscape in mind.

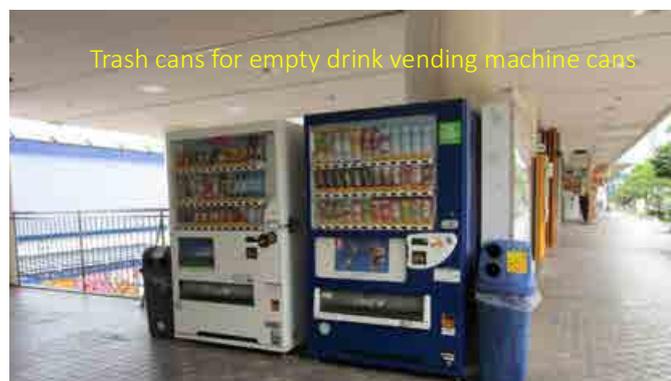


■コンビニエンスストアのゴミ箱です。一般ゴミ、ペットボトル、ビン缶で分別されています。



Separate trash cases at convenience store.

■自動販売機の横に空き缶やペットボトル専用のゴミ箱が置かれています。



Trash cans for empty drink vending machine cans

■デザインされた分別ゴミ箱の事例です。
(東京都港区)、形、色、イラスト等、工夫されていておしゃれですね。

Designed, separating trash cans (Minato, Tokyo)



■喫煙スペースです。

絵が描かれた透明プラスチックのスクリーンで仕切られています。

外で待っている方もいらっしゃいますね。

(東京、原宿)

■きれいな環境、良い地域社会のためには、日々の美観活動が大切です。掃除や植栽の手入れ、芝桜を植えている事例です。

■ポイントです。

1 街のゴミや美観に関する現状の課題を共有します。

2 皆で解決策を考えます。

3 自分たちでできること、行政にお願いすべきことを分類します。

4 行政と一緒に、解決策を考えます。

5 自分たちでできることは自分たちで実行します。(ルール作り、役割分担、優先順位、美観活動)

6, 住民間で定期的なミーティングを開きます。必要な時に行政を招いて話し合います。

皆さんのディスカッションのきっかけにしていだければと思います。

Smoking area by screen (Harajuku,Tokyo)



Daily aesthetic activities are important for clean environment and good community!



Points

- 1, Share current issues related to garbage and aesthetics in the town.
- 2, We all come up with the solution.
- 3, Categorize what we can do ourselves and what we should ask the government to do.
- 4, We will ask the government and work together to find the solution.
- 5, We will do what we can do ourselves.
(Rule making, Role assignments, Priority, Aesthetic activities)
- 6, Have regular meetings with the residents. Occasionally invite the government to the meeting.

③ 防災：事前復興まちづくり

〈テーマ説明〉連氏から以下のような点が述べられた。カイロ旧市街、スーク・シラーハにおいて、防災をテーマにワークショップを行うのは、都市には、地震、火事、水害など様々な災害があり、それに対しての備えが必要であるからである。事前復興まちづくりは、災害が起こる前、すなわち通常時において、災害が起こった時にどうなるのか、どのように復興すればよいのか、をシミュレーションして、日頃のまちづくりに繋げる活動である。今日は、街の危険がどこにあるかをみんなで探してみよう。

アラー氏からは、以下の点が指摘された。1) リスクマネジメントは解体や価値の廃棄の道具になってしまうのか、もしそうだとしたら、どうすればそのような姿勢を防げるのか。2) 「倒壊寸前の建物」とは何か（現実的、社会的、公式的な定義）3) 歴史的町並みの特殊性を保ちつつ、リスクへの備えを再適応させるためのツールはあるのか？4) リスク軽減における優先順位。誰が決めるのか？言い換えれば、より価値のあるものを守るために、価値のあるものを失うことに柔軟に対応できるかどうか？5) 既存の社会構造及び枠組み；リスクへの警戒と対策（国会議員、カフェでの情報共有、女性の声など）。6) リスクマネジメントにおける国、市民社会、地域社会の権利と責任、7) 地域の建築構造物と互換性のない危険な産業や活動（地域に適合しない工房、倉庫、クラッカーで祝う祭り、不適切に設計された空間での水タバコなど）。8) カイロ歴史地区におけるリスクのポイント（バイト・ヤカンで個人的に観察したもの）。a. 耐久性、b. 無計画な掘り出し物（宝探し）、c. 水漏れ d. リスクの高いインフラ（下水道の閉塞、電気設備がない、水道管の組み立てが緩く壊れやすい、電気ボックスやケーブル）

〈ミニ・レクチャー：防災〉 続いて連氏から日本での事例の紹介があった。内容は末尾に掲載。

〈グループディスカッション〉ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載した A0 シートが作成された。街歩きの後には地図上に危険・安全の場所とその解決・利用法が指摘された。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉

- ・ 安全ポイントとしてのオマル・イブン・ハッターブ学校
- ・ バーブ・ワズィール通りのインド人ザーウィヤ(Zawiya al-Hunud)は安全ポイントで、幼稚園として使われていたが、通路は狭いので火事が起こったら危険。
- ・ 危険ポイントとして誰も使っていない三階の建物（昔ショッピングモールだった）、下に電気ボックスある。しかし建物を再利用すれば安全ポイントになる。
- ・ バイト・ラッザーズ前の倒壊建物は危険ポイント、しかし、ラッザーズの入口は安全ポイント
- ・ アガー・ムスタファ・ファザーンのサビールと隣の建物は修復する必要がある。
- ・ ウンム・スルターン・シャアバーン・モスク右角には綺麗な門があるが、近くの通路は電気ボックスの隣に水が漏れ、油も近くにあるのでとても危険。
- ・ ダルブ・アフマルにある配電盤ボックスをどうしたら調和を取れるかと考えた。電気ボックスの外側を、看板として使ったらどうかという意見があったが、低くて駄目だという意見もあった。電気ボックスを統一されたボックスとしたらという意見もあったが、電気会社はすでに鉄製のものがあるからと断るだろうという人もいた。電気ボックスより危険なのは表面に現れている電気ケーブルで、特にガンドゥール通りにある電気ケーブルは、ケーブルに下水漏れが接すると火事になりそうで危険だ。このアルティバルマク前の火事になりやすい油などを早く片付けるべきだ。
- ・ 二年前にスエズ・アパートで入口にあるケーブルが熱くなって爆発した。シハームの家の冷蔵庫が壊れ、近所の扇風機の電気が飛んでしまった。建物全体に悪い影響を残した。
- ・ 問題解決には、住民から賛成をえて、電気と水漏れの通常メンテナンスをする必要がある。また S ス

ーク・シラーハ地域のために狭い通りを通れる消防車を導入すべきだ。

- ・建物倒壊事故もあった。マッカ牛乳店の前の部分が大雨の時に倒壊し、行事ホール(ダール・モナーサバート)の裏にあった家も倒壊した。消防署の隣の家に大きなひび割れがあり、倒壊の危険がある。アルティ・バルマク・モスクの隣のハーラにある家(27A)の階段が曲がってしまい、筋交いを入れたが倒れそうだ。古さや大雨のせいだけで倒壊したのではなくて、遺跡を見つけるという理由で自分の家の下を掘っている人もいて、そのために倒壊する場合もある。
- ・行事ホール(ダール・モナーサバート)に家が壊れてしまった家族が住んでいるが、建物は皆の物なので、皆でつかうようにし、今中に住んでいる家族は違う所に引っ越してもらいたい。
- ・街歩きした時に外に突き出している店の看板は危険だと気づいたので、市民の安全を保護するための条項を作成すべきだと思う。
- ・昔は袋小路があったが今は少ない。通り抜け道路を袋小路と同じような機能やデザインで現代と調和するようにしたいが難しい。なぜなら、昔と同様な街区門は作れないからだ。場合によって開閉できる門を作ったらどうだろうか？
- ・スエズ・アパートとバイト・ヤカンの間に歴史的な壁(スドゥン・ミン・ザーダ・モスク)が残っているので、喫茶店を無くして公園を作れば良い。この喫茶店は、元々人が住んでいるフラットだったが、喫茶店に変更した。以前には駐車場して使いたかったようだ。
- ・ある家は部分的に壊れている、このままほっておくのは良くないが、壊したらゴミ捨て場になってしまう。壊して庭を作ることが出来たら良い。
- ・ダルブ・アフマルでは下水の問題は大きい。
- ・数多くの工房の形がばらばらだ。歴史的な建物の中にある工房もあり、上階に工房を作っている人もいるが、1階にある現代建築の店舗部分を使う人もいる。ダルブ・アフマルの工房の形を調和の取れるものにしたい。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

- ・スエズ・アパートの隣の電気ボックスの側にゴミがあって、危険。
- ・消防署の隣のトゥクトゥク修理屋は、油や火事になりやすい液体があるので危険。
- ・アルティ・バルマク・モスクが1992年地震で壊れなかったので、中を修復して再利用したい。同モスクは広さがあっていいポイントだが、ミナレットにひび割れがあり、モスクの周りに木や油があり、火事になる危険性がある。
- ・ハーラ・カーシフとハーラ・ワリードのパン屋にかけてあるエアコンがとても危険。同じ通りで、電灯柱のところで下水が漏れているので危険。
- ・ゴミ収集人(ナディヤ)の隣のゴミに火をつけられて、学校の壁は火事で黒くなっている。
- ・スーク・シラーハ5番、7番、9番の家は危険ポイント。20番の家の梁は壊れている。50番所有者は壊してマンションにしたいのだが、修復してホテルにした方がいい。
- ・サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウドウの前の通りを掃除する人は、掃除したゴミをフェンスと建物の間に捨てている。
- ・ゴミ収集人(ナディヤ)の向かいの家は歴史的建造物であるが、外から来た人が購入した。
- ・バイト・ラッザーズの家は壊れていて、中に蛇やサソリがいるので、早く修復した方がいい。門の壁に置いてあった鉄が盗まれた。ラッザーズ邸の後ろの家(56番)は負債があるので使えない。
- ・ショッピングモールとして使われた建物を改装して教育センターとして使いたい。
- ・ハーラ・セリームの家は綺麗で、安全ポイントとして使える。ハーラ・セリームの奥は袋小路なので

危険ポイント。特に24番の家の前にある木は倒れそうだ。

- ・ブルーモスクのオマルの墓は改修後使われていないので、子供たちの学校として使いたい。
- ・アトファ・アル・カーシャフの3番目の家は歩行者通路なのにクロスに頼っています。
- ・ハーラ・マズハルにあるサーデク邸は歴史的建造物だが倒壊の危機に瀕して危険
- ・ハーラ・ルーム（ズウェイラ門の北東部）にある歴史的邸宅を外国人が買ってしまったのはなぜ？
- ・ハーラ・ハラワートにある工場は危険。同通り5番の家も危険。
- ・アトファ・シェイフ・アーメルは人口が多く、出口がなく、木の工房もあり、火事があったら大
- ・イスマーイール薬屋の前に下水漏れがあって、電気もあるので危険ポイント
- ・イルゲイ・ユースフ・モスクの中庭は広く安全ポイント。通り向かいの店舗列は壊れていて危険。
- ・ムスタファ・シナーンのサビールに水を留めておけば安全ポイントになる。

〈発表（女性）〉それぞれのグループが発表を行った。

女性グループが示した解決策は、

- 1- 通りや路地のプライバシーを尊重し、扉付きの門を設置する。
- 2- 空地进行庭に変え、ゴミを溜め込まないようにする。
- 3- 配管が何度も詰まり、汚水が道路に溢れるのを防ぐために、インフラを交換する。
- 4- 配電盤の設計を変更、より安全にする。
- 5- ラッザーズ邸の修復後の活用と再利用。
- 6- 電柱の定期的なメンテナンスと、電気の危険から守るための特別なデザイン
- 7- 火災時に水を汲み上げるための地下道路システム
- 8- スーク・シラーハにおける危険の歴史は、失敗を繰り返さないための強力な教訓である。
- 9- 避難場所として学校を活用する。
- 10- モスクを改修し、危険の際に人々を受け入れられるようにする
- 11- 火災のリスクを減らすために木材を保存する適切な方法を見つける。
- 12- 通りを舗装し地域からの脱出を容易にし、その際に大きな惨事を引き起こさないようにする。
- 13- 住宅地内の工場の存在を減らす。
- 14- 電気ケーブルのある場所と水のある場所を分けること
- 15- 消火栓の利用を意識する
- 16- 家庭から出るゴミを分別し、路上のゴミを減らし、それに起因する火災を減らす。
- 17- 解決策をまとめると、危険ポイントは、修復して再利用すれば安全ポイントに変えられる。

〈発表（男性）〉それぞれのグループが発表を行った。

男性グループが示した解決策は、以下のようにいくつかのポイントに分かれた。

- 1- 災害時の正しい行動のあり方について、住民や子どもたちへの普及、啓発が重要である。
- 2- 住棟の復旧と災害時の受け入れ態勢の整備
- 3- 消火栓の再稼働と運用
- 4- 火災発生時の消火源としての地下水システムの利用
- 5- 学校の活用と避難場所としての準備、特に校庭の活用
- 6- インフラの改善と雨を排水するための道路の整備
- 7- 空地进行活用し、ゴミの山の引火を防ぐ。
- 8- 路地裏を拡張・復元し、避難路とする。
- 9- 歴史的建造物を修復し、地震が起きても倒壊しやすい状態にしない

- 10- アクセスが困難なため、シェイク・アムルの代替住宅を見つける。
- 11- 倒れる危険がある大木を剪定する。
- 12- 店舗の修復と、危険のない適切な大きさの看板の設置
- 13- 通りや路地の再計画
- 14- リスクが発生した場合の正しい行動についての教育
- 15- "地震や火事の時、どこに行きますか?"という問いに対する答えを見つける。あなたとあなたの家族を救うために、真っ先に思い浮かぶ場所はどこですか

〈まとめ〉

簡単な問題の解決策としては、

- ゴミの分別の意識を高める。
- 狭い通りにある大きな木を片づける方法。
- 狭い通りに消火栓を作る。
- 道路上、邪魔な物を片付ける。邪魔になっているのはゴミ、使わない車、古い家具など。
- 家の中だけ修繕するのではなく、外構やファサード、入口などもお金かけて修復すべきである。
- インフラストラクチャーの解決は地区の責任だけではなく、ビジネスマンも責任を負うべき。

難しい問題の解決策としては、

- 政府から店主に店頭にゴミ箱を置くという義務付け。
- 考古省は建物高を監視する必要がある。住民同士より、政府が建物の高さに注意するべきだ。
- 工場は危険ポイントになるので、他の地域に移動させる。
- 救急ステーションを作ってもらいたい。事件や事故が起こった時に救急車の出動を可能とする。
- 救急ステーションを作るより、応急処置のガイドブックを作りたい。

などにまとめられる。

住民からここはエジプトなので、日本人のように自由に歩いたり、意思決定に参加できない。街歩きには警備の許可が必要で、街歩きをする意味ないのではないだろうかという意見があった。他に、ワークショップ参加者のグループに写真やビデオや説明などを流してもらいたい、寿司以外に日本食を食べてみたいなどの意見も出た。

今年度のプロジェクトとしては初めての街歩きで、女性参加者は、実際「危険・安全」という視点からみると普段は見過ごしがちだった色々の側面を発見することができ、街歩きを楽しんでいた。一方、男性参加者は、普段から通りと密接な関係を持っているので、危険や安全に対する理解も早かった。

女性のワークショップは、いつものように、よりインタラクティブで統合的なもので、彼女たちは、リスクを実際に直視し、まるで彼女たちが極度の危険にさらされているかのような意気込みで覚悟を決めた。女性から指摘された点は、危険な特に高いところに外付けされた室外機、大量のノコギリの木屑、トゥクトゥクの路上での燃料注入、家具屋の使用する充填材としての麦わら、インフォーマルな電線からの配線などは、今まで気づいていない部分であった。地震等の危機の際には、広い空地を確保できる学校などが安全である。細い路地に密接して立つ高層の建物は危険である。ファーストエイドに対応できる医療チームは、近隣住民が最も必要とするものである。

一方、男性が指摘した点は、配電盤の日常のメンテナンス、工房で使用する木材の適当な保管場所、災害の際の大きな広場の認識、住宅を災害に備えて修復すること、サビール（給水所）の地下貯水槽に緊急時水を貯蔵すること、それぞれの工房の前にゴミ箱を備えて通りにサービスを提供すること、地震や火事の際のそれぞれの人的確な行動が必要とされる。エジプト人は危機に対する認識が薄く、また

は軽微なものと考えがちである。災害は多くのものを奪い去るという点を認識しなければいけない。建物に対する日常のメンテナンスを怠りがちであることは、小さな地震や嵐でも建物の倒壊を招いてしまうなどの意見に注目できる。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉合計 26 名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い (24 名) : 普通 (1 名) : 悪い (0 名) : 無回答 (1 名)

2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ 道路に面して危険な家があるので、それらの家を修理すべきです。
- ・ 歴史的建造物を修復利用すること
- ・ 狭い危険なスペースの解決策を見つけること
- ・ 消防と救急車を整備することです。
- ・ ビルの階下にある喫茶店が問題です。家事を起こしやすい建物機能がビルの階下にあることは、火事を起こしやすいので危険です。
- ・ この近くには医療センターがないので、いくつか政府の医療クリニックを作って欲しいです。
- ・ 家事や事件が起こった際には、救急車や消防車が着くまでに救援隊を作って欲しいです。
- ・ 倒れそうな古い建造物を修理すべきです。
- ・ ビルの高さも決めて欲しいです。
- ・ 交通の問題。
- ・ 高いビルの問題。
- ・ 老朽化した建物
- ・ 危険に対して用意が必要です。例えば、消防ホース、消火栓やサビールの再利用などです。
- ・ 事故の際などには、応急手当をしてくれる場所を用意することが必要です。
- ・ ここまで来るのは大変でした。車を停める場所がなくて大変でした。
- ・ 皆、それぞれ希望の時間があるので、ワークショップを何日かに分けて行くと良いと思います
- ・ 住民も責任者も総合的な意識をしていないです。
- ・ 歴史的建造物を修復して再利用すること。
- ・ エジプト人労働者の生活を進歩させること
- ・ 伝統工芸品の販路開発
- ・ 全ての電気配分版を修理すべきです。
- ・ 古い建物や登録建造物の修復を行い、考古学的認識について配慮すること
- ・ エジプトにおけるイスラーム史を認識すること。
- ・ 環境を美化すること
- ・ 歴史的建造物の修復を行うこと
- ・ 歴史的建造物の修復を行うこと
- ・ インフラストラクチャーの問題
- ・ 地域再開発の問題

3- 自由記述

- ・ 今日の提案にみんなが同意して、実施されることを願っています。
- ・ 木を切り倒すのではなく、枝の手入れだけをして欲しいです。
- ・ 古い家や道路に溜まっているゴミを処分して欲しいです。

- ・ サビールを修復して家事の際の水供給に使うことです。
- ・ トックトックが道を走ることを禁止
- ・ 家事になりやすいゴミは、遠くに捨てて欲しいです。
- ・ 喫茶店を減らせば良いと思います。
- ・ 今日のように実際に街歩きをしながら地域に存在する問題を指摘することは、有意義だと思います。
- ・ 危険を避けるために、青少年啓蒙運動を行うべきです。
- ・ 解決方法は建物を修復し、道で邪魔になっているものを全部片付けるべきです。
- ・ きちんと機能する消化器を用意することです。
- ・ 店主が店頭にゴミ箱を設置すべきです。
- ・ 火事の際にはサビールを給水所として使うこと
- ・ この地域の危険なことや事件が減ることを願っています。
- ・ 住民に場所の大切さを伝えることです。
- ・ どのようにしたら危険なことが減らせるのか考えるべきです
- ・ アーレフ・バシャ・モスクは危険です。
- ・ 災害を避けるために、下水道問題の解決策を見つけること
- ・ 現場で現実的な解決策を検討することです。



8月ワークショップ（ディスカッション）



8月ワークショップ（ディスカッション）

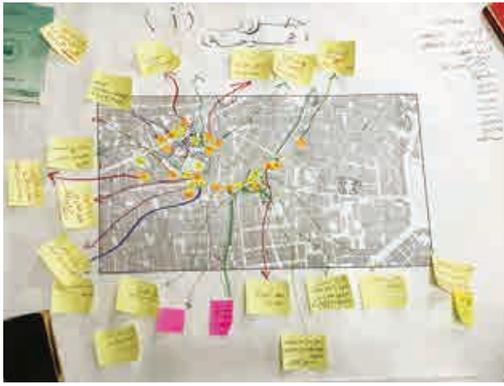


8月ワークショップ（ディスカッション）

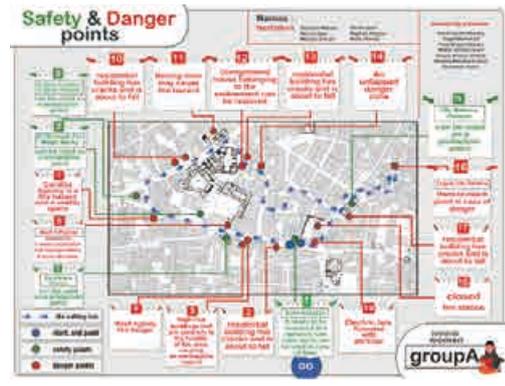


8月ワークショップ（ディスカッション）

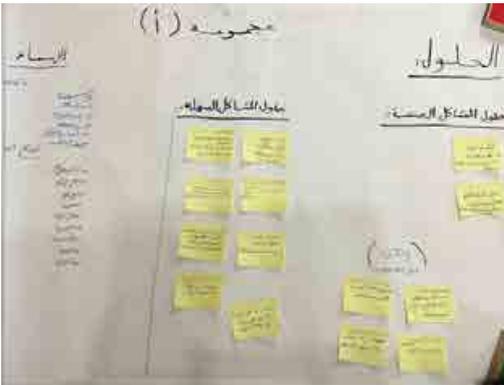
【③防災（事前復興まちづくり）：8月20日（土）】住民ワークショップ（女性）



女性グループ（A）地域の課題（アラビア語）



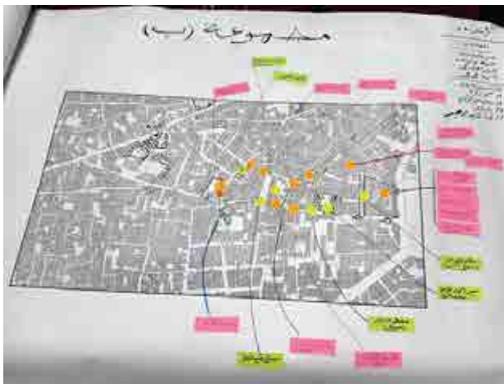
女性グループ（A）地域の課題（英語訳）



女性グループ（A）解決方法（アラビア語）



女性グループ（A）解決方法（英語訳）



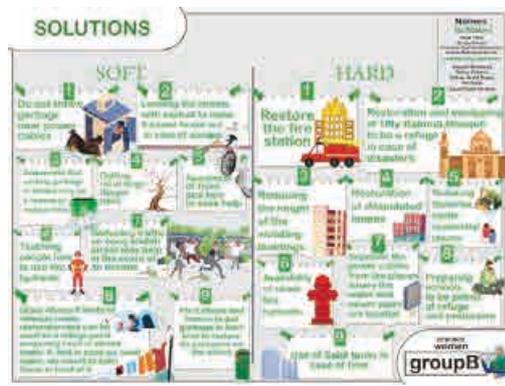
女性グループ（B）地域の課題（アラビア語）



女性グループ（B）地域の課題（英語訳）

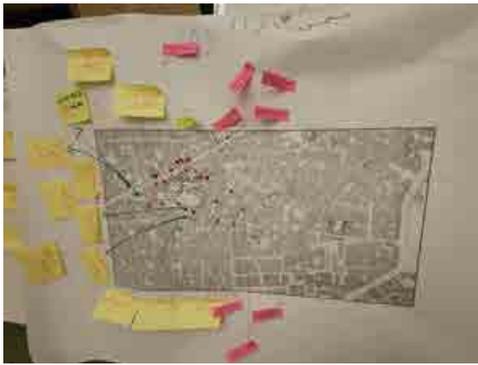


女性グループ（B）解決方法（アラビア語）

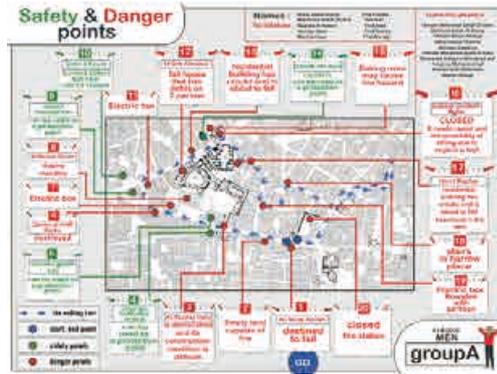


女性グループ（B）解決方法（英語訳）

【③防災（事前復興まちづくり）：8月20日（土）】住民ワークショップ（男性）



女性グループ（A）地域の課題（アラビア語）



女性グループ（A）地域の課題（英語訳）



女性グループ（A）解決方法（アラビア語）



女性グループ（A）解決方法（英語訳）



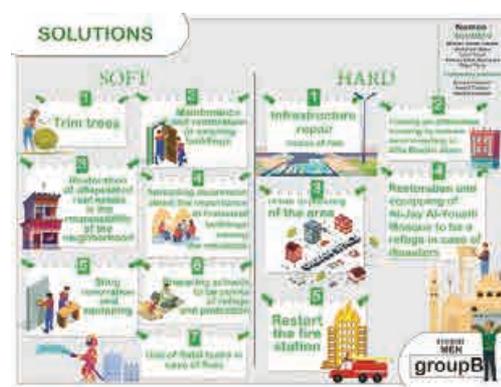
女性グループ（B）地域の課題（アラビア語）



女性グループ（B）地域の課題（英語訳）



女性グループ（B）解決方法（アラビア語）



女性グループ（B）解決方法（英語訳）

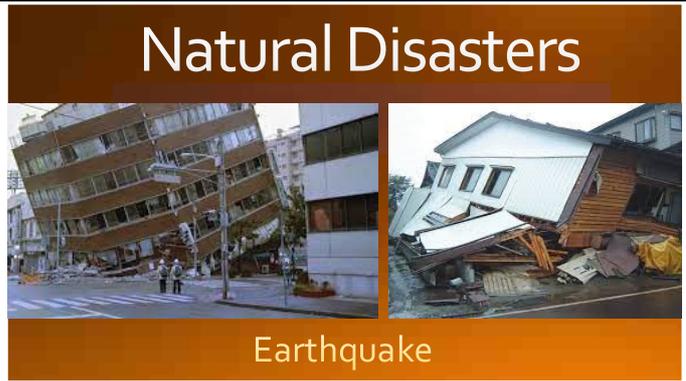
□ ワークショップ、ミニレクチャー：防災 連健夫

防災ワークショップのディスカッションのきっかけとして、日本における自然災害のお話をします。東日本大震災の写真です、ビルや住宅が倒壊しています。

地震は火事を誘発します。街が火の海になっていますね。

地震は、場所によっては津波が生じます。東北大震災では、10mを超す津波も生じました。

大雨が水害を引き起こします。川が氾濫して周辺の住宅地が水びたしになっています。橋も破壊されていますね。



コンクリートブロック塀が倒壊する事故も生じます。必要な鉄筋が入っていない危険なブロック塀もたくさん存在しています。

ビルのピロティー部分は耐震上弱く、1階部分が壊れ、駐車場がつぶれていますね。様々なところで崖崩れが生じます。崖際の木造住宅が壊れています。

地震により、看板落下の事故も生じます。ラーメン店の看板やコンビニの看板が落下していますね。大変危険です。

トリアージを行っています。災害時には多くの方がケガをします。誰を優先して治療するか判断（トリアージ）をする必要が生じます。

Collapse of block walls → Dangerous places



Pilotie : Ground floor of building, car park. Landslide → Dangerous places



Falling signboards → Dangerous places



Triage Open Space → Recovery resources.



被災地での炊き出しです。雨がしのげる、広い場所が必要ですね。そのような役に立つ場所を復興資源といいます。

体育館を避難所として使っています。これも復興資源ですね。風雨を避けることができる広い場所が災害時に求められます。

支援物資の配給です。被災地には多くの支援物資が届きます。それを整理し、配る場所が必要となります。水の配給も行われます。

仮設住宅が建てられ、被災者は避難所から移り住みます。学校のグラウンドなど広い場所が利用されます。

Emergency rice feeding
Rain-safe location, Temporary tent
→ **Recovery resources**



Refuge shelter
gymnasium → **Recovery resources**



Distribution of relief supplies Water supply
Shelter, Open Space
→ **Recovery resources**



Temporary housing



当方が関わった東日本大震災の復興支援活動の話をしていきます。東日本大震災は、2011年3月11日に起きました。それにより15799の方が亡くなり、4053人が行方不明、117410の住宅が倒壊しました。

いわき市豊間地区の復興協議会の事務所は当初、プレファブ建物で、時折雨が漏る状態でした。人が集まる場所がない状態でしたので、我々支援グループは、サポートセンター（集会所）の提案をしました。資金集めを行い、サポートセンターの建設がスタートしました。

素人でも作れるようにパネル方式で設計し、地元の方と支援グループのメンバーと一緒に作りました。

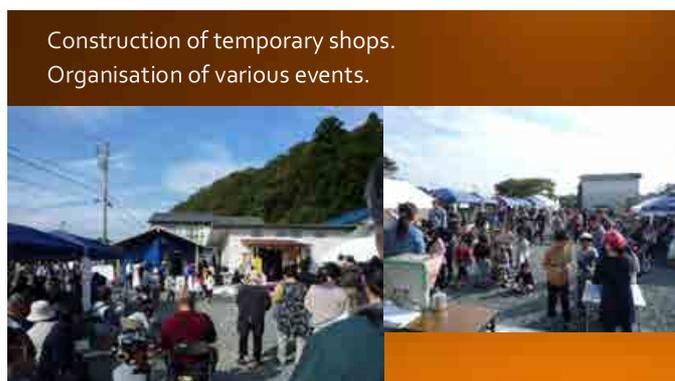
災害公営住宅の計画があり、支援グループで住民ワークショップを行いました。そこで住宅計画への要望をまとめました。



行政から出てきた災害公営住宅計画です。住民の要望の一部は反映されましたが、ほとんどが従来型の集合住宅の計画内容でした。これは行政側に細かい対応ができる専門家がいなかったことが主な理由です。



仮設店舗が建設されました。サポートセンターと共に住民に利用されています。広場では様々なイベントが行われました。



事前復興まちづくりワークショップのお話をします。普段の状況、すなわち災害が起きる前に、災害が起きたことをシミュレーションして検討する住民ワークショップです。



最初に、全体ファシリテーターがワークショップの趣旨とプログラムについて参加者に説明をします。



グループに分かれて、街を歩き、地震が起きた時に危ないと思われる場所、復興に役に立つと思われる復興資源を見つけます。グループファシリテーターはそのサポートをします。

高速道路の下は、雨がかからない広場であり、高速道路が壊れない場合は、復興資源として役にたちそうですね。

壁に取り付けられたエアコンの屋外機、これは地震時に落ちそうで危険ですね。

古い木造住宅も倒壊の恐れがあり、危険ですね。

Walking around town to find **Dangerous places** when disaster occurs and **Recovery resources**



Rain-free square → **Recovery resources** ?



Outdoor units of air conditioners → **Dangerous places** ?



Old wooden houses → **Dangerous places** ?



コンクリートブロックの塀は、地震時に倒れる恐れがあるので、危険ですね。

Concrete-block wall
→
Dangerous places ?



広場は、人が集まることができるので、復興資源ですね。トリアージや支援物資の配給、炊き出しなど様々なことに利用できそうです。

Open space
→
Recovery resources?



大学や研究所の広場は復興に役立つので、復興資源ですね。

Open space
→
Recovery resources?



公園も災害時に役立ちます。発災時のトリアージ、避難、支援物資の配給、集会、イベントなど、様々な用途に使うことができるので復興資源ですね。

Public park
→
Recovery resources?



会場に戻り、グループごとに話し合います。グループファシリテーターはその進行を務めます。マップにどこが危ない所か、どこが復興の資源かを記入します。

Return to venue. Fill in the map, discussing where the dangerous place and recovery resources are.

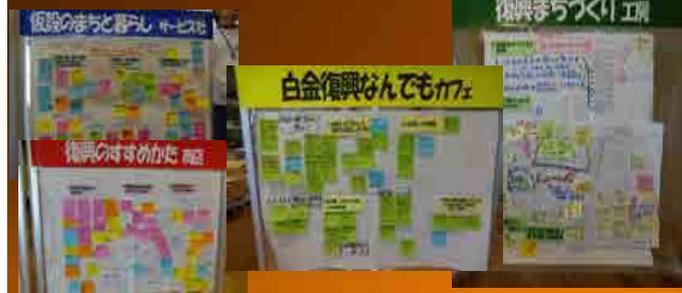


記入されたマップの事例です。歩いた経路、危なく感じたところと復興の資源と思われるところにシールが貼られ、それぞれコメントが記入されています。意見やアイデアも記入されていますね。



復興におけるアイデアを、街と暮らし、進め方、産業や仕事などテーマ別のテーブルを設け、興味のあるテーマで話し合い、それぞれ深堀をします。

Disaster prevention proposals, Ideas for reconstruction.



グループで話し合った内容、テーマ別で話し合った結果を発表し、皆で共有します。グループファシリテーターはそのサポートをします。

Presenting and sharing



全体ファシリテーターが、最後にまとめを行います。何が得られたか、何が重要なのか、今後の課題などを明確にし、皆で共有します。



Summarised by the overall facilitator.

ワークショップの結果を「かわら版」としてまとめます。出席できなかった住民も理解することができるので、次回参加する時にも困りませんね。

Summarise the outcomes of the workshop so that the content can be reviewed later. Those who could not attend can also understand.

ファシリテーターの役割分担を事前に確認しておくことは大切です。また、街歩きをするときに、各グループメンバーの役割を明確にしておき、途中で交代して不公平がないよう配慮することも必要です。

Division of roles in each group

- Leader:
- Sub Leader:
- Pointer:
- Camera:
- Record keeper:

Let's switch on the way!

- グループリーダー
- サブリーダー
- ポインター係
- カメラ係
- メモ係

住民ワークショップのタイムスケジュールです。

- ①災害の画像映写による情報提供 (20分)
- ②グループに分かれて街歩き (40分)
- ③会場に戻って話し合い (40分)
- ④発表 (10分)
- ⑤まとめ (10分)

Residents' workshops, Third series		20 August Ladies 3:00pm / 21 August Gentlemen 5:00pm
		at Bayt Yakan ※Facilitators come before 30mins!
Theme explanation	Ladies 3:00~ Gentlemen 5:00~ (20m)	Disaster Prevention presented by general facilitator
Town Walk	Ladies 3:20~ Gentlemen 5:20~ (40m)	Each group will be accompanied by three group facilitators. Each Residents' group walk and find dangerous place and recovery resources.
Group Discussion	Ladies 4:00~ Gentlemen 6:00~ (40m)	Creating a map of the current situation (20 minutes)
Presentation	Ladies 4:40~ Gentlemen 6:40~ (10m)	Create an idea sheet for disaster prevention (20 minutes)
Summary	Ladies 4:00~ Gentlemen 6:50~ (5m)	Each group of 2 people will make a presentation using the two sheets, presented by one resident and one facilitator
Questionnaire	Ladies 4:00~ 4:40~ Gentlemen 6:55~ 8:00 (5m)	Summary of today's workshop results and comments presented by general facilitator
		Fill in the questionnaire form all participants

それでは、スタートしましょう！

④ 歴史的建造物再利用

〈テーマ説明〉 バイト・ヤカンに隣り合うコーカリアーン給水所、バシュターク公衆浴場などを含んだ交差点を選び、修復されたコーカリアーン給水所の再利用を中心に、交差点の修景について話し合う。まずアラール氏から以下の点が住民に述べられた。

歴史的建造物や古い家の修復と再利用は、住民たちが行いたいと思っているのだろうか？修復の利点と欠点を認識しなければいけない。利点は、古い建物を保存すると資源を節約できる、近隣建物の耐久性を維持して、長く保存できる。そして、自分自身はその古さに対して誇りを持ち、住民のアイデンティティと伝統を守ることができる。古い家の中は温熱環境のおかげで、扇風機など使う必要がないので、電気代を節約できる。

一方で欠点もあり、古い家は下水道、水と電気の設備がない。そして、それぞれの部屋が広すぎて、ホールが大きく、小さな部屋に分かれていないので、使いにくい。修復するのは専門家でないと大変難しい仕事で、それに加えて修復費は高い。

バイトヤカンを買った時、長い間人が住んでいない家だったので、荒廃地だと思われ、毎日ゴミ袋 20 個ぐらいが中庭に向かって捨てられた。さまざまな努力をして修復を続けたので、今はスーク・シラーハの宮殿になった。バイト・ヤカンの一つのホールは 10 メートルかける 6 メートルと、広すぎて住みにくい。近くにあったバイトクッラーの女性オーナーが古い住宅を壊してしまったのは、門の幅が広くて困っていたからで、「この門の幅に人が住める部屋を作れる」と彼女が言っていた。現在はその門の一部はバイト・ヤカンの中庭に移築再建されている。

保存や修復の許可が欲しい人にはアドバイスするので、家全部の保存の許可でなく、例えば、門だけ、入口だけでも保存や保全の許可が欲しい時は申し出てください。

日曜日には、長年歴史的カイロ保存に携わるモハメッド・ラシディー博士が参加し、冒頭のテーマ説明の際に以下のようなスピーチをおこなった。「僕は Historic Cairo のプロジェクトに参加している一人ですが、ユネスコの人と会い、話をして、歴史的建造物の保存や修復は綺麗に出来ていると評価されました。しかし、結果的には遺跡を一軒ずつ保存するべきではなくて、街全体つまり、遺跡だけではなくて、周りにある家も店も学校も保全すべきです。そして、もちろん住民の意見が大切です。男性、女性、子供、もです。これにみんなが気付いたのはかなり遅かったのですが、アラールさんはずっと先だったので素晴らしいと思います。歴史的カイロのプロジェクトはムイッズ通から始まりました。建物の保存と修復をすると、中で働いていた工芸を生業とする住民の態度が大きく変わってきました。」

〈グループディスカッション〉 前回の街歩きが住民たちに好評だったため、今回も男女とも 2 つのグループに分かれて実際に現場を訪ねて、再利用の可能性と人々の動きなどを考えつつ、バイト・ヤカンに戻った。その後、ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載した A0 シートが作成された。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉

- ・ 居住用集合住宅のファサードは、同地にある歴史的建造物に調和するイスラーム建築様式の枠組みの中で修復および再設計する必要がある、ひび割れを処理する必要がある。
- ・ 交差点は、数多くのトゥクトゥクで溢れ、駐車スペースになってしまっていることに気づいた。
- ・ ツアー中、出発点はコーカリアーン給水所とバイト・ヤカンに隣接する喫茶店であった。この喫茶店（アフワ）のファサードは改善する必要性があり、他の歴史的地域と調和しコーカリアーン給水所が建設された時代の建築ファサードを意識しながらデザインする必要がある。
- ・ スエズ・アパートの裏手にある空地では、手工芸品のための国際的な展示会を開催したい。普段は

人々がゆっくりと座れるベンチを置く。

- ・ スエズ・アパートに付置された消防署はアップグレードされたが、使用されていないため、再度使用を検討する必要がある。消防士の消防車での移動のためのスペースとして通りに面する部分を提供する必要があるので、スエズ・アパートの歩道にある露天を撤去する必要がある。
- ・ スエズ・アパートを活用、修復してファサードを整備した上で再利用し、観光ホテルとしたいというアラール氏からの意見については、シハーム夫人と同アパートの住人から「アパートの住人の利益を損なうものであり、所有者に有利な点を示すものではない」という異論が出された。住民の意見としては、スエズ・アパートはこのまま残してほしいけれど、中に住んでいる人達の問題やニーズをカバーして欲しい。
- ・ コーリアーン給水所は、1階をセミナールームに、2階を図書館員や事務員のオフィス、コンピュータ教室のあるスペースに分ける利用を提案する。入口から通じる小室を子供向けの手工芸品の展示し、1階の奥の部屋（スーク・シラーハに面する）は再び元の状態に復元し、給水所の歴史やその機能を説明するパネルを展示し、活用することが提案された。上層階の2つの部屋をプロジェクトの管理事務所、図書館、地域の子供たちのためのコーラン暗記室として使用し、以前と同じスタイルで設計することを提案した。
- ・ バシュターク公衆浴場について、マドブリ女史は「若いころに一度訪れたことがあります。今とは違ってとてもきれいな場所でした。まずはこの場所を整備し、前庭を利用して来客の待合所とする必要があります。」と述べた。公衆浴場が再び機能するようになることを望む。公衆浴場として復活させれば、収入が入るので、この資金で浴場をもっと綺麗に修復することができる。ハンマーム・バシュターク（Hammam Bashtak）の外観と入口を綺麗にして、人がゆっくり座って待ったりする場所を作りたいです。そして「浴場の中を修復し、再利用をするととても嬉しい」と皆が同じ意見が持っていました。
- ・ バシュターク公衆浴場の北側にあるシャルヌービー通りには復元が必要な住宅が多く含まれ、住民への代替手段の提供を考慮して、撤去決定がまだ実施されていないうちに住宅を修復すべきだ。
- ・ バシュターク浴場の角の向かいにある家（アブダッラー・ベイ）は、人気のある多層レストランとして使用したい。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

- ・ バシュターク公衆浴場を公衆浴場として復活させてほしい。けれども所有者がいるので、再利用して所有者に利益が入らないと賛成してくれない。20年間所有者から借りる場合、利益を払うという約束をしないと所有者が気の毒という意見があり、多くの人が賛成した。
- ・ ムスタファ・ガッザールの家も、歴史的建造物だからといって観光考古省の管理下にしても、持ち主になんの利益がない。観光考古省に提供するつもりがないので、政府に取られないように、古いマシユラビヤを自分で外したと本人が言った。
- ・ 街歩きの時にスエズ・アパートの前にいた30代の男性から「あなたたちは何をしていますか？」と聞かれ、「隣のバイト・ヤカンでプロジェクトをしているので、是非あなたも参加して下さい」とファシリテーターを務めるマリアム女史が誘い参加した。彼はスエズ・アパートに住んでいるので、「スエズ・アパートをどういうふうに扱ったらいいのですか？」と尋ねると、以下の意見を述べた。「是非早くスエズ・アパートを壊して下さい。建物の中では、人間的な生活はできないので、新しい所に住みたいです。アラール先生が考えている一部をホテルにするということに反対をします。観光客は、私達スエズ・アパート住民の生活を見れば、鬱病になって自殺してしまうかもしれません。そして、

スエズ・アパートの隣にある消防署では、消防車は機能していないのだから、なくても困らないです。火事があった時には皆の力で消すことができるし、周りのお店にも皆、消火器があるのだから、この場所は違うことに使いたいです。私は男だから、砂漠でも仕事できますが、スエズ・アパートの中に仕事で困っている女の子が沢山います。工場でミシンを使って仕事をしているのですが、工場のオーナーの彼女たちに対する扱いは、ひどいものです。消防署のスペースを使ってミシンを設置して彼女達が仕事をできるようになれば、彼女たちは大変助かりますので、宜しくお願い致します。そして、角にあるピザ屋の所はもともとタキーエ（救貧食堂）だったので、また食事を出す伝統的な料理屋さんにするのが良いと思います。そして、コーカリアンの隣の喫茶店を3ヶ月おきに特別に展覧会の場所として、使いたい気持ちがあります。」と答えた。住民たちからはスエズ・アパートをホテルにするより、ミシンを設置した縫製所かクリニックにした方がよい。これからの事業における利益は、個人のためというよりは、近隣コミュニティのため、あるいは神様のためだと考えて欲しい。

- ・ スエズ・アパートとバイトヤカンの間にスドン・ミン・ザーダー庭を作りたい。
- ・ 人間開発が必要だ。人にこのことが駄目と言ったら、言われた本人は、その行為は駄目だと分かるけれど、逆に「あなた関係ない、あなたが変わっている、おかしい」と言われてしまうこともある。このような社会問題が沢山あるので、自分の子供をなかなか外で遊ばせることができない。
- ・ コーカリアン給水所を図書館や博物館にするより、コーラン学校（クッタブ）にした方がよい。クッタブでは、子供にコーランを教え、子供の精神とマナーに影響を与える。コーカリアン給水所の一階はクッタブ（教育の場所、特に幼年者に対するコーラン学校）にし、二階はコンピュータ室や図書館にしたい。人間開発コースが作って、仕事出来る人間になる前に、仕事のマナー、お客様に対してのサービスを教えるべきだ。一階では子供達は皆床に座って、お坊さんは年寄りなので椅子に座って、子供達は車座になりコーランを学ぶ。門には警備の人が欲しい。入口の水場を作って、体を綺麗（ウドゥー）をして一階の部屋でお祈りしたい。

〈発表（女性）〉それぞれのグループが発表を行った。

女性から、コーカリアン給水所については、完全に修復して観光施設として再利用することが望まれ、具体的には小さな本屋、高齢者の文化センター、礼拝、子供のための特別なエリアを持つ図書館。イスラーム教徒の結婚式の場、識字のための教室などの意見が出た。交差点周辺については以下のような解決策を提案する。

- 1- バイト・ヤカンの横の喫茶店には女性の通行に対する配慮が欲しい。
- 2- コーカリアン給水所に女性向けワークショップの開設を提案。
- 3- 同所の水を火災時や断水時に使用する。
- 4- 同所を、コーランを暗記するための文化センターとして利用する。子供用の図書館やコンピュータラボを設置、子供向けのワークショップの実施も提案する。
- 5- 交差点に人気レストランをオープンし、バシュターク公衆浴場の庭を客席として使用する。
- 6- バシュターク公衆浴場を修復して浴場として営業開始し、専門チームの運営を開始する。
- 7- 交差点角の建物（現在ピザ屋）は老朽化しており、修復と再雇用が必要である。
- 8- スエズ・アパートの消防署の運営。
- 9- スエズ・アパートの2階以上をホテルとして使用することが提案されたが、この意見はその住民の一人から強い反対を受けた。
- 10- コーカリアン給水所と隣り合う建物の間を2階レベルで貫通させる。
- 11- コーカリアン給水所を展示場とし、過去における給水所の歴史と現在の姿について語る。

〈発表（男性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0シート参照。

男性からは、コーカリアーン給水所については、完全に修復して再利用、観光地にふさわしいものとしてオープンさせる。その場合、小さな図書館併設、礼拝機能、子供たちの学習場所も考えられる。交差点地区のデザイン解決策は、以下のようにいくつかのポイントに分けられる。

- 1- バイト・ヤカンに対する住民の意識を高め、レクチャーを開催するだけでなく、その中でワークショップやアクティビティを存在させる。
- 2- バイト・ヤカン前の雰囲気を改良する。特に喫茶店に多くの男性が屯し、女性の夜間の通行が困難である。
- 3- コーカリアーン給水所をクルアーンとイスラームの教えを暗記するための学習所に利用する。
- 4- コーカリアーン給水所の中は、伝統的なカーペットやマットの上に座る形とする。
- 5- 通りの水を消化に使う。
- 6- バシュタークの公衆浴場の再稼働、上階に住む住人のための代替住居を見つける。
- 7- 伝統的には廃棄物を翼状の燃料としていたが、現代におけるゴミ焼却に対する公害問題の解決策を見つける。
- 8- 道路舗装材床（イントロロック）が頻繁に崩壊、不安定であるため、これを変更する。
- 9- 都市景観に配慮し、既存の植栽を剪定し、照明柱とその照明を交換する。
- 10- バイト・ヤカン前のスーク・シラーハに面する店舗群を利用し、工芸品の制作やクラフト販売を行う。
- 11- スエズ・アパートの裏の土地を、工芸品の展示場やガレージとして活用する。
- 12- スエズ・アパートをホテルや病院として再生する。
- 13- 消防署を再稼働し、ダルブ・アフマル地域全体にサービスを提供する。

〈まとめ〉

アラール氏は、みんなの意見を聞いて、自分の案を提示した。「自分自身は、家のすぐ隣のサビールを修復して再利用したい。サビールの隣にあるアーデル先生の家は元々ラブア（伝統的集合住宅）だったので、サビールとの間を開口して広くして利用したい。ただし、許可を簡単にもらえるかどうかは分からない。間の壁を取り払うことができれば、2階に図書館と庭を作れる。サビールの一階は小さくて4メートルかける4メートルなので、2階の図書館とトイレを大きくしたい。どうしてもアーデル先生との間の壁を開口する必要がある。

本来はタキエ（宗教的集会所）であった建物を人気のあるオープンレストランに変え、バイト・ヤカンと通り周辺の観光客の動きを活性化する。ピザ屋の家には以前大家族がいが、いなくなって、歩けない男性しかいない。彼に別の家に移ってもらったら、この家を全部伝統的なレストランや料理屋さんに変えられる上階のアパートに住む唯一の住人に住居を提供してほしい」という提案を住民に投げかけたが、そこに住む女性が断った。「中は綺麗ではないし、私達は中に住んでいるので、外側だけ綺麗にしてくれる方が嬉しい」とある女性が答えた。

アラール氏は、「ムスタファ・ガザールの家では、古いマシュラビヤ（伝統的轆轤細工の木製格子窓）を取り外して売却したい意向なので、私は購入する友人を紹介できる。」と補足した。

スーク・シラーハのバシュターク浴場前、ガンドゥールとの交差点を中心に、特にコーカリアーン給水所の再利用が焦点となった。その想定される機能として男女ともに、観光施設として利用する、小さな本屋を併設してオープンするなどの意見が出た。また、男性からは子供たちのための施設として、女性からは高齢者のための文化センター、イスラーム教徒のための結婚施設、識字教室などのアイデア

があった。

更新案について、みんなの意見をまとめることは難しいが、こうした機会がきっかけとなって、スーク・シラーハの一部であるバシュターク公衆浴場の交差点周りの具体的未来像が住民の中で意識されるようになることは、本プロジェクトの一つの成果であると考えている。何らかの方法を使って、事業を具体化していく必要性を切に感じた。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉合計 23 名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い (18名) : 普通 (0名) : 悪い (0名) : 無回答 (5名)

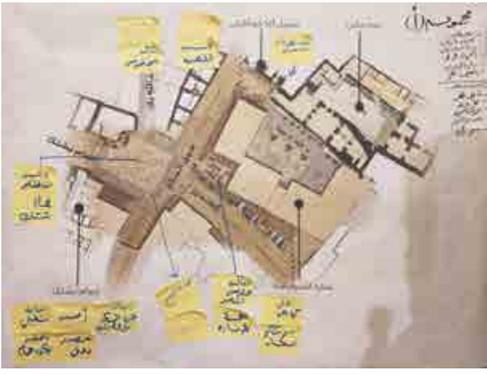
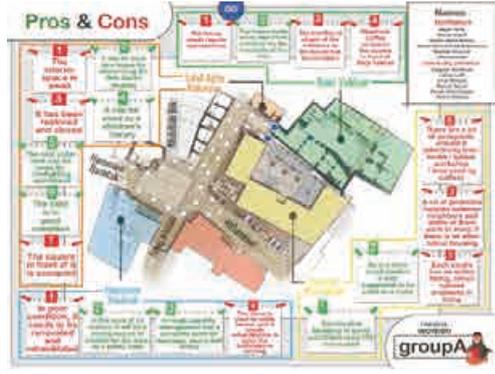
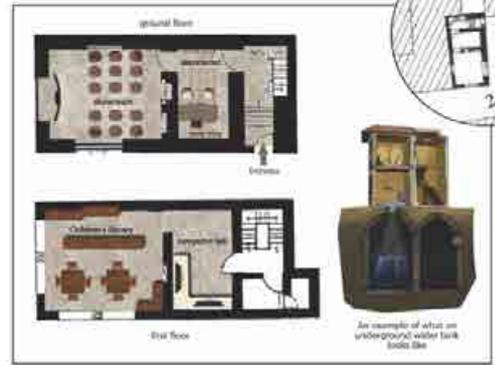
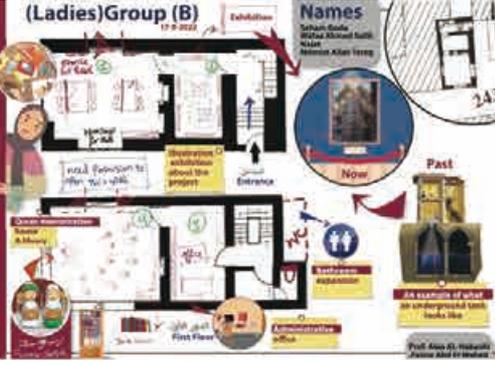
2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ スーク・シラーフ通がムイッズ通りと同様に修復してほしいです。コーカリアーンは子供にコーランを覚えさせ、大人がお祈りできる場所(クッタブ)として使わせて欲しいです。
- ・ 道に危険な家があります。ゴミの問題もまだ解決できていないです。
- ・ 歴史的な建物を修復して、再利用することです。
- ・ 遺跡の建物を再利用するのに利点も欠陥もありますが修復して、外部が整えられ、内部も住民が使える状態になって欲しいです。
- ・ バシュターク公衆浴場とコーカリアーン給水所の活用
- ・ 遺跡を修復することと、サビールなど再利用ができるようになってほしいです。
- ・ バイトヤカンのすぐ隣の喫茶店が周りの建物の形やスタイルと調和しないです。
- ・ バシュターク浴場を再開すること、コーカリアーン給水所を図書館やコンピューターや絵を描くことなどを教えられる場所として使わせてもらいたいです。
- ・ 遺跡を再開して、地域開発の場とするべきです
- ・ この地域を発展することです。
- ・ ハンドクラフトに大切にしていないことです
- ・ この地域が発展することは私に一番大切なことです。
- ・ ワークショップが一番良かったことです。
- ・ 人への気遣い、(人間を大切にすること)
- ・ 遺跡のある所は修復し、利用するべきです。

3- 自由記述

- ・ 歴史的な建物を修復して、再利用することです。
- ・ 子供が良く道で遊んでばかりいるので、あまり良くないことだと思っています。子供の力と時間を大事に使える方法を考えて欲しいです。
- ・ 今日の提案に政府が同意して、実現すること願っています。
- ・ 私達の考えたことを早く実践してもらいたいです。
- ・ 喫茶店の建築や装飾をやり直して、喫茶店とバイトヤカンの間の空地への緑色の扉も周囲と調和していないので、どうしたらいいのか考えるべきです。
- ・ ワークショップがとてもよく出来ています。

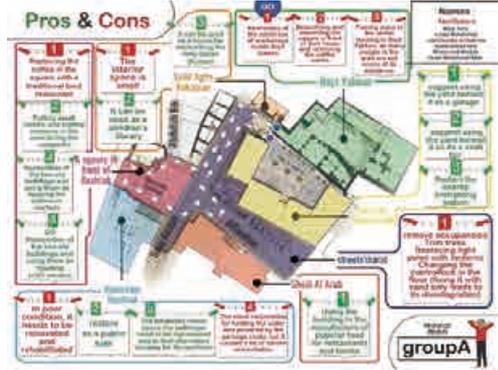
【④歴史的建造物再利用：9月17日（土）】住民ワークショップ（女性）

	
<p>女性グループ（A）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）提案（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（A）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）提案（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（B）提案（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（B）提案（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（B）提案（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（B）提案（英語訳）</p>

【④歴史的建造物再利用：9月18日（日）】住民ワークショップ（男性）



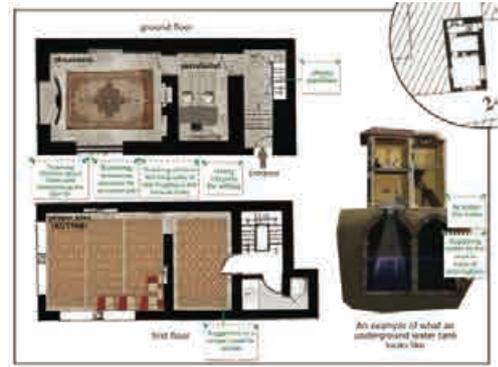
女性グループ（A）提案（アラビア語）



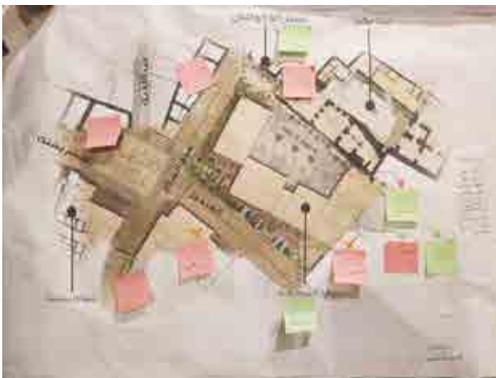
女性グループ（A）提案（英語訳）



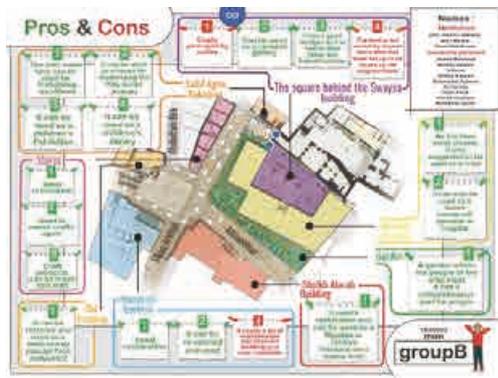
女性グループ（A）提案（アラビア語）



女性グループ（A）提案（英語訳）



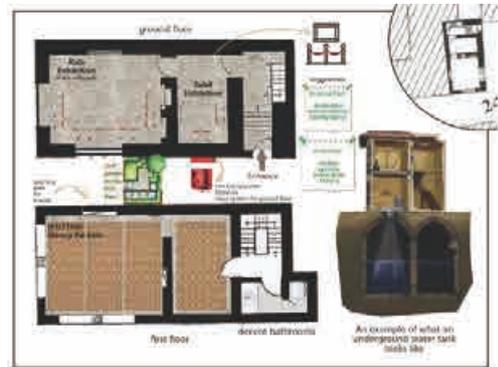
女性グループ（B）提案（アラビア語）



女性グループ（B）提案（英語訳）



女性グループ（B）提案（アラビア語）



女性グループ（B）提案（英語訳）

住民ワークショップの風景（2022年9月）



9月ワークショップ（ディスカッション）



9月ワークショップ（ディスカッション）



9月ワークショップ（ディスカッション）



9月ワークショップ（ディスカッション）

⑤ 無形遺産

〈テーマ説明〉まず、最初にアラール氏から以下のような今までのワークショップに対する総括がなされた。今回のワークショップは5回目になる。最初のワークショップ(1回目)のテーマは「市内の交通の動き」。トクトクは大きな問題で、どのようにしたらトクトクの問題を解決できるのかというアイデアが沢山提起された。例えば、ルート、時間、駐車場を決めるなど。

2回目のワークショップは「廃棄物管理とゴミ収集」。皆がそれぞれ自分でゴミを外に出すより、昔のように家まで来てくれる人に依頼し、ゴミを収集してもらった方がいいという意見があった。そして、ルカイヤ・ドウドウの前でゴミ収集をしているナディヤさんは最終的に地域の宝物と位置付けられた。なぜならゴミやいらぬものを通して、お互いに助け合うことができるからです。

3回目には「自然災害や人間が引き起こす危険」。連先生と苺谷先生と街歩きをして、危険なポイントを見つけ、どのように対処したらよいかを皆で話し合った。

4回目は「歴史的建造物の再利用」。歴史的建造物の修復とリハビリテーションに対して皆が何を望んでいるのか？壊した方がよいか？どのように活用していったらいいのかという問題を議論。

今日のワークショップのテーマは「無形遺産」です。先週、スカイ・ニュース・アラビックのインタビューの時にアナウンサーに「なぜ、バイト・ヤカンを拠点としているのですか？」と聞かれた時、「家族の家を作りたいからだ」と答えた。後になって「家族の家」も無形遺産だと気付いた。

次は岡田先生からのスピーチを訳し、彼の代わりに皆に伝えた。彼は西アジアの建築歴史家で30年間前エジプトを一回訪問したことがある。

「エジプトの世界遺産はなんですか？みなさんご存じでしょうか？1.ギザからダハシュールまでのピラミッド、2.古代都市テーベとその墓地遺跡(ルクソール)、3.カイロ歴史地区、4.アブ・シンベルからフィラエまでのヌビア遺跡群、5.アブ・メナ(アレキサンドリア)、6.ワディ・ヒタン(ファイユーム

「クジラの谷」、7.聖カテリーナ修道院地域です。次はユネスコに登録された無形遺産はご存じですか？1.杖の舞踏のタフティープ、2.伝統的な人形劇アラゴース、3.ナツメヤシと関連知識、技術、伝統および慣習、4.アラビア書道の知識、技法および実践、5.叙事詩シラ・ヒラリーヤ、6.上エジプト地域の手織りです。

次に日本についてですが、日本では文化財保護法の法第二条によると、6種類、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群に分けられます。日本の無形文化財と言えば、人形浄瑠璃や宗像神社の漁師祭礼、茅葺の伝統的技術、山鉾屋台、和紙や和食なども含まれます。今日はみなさんの地域の無形遺産について話を聞けることが楽しみです。」と岡田氏からのプレゼンテーションを説明した。

〈ミニ・レクチャー：無形文化遺産について〉岡田保良

続いて、岡田氏から日本での事例の紹介があった。内容は■3. 末尾に掲載

〈ファトゥマ・ムスタファ女史の講演〉この回は、カイロの子供博物館に務め無形遺産を専門とするファティマ・ムスタファ女史にテーマ説明を依頼した。その後通常通り男女ともに2つのグループに分かれてグループディスカッションを行い、発表、まとめという順序で進行した。なお、講師のファティマ女史に英文レポートの執筆を依頼したので、末尾に彼女のレポートの和訳を掲載する。

〈グループディスカッション〉ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載したA0シートが作成された。それぞれの無形文化遺産の領域別((1)口述伝承、(2)踊り、音楽等、(3)社会慣行、(4)伝統知識、(5)遺産工芸品)の発表が行われた。互いの領域に重複する場合もあるが、A0シートにその指摘がなされる。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉

(1)口述伝承

- お鍋をひっくり返したら、娘が母親のもとに来る；母親の顔や言葉や行動などがよく似ている娘を見る時に言うことわざ。このことわざが最初に作られた時の背景に、二つの説がある。一番目は、昔は女性が家の屋上に洗濯物を干す習慣があった。しかし、他人の視線を避けるという意味から、家長によって未婚の女性が屋上に行くことを禁止した家が多かった。母親が自分の娘が屋上に来てもよいと知らせたい時に、空になった洗濯の入れ物を、床にひっくり返して大きな音を立てたことに由来する。二番目の説はオスマン時代にフル（そら豆の煮込み）を作っていた男性がいた。彼の妻が手伝いをする、必ずお鍋をこぼすことが続き、ある時にその男性が怒り、彼女と離婚した。その後、彼の娘が彼を手伝いに行った時、彼女の母親と同じ間違いして、鍋をひっくり返した。その時にこの男性がこの言葉を言ったと言う説である。
- 白ピアストル（細かいお金の単位、1銭）が黒い日（厄続きの1日）に役立つ；つまり、たいしたことのないお金でも苦難な日には使えるだろう。という意味。
- お金がある猿を選んだら、お金がなくなると猿だけが残る。；性格良くなって最低な人だが、お金持と結婚する時に言うことわざ。
- シャテル・ハッサンの物語；シャテル・ハッサンは貧しい男性だったが、美人の女性にあい彼女を助けるという一連の物語。
- ナッダハー；ナイル川から男性を呼び寄せる精（女性）のエジプト伝説で、男性達が不遇の死または失踪を遂げた時に言及される。古くから農業を基盤とするエジプトではナイル川と運河に沿って、上下両エジプトの農村部で特によく知られている。
- 黒猫；黒猫に対する悲観論。黒猫は悪と不運をもたらす。
- 指サイン；エジプトのミニやマイクロバスの運転手が乗客を呼ぶ時に行先を示すサイン。
- 行商人の呼びかけ
- サイス・モスク（イルゲイ・ユーズフィー・モスク）にある柱の伝説：女性はその柱を舐めると妊娠できる。柱のひとつを舐めると良いことがあると信じて、あるいは商売で儲けたい人は柱をなめる。現在、住民たちは柱の周りに柵を設置し、この信仰を実践できないようにしているが、中にはこっそりお金を払って柱を舐めさせてもらう住民もいるという。
- 5（ハムサ）とねたみに関わることわざ。聞き手が「自分にとって良いことはない」という思い込み（全ては嫉妬に関係する）を避けるために、住民が互いの前で数字の5（ハムサ）を大声で言うのを控えるのも特徴的である。例えば：「花が満開」、「ひよこは大きくなった」もその例である。
- 「レンガにレンガを重ね、戦いを据えよ。」ということわざ。人と人との間でけんかが起こったとき、そのけんかが長く続くようにと願うと、相手の上に石を置くというもの。
- 元気のない人（病気、あるいは憑物、あるいは妬みなどによって、調子が悪くなった場合）は、外に置いて朝露を含んだデーツ（棗椰子）をたべると元気になる。かき混ぜ／恐怖の鉢（この地域に伝わるいくつかの伝統の一つ）は、恐怖が人の心を襲うとき、イスラームの絵や装飾、ユーランの詩で飾られた鉢に7つのデーツを入れ、朝露の滴を受けるために鉢を置き、該当者は鉢の中の水を飲み、デーツを食べ、その恐怖は消え去るというもの。
- 女の子の後に息子を産んだ場合、妬みから守られるために、息子の出生を隠す。女の子の服を着せたり、ムハンマドの名で7人に少しのお金を配る。

(2)踊り、音楽等

- シムセミーヤ、
- 馬のダンス（聖者誕生祭に催される）
- 上エジプト（ヌビアン）のダンス、
- アラゴーズ（人形劇）、
- タンヌーラ（男性が長くほぼ円形のスカートをはいてクルクルと回り、旋回によってスカートをウェストとほぼ平行する位置まで持ち上げる踊り）
- 預言者などのマウリド（誕生祭）、
- ザール、
- ヘンナの日（結婚式前に体にヘンナ染めを施し女性だけで祝う祭り）
- ジクル（神秘主義の階梯の一つ、神と合一するために神に集中する宗教的行為）ザグルール・パシヤ
喫茶店の前には、スーフイー（神秘主義者）の一段がきて、宗教歌謡を披露する。
- ウスブーア（生後7日目のお祭り）

(3)社会慣行

- ファーティマ・ナバウィーヤのマウリド、
- シャンム・ナシーム（春香祭）、
- 上エジプト（サイイディ）のキシク（上エジプトがオリジナルの食べ物。穀類；上エジプトでは小麦、カイロでは米をスープで煮て、ディップとする。カイロで米を使うものはアルマズィーヤと呼ばれる）
- 金曜日の儀式（線香、コーラン）
- イード（新服、お年玉）、結婚式など
- 男の子に女の子の服を着せると妬みが来ない。
- ウェストに鉄の巻物をするとうジン（霊）が来ない。
- サイース・モスクの柱をなめると妊娠できる。
- 預言者の子孫ファティマ（ファティマ・ナバウィヤ）の誕生祭は、スーク・シラーハ通りで最も重要な祭りの一つで、通りに沿って継続的に行列になって人々が練り歩く。
- マウリド（聖者の誕生祭）に出る食べ物や飲み物、例えば：そら豆のファッタ（イスラーム教徒は、預言者家族のマウリドのときにそら豆を食べる。病人の快復、困難または不可能な願いが叶った場合は無料でみんなに配る）、ファッタサンド（有名なエジプト料理の1つで、特に犠牲祭によく食べる。米の層、スープまたは肉汁に浸したパン、次に肉片、そして酢、ソース；ニンニク・ソースまたはトマトジュースからなる重ねる食べ物。お祝いに配る食事）
- 一般的な伝統食；ターメイヤ（そら豆のコロッケ）、シナモン・ミルク、ミルク入りライス（牛乳入りライスプディングは、エジプトの有名なデザートの一つで、息子が成功したとき、または誓いを果たしたときに配布する）、ルピナスの種（テルミズ）、ハイビスカス・ティー（カルカデ）
- 嫌な人から離れたり、引っ越した時に陶器の入れ物を割る。
- ヘンナ日のお祝いの時に女性が着る服（インドドレスなど）。
- 結婚式やウスブーアの祝いに塩をふりかける習慣。
- フティール（パイ）やコシャリといった最も著名な伝統的な大衆食。
- スーク・シラーフ通りの始まりにも位置し、バシュターク公衆浴場近くにも、地域で最もよく知られているレストランがある。
- ラマダーン（断食月）には、住民がバシュターク公衆浴場前に集まり、お菓子やカタイフを売るテントから買い物する。家には家族が集まり、カハク（お菓子）やマフシ（米の詰め物）などの伝統的な

食べ物を準備し、一緒に美味しい朝食を食べる。

- 祝日用のお菓子など、季節のお菓子の製造。この地域で最も有名な（アマルフクトリー）という工場があり、お菓子の販売と製造を同時に行う。

(4)伝統知識

- 植物やハーブを治療に使うこと。
- 空気の流れを捉えることによる室内気候の調節。
- サビール（給水所）の近くに陶器で出来た水に入れ物を置いておく。
- 元気がない人が、外に置いておいたデーツ（棗椰子）を食べると元気になる。
- 家の前にイタチを埋める人は金持ちになる。家を新築するときや店を開くとき、オーナーが幸運と大金をもたらすと信じて、玄関の入り口でイタチを退治する習慣が受け継がれている。

(5)遺産工芸品

木版彫刻、銅彫刻、アラベスク。スーク・シラーハ通りには大工、銅、螺鈿もある。

この地域には、寄木細工などのアンティークな伝統工芸の遺産があり、スエズ・アパートの前には、アルミニウムや地元で作られた道具を売る場所がある。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

(1)口述伝承

- 「はげた女の人は妹の髪で自慢する。」
- 自分が持っていないもので自慢する時に使うことわざ。
- 「恥ずかしくなった人は死んだ」
- ハンマーム（公衆浴場）で火事があった時代、裸で逃げるのを恥ずかしかいとした人が死んでしまったときに使い始めた。
- リファーイー（聖者）のマウリド（誕生日祭）の参加者があまりに多いので、そのおかげで蛇が出なくなるという伝説が。
- 「私達の母はゴラー」
- 母はゴラー（鬼）だという意味で、現在まで伝えられてきた人気の伝説。子供を怖がらせ、子供たちが遠くに行かないように、知らない人について行かないようにと言う伝承。
- ダルブ・アフマル（朱殷地域）の伝説：
- 私達が住んでいるダルブ（地域）・アフマル（赤）はなぜこの名前になったのだろうか？説が沢山あるが、城塞で殺し合いがあった時に道に血が流れた、赤い石で家が作られた、またムハンマド・アリー時代の以前に赤い皮膚の人々がハーラ・ルーム（ローマ人街区）に住んでいたからなど。私は最後の説が正しいと思う。
- ミトワリー門（ズウェイラ門のこと）の伝説：
- ミトワリー（徴税人）の魂は門の裏にまだいると言われ、毎朝巡礼へ行って、昼間に帰る。
- 逆さスリッパを放置することは不運を呼ぶ

(2)パフォーマンス

- タンヌーラ
- 首長のザッファ（ザッファは聖者誕生祭の時のリーダーを意味し、馬のダンスなども含む）
- シムセミーヤ（スエズ運河流域で人気がある楽器）
- この通りはスーク・シラーハ（武器市場）通と言うのに、現在では蹄鉄しか作っていない。
- 90年代の初めまでにマウリドの行列やショーがあった。

- ミサッハラーティ（ラマダン；断食の時に、深夜に夕食を食べるよう、夜中に道を回って、太鼓をたたいて、起こしてくれる人のこと）：最近いなくなった。

(3)社会慣行

- 庶民のガラベイヤ（アラブの伝統的な服）
- 喫茶店。バイト・ヤカン周辺には、アラビー/アフメド・カンディール/アリー・ムーサーなど、人気の喫茶店（アフワ）が多い。
- 結婚式
- シャンム・ナシーム（春香祭）
- コシャリ（米、麺、豆等にトマトソースをかけた食べ物）
- 伝統的食事、ターメイヤ（アラブ風コロッケ）、ビスアラ（ディップ）、フィシフ（塩漬けの魚）、
- アルビシア
- 砂漠や都市部のアラブの部族が無罪を判断したり、被告人を有罪にしたりするために使用する方法の1つ。犯罪を示すためにすべての証拠を使い果たした後、犯罪者と目される人の舌を、火で熱した針で突き刺す。
- 今年はマウリドが禁止されたが、昨日のマウリドの時にはターメイヤサンドを1日中配った。
- ラマダンの飾りを昔は古いノート、本、新聞などで子供が作ったが、最近は既製品を用いる。
- イードアドハー（犠牲祭；動物を屠って共食する）と新しい服の儀式、金曜日の集団礼拝の儀式
- 子供時代には紙飛行機でよく遊んでいた。現在では紙飛行機で遊場無くなったが、コロナ隔離の時にまたこの遊びが戻った

(4)伝統知識

- 治癒。ハラズなど薬草の使用。コーヒーで傷口を押さえたり、頭を打撲した場合のコインを使った結び方。
- ラブハ：体の患部に装着する柔らかくて熱い素材の混合物。多くの薬草が使われる。
- ミガバラティ：現在はギブスを使うが、昔は生卵を折れた骨のところで回すと、割れた骨の熱で卵が調理できたのだと言われる。
- 古い建築のスタイル
- 伝統的な農業や古代の灌漑

(5)遺産工芸品

- キリム絨毯、凧作り、太鼓（ミサッハラーティが使う）、かぎ針編、イグサ編、家具彫刻など。
- スーク・シラーハ通りには大工さんが沢山いて、ランプを作る人もいる。
- 蹄鉄をまだ作れる人がいる。蹄鉄は家の扉にかけると妬みが来ないと言われる。
- 現在テント店が並ぶハイヤメイヤだが、昔はカーバ神殿の覆い（キスワ）はエジプトで作られた。
- カーペットではファレスさんの工場がある。マリダーニー・モスクの前。

〈発表（女性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0シート参照。

女性の無形遺産はセクション別に、多くの習慣、伝統、芸術がこれに該当する。上述のグループディスカッションと重複するので、詳細に関してはA0用紙参照。

- (1)口述伝承 ことわざ、物語や迷信、指のサインなどが含まれる。
- (2)パフォーマンス 踊り、楽器、聖者誕生祭のイベントがある。
- (3)社会慣行 伝統的な食品、といくつかの習慣。
- (4)伝統知識 口述伝承と重複する場合も多い。

(5)遺産工芸品 ハヤミヤ、唐草、銅器など。

最後に、スーク・シラーハの伝統工芸である木工家具を販売する拠点を立ち上げ、そこに無形遺産を関係させる話で締め括った。

〈発表（男性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0シート参照。

男性の解答は、以下のようにいくつかのポイントに分かれていた。

1- 無形遺産は5つの基本セクションに限定され、多くの習慣、伝統、芸術がこれに該当する。

(1)口述伝承 諺、物語や小説がある。

(2)パフォーマンス 特にイスラームの行事聖者誕生祭に関わるもの

(3)社会慣行 一般的な料理や公的行事

(4)伝統知識 治癒についての伝統的医療

(5)遺産工芸品 木工に関わる一連の工程

スーク・シラーハ通りの無形遺産を考慮することは、地場産業育成の意味からも重要である。

〈まとめ〉

ユネスコ 2003年無形文化遺産保護条約に基づく無形文化遺産の意味は、慣習、表現、知識、技能、およびそれらに関連する道具、物、工芸品、文化空間であり、共同社会、集団、場合によっては個人がそれを文化遺産の一部として認識することである。この無形文化遺産は、世代から世代へと伝達され、共同社会及び集団がその環境、自然との相互作用及び歴史に対応して絶えず再創造し、彼らにアイデンティティと継続性の感覚を与えることにより、文化の多様性と人間の創造性の尊重を促進するものである。この条約の目的では、既存の国際人権文書に適合し、共同社会、集団及びいつかの個人間の相互尊重の要件に適合する無形文化遺産のみを考慮し、さらにこの遺産は持続可能な開発と適合しなければならない。

こうした文脈の元で、住民たちはどのような反応をするのかを案じていた。しかしながら、びっくりするような話やことわざがたくさん出てきた。このような不思議な習慣は、地域の歴史の深さを物語る。この地域の無形遺産の多くは、エジプト中の他のことわざと類似していると思われるいくつかの一般的なことわざも含まれ、住民が気付かないうちに参照していることを示す。しかしながら、先祖からの受け継いだ伝統へのこだわりと、それを子供たちに教えようとする熱心さが感じられる。宗教的信念にそぐわない、あるいは住民の意識に悪いという理由で、時間とともに消え始めた習慣もある。この地域の良いイメージを掴み、他の地域と無形遺産とに対して何が異なるのかを示すために、最も有名な物語やことわざをスーク・シラーハに壁画として展示し、観光客や住民に見せようとすることで、この地域のイメージを良くできると考える。また、前回のワークショップで共有された、バイト・ヤカンの隣やハラ・アブドゥッラー・ベクなどに、人気のある食事を提供するレストランを作り、観光地化する案が提案された。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉合計 17名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い (10名) : 普通 (0名) : 悪い (2名) : 無回答 (5名)

2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ エジプトの伝統的な習慣を無くなる前に継承しなければなりません。
- ・ 社会慣行
- ・ 伝統的な習慣です
- ・ ワorkshopに出た話を実際に実行することです。

- ・ 伝統的な習慣と社会慣行
- ・ El Darb El Ahmar にある問題です。

3- 自由記述

- ・ ファテマ先生の発表はとても楽しかったです。
- ・ 今日のワークショップでそれぞれの意見を示すことが出来ました。
- ・ ファテマ先生の講義はとても良かったです。

〈ファトゥマ・ムスタファ女史の講演録およびワークショップの感想〉ファトゥマ・ムスタファ

ワークショップは2日間にわたって行われ、1日目は女性、2日目は男性が参加した。女性向けワークショップは、2022年10月22日（土）16:00～19:00に開催された。ファシリテーターに加え、歴史的カイロのスク・シラーハ通りの地元コミュニティから総計21名の女性が参加した。男性向けワークショップは、2022年10月23日（日）18:00から21:00まで開催された。ファシリテーターに加えて、コミュニティから総計20名の男性が参加した。

各ワークショップは、2つのセッションに分かれて行われた。まず、テーマ説明として無形文化遺産入門編を講演し、無形文化遺産に関連するいくつかの側面を取り上げた。

2003年の無形文化遺産保護のためのユネスコ条約によると無形文化遺産の意味は、慣習、表現、描写、知識、技能、及びそれらに関連する道具、物、工芸品、文化的空間であり、共同社会、集団、場合によっては個人がそれを自分たちの文化遺産の一部として認識することである。

無形文化遺産は、世代から世代へと受け継がれ、環境、自然や歴史との相互関係に対応するコミュニティや集団によって絶えず再創造され、彼らにアイデンティティと継続性の感覚を与え、その結果、文化的多様性と人間の創造性の尊重を促進するものである。

この条約では、既存の国際人権文書に適合し、コミュニティ、集団及びいつかの個人間の相互尊重の要件に適合する無形文化遺産のみを考慮し、さらにこの遺産は持続可能な発展と両立するものでなければならないとする。この点については、上エジプトにおける復讐や、あるコミュニティで行われている、熱いナイフを人の舌に当てて嘘かどうかを見分ける「バシーア」など、反人権的な慣習の例は、除外された。また、有形文化遺産と無形文化遺産の関係も説明し、両者を切り離すことは不可能であることを説いた。古代の建物や芸術的な絵画は、人々の知識と技術の産物である。また、リビング・ヘリテージという概念についても説明し、これに対応する無形文化遺産はコミュニティや集団が機能を持つ限り存在するという事を明らかにした。

ユネスコの2003年の「無形文化遺産の保護に関する条約」では、無形文化遺産が顕在化する5つの広範な「領域」を提唱する。

- ・ 口述；無形文化遺産の伝達手段としての言語を含む口頭での伝統や表現：物語、伝説、民間の諺など。物語、ザジャル、伝説、ことわざ、詩、冗談、格言などです。ユネスコは2003年にヒラリッヤの伝承をユネスコ無形遺産リストに登録した。ヒラリッヤの伝記は、エジプト初の登録。
- ・ 芸能（パフォーマンス）：エジプトでのアラゴース（伝統的人形劇）、タヌワラ、タフティーブ（杖の舞踏）など。タフティーブ（上エジプトの杖の舞踏）、結婚式、赤ちゃんの祝い、ベリーダンス、ザール（アフリカの角地域および中東の隣接地域の文化で、個人、主に女性を所有し、不快感や病気を引き起こすと想定される悪魔または憑物に対する用語。いわゆるザールの儀式またはザールのカルトは、憑依された個人からそのような憑き物を祓う慣習）、シムセミーヤ（スエズ運河周辺に伝わる伝統的楽器）、預言者や宗教聖人の誕生祭（マウリド）など。条件としては三つの世代を過ぎても残っているもの

- ・ 社会慣行、儀式、祝祭行事：伝統料理、エジプトでのシャンム・ネシム（春香祭）、スプーア（お七夜）など。食物で言うとモロヘイヤなど。マウリドのお祝いに出る食物、歌、踊りなども該当する。宗教儀式では金曜日の祈りや巡礼も該当。大事なポイントはコミュニティに残っていること、そして、コミュニティが残して欲しいと思っていること。例えば、古代エジプト人は王の彫像に直接太陽光が差し込む時に祝祭を催していたが、この宗教的な儀式をしなくなったのは必要性がなくなったからである。タルブーシュ（赤い帽子。明るい赤、暗い赤、白っぽい赤い色を使うこともあり頭を覆う。不完全な円錐形で、黒い絹の糸の束がぶら下がり、レバント、エジプト、マグレブで近代の初めに広く使われた）も使わない。ミラーヤ・ラフ（昔女性が体に回した布。体にしっかりと巻き付ける黒い布で、腰の部分が幾分狭くなり、端を頭より上に上げて落ちないようにする。銅、金、または銀糸製で、葦、リボン付きのハンカチなどで、柔らかさと女性らしさを加える。アंकレットとハンマーム（公衆浴場）の下駄と並び女性が身に纏う最も重要なものの一つだった。）も同様である。しかし、ミラーヤ・ラフに関連するタリー（金糸・銀糸を使う織物）はまだ残っている。上エジプト特にソハグなどにいくつか工房があり、その市場は輸入品と競合するほどである。女性が働き、タリー生地からのアバヤやドレスを製造し、カイロの市場に出す。シャンダウィル村（上エジプト）の女性のほとんどが、伝統工芸としての銀糸タリー（銀でコーティングした糸）を製作する。一方、パピルス産業は無形文化遺産として登録できない。なぜかという制作目的が観光にあるからで、つまり、商業のためだけに使う産業は登録できない。例えば、アスワンでは結婚式やヘナ式のお祝いに沢山の儀式が行われるが、観光や売買の目的で意図的にお祝いやお祭りをを行うので無形遺産にふさわしくない。エコビレッジあるいは環境村を沢山作り、伝統的慣行が流行になればよいが、観光客のためを開催されたものについては、登録がでない。
- ・ 環境等に関する伝統知識；自然や宇宙に関する知識と実践：薬草療法や星空案内など。お腹が痛くなったらミントを飲むのはなぜ？咳がある時なぜアニスを飲むの？昔の伝統的な治療の一つはハーブを使用することである。室内気候の調節、すなわち熱に関する物理法則を利用して、夏と冬の空気を調整し、夏に温度を下げることで、これも環境知識の一つである。
- ・ 伝統工芸：アラベスク、陶芸、銅版画など。ハイヤメイヤ（テント）、ビーズ、大工、銅、螺鈿などに関わる技術も該当する。

私たちの無形遺産が生き残るためにはどうしたら良いだろうか？無形文化遺産を保存するためには、どこにあるのか、誰が実践しているのか、どこで行っているのかを知り、沢山の人々に伝えることである。社会慣行や工芸品に使われている道具も大切である。例えば、木版彫刻ならノミ、ウスプーア（お七夜）ならばモルタル（銅製の丸い形をした直径約 10 cm の容器で、厚さ 1 cm 未満で、内部に長い棒（柱）を入れ、棒で容器の内側を叩くように使用する。銅製の笛のような大きな音がでるので、鐘の音には魔法の効果があり、悪霊など未知のものへの人間の恐れを取り除く）、と篩（篩の中に乳児を入れ、それを振って乳児をびっくりさせる）である。

このような各領域での例を挙げた後に、参加者にスーク・シラーハの無形文化遺産の例を考えてみるように指示をした。

無形文化遺産は単一の表現に限定されず、多くの場合、複数の領域の要素を含んでいる。例えば、マウリド（聖者の誕生祭）。これには、伝統的な音楽や踊り、祈りや歌、衣服などが含まれるだろう。同様に、祭りは、歌、踊り、演劇、饗宴、口承と語り、職人技の披露、スポーツ、その他の娯楽を含む無形文化遺産の複合的な表現である。領域間の境界は非常に流動的で、コミュニティによって異なることが多く、外部から厳格なカテゴリーを課すことは不可能ではないにせよ、困難である。あるコミュニティ

では、詠唱を儀式の一形態と見なすかもしれないが、別のコミュニティでは、それを歌と解釈するかもしれない。同様に、あるコミュニティが「演劇」と定義しているものが、別の文化状況では「ダンス」と解釈されるかもしれない。また、無形遺産を継承する集団の規模や範囲でも違いがある。あるコミュニティが表現のバリエーションを細かく区別する一方で、別のグループはそれらをすべて一つの形式の多様な部分とみなすかもしれない。

この条約は無形文化遺産を特定するために枠組みを定めているが、この条約が提供する領域リストは排他的というよりは包括的であることを意図しており、必ずしも「完全」であることを意図していない。各国は別の領域体系を用いることができる。無形文化遺産表象を異なる形で区分している国もあれば、条約とほぼ同様の領域を代替名称で使用している国もあり、既に広範なバリエーションが存在する。また、既存の領域にさら追加したり、新しいサブカテゴリーを追加したりすることもある。その例として、エミレーツでは、伝統的な子供の遊びを登録する際に、5つの領域に伝統的な遊びの領域を追加した。

この条約は、無形遺産が良好な状態にあり、コミュニティがよく参加していることを示すものが代表リストに登録され、2つの場合の特殊リスト；危険にさらされている緊急保護リストとベストプラクティスのリストがある。

エジプトには6つの登録された無形遺産がある。

- ・ 2021年アラビア書道：複数のアラブ諸国が加盟する、知識、技術、実践の国際登録。
- ・ 2020年上エジプト（サイイド）の手織り：緊急保護リスト
- ・ 2019年ナツメヤシ、知識、技術、伝統、慣習：複数のアラブ諸国が加盟する国際的登録
- ・ 2018年伝統的な手操り人形（アラグース）：緊急保護リスト。スヘイミー邸で見ることができる。ナビール・バフガト先生の努力で登録された。レンビー（1919年のサード・ザグルールの革命の際に、ポートサイドの人々が敵対する人の人形「ランビ」または「アレンビー」を作って、燃やした。そこで「レンビー」は専制政治と腐敗の象徴となった。その後、人形を燃やすことが春祭りの一つとなった）が登録されなかったのは人権に反するからである。
- ・ 2016年タフティーブ（杖舞踏）：複数のアラブ諸国が加盟する国際的登録。杖を使うから人権に反すると思われたが、ビデオによって実際は体を全然触らないということが確認出来た。
- ・ 2008年シラア・ヒラリヤ（叙事詩）：複数のアラブ諸国が加盟する国際的登録
- ・ エジプトでは現在、聖家族の旅に関連する口伝、土レンガ建築の国際的登録のノミネーションに取り組んでいる。

また、保護とは、無形遺産の構成要素を確実に維持し、持続させることである。持続のためには、無形文化遺産はその地域社会にとって適切なものでなければならず、継続的に再生され、世代から世代へと伝えられていかなければならない。私が以上のような例を挙げると、参加した女性たちは、スーク・シラーハの生きた無形文化遺産の例をたくさん挙げた。

保護措置とは、一般的な無形文化遺産を促進するため、または特定の無形文化遺産の要素を活性化するために取られる行動である。無形文化遺産を保護するための一般的な措置には、目録、法的・行政的・財政的措置の採用、無形文化遺産に対する意識の向上と尊重の醸成、保護活動へのコミュニティの参加のルール作り、無形文化遺産の管理へのコミュニティの関与が含まれる。

その後、私は無形遺産の要素であるコミュニティとは誰かという質問をした。それは国籍や場所に関係なく、それを実践している人たちのことである。イード（大祭）のお菓子と、バイト・ヤカンの中で菓子作りを実践している女性たちのスライドを見せ、女性たちが無形遺産要素を支えるコミュニティで

あることを明らかにした。最後に、無形文化遺産と持続可能な発展の関係を説明し、無形文化遺産がいかに実践者のコミュニティの収入源になり得るかを説明した。持続可能な開発に直接貢献するエジプト遺産の要素、例えばアラベスクについて説明し、エジプト人が貧しいエジプトの環境に適応するために、いかにこの芸術を木で発明したかを説明した。エジプト人は余った木材で芸術的な木工品を作り、カイロをマシュラビヤ（木製轆轤細工）で有名でした。また、残布を利用したハイヤメイヤ（テント作り）も同様である。

男女ワークショップとも、最初のセッションは 75 分まで延長され、ワークショップで参加者の交流が強く深まった。続いてスーク・シラーハの無形文化遺産を地図に位置づけるグループ・ディスカッションが行われた。ワークショップ参加者は、女性向け、男性向けともに 2 つのワーキンググループに分かれ、各グループに 1 名の若手ファシリテーターが付いた。各グループは、地図に無形文化遺産の要素を記入した。

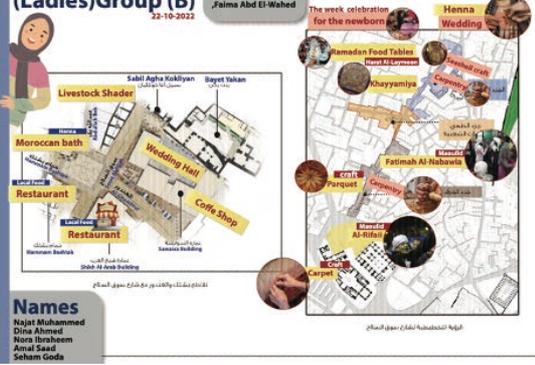
女性ワークショップでは特に結婚式やマウリド（聖者の誕生祭）、民間のことわざなど、伝統的な食べ物やお祝いに関連する無形文化遺産の要素に焦点を当て、多くの例を挙げながら、この点について議論をした。

一方男性ワークショップでは、例えば、ダルブ・アフマル（朱殷地区）という地域名について、ある話では以前この地域に住んでいたローマ人が赤い顔をしていたから、また別の話ではマムルーク人の城での虐殺とその時に流された大量の血から、さらに別の話では赤い建物から、というように、この地域の歴史や物語に関連した要素が興味をひいていた。スーク・シラーハ（武器市場）という地名は、古くからこの地で武器を製造・販売していたことに由来するとの話もあった。男性たちは薬草療法にも興味を示し、伝統的な治療用の混合物の多くを説明した。また、生薬商（アッタール）やムガッバラティ（ギブス）など、伝統的な薬に関連する職業についても多く言及された。

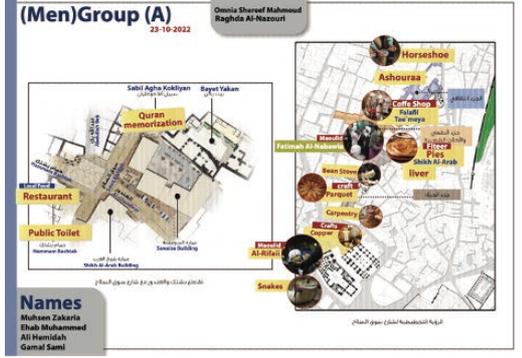
参加者は本ワークショップのトピックに強く共感し、成果物を作成した。参加者にとって以下のような成果があった。2003 年の無形文化遺産の保護に関する条約に基づく無形文化遺産の概念が理解されたと考えられる。無形文化遺産をコミュニティのアイデンティティと関連付けることができ、無形文化遺産がいかに人々のアイデンティティの重要な部分を占めているかを理解することができた。無形文化遺産の要素を自分たちの生活と関連付けることができた。参加者は、コミュニティという要素を識別することができ、コミュニティが遺産の実践者であることを理解した。スーク・シラーハのコミュニティの無形文化遺産を保護することの重要性、そしてその保護方法とその役割について理解することができた。無形文化遺産と社会の持続可能な発展との密接な関係に対する理解した。無形文化遺産を過度に商業化することなく、無形文化遺産がいかに収入源となり得るかを認識した

今回のワークショップは、参加者全員が互いに学び合い、無形文化遺産に関する対話を行う良い機会となり、日本における無形文化遺産を知り、2003 年総会による無形文化遺産とは何かを知り、またスーク・アルシーラの遺産について地元コミュニティから多くを学ぶことができた。

⑤無形遺産：10月22日（土） 住民ワークショップ（女性）A0シート

	
<p>女性グループ（A）地域の無形遺産（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）地域の無形遺産（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（A）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）提案（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（B）地域の無形遺産（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（B）地域の無形遺産（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（B）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（B）提案（英語訳）</p>

⑤無形遺産：10月23日（日） 住民ワークショップ（男性）ファトゥマ・ムスタファ

	
<p>男性グループ（A）地域の無形遺産（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（A）地域の無形遺産（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（A）提案（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（A）提案（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（B）地域の無形遺産（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（B）地域の無形遺産（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（B）提案（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（B）提案（英語訳）</p>

住民ワークショップ（2022年10月）



10月ワークショップ（ディスカッション）



10月ワークショップ（ディスカッション）



10月ワークショップ（ディスカッション）



10月ワークショップ（ディスカッション）

□ ワークショップ・ミニレクチャー：無形文化遺産について 岡田保良

岡田です。みなさまとここに一緒にすることで来てとてもうれしく思います。これまでの私の人生で、みなさまの国エジプトに一度だけ、ほぼ30年前に伺ったことがあります。今日は深見先生・連先生からこのワークショップに招いていただき、たいへん感謝しています。私はもともと深見先生と同じように西アジアの建築、それも古代の報を専門としていますが、今日私に与えられている課題は「無形遺産」の紹介です。では、プレゼンテーションを始めましょう。

無形文化遺産は世界遺産とどう違うのでしょうか？この質問に対し、2つのユネスコ条約を参照します：1つは正確にいうと「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」、もう一つは無形文化遺産保護条約です。今みなさまが座っている場所が「歴史的カイロ」という名の一つの世界遺産中にあります。エジプトには、ほかにピラミッドフィールドなど6つの世界遺産がありますが、今日の話題ではありません。今日のテーマは無形文化遺産です。ユネスコのリストには、現在、エジプトに6つの無形遺産が登録されています。古い順に 1) 口頭詩アルシラアルヒラリーヤ叙事詩；2) スティックゲーム・タフティープ；3) 伝統的な手人形劇；4) ナツメヤシのスキル、伝統；5) 上エジプトの織り物；6) アラビア書道。

では日本の実例を紹介します。まず「文化財保護法」には1)有形文化財、2)無形文化財、3)民俗文化財(有形・無形)、4)記念碑、5)重要文化的景観、6)伝統的建造物群の保存地区の6つのカテゴリーが示されています。2枚の写真の左は、17世紀の城の建物で不動産、右は16世紀の水墨画で動産です。いずれも日本の国宝で、城の方は世界遺産登録を目指し、もう1つの水墨画は、その技術がユネスコの無形文化遺産リストに登録される可能性があります。下の別の写真は、世界遺産に登録されている白川郷集落です。日本では伝統的建造物群保存地区に分類されています。日本の6つのカテゴリーのうち、無形文化財と民俗文化財は、ユネスコ条約に基づく世界無形文化遺産の可能性がります。

INTRODUCTION TO THE INTANGIBLE CULTURAL HERITAGE



- ▶ Context of the International Convention and
- ▶ Japanese Law for the protection of cultural properties

World Cultural and Natural Heritage sites in Egypt	Intangible Cultural Heritage in Egypt
<ul style="list-style-type: none"> • Abu Mena (1979) • Ancient Thebes with its Necropolis (1979) • Historic Cairo (1979) • Memphis and its Necropolis—the Pyramid Fields from Giza to Dahshur (1979) • Nubian Monuments from Abu Simbel to Philae (1979) • Saint Catherine Area (2002) • Wadi Al-Hitan (Whale Valley) (2005) 	<ul style="list-style-type: none"> • 2021: Arabic calligraphy: knowledge, skills and practices • 2020: Handmade weaving in Upper Egypt (Sa'eed) • 2019: Date palm, knowledge, skills, traditions and practices • 2018: Traditional hand puppetry • 2016: Tahteeb, stick game • 2008: Al-Sirah Al-Hilaliyyah epic (oral poem)

Categories of Cultural Property under the "Law for the Protection of Cultural Property" in Japan (article 2)



1. Cultural Property
 - 1.1 Tangible Cultural Property
 - a. structures (immovable)
 - b. fine arts and crafts (movable)
 - 1.2 Intangible Cultural Property
 - 1.3 Folk Cultural Property (tangible and intangible)
 - 1.4 Monument
 - a. Historic sites
 - b. Places of Scenic Beauty
 - c. Natural Monument (animals, plants, Geological and mineral formations)
 - 1.5 Important Cultural Landscape
 - 1.6 Preserved District for Group of Traditional Buildings
2. Treasure Trove (or Buried Cultural Properties)
3. Preservation Techniques for Cultural Property



左の写真は無形文化財の例で、すでに世界無形遺産に登録されている人形劇「人形浄瑠璃」です（文化遺産オンライン所収）。右の写真は、世界遺産に登録されている宗像大社に捧げられた漁師の祭で、民俗文化財です。この毎年恒例のイベントは、世界遺産の価値の一部を伝えています。



Japanese puppet drama called Ningyū Joruri

Fishermen's festival dedicated to the Munakata Shrine

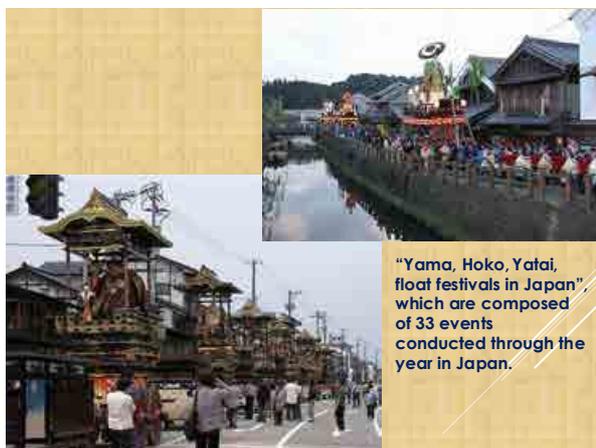


次に、ユネスコの無形遺産に登録されている日本の無形文化遺産の例をいくつか紹介します。日本からはすでに22の無形遺産がユネスコに登録されています。最新のものは2020年に「日本における木造建築の保存と伝達のための伝統的な技術、技術、知識」と記されています。これには、熟練した大工が利用するさまざまなアイテムが含まれます。写真は白川郷の民家の屋根を茅で葺いているところです（文化遺産オンライン所収）。



Traditional skills, techniques and knowledge for the conservation and transmission of wooden architecture in Japan

次は「日本の山・鉾・屋台・山車祭り」で、年間を通じて行われる33カ所のイベントで構成されています。祭りの背景を見てください。伝統的な日本家屋が残っています。重要なのは、有形遺産と無形遺産の組み合わせです。



"Yama, Hoko, Yatai, float festivals in Japan", which are composed of 33 events conducted through the year in Japan.

最後に、2つの無形遺産を示します。左のスライドは「和食、日本人の伝統的な食文化、特に新年のお祝い」です。和食とは、日本食や料理を意味します。右は「和紙、日本の伝統的な手漉き紙の職人技」です。はい、Waは日本あるいは日本の伝統です（文化遺産オンライン所収）。

以上、日本の伝統や有形無形の文化をより深く理解していただければ幸いです。みなさまにも、日々の生活で、有形・無形の価値がある様々なアイテムを探してほしいと思います。ご清聴ありがとうございます。また11月にお会いしましょう。



Washoku, traditional dietary cultures of the Japanese

Washi, craftsmanship of traditional Japanese hand-made paper



⑥ 建物のメンテナンス

〈テーマ説明〉最初にアラール氏から、前回までのワークショップの復習がなされた。今回の、建物のメンテナンス（保存と管理）は、住宅にとっても街並みの保全という意味でも重要である。自分の住まいのメンテナンスを考えるとともに、スーク・シラーハの街並みのメンテナンスについても考える。これにより、建物の内と外をつなげ、捉えながら、持続可能な街づくりを行うことができるとの説明があった。

〈ミニ・レクチャー：建物と環境の維持管理〉苅谷勇雅 続いて、苅谷氏から日本での事例の紹介があった。内容は■3. 章末に掲載

〈グループディスカッション〉ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載したA0シートが作成された。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉

地域には問題が山積みされた状況である。それらは、ゴミ（家庭ゴミと工房のゴミ）、トゥクトゥク、雨（インフラが整っていないので、雨が屋根に溜まって雨漏り、あるいは道路に水が溢れる）、火事（消火栓の有無、位置、使い方がわからない）、健康（近くに保健センターがない）、土地の有効利用（学校や道に利用されていないものがある）、電気（多くの裸電線は雨が降ると停電や火事を引き起こす）、クラックの入った家（修理保存管理がなされていない）等である。

これらを解決するための方策が話し合われた。ゴミに対しては、集団で道や地域を全体的に掃除するという、住民参加型の自主的な清掃活動を行う。道路にゴミ箱の設置を要望、また学校の裏に駐車場があるのでゴミを収集して分別する場所に使いたい。

トゥクトゥクの問題に対して、駅を作り、運転手達の年齢や走行ルートを決める必要がある。道にある電柱や電線の定期的点検と修理が必要で、破損した電柱の修理、地域の調整、柱の提供、安全でない配電盤を報告するための監視委員会の設立が考えられる。

雨に対して排水管や下水道排水の定期的修理をするべきで、下水道の修理は一部住民負担となっても良いので、早急に修理の必要がある。雨とインフラの問題は、雨水排水ネットワークであるオープン雨どいを提供することによって解決できる。降雨を火事の消化等に有効利用したい。

頻繁に起こる火災は、その地域に指定された水ポンプを修理し、地域ごとに十分な数を用意し、住民が火災に対処できるように訓練コースを設けることで回避・軽減することが可能である。消火に地下水を再利用し、火災を感知するとすぐに自己作動するネットワークを構築する。

学校と協定を結ぶなどして学校の空間を夏休み等にさまざまな活動に使わせてほしい。例えば、木工業者が若い人に手仕事を教えるなど。特に、夏休みには学校の子供たちのためにレクリエーション活動を作り、組織することに保護者の参加を要請する。住民が集まれる場所（オマル・ビン・ハッターブ学校）など、学校の午後の時間を利用し、救急処置コースなどのトレーニングコースを実施し、地域意識を広めるための核や種となるようにする。また、学校で子供たちの運動会を開催し、地域住民に出席を奨励することも考えられる。

モスク（イルゲイ・ユーズフィー・モスクやリファーイー・モスク）に金曜日の礼拝の際に、女性が祈るためのスペースがほしい。また、閉ざされたサビール（給水所）の活用、その一つとしてコーカリアン給水所を子供図書館にする。住民が集まれる空間を提供することが必要で、例えばスルタン・ハサン前の公園のような、住民のためのレクリエーション場所を作る。

アガ・カーン財団のような基金が住宅の保存や管理をローンで行う方法を考えてほしい。取り壊された建物のうち、人が住んでいないものは、遺産でない限り撤去することが望ましい。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

荻谷氏の発表後、「僕の子供が学校では掃除させません。僕は絶対掃除をやらせない。」という意見が出された。他の男性ワークショップの参加者から「荻谷先生が絶対に学校掃除しないさいと言っていないで、日本ではこんなやり方があります。皆に違う生き方を見せようとしただけです。」と答えた一幕があった。

地域の問題としては、

- ・ 壊れている家が増え、保存や管理がされていないので、家の前や家の中をゴミ捨て場になってしまう。特に工房のゴミが多い。
- ・ 手仕事の価値が分からなく、伝統的工芸が出来る人の生活が大変になった。
- ・ イード(犠牲祭)に雨が降ったら、上下水道の断線や片づけ、下水道の修理をしてくれる人がいない。
- ・ 古い建物の修復したい気持ちはあるが、修復の許可取得方法がわからぬ。許可の手続きがわかれば、もちろん修復したい。
- ・ 火事の時に使える消火栓がない。火事の際に使える水源がなく、消防車も狭い通りに入れない。
- ・ 交通問題：道の両側に古い車が駐車したままで、道が狭くなり人も車も通りにくい。
- ・ 雨問題：雨の水が処理できずに、道に溢れてしまう。
- ・ 街並み：この地域には歴史的な建造物が沢山あるのに、高いビルの建設が続いていて、街並みの調和が壊される。

これらの問題点の解決方法として、

- ・ 歴史的な建造物を修復・復活して、住民に使わせてもらいたい。チケット制にすることも考えられる。
- ・ 政府のゴミ収集ではなく、会社に依頼した方がよく、厳密な規則を作って、皆に守ってもらう。
- ・ 古い家の修復の許可の手続きを簡単に教えてもらいたい。
- ・ 火事問題に対して、消火栓のメンテナンスをしてもらいたい。消火器や、小さな消防車も必要である。：古い消火栓を直し、新しい消火栓を作る、水の量や供給を完全に解決できるために、高圧水線を導入するべきだ。
- ・ 雨問題に対して、所有者に屋根の絶縁・防水を義務付ける。大雨がでも水漏れがなくなる。
- ・ 交通問題に対して、道の駐車を禁止し、道を広くするべきである。
- ・ 街並みの調和については、高いビルを建てることを禁止するべきである。

〈発表（女性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0シート参照。

女性の問題解決法は以下にまとめられる。

- 1- スーク・シラーハの集団清掃の日を設定する啓蒙活動
- 2- 雨の問題を避けるために、道路の舗装との定期的な検査を実施すること
- 3- 消火栓の数を増やし、その使い方を教える
- 4- 保護者の一人が、夏休みに学校の生徒たちに工芸品の一つを教える役割を担っている。
- 5- 電線の露出や、雨天時の電気ショートの可能性など、電気の問題解決に取り組む。
- 6- 地下水を、消火に役立てる。
- 7- ゴミの収集と分別のポイントになる場所をいくつか決定する。
- 8- 住民が娯楽のために集まれる場所を提供する。

〈発表（男性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0シート参照。

男性は、維持・修繕のために社会の人々が協力し合うという点で、日本のコミュニティが行っている事例をたくさん見ることができたことは、勉強になった。解決策は、以下のようにいくつかのポイントに

分けられる。

- 1- 地域の人々が独自の行政との話し合いを開くのには有益と思われる集会所や議論点とは何かを明らかにする。
- 2- 地域の歴史的建造物群を放置している理由とその原因について明らかにする。
- 3- 雨とそのダメージがもたらす建物については、建物と街路のレベルを考慮する必要がある。
- 4- 火災はスーク・アルシラが頻繁に直面するリスクの1つである。
- 5- 個人が消火栓の位置を知らないどころか、使い方を知らない。
- 6- 6 - 学校を子供たちの勉強や教育の場とすると同時に、工芸品への意識を高め、地域や学校もきれいにすることが、子供たちに地域を好きにさせる。
- 7- 何人かの個人を選び、彼らに異なる役割を担わせることで、その役割が他の地域の人々の参加を促すことに貢献する。
- 8- 道路の高さが高いことが、地域の排水問題の原因である。
- 9- スーク・シラーハのための緊急連絡網を設置し、必要な事態が発生したときに人々が助けを求められるようにする。
- 10- 地域の人々の間で役割を整理し、ゴミ、工芸品、火災予防の定期的なメンテナンス、救急隊などのように役割を分担する選挙を実施する。

〈まとめ〉

建物のメンテナンスは、住宅内部、住宅のファサード、街路のメンテナンスが重要である。このワークショップでは、街並みの景観整備も視野に入れながら、個人の住まいや街並みの整備を考えていった。これにより、建物の内と外を把握しながら、持続可能な都市のプロフィールを作成することができた。改善や開発には、住民の意識と改善意欲が不可欠で、行政が提供するよりも、住民が自ら提供できるものが多い

火災などの緊急事態には近隣住民による応急措置や援助より早く効果を奏するので、真っ先に考える必要がある。コミュニティとは、同じ傘下（シェルター）に結ばれた個人の集団のことである。コミュニティの中では、共同で実践している習慣や活動があるので、意識も高く、ニーズも高い。補修、修繕については周期性や定期的なメンテナンスがないことが問題となる。現代的住居、伝統的住居、歴史的建造物では補修や修繕の方法も異なる。荻谷氏が示したように日本では、建物のメンテナンスに協力している例がある。しかしそのためには何らかのソフトな仕組みが働いているはずである。居住用建物の責任の担い手も考えねばならない。

アラール氏は、住民が提示した問題点に対して、住民の中から一人をコーディネーターとする案を提示したが、女性陣にはあまり好評ではなかった。第1回の交通、第2回のゴミ、第3回のリスク・マネジメント、第4回の建物の再利用全てに通じるテーマであった。住民の意見も収斂されてきた。これらを通して、住民の望む街に対する憲章を策定することが考えられる。毎回参加する住民の顔ぶれは決まってきた。住民憲章のためには、住民層をさらに厚くし、常連のメンバーが主導者となっていくことが望まれる。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉 合計 15 名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い (13名) : 普通 (0名) : 悪い (0名) : 無回答 (2名)

2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ 老強化した屋根、老強化した階段に対して、地域の若い男性も大人も全員が能力に応じて協力し、復

旧すべきです。

- ・ ゴミ問題と危険に対して備える手段の問題です。
- ・ 消防の訓練を行い、通りを植物で飾ったり、応急処置の研修を行ったりして欲しいです。
- ・ ゴミ問題など色んな問題に対して知識がないという問題です。
- ・ 地域の清潔の重要性を住民に教育する。
- ・ 雨の問題、トゥクトゥクの問題、ゴミ問題があります。
- ・ ゴミ問題に皆で協力しなければならない。
- ・ 危険と災害
- ・ ゴミ問題と下水問題です。
- ・ ゴミ問題ですが。ゴミ収集は二回少ないので、もっと増えればよいと思う。
- ・ 道が狭いので、火事があった時に消防車がなかなか入れないですので、困ります！

3- 自由記述

- ・ 周りの地域のためにも消防団の結成が望まれ、皆がわかる場所に消火栓を設置してもらいたいです。
- ・ ワークショップに出た話を実際に実行することです。
- ・ サビールを再開して、国民に使わせる。
- ・ 地域の清潔の重要性を住民に教育する。
- ・ ワークショップに出ることを実践出来るように神様に願っています。



11月ワークショップ（ディスカッション）



11月ワークショップ（ディスカッション）



11月ワークショップ（発表）

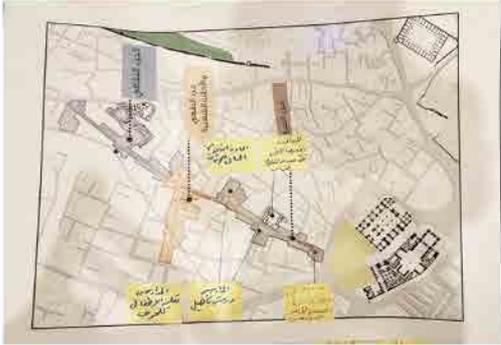
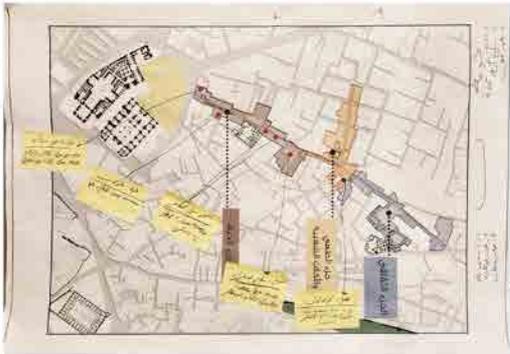
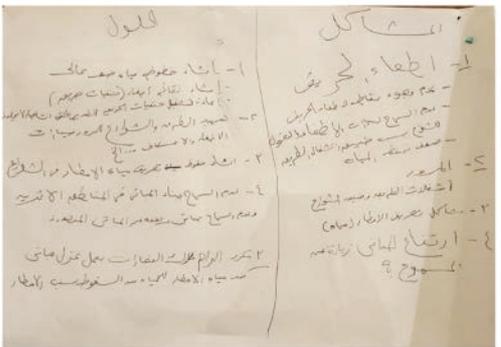


11月ワークショップ（発表）

⑥建物のメンテナンス：11月26日（土） 住民ワークショップ（女性）A0シート

<p>女性グループ（A）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）提案（英語訳）</p>
<p>女性グループ（A）地域の課題と解決方法（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）地域の課題と解決方法（英語訳）</p>
<p>女性グループ（B）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（B）提案（英語訳）</p>
<p>女性グループ（B）地域の課題と解決方法（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（B）地域の課題と解決方法（英語訳）</p>

⑥建物のメンテナンス：11月27日（日） 住民ワークショップ（男性）A0シート

	
<p>男性グループ（A）提案（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（A）提案（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（A）地域の課題と解決方法（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（A）地域の課題と解決方法（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（B）地域の課題と解決方法（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（B）地域の課題と解決方法（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ（B）地域の課題と解決方法（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（B）地域の課題と解決方法（英語訳）</p>

1. はじめに：ワークショップの前に、今日のテーマの維持・管理に関して 15 分ほど話す。私は京都市役所で都市計画や景観保全の仕事をしたあと、文化庁に移り、文化財建造物や歴史的町並みの保存に携わった。現在も ICOMOS（国際遺跡記念物会議）の活動に参加したり、いくつかの地方自治体の文化財関係の審議会の委員を務めている。

2. 掃除 家の中：建物や環境の良好な維持管理は、掃除が一番基本である。日本の伝統的な家には畳が敷かれている。家庭では、窓ガラスや床拭き、畳の掃除やその拭き掃除を行う。伝統的な部屋は紙を貼った障子戸で仕切られているが、何年かすると古くなって一部破れてしまう。その時は子供たちも加わって、障子紙を建具からきれいにはがし、糊をつかって新しい紙に張り替える。大掃除は通常、年末に家族みんなで行なう。

3. 掃除 家の外、街路、公園等：右上はあるレストランでスタッフが店の周りの掃除をしている。道路や河川敷など公共の空間は、地方自治体などの仕事として定期的に行われることが多いが、最近は市民グループがボランティアで取り組むことも多くなっている。

4. 掃除 学校：学校の教室や廊下、運動場などの掃除は小学生や中学生の役割である。日本の学校では教育の一環として、熱心に取り組まれている。教室ではほぼ毎日、こどもたちは机をいったん片付けて床を掃除し、雑巾がけをする。

A Mini Lecture about Maintenance of Buildings and Environment

KARIYA Yuga

Cleaning



Housecleaning



Cleaning Japanese-style room and wiping tatami mats



Replacement of shoji paper screens

Cleaning

Volunteers of cleaning for their environment



A staff cleaning in the precinct of his restaurant

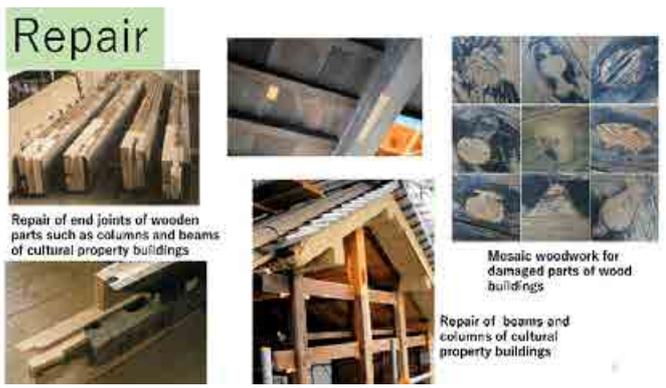


Cleaning

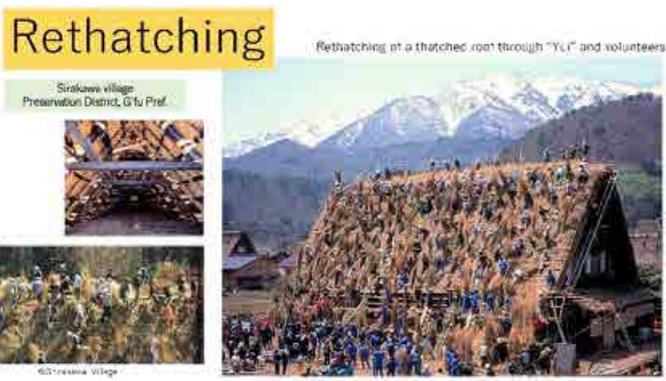
Cleaning in schools



5. 文化財建造物の修理：文化財の建物の維持管理の基本は、部材の補修である。日本の木造建物は長年の間に傷みが生じる。特に木造の建物は、部材と部材を連結する端部が傷み、耐力を失うことが多い。その場合、傷んだ部分だけを丁寧に取り除き、新しい材を巧みに加工して、以前と全く同じ形で補修する。古い柱や梁も、傷んだ部分だけを取り除き、新材で補足したり、穴を埋めたりする。右上の写真は床板の傷んだ部分を巧みな形の造形で補修しているもの。



6. 茅葺屋根の葺替：これは岐阜県白川村の合掌造りの茅葺屋根の葺替である。茅屋根は30年から40年ごとに葺替が必要である。多くの人手とたくさんの茅が必要で、村では伝統的に「結い（ゆい）」と呼ばれる共同の助け合いの作業によって葺替を実施してきた。最近では全国から茅葺きボランティアも集まって、イベントとしても葺替が行われている。「合掌造り」は、屋根の断面が両手を組んで合掌するような形であることから名付けられた。



7. 茅葺屋根の茅の刈り取りと保管：白川村の合掌造りの屋根の葺替には大量の茅が必要である。中学生たちも茅の刈り取りに加わる。全国から刈り取りのボランティアも集まる。刈り取られた茅は十分乾燥され、倉庫で保管され、茅葺きの日を待つ。



8. 茅葺集落の防火施設 放水銃等：左上の写真は白川村の茅葺集落の夏の景観である。茅葺集落を火災から守るため、集落全体で59基の放水銃が設置されている。集落のはずれの丘の上に大規模な防火水槽が設けられ、その水圧の差により防火用の水が高く噴き上がる。年に1度、10月末頃に機器の点検を兼ねて放水訓練が行われる。放水銃は女性でも扱いやすいように工夫されている。



9. 茅葺集落の防火施設 放水銃等： 同じように茅葺家屋が並ぶ福島県の大内宿でも放水銃の一斉放水訓練が防災の日の9月1日に行われる。大内宿の放水銃は半地下式で28基設置され、また屋外消火栓も23基され村人による自主防火・消火体制ができている。

10. 高山市の歴史的町並保存地区での防火： 地元住民による自衛消防団が組織され、定期的に訓練を行っている。左の写真は放水訓練の様子。中心の写真は消火用のホースが町のわかりやすい位置に設置されている。通りの両側の用水路には常に清冽な水が流れ、通りの日常の清掃に使われるとともに、火災時の消火用水ともなる。堰板を設けて水の深さを確保する。また各家には自動火災報知器が設置されているが、これは近隣の6戸~8戸の家を単位として連動している。

11. 建造物修理のワークショップ： 左上は子供たちが伝統的な土壁塗を体験している。左下は粘土を焼いた日本瓦葺のワークショップ。右は、2011年の東日本大震災の被害を受けた茨城県桜川市の真壁伝建地区での蔵などの復旧修理について、工業高等専門学校の建築学科学生が大工棟梁から学んでいるところ。

12. 大規模住宅団地のコミュニティ： この大規模分譲集合住宅団地では日常の家庭ゴミ、新聞紙、段ボール、ペットボトル、空き缶、古着など、細かく分別してゴミステーションに集積する。家庭ゴミ以外は資源ゴミとして廃品回収業者に売却し、売却益は自治会、子供会の活動費の一部として活用している。2022年9月の売却益は約57000円だった。右上は大型ゴミなど、このゴミステーションでは扱わない種類の廃棄物についての注意書き。コミュニティでかなり厳格に廃棄物を管理している。

Fire Prevention

Drill of Water guns in Uchi-juku Preservation District



Fire Prevention

Drill of resident firefighting team

Fire hoses



Road drainage ditches that can be used for firefighting water

Community fire alarm system

Workshop

Kids' Workshop for Repair of Traditional Buildings

Students' Workshop to recover damages from the Great Earthquake



Mud wall

Clay tile

Community

Garbage Segregation in a Large-scale residential complex



Garbage station

Warning to segregate garbage

Income from collection of Recyclable waste / Sep., 2022

13. 大規模住宅団地のコミュニティ：新市街地における大規模な住宅団地のコミュニティでの夏祭りのイベント。団地の中心の広場、緑地で踊りが披露され、住民は歓談、飲食を楽しんでいる。

Community

Summer Festival in a Large-scale residential complex



14. 大規模住宅団地のコミュニティ：夏祭りイベントでの住民たちの語らい。広場は通常は子供たちの安全な遊び場である。



Community

Summer Festival in a Large-scale residential complex



15. コミュニティの絆：千葉県浦安市の東京湾沿いの高潮堤近くに新設された緑地帯。2011年の東北大地震の後、市民や子供たちが海岸沿いに長い土塁を築き、20種類以上の苗木を植えた。10年以上経った今日ではボリューム豊かな緑林に育ち、コミュニティの絆を表現している。

Community

A project "Let's nurture the Forest for Our Future" by Citizens



First stage of planting trees by children and citizens in 2012

After the Great East Japan Earthquake in 2011, children and citizens of Urayasu planted 23 different kinds of saplings on the small bank using environmentally friendly recycled soil.



Current status of well overgrown trees after 10 years

16. 歴史的町並を守るコミュニティ・ルール：日本の歴史的地区や歴史的町並み地区には、地域住民による自主的な保存憲章や協定がある。1960年代の後半から、日本各地で地域の歴史的町並みや環境を守るための運動が始まり、これに応じて地方自治体でも歴史的町並みや景観を守る条例やそのための支援施策等を整備してきた。1975年には国の町並み保存制度ができ、現在全国で126地区が国の選定する重要伝統的建造物群保存地区になっている。NPO「全国町並み保存連盟」は歴史的町並み保存の68の住民団体と個人で組織されている。

Community Rules

歴史的町並みと環境を守る住民憲章・協定など
Resident charters, agreements, etc. to protect the historic townscape and environment

1. 各地の住民憲章・協定等
 - ・日本各地の歴史的地区、歴史的町並みでは住民による憲章・協定がある。
 - ・町並み保存士会憲章（岩倉藩、大内藩、美山町に、竹富島等）
 - 【ふらふら、霞まない、雲さない】
 - ・まちづくり協議会とまちづくり協定（地区） 金沢市、京都市など
 - ・町並み景観年しあわせ条例（高山市出町地区）
 - ・白土結実「町づくり条例」一ツ越市 等

2. 全国町並み保存連盟（日本各地の歴史的町並み地区の町並み保存市民団体の連合体）のまち並み憲章
The Machinami Charter for the Conservation of Historic Town and Settlements of Japan-Japanese Association for Machinami Conservation and Regeneration



⑦ 伝統工芸

〈テーマ説明〉まず、アラール氏から今回のワークショップの最初に、先週バイトヤカンで開催されたワークショップについて話した。日本の金沢から大工棟梁と伝統的建築修復の専門建築家がエ訪れ、1週間バイトヤカンに滞在した。木工芸やデザインに興味を持っているエジプト人に情報を流して二人の専門家と5日間のワークショップを開いた。金沢はカイロと同様にユネスコがクリエイティブ・シティーズ・ネットワークに工芸で登録されている。ワークショップでは、日本の伝統的な組子の技法やアイデアをエジプトの伝統的な木工業（ココスーク・シラーハの地場産業）に導入することによって、停滞しがちなカイロの木工業を復興させようとする試みであった。二人はカイロに着いた日から休みもせず一所懸命にエジプトの木工業職人と共同作業をし、日本の技法を教えようとした。そして、最終的にはバイトヤカンの中庭東側屋上に設置する格子細工のパネルを共同で作成した。12月14日にワークショップを終え、翌日12月16日に日本大使が展示会に訪れた。

町の経済を発展させるためには、何かを生産できる町にならなければならない。生産できる町にならなければ他の町に頼り続けることになる。例えば、ニュー・カイロにある住宅地タガンモアという地域では、物を買うためには地域の外に出る、あるいは地域の外から持ってきたものを買わなければならない。ダルブ・アフマルには手工業が沢山あるが、観光客用の用品ばかりである。物を沢山作っても、うまく市場に乗せなければならない。土産物を作るより住民の好みや使用に供する製品の生産に集中すべきである。なぜなら、コロナの時代の例で明らかなように、観光業は安定を欠くためである。卓越した工芸を復活させるためには、昔のシステムを見直す必要がある。昔はシェイフ（親方）、ウスタ（職人）サビー（中堅）ビリヤ（見習）という仕事の経験と質に応じた階層があった。

この地域ダルブ・アフマルには木工業者が大勢いる。今日のワークショップでは地図にまず、伝統工芸がどこに位置しているのか？工房があるのか？住居が工房になっているのか？どこで販売しているのか？ということを考えてほしい。

手工業や工芸は一人の職人が一つの作品を完成させるわけではない。さまざまな関連する職種がある。例えば、家具では、木工部分の彫刻や塗装、金属部品、布ばりなどに分かれる。ここに参加している人で、職人さんの場合、どのようなつながりがあるのか。材料の調達など関係性ができているのか。このような状況なので、作成のサイクルを改善すれば、より上質なものを生産することができ、経済的にも向上するはずである。

新しい都市を作る時、学校、総合病院、商店街などのエリアを建設する。しかし、ここダルブ・アフマルには古い都市が存在し、住宅、店舗、学校、病院、工房もある。このことが、コミュニティを結束させている。工房を街の外に出してしまったら、街の経済が悪化する。ダミエッタにも前は木工町があったが、外に出され、古い街区自体が劣化した。

ここには沢山の家具製作所があるが、イケアのように分解と取り付けをスマートに出来るようになることが望まれる。その一つとして、近隣のバーブ・ワズィールにボルグ会社がある。伝統工芸にはどんな問題があるのだろうか？独占、あるいは機器も考えてみたい。

〈グループディスカッション〉ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載したA0シートが作成された。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

男性のグループでは、伝統工芸と同時に、問題が沢山指摘された。原材料が高騰し、購入しにくい。質の良い製品を作るため高い材料が使っているので、高く売りたいが、高い値段で購入してくれる人が少ない。例えば質の良い効果な木材を使い、腕の良い木工業職人が作成

し、見栄えが良く長持ちする寝室家具を作ることができるが、高価になる。結婚を控えた若者は、モダンで安いトルコや中国の製品を購入するが、耐久性は低い。質が劣ることは認識しているものの、買い手は予算の点から安価なものを選ぶ。木工業者は材料販売者や機械所有者と交渉することができず、この問題を解決できない。

加えて、工房の設備、工作機械の問題。専用の電動工作機械を所有しない職人は、電動工作機械を賃貸せねばならないが、その賃貸量が高価である。原材料の不足の問題も折り重なる。製品を展示する場所がない。道が狭いので、原材料を運ぶ車が通らない。腕のよい職人の減少は、多くの若者は日銭が入り研鑽の必要がないトゥクトゥクの運転手等を選び、後継者を育てることが難しいことによる。加えて、低賃金の問題が拍車をかけ、それぞれの工房は一つの家具製造過程の中間過程を担っているために、展示場をもつ大手家具会社に買い叩かれて、賃金は低い。この職人関係の重層下請け構造は、買い手と売り手の間に仲介者が介入することによって、製品の価格が高騰すると言う問題も同時に引き起こす。また、古くは多様な工芸がネットワークを作り、工芸のグラデーションが存在したが、現在は消失しまい、問題に個人で立ち向かわねばならない。購買者層は伝統的な製品よりモダンの製品を好み、これに対する対策も共有できていない。

解決法として、行政と職人の繋がりを作ることが大切である。行政に依頼し、地域にある建造物を展示会場とする。例えばバイト・ヤカンの近くに4階で出来た施設は誰も使っていない。さらにアガ・カーンのような現在使われていない技術センターをオープンする。市場開拓や製品プロモーション方法を見つけ、仲介者の介在を辞める。個人では難しいので同業者組合が必要となる。工芸の技量を積んだ親方が技術センターで若者に伝統工芸を教えるべきである。教える際に暴力を使うあるいは子供を叱ることもあるので、親が心配して子供を行かせないのだが、上手に丁寧に教えることのできる親方が望まれる。親が心配して、工芸センターに通うよりスポーツセンターに行かせ、結果的に工人の数が減少する。昔は親方は職人として独立した教え子を祝福し、褒美を与えたが、現代では親方自体が工芸の技法全てを弟子に詳しく教えようとしない。きちんと稼働する電動工作機械が少ない。電動工作機械を無料で使える施設が欲しい。

さまざまな問題を解決するために大工組合をつくるという件に皆が賛成し、この発案者が大工組合の管理者になることが決まった。

地図に木工業に関する工房や工人を指摘した。スーク・シラーハには、木工業以外の手工業も存在する。ハーラ・マズハルではドラムとウード（楽器）、ハラワニーではステンレス形成、シャムシェルギーには銅精錬、ガラールさんの靴工房、アブデル・ワッハーブの鍛冶屋、その隣に機械修理工場、椅子屋のアシュラフ、機械工のアーデルがいる。寄木細工の工房や、アラベスクの工房もオマル・イブン・ハッターブ学校の左側にある。アトファ・リモーンには布団屋もある。アルミニウム製造は最近では販売に変わってしまった。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉

女性の会では、男性ながら、昨日のワークショップに参加したハムディさん（元高校の歴史教師）から、「この地域は木工に関する伝統工芸が盛んな地域であり、伝統工芸の苦悩や問題点を、伝統工芸の従事者に語ってほしかった。後継者問題は大きな問題で、私自身父は職人だったが、父は息子たちを大学に進学させ、兄弟の誰一人として跡を継いでいない。」と、昨日色々な問題がメンバー間で共有され、組合設立の段階に至ったことを発表した。

現状での大きな問題点は、原材料の高騰には皆悩まされている。当然、コストも高い（建築許可-税金-電気-水道-人件費）。これらすべてが最終的に値段に反映し、製品の価格が高価になる。加えて、海外

からよりモダンなデザインで、より安い価格で家具が輸入される。価格を比較し、人々はより安価な輸入品を購入する（店の床屋化-プレイステーション化-電話販売専用のセンター化）。

また、時代の変化も大きな問題である。人々の嗜好が時代とともに変化している。伝統工芸保持者が亡くなることによる消滅もあり、工人としての父親は自分が生前生きていくのに苦勞がいったように、子供の一人になってほしくないとも思ってしまう。このように職業が発展せず、時代についていけず、伝統工芸保持者が限定された状況にある。製品の保管所、展示場の問題も大きい。家の前に工芸品を展示する場所がない。

職に対する安心感の欠如も問題を投げかける。伝統工芸保持者は、「自分が元気であれば大丈夫…」という気持ちになっている。しかし問題は、職人に対する健康保険がないことで、伝統工芸保持者に怪我や病気が起こり、その後仕事ができなくなる、この点が非常に重要かつ危険で、伝統工芸保持者にとって不安材料になる。例えば、手足や指を失ったり、怪我をしたりすると、その人の労働生活は終わってしまう。

これらの問題に対して、以下のような解決策が提案された。数年前に廃校になったサダト小学校を再利用し、伝統工芸を教え、製品を展示するために使用する。ここは職人学校に適しており、教室は実験室や工房に変え、下の階は製品を展示するためのオープンエキシビションとして使用する。あるいはバイト・ヤカンの第2中庭に展示場を設けることができる。後継者問題については、伝統的職人の収入より短期間で多くの収入をもたらすトゥクトゥクの問題がある。その解決策は、トゥクトゥク運転の職業を実践するためのライセンスを取得し、20歳から運転できるように年齢を指定することである。また、手仕事の喜びを学校等で小さな頃から教え、個人の性格に合った職種を選ぶことのできる環境を作る。また、子供たちに伝統工芸を教える人には、有給の仕事を与える。

製品の価格を下げることで、人々が製品を購入し、地元の製品を支援することができる。そのためには、大量に材料を購入し、さまざまな中間搾取を除くことのできる組合が必要となる。職人のための組合や部門-商工会議所-を作り、ダルブ・アフマルの職人のために一つの旗の下に職人を集める構想がある。組合は、職人のために低価格で材料を提供することができるようにすること、また工房の場所の近くにあること、そして常に地元の工人の要求や顧客の要望を知り、職人のために十分な製造ツールを提供する必要がある。

問題の一つは、人々の反応の悪さ、または工芸品を学ぶことへの関心の低さにもある。数日前にバイト・ヤカンで行われたワークショップに日本の建築家や棟梁が参加するなど、海外からの経験を交換し、伝統的な製品の形を発展させることにより、現代的な感覚や発展的な状況を打ち出す必要がある。職人仕事の魅力を伝えること、手仕事自体時代の動きを受け止める。

地図における分布は、スーク・シラーハの最初の通りには、オリエンタル織物職人の店、洋風彫刻家具（オイマ）の店、ステンレスの製造と形成のための通り、通りに沿って分布する寄木細工のワークショップ、マリダニ・モスクの前にある鍛冶屋工房、シャムシェルギー通りにある銅工房、靴の修理店、繊維製キルトの販売・製造店（ただし高価）などがある。

内側から見た街と外側から見た街は違うので、小道で行う活動と主要通りであるスーク・シラーハで行う活動を一致させなければならない。本来伝統工芸品にはそれぞれ場所があり、子供や後世の人々に伝統工芸を教える責任者である親方がいる。また、伝統工芸は、すでに近隣の台帳に登録されている。

〈発表（男性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0シート参照。

男性の会では、以下の点が指摘された。

1- スーク・シラーハ内には、大工、鍛冶、オイマ（洋風木彫家具）など、多くの工芸品があった。

- 2- スーク・シラーハ内の製品を展示する展示会が激減している。
- 3- 原材料は、工芸品の質を向上させる理由の一つとなる。
- 4- 狭い道路や袋小路のため、工房への原材料の搬入が困難である。
- 5- いくつかの歴史的建造物を手工芸品展示の場として利用する。
- 6- 学校や工芸教育センターで初心者には工芸の基本を教える際に、工芸の親方を活用する。
- 7- 職人のための協同組合を設立し、原材料の供給と販売方法を確立し、工芸の継続に貢献する。
- 8- 工芸品の展示方法は、工芸品を販売するための重要な理由の一つである。
- 9- 売り手と買い手の間の仲介を取りやめることで、製品の値段が下がる可能性がある。
- 10- 工房に現代に適した機械や道具を装備する。
- 11- 工芸を学ぶために若者を奨励し、小学校から始まる。
- 12- 工芸について、親方、職人、中堅、見習という技量の階層を見直す。
- 13- 職人の移動を制限し、地域内の販売場所を提供する。
- 14- 工芸を宣伝し、人々がそれを学び、実践することを奨励する。
- 15- コスト削減のための税関ライセンスを得る。

〈発表（女性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0 シート参照。

- 1- 原材料の価格の高騰
- 2- 職人の他職種への流出。
- 3- 継承が難しく、いくつかの職業が消滅していること。
- 4- 製品を展示する場所がない。
- 5- 手工芸品に対する一般的な評価の低さが、購入に踏み切れない理由である。
- 6- 工芸を支援するサービス、コミュニティ、政府機関が存在しない。
- 7- 工芸伝授センターを設け、海外から工芸や新しい技術を学ぶための研修コースや助成金を得る。
- 8- 工芸品の販売のための定期的な展示会を開く。
- 9- 支部や労働組合を設立し、健康保険や財政支援など、業務を保障し労働者を保護する。
- 10- 職人を支援し、伝統的な手工芸品に対する認識を高める。
- 11- ワークショップを通じて、学校の子供たちを教育する。
- 12- 工芸品やワークショップに関するプロパガンダ・シリーズの制作によるメディア支援。
- 13- 13-サダトスクールのようないくつかの学校は、工芸学校として使用することができる。
- 14- 工芸の担当者が団体を監視し、彼らに関するデータを収集するための工芸記録を作成する。

〈まとめ〉

街独自の伝統工芸を考えることは、人材育成、人間関係、場所の共有、商工業の仕組み、街のアイデンティティの形成の面で非常に重要である。ダルブ・アフマルとスーク・シラーハの文化遺産の利用に加え、地域全体が伝統工芸の開発や消滅からの保護、工芸に別の新たな形や機能を与えるデザイナーとの協力を視野に入れねばならない。同様に、工芸品の原材料の品質、および使用されるツール、および製品を販売するための方法も検討されるべきである。マーケティング、展示の方法と場所、および買手への魅力などを明らかにすることも重要で、これらのすべてが工芸品の進歩に複合的に影響する。この地域の伝統工芸を保護し興隆することにより、地域の価値は上昇し、地域の人々への経済的収入となる。

ファシリテーターとして参加したマルワーは、発表の後に以下のような提案をした。スーク・シラーハ地区の伝統工芸をアピールするために、そして街の意見を政府の耳に届けるために大きなイベントを開くことも必要である。例えば、コーカリアーン給水所で、中に子供とモスクのシェイフ S（宗教指導

者) を呼んで、コーランを教えてもらっているビデオを撮影する。あるいは、学校を自分たちで綺麗にして太鼓とウードの展覧会してビデオを撮影する。このような発信方法を提案した。これに対してアラ氏はラッザーズ邸の裏のスペースを使う提案をした。

ワークショップを終え、印象に残った住民の声は、職人自身が、自分たちの問題を一番よく知っていて、自分たちの住んでいる現実を認識しているので、このワークショップに参加したほうがよかったと、誰もが思ったということである。地域が世界と大きく結びついている現状も感じた。職人も消費者も、海外から大量に輸入されると、地元の製品の価値が失われる。昨今のエジプト経済の悪化による原材料の高騰は、全ての人に影響を与えている。

時代とともに人々の嗜好が変化し、伝統的な製品が以前ほど好まれなくなり、現在の製品は、アイデンティティを守りつつ、発展に合わせた開発が必要であるという点も納得できる。職人につきまとう疎外感や職のヒエラルキー、身体の健康が最も重要な継続の支えであるため、病気に対する不安感。そのため、健康保険やまともな生活を保障するような支援が必要である。

また、このワークショップがきっかけとなって、日本大使館の草の根支援で作られた木工訓練所が地域の職人たちと協力しながら運営されるようになったことは、素晴らしい。木工組合の設立とともに、バイト・ヤカンの木工訓練所が地場産業興隆の核となることが望まれる。彼らの意見を真摯に受け止め、伝統工芸の普及・啓発のための手段が提供されることを期待したい。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉合計 28 名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い (21 名) : 普通 (0 名) : 悪い (0 名) : 無回答 (7 名)

2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ ゴミ問題です。
- ・ 販売は問題です。道具や機械を借りる費が値上がりした。
- ・ 問題の解決はここです。アラ先生の家で
- ・ このワークショップは一番良かったことです。
- ・ 手仕事を大事にして欲しいです。
- ・ 材料がとても値上がりしているけれど、木工産業を発展させなければなりません。
- ・ トウクトウクが増えてきて、製品を展示できる場所がありません。
- ・ ポンド下がって、ドル高のせいで、原材料が値上がりした問題です。マーケティングの問題もあります。
- ・ ゴミ問題です。
- ・ 伝統産業が消滅しそうなのが問題です。職人ための保険がないのが大きな問題です。
- ・ 職人達を支えてくれる人や組織がないために、伝統工芸の職を辞め異なる仕事をするにせざる人が増えています。結果的に伝統工芸がどんどん消滅していきました。
- ・ どうしたら伝統手芸を守ることが出来るかとどうしたら販売できるのかという二つの点が問題です。
- ・ ゴミを片付けて、適切な場所に置いておいてほしい！
- ・ 伝統工芸を消滅から守るべきです。
- ・ マーケティングが問題です。いろいろな物を作っているが展示する場所がありません。
- ・ 販売できる場所がありません。
- ・ 販売が出来ないことが問題です。

3- 自由記述

- ・ 歩道への植栽
- ・ このようなワークショップを毎週日曜日に行って欲しいです。
- ・ 結婚したい。
- ・ ワークショップはとても良いです。
- ・ 製品を展示出来る場所がありません。
- ・ 原材料が値上がりした結果、沢山の手工業が無くなってしまいました。
- ・ 伝統工芸を教える学校を作る必要があります。
- ・ 問題の解決方法は二つです。まず、職人達を支えることそして、職人たちが働いている施設や場所を改良しようとする事です。
- ・ 伝統工芸を復活しなければなりません。
- ・ ワークショップに出た話を実際に実行することです。

住民ワークショップの風景（2022年12月）

	
<p>12月ワークショップ（ディスカッション）</p>	<p>12月ワークショップ（ディスカッション）</p>
	
<p>12月ワークショップ（発表）</p>	<p>12月ワークショップ（発表）</p>

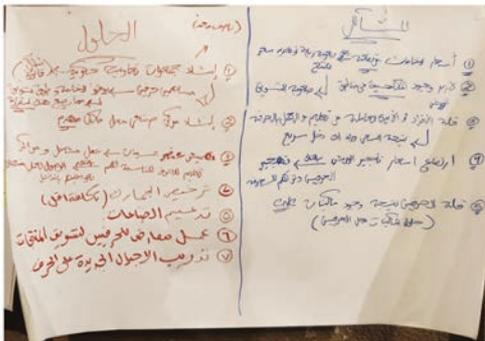
【⑦ 伝統工芸：12月18日（日）】住民ワークショップ（男性）



男性グループ（A）提案（アラビア語）



男性グループ（A）提案（英語訳）



男性グループ（A）地域の課題と解決方法（アラビア語）



男性グループ（A）地域の課題と解決方法（英語訳）



男性グループ（B）提案（アラビア語）



男性グループ（B）提案（英語訳）

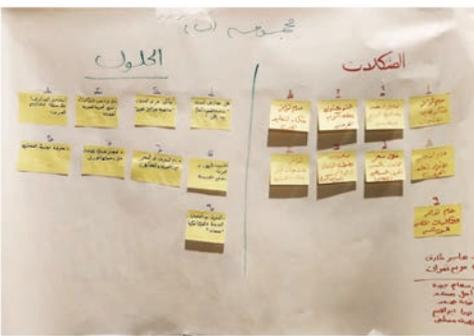
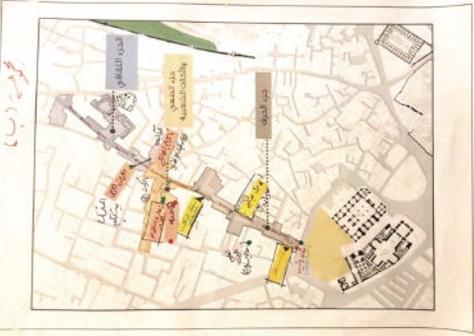


男性グループ（B）地域の課題と解決方法（アラビア語）



男性グループ（B）地域の課題と解決方法（英語訳）

【⑦ 伝統工芸：12月19日（月）】住民ワークショップ（女性）

	
<p>女性グループ（A）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）提案（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（A）地域の課題と解決方法（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）地域の課題と解決方法（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（B）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（B）提案（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（B）地域の課題と解決方法（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（B）地域の課題と解決方法（英語訳）</p>

⑧ 観光と居住（1月）

〈テーマ説明〉アララ氏が最初に従来通り、今までの7回のワークショップの復習からはじめた。今回のワークショップのテーマは観光とコミュニティの関係である。どうしたら観光客はこの通りに来るようになるのか？観光客はここで飲食し、買物する。観光客の案内するのが観光ガイドだが、彼らは私達より上手にこの界隈を案内出来るだろうか。いやここを一番魅力的に詳しく案内出来るのはこの通りに住む人たちだ。この地域にどんな遺跡があり、どう説明できるのか、無形文化遺産もあるのでどう紹介できるのかということを考えねばならない。アメリカのある町では観光ガイドは入れず、コミュニティメンバーが案内する例もある。ここには料理上手な人、歴史の先生もいるので、可能性は大きい。

次に、磯野氏の発表を、アラビア語に訳した。彼は2020年からジンバブエ気候環境観光省ではコミュニティツーリズムコンサルタントとして働いている。2019年コロナ禍以前にイラン文化遺産庁の手工芸品の観光機関で、シルクロードイラン北西部のマスタープランを準備する技術援助を提供した。そして、2015年から2018年までヨルダンのペトラでコミュニティツーリズムコンサルタントとして仕事をした。磯野氏からのコミュニティ・ベースド・ツーリズムの10のステップを説明する。

- 1- 出来るだけ多くのコミュニティメンバーの賛成と参加が必要。住民にとって迷惑や煩しさを引き起こすことにもなるのでことになる。
- 2- 地域観光事業の設立。観光客の案内の役割をコミュニティが引き受ける。
- 3- 観光資源の評価。ここではどんな資源があるのだろうか？工芸、マウリド（預言者など聖者誕生日祭）、習慣を紹介するのだろうか？チュニジアのシディ・ブー・サイドに猫と街についての写真集がある。ここでも動物、あるいは人間も紹介できる。仲間の俳優さんもいるのだから。
- 4- 観光商品の開発。食事を提供する場合、見た目も良く美味しく清潔に配慮せねばならない。歴史的建造物を案内するなら周囲のゴミを片付けねばならない。
- 5- 観光客の市場開発。例えばどのような観光客をターゲットにするのか。高級ホテル嗜好、あるいは地域の部屋に宿泊する人なのかという点である。
- 6- 事業計画と目標設。開発計画とマーケティング計画を立てる。
- 7- 多様なトレーニング。
- 8- プロモーション活動。いくら素敵な商品が作っても、上手に商売が出来なければ意味ない。チュニジアのマフディーヤでマフラーを作っている工房の上階にモダンな店舗があった。作り方を見聞し、工程を納得し、高価だったが購入した。是非ここでもあなた方もさまざまなプロモーションを考える必要がある。ソーシャルメディアやメディアの使用も考えられる。
- 9- 運営と資源管理。例えば観光客に対して遅れることはできないし、笑顔で会うべきだ。売りたい商品の作り方の説明や値段など用意しておくことは大切なポイントで、上手に作るべきだ。新婚旅行でタイへ行った時ホテルの部屋まで来て「一日でスーツを作るので、注文下さいませ」と言った人に注文したら本当に時間通り持ってきた。上手に仕立ててくれたので、今でもよく着ている。
- 10- コメントや評価も大切で、評価しなければ、問題点が分からない。
- 11- では、二つのグループに分けて、案内するポイント、我々の資源、どうやってマーケティング出来るか話し合ってくださいと結んだ。

〈グループディスカッション〉ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載したA0シートが作成された。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉女性のグループでは、以下のような意見が出た。

- ・ 工芸と工房は紹介したい。

- ・ 普通の観光客を広い道だけで歩かせ、文化に詳しい観光客は狭い道まで案内する。

観光に対する地域のマイナス点

- ・ **A グループ**では；トゥクトゥクとバイク、ゴミ、ネズミ、建造物に看板がない、道に置いてある使えない車など邪魔、馬車、修復出来たのにほとんどの建造物が閉まっている。
- ・ **B グループ**では；通りが狭く道端に駐車する車がある、トゥクトゥク、外国人が泊まれる場所がない、食事を提供するだけでは良くない、遺産の価値観を教えるセンターがない、修復や保存の管理を教えるセンターがない。

観光に対する地域の良い点

- ・ **A グループ**では；アラベスクと太鼓の工房。観光会社と上手にやり取り出来そうな人をお願いする。減ってきた伝統的工芸を回復し工房を作る。庶民的なレストランを増やす。子供に観光客の案内を教える。学校のホールを観光客に伝統的工芸の体験場所として使う。SNS で工房を紹介する。歴史的建造物を使う（マンジャク門を受け付けにする。ハम्मamをヘンナセンターにすることです。
- ・ **B グループ**：安心して歩けるルートを作る、安全に泊まれる部屋を考える、遺跡や建造の案内する看板を作る。ガイドブックを作り、看板や Website で説明する。食事提供だけでは不十分で作り方を教える。子供に案内の仕方や外国語を教えるセンターを作る。修復に子供を参加させる。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

観光に対する地域のマイナス点

- ・ トゥクトゥクとバイク、若者運動センターはあるが運営は良くなく結婚式ホールだけに使用する。
- ・ 建物が無住の場合、その前にゴミを捨ててしまう。
- ・ 犬の数が多。
- ・ 地域に住むインドネシア人の数が増えた。
- ・ 子供の行動が良くなくゲームに固執している。
- ・ 喫茶店が水たばこだけのためになる。

観光に対する地域の良い点

- ・ コミュニティが集まる点にするなど、喫茶店を積極的に使う。
- ・ 通りにいる動物について考える。パンの作り方を習う。
- ・ 売店や小さな車で伝統的な料理やスープを出す。
- ・ 子供を教育するための施設を充実させる。
- ・ 例えばスーフイズム踊りを教えるセンター、劇場。
- ・ アラゴーズ人形劇芸を教えるセンター、伝統芸能を教えるセンターなどを作る。

〈発表（女性）〉それぞれのグループが発表を行った。A0 シート参照。

女性の会では、以下の点が指摘された。

- 1- 道の狭さ、ゴミやトゥクトゥクの混雑が、疎外感のポイントになっている。
- 2- ロバや馬がエンジンを引く情景は動物愛護に反している。
- 3- ホテルや適当な宿泊施設がない。
- 4- 遺産地域の重要性や保存方法について説明する啓発セミナーや講演会がない。
- 5- 遺産や考古学的な場所に、識別や説明のプレートがない。
- 6- 修復された歴史的建造物が利用されていない。古い建築は取り壊しの対象になっている。
- 7- 工芸品を一つのエリアや通りに集めると、甘味通りのような魅力的なポイントになる。
- 8- アラベスク、鍛冶、大工など、観光客が体験したくなるような工芸品や工房が地元がたくさんある。

- 9- 子供や高齢者によるコミュニティガイドを設置して観光客を受け入れ、サトウキビジュース、ひよこ豆スープ、ナツメヤシ、甘草ジュースなどの人気のある飲み物を提供する。
- 10- 工場のオーナーにインタビューを行い、YouTube にアップロードし、ソーシャルメディアを活用する。その発表会で演劇を行い、出版物を活用する。
- 11- 言語教育のためのセンターを設立し、コミュニティ・ガイドとしての経験を積ませる。
- 12- 地域の安全と、観光客を危険にさらさないという地域社会のコミットメントを提供する。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

- 1- コミュニティとそのメンバーの行動は、その観光に悪影響を与える可能性がある。
- 2- ゴミや無許可のトゥクトゥクは観光を阻害する。
- 3- 修復後の遺産を閉鎖し、その活用や運営を行わず、ごみ箱と化している。
- 4- 喫茶店の管理・規制をしていないので、社会的に人気のあるコーヒーが負の源泉に変わる。
- 5- 野良猫や野良犬は、観光客に迷惑をかける以前に、その地域の住民に恐怖と不安を与える。
- 6- 人気のあるレストランを利用し、魅力的なポイントになるように改善する（フル、ペストリー、サトウキビジュース、コチャリ）。
- 7- 工芸について短いドキュメンタリーを作る。その基礎的方法を伝授し、装置と機械について学ぶ。
- 8- 写真撮影、工芸品のシミュレーションを教える際に子供を利用し、それらを活性化する。
- 9- 子どもたちにタンヌーラ（旋回舞踏）、アラゴース（人形劇）、影絵などを教える学校やセンターを設立する。
- 10- 観光客を受け入れる工房を用意し、観光客が体験でき簡単な工芸製作を実施する。
- 11- 観光客の受け入れ態勢を整え、地域の紹介や特典を提供する。
- 12- コミュニティ・ツーリズムの重要性と、その経済的リターンがどれだけ住民と地域全体に影響を与えるのかを教育するセミナーを実施する。
- 13- 地域の人々は、その地域とその宝について最もよく語ることができ、利用されるべきである。

〈まとめ〉

最後にアラー氏から、来月から定期的に観光客グループがバイトヤカンを訪れることになった。それまでにいろいろな準備をすることが必要である。と付け加えられた。

観光は、街の活性化やその経済効果という点では重要である。しかし、その反面、ゴミや騒音など、住民にとって様々な問題を引き起こす可能性がある。発展を前提とした社会では、観光と居住は両立させなければならない。そこで重要なのは、コミュニティ・ツーリズムとは何か、地域について何を知っているかということである。

自分の地域に観光客の見知らぬ人が通るとどう思うか、どのような場所を通過させ、どのような場所から隠すのか、地域の弱点は何か、強みは何か、現在の観光状況を改善するにはどうしたらいいか。地域の一員としてコミュニティ・ツーリズムに参加できるのか。何を提供できるのか。人気のある食べ物や飲み物は、主に地域や子供、女性により発見される。女性や子供の参加を、どのように活用できるだろうか？コミュニティ・ツーリズムをより良いものにするために、どのように観光客を誘致し、地域間のコミュニケーションに必要なポイントは何だろうかを考える。スーク・シラーハでコミュニティ・ツーリズムを実現するために、組み合わせるべき関係者は誰だろうか。ひいては、ダルブ・アフマル地区も含めて拡大するために、どのようなことが必要だろうか。

もしも、ワークショップで出たような問題点が解決されたとすると、スーク・シラーハに対して観光客が何を望むのかという点から、観光客がどのようなものを求めている人なのかを掴むことは、重要で

ある。体験生産型嗜好の人には製作を含めた工房やレストランは、今の歴史的カイロに先例もなく、先取りする形になると考える。また、ムスリムにとっては例えばイルゲイ・ユーズフィーのモスクの本来のマドラサ（イスラームの寄宿制高等教育機関）の宿泊施設を修復活用し、そこからさまざまなシェイフ（宗教指導者）の講義に通うというアイテネラリーは魅力的かもしれない。あるいは対話嗜好の人には、B&B の民泊のような部屋を作り受け入れることも可能であろう。ただしイスラームでは男女区別が明確なので、家庭をどの程度、他人としての異性に対して開放的に使えるかという問題点がある。

筆者自身がイスラーム建築の歴史を専攻している立場から見ると、すなわち歴史的カイロの有名建築、名所などという点からすると、スルタン・ハサン・モスクで満足し、スーク・シラーハ通り沿いの歴史的建築一つ一つを訪れようという人はごくわずかであるように思う。歴史と建築という点からスーク・シラーハに観光客を惹きつけるためには、何らかの物語作りが必要なように考える。例えば、イルゲイ・ユーズフィー・モスクと、ウンム・シャアバーン・モスクは、深い因縁を持っている。マムルーク朝の人的関係と建物を結びつけて案内するなど考えられる。また無形遺産の会に注目された諺を壁画等にあらわすことも面白い発想である。何らかの工夫をしながら地域をより他者に対して魅力的にしていこうことは、地域自体をよく知ることに繋がっていくだろう。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉合計 19 名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い（18名）：普通（0名）：悪い（0名）：無回答（1名）

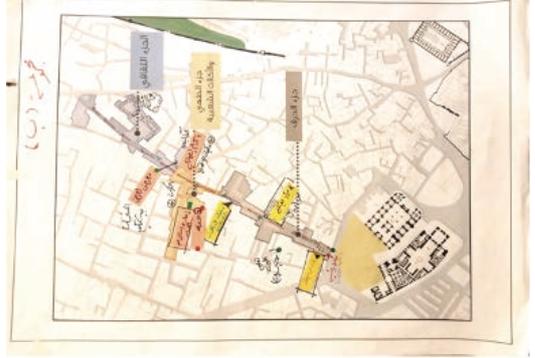
2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ワークショップに出た話を実際に実行することです。
- ・トゥクトゥクと馬車とお店の前に立っている車を禁止しましょう。問題と言えばトゥクトゥクです。
- ・トゥクトゥクとバイクは大きな問題ですね！トゥクトゥクのゴミ問題を是非解決考えて欲しいです。
- ・スルタンハサンのような観光出来る場所を大事にしよう。
- ・問題は道に邪魔なっている物が沢山あるので、どんどん片付けて欲しいです。
- ・道にあるゴミや置いてある物を片付けて欲しいです。
- ・地域に住んでいる人達に観光の必要性について示唆するのはとても大事なポイントです。
- ・遺跡、文化活動、クラフト活動への関心が必要です。
- ・若者がハンドクラフトを目指す活動を増やして欲しいです。
- ・問題解決に参加したいし、みんなに参加してほしいです。問題解決に住民として参加したい。
- ・システムが問題です。
- ・ワクフを所有者に返して欲しいです。自分はサビールの所有者であるが、使わせてもらえない。
- ・子供のマナーや行動を直せば社会が全部良くなります。

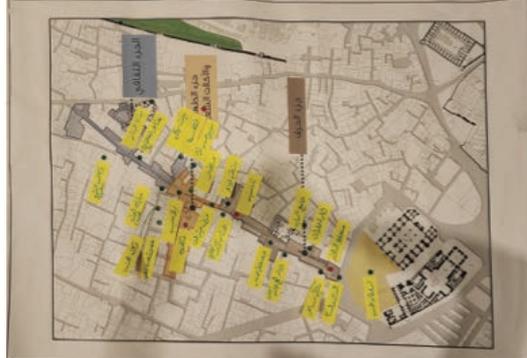
3- 自由記述

- ・遺産の修復のためになんでもしたいです。
- ・スーク・シラーハ通りには車やトゥクトゥクなどが通らないようになって欲しいです。
- ・子供でも観光案内を出来るようになればよいです。
- ・今日はワークショップで話し合ったことを実践して欲しいです。
- ・子供への意識啓蒙活動をしてほしいです。
- ・今日のワークショップに話し合ったことを実践して欲しいです。
- ・子供でも観光案内を出来るようになればいいです。
- ・もう話合いの時に全部言いました！

⑧ 観光と居住：1月21日（土） 住民ワークショップ（女性）A0シート

	
<p>女性グループ（A）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）提案（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（A）地域の長所と短所（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（A）地域の長所と短所（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（B）提案（アラビア語）</p>	<p>女性グループ（B）提案（英語訳）</p>
	
<p>女性グループ（B）長所と短所（アラビア語）</p>	<p>男性グループ（B）長所と短所（英語訳）</p>

⑧ 観光と居住：1月22日（日） 住民ワークショップ（男性）A0シート

	
<p>男性グループ 提案（アラビア語）</p>	<p>男性グループ 提案（英語訳）</p>
	
<p>男性グループ 地域の長所と短所（アラビア語）</p>	<p>男性グループ 地域の長所と短所（英語訳）</p>

住民ワークショップの風景（2023年1月）

	
<p>1月ワークショップ（ディスカッション）</p>	<p>1月ワークショップ（ディスカッション）</p>
	
<p>1月ワークショップ（ディスカッション）</p>	<p>1月ワークショップ（ディスカッション）</p>

⑨ 空き家、空き地利用

〈テーマ説明〉スーク・シラーハとダルブ・アフマルに焦点を当て、空き家・空き地を今後どのように活用できるかを話し合う。空き家・空き地は、撲滅しなければならない危機や疫病としてではなく、地域の資源として考えるべきである。人々から見て、地域のどこに空き家や空き地があるか。建物全体なのか、数階だけなのか。それは誰のもので、なぜ利用されなくなったのか。誰がその責任者なのか。空き家や空き地が引き起こす問題とは何だろうか。空き地はなぜゴミ捨て場になってしまうのか？そして、それが引き起こすリスクとは？火災発生の原因のひとつは、空き地がゴミ屋敷になったことだろうか。また、トゥクトゥクのガレージとなった空き地も多い。所有者は所有権の証明書を持っているのだろうか、それとも証明書なしで所有しているのだろうか。空き家・空き地対策として、どのような提案があるのだろうか。これらに対して、地域の住民が果たすべき役割とは何だろうか。

いつも通りアラー氏による今までのワークショップの振り返りが行われた。アラー氏は以下のように付け加えた。人口密度が高いと皆がよく文句をいう。密度＝人数÷面積で求められるが、面積の中には空き地や不適當に使用されている土地も含む。大きな家に一人しかすんでいない家もあり、誰も住んでいない家もある。このような土地はどのように有効利用ができるのだろうか？具体的な例としてバイト・ヤカンと隣の喫茶店の間にある空き地は、喫茶店店主が使用したくて地方自治体の役所に相談にいくと、「空き地は喫茶店としては使えないが、交通手段のステーションとしてならば使える」と言われ、ステーションとして依頼したが、申請は却下された。彼は私のところに相談に来他ので、彼と一緒に依頼書をと「一月一度の展覧会として使う」と再申請したら、受領された。このように、行政との折衝には知恵が必要である。空き地、誰にも使われていない家はどこにある、どう利用できるのか？話し合いました。

〈グループディスカッション〉ファシリテーターのファシリテーションのもと、住民の意見をまとめて書き込み、付録に掲載したA0シートが作成された。

〈女性の会では、以下の点が指摘された〉

女性の会では、今回は集まりがわるく、1つのグループだけであった。彼らは以下のような意見を出し合った。

- 1- 空き家が多い（シェイフ・アラブの家；バシュターク浴場交差点のピザ屋、アザブ・キャバブギーの家；バシュターク浴場交差点の西側交差点北西部、バドルの家；バイト・ヤカン敷地の北東部の家、マズハル地区の2軒、イベントハウスの上階；スーク・シラーハとワズィール通りの交差点南西部、ダルブ・ムカッダムの2軒）。
 - ・バシュターク公衆浴場交差点のピザ屋には一人の住民しかいないので、伝統的料理屋にしたい。
 - ・キャバブ店アザブの前の家も廃屋だが、所有者がいるので所有者と話し合うべきだ。アザブ氏が空き地を本当に買っているなら、彼と話し合いが必要だという意見があった。
 - ・ハサン八百屋の隣のタキエ（神秘主義教団の修道所）も荒廃しているが、ワクフ（宗教省）所有なので修復ができるのではないだろうか。
 - ・参加者のレハップのアパートの上にある部屋は今、空き家で、倉庫として使われ、ネズミがたくさんいる。
 - ・そのほかに廃屋はターメイヤ店ムバラクの隣のワックス工場、バイトラッザーズの裏の店舗。
 - ・イベントハウスの中を自由に使いたいという意見に対して、ワークショップの常連ハサンの家が壊れたので、彼らが家族で住んでいるという情報があった。
- 2- 現在閉鎖されている既存の建物（モナステルリ地区、サダト学校、大衆店）。

- ・ 廃屋の一つにラブア・モナステルリ（マンジャク・シラフダールの門近く）があり、これは貧しい人に店として貸す方向性が提案された。
 - ・ サダト学校は、10 年前から閉まっているので、学校として再利用、あるいは子供のスポーツセンターにしたい。
- 3- 空き地（木材店の土地、スエズ・アパートの裏の土地、イベントハウスの裏の旧裁判所の土地、バイト・ヤカンの裏のアシュラフタンタウィの土地、マンジャク・シラフダールの門の裏側の土地）。
- ・ バシュターク浴場からスルギーヤ市場通りに向かう通りでは、多くの家が廃屋となったり、壊されて空き地となったりしている。駐車場の中でアモロシー喫茶店が営業し、ある空き地はパン屋に、マッカ牛乳屋店の前の空き地はワクフ（宗教省管轄）ながら、所有者は契約書を持っていないと言われ、あるいは参加者のワファーはある女性が購入したと言う。このように空き地の所有者は不明で、どのようにして用途が決まるのかも不明なことが多い。
 - ・ ワークショップに時々参加しているアシュラフ・タンタウィ氏の家の前の空き地は、アシュラフが購入したとワファーが話した。
 - ・ バイトヤカンとスエズ・アパートの間にある空き地は安全で道から離れているので、安全で幼稚園にしたい。
 - ・ 建物や家の屋上をどう使ったらよいのか？
 - ・ マズハル地区にあるアパートは誰も使っていないので、ある参加者が使いたいと言う意見に対し、ファシリテーターから「私は遺跡のインスペクターなのに、なかなか中に入れないので難しい。」との意見があった。
 - ・ コミュニティで清掃作業を含めて空き地や廃屋の利用を推進する会社を作ったらどうかという意見があった。
- 4- 空き地や空き家は、ゴミ、ガレージ、犬やネズミの棲家など、周囲の人々にとって害を与える存在になっている。
- 5- 空き地を活用するために、以下のような提案がある。子供たちのための庭園。遊び場。薬用植物の苗木（近くのハト塔の鳩の糞を肥料として使用）。医療センター。健康センター。コミュニティのメンバーを中心に既存の無住建物を清掃し、再度住宅とする会社を設立する。

〈男性の会では、以下の点が指摘された〉

男性の会では、最初は集まりが悪く1つのグループとしたが、最終的には多くの人に参加した。女性の会と同様、アラール氏の今までのワークショップの振り返りから始まり、空き地・空き家への注目点が説かれた。さらにバイト・ヤカンでの経験がつけくわれられた。2009年にバイト・ヤカンはひどい状態で、ゴミだらけで虫もいたけれど、綺麗に修繕したら、現在のように素晴らしい状態になった。スエズ・アパートとの間の空き地もそうで、ゴミだらけで何回も小火を起こしたが、現在では喫茶店が利用できるようになった。

空き地としては、マンジャク・シラフダールの門に付帯する土地、シャムシェルギ地区にある空き地、ワックス工場、バシュターク浴場の上階の空き地、イベントハウスなどがある。

廃屋としては、サダト学校、ピザ屋の家（シェイフ・アラブの家）、ラブア・モナステルリ、カイトベイの家（登録文化財）にはネフメド女史が住み、マグレ布林市場にも廃屋がある。

再利用に対しては、空き地を病院にしたくない。周りに病院が沢山あり（ハリーファ病院、アフメド・マーヘル病院）、昔からあるダルブ・ウンシーヤ病院を修復する必要がある。この病院は60年前からの小さな病院だが、理由は不明ながら現在は閉院している。伝統的な料理屋さ、庭園、公園、公衆トイレ

を作って欲しい。そして、公園や庭園を作るだけではなくて、子供に農業を教える必要がある。現在ロシア・ウクライナ問題で小麦粉が不足しているのだから。また、スーク・シラーハには木工業等に関する可燃物がたくさんあるので、消防団を作るべきである。

〈発表（女性）〉

- 1- ラブア・モナステルリは地域のニーズに応じて使用され、所有者について知る必要がある空き家が多い。人気のショッピングエリア、低層階のホテルやショップをサービスエリアとして活用。
- 2- コミュニティで空き地・空き家再利用推進会社を設立し、古い家の掃除を含んだ利用サービスを開始する。
- 3- サダト学校を修理し、観光のための学校として再利用する。放課後または夏休み期間中にトレーニングのためのワークショップを行う。そのためには学校として以前のように使用されるかどうかを確認する必要がある。バスケットとバレーボール用のスポーツコートの建設も視野に入れる。
- 4- 前述の会社を介してシェイク・アル・アラブを清掃しレストランとし、アブドゥッラー・ベク地域の古い家屋も、同様に人気のある料理を提供するレストランとして、食の街としての地域再生を推進する。
- 5- 一軒家については、誰が所有者なのか調べる必要がある。スレイマン・パシヤ・タキエは、シェイク・アル・アラブ、あるいは人気の高い住居にグレードアップし、その中庭は災害が発生した場合の避難所となる。
- 6- マズハル地区の12番には、未使用の2つのフロアがあり、ネズミの棲家となっている。
- 7- 古い中庭は住宅としても使用できる。
- 8- マンジャク・シラフダール門に付帯する建物と中庭は、薬用油、芳香剤などのための果樹、果物の苗床を作るために使用することができ、スーク・シラーハ地域の家屋の屋上緑化の推進のセンターとなる。また、鳥の糞（鳩）からの天然肥料を使用する。
- 9- シヤムシェルギー地区には、農業用苗床に適した空き地がある。2軒の取り壊された家の敷地で、かなり広い。
- 10- ヤカニーヤ地区の入口（バイト・ヤカンとスエズ・アパートの間の空き地）は幼稚園に適し、子供向けのワークショップや活動を行う
- 11- その後、ファシリテーターのラグダから地域の病院の必要性が説かれた。しかし、アラー氏から建物の状態と地域の性質により、総合病院が機能できないので、地域の緊急事態に対処するための総合医療センターまたはユニットを設立することで補うことができるといふ発言があった。続いて、チュニジアのタキエは、手工芸品を展示する展示場として使用されており、同様な使用法も考えられ、例えばある期間を展示場とするなど、不動産利用に関する月間制度が必要である。そして、影響力のある人々と折衝し、解体された家屋等を購入し、彼らと一緒にプロジェクトを行う必要があるとすることで、会が結ばれた。

〈発表（男性）〉

- 1- 空き家がたくさんある（シェイフ・アラブの家、バシュターク・浴場の家、マズハル地区の家、ダルブ・カッドム地区の家）。
- 2- 現在閉鎖されている既存の建物（ラブア・モナステルリ、サダト学校、大衆店、消防署、ワックス工場）。
- 3- 空き地（ウィカーラ・ハシャブの土地、スエズ・アパートの後ろの土地、アザブの隣の空き地、シナン給水所背後の土地、マンジャク・シラフダール門背後の土地）。

- 4- 空き地のほとんどはガレージになり、賃貸か引き渡しで、それに対する苦情がよく出される。
- 5- 空き地を活用するために、以下のように提案する。子供の庭。遊び場。木の苗床を設置する。人気のあるレストラン。書類や郵便局などの行政機関。公衆トイレ。消防署と救護所。

〈まとめ〉

印象的だった言葉として、「マンジャク・シラフダール門の隣にある取り壊された元の建物を鉢植えの苗を作るために使用し、地域にたくさんある鳩の塔（観賞用に飼育）から鳩の糞を肥料として使い、地域の屋上緑化に役立てる」という意見は、建物や空き地の活用に加え、ゴミ処理にも役立ち、さらに地域の緑化に貢献するという、今までのワークショップを連環させた意見であった。また、未来のスーク・シラーハに対して食のエリアが提案され、いくつかの建物をレストランに改装するという意見が提案されたが、単に味わうだけでなく、調理法を体験することが重要であるという意見も、コミュニティの観光を見据えたもので、ワークショップの相互関連性が、参加する住民によっても深く認識されていることを物語る。

ワークショップでは、参加した住民からは積極的な意見が多く飛び交うとともに、それぞれが持つ情報が共有されていくと言う点では、地域のネットワーク作りへの貢献が果たされていると感じた。ただしこれら意見や提案が机上の存在であるだけでなく、実行に移され、彼らの夢や願望が実現される道筋を探さねばならない。

アーバン・デベロップメント・ファンド（首相直轄の開発機関）が、コーカリアーン給水所の図書館利用、ルカイヤドウドウ給水所の木工展示および女性喫茶店利用、シナンパシヤ給水所の人形劇場、マンジャク・シラフダール門の常設展示およびレストラン利用を観光考古省との間で同意し、コミュニティに管理運営を任せ、バイト・ヤカンに全体のマネージメントの機能をおくという動きが始まっている。このような中で、一連のワークショップが役立ち、住民参加のまちづくりがカイロへ定着しつつあると実感する。

〈住民ワークショップのアンケート結果〉 合計 15 名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い（15名）：普通（0名）：悪い（0名）：無回答（0名）

2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ 空き地をどう使えたらいいのか、空き地の再利用は大事な話題です。
- ・ 皆が空き地を使えるといいですね、
- ・ 空き地や誰も住んでいない家も再利用しなければなりません。
- ・ 空き地にはゴミ捨て場になったり、虫が出てきたり、火事にのなることがよくあります。
- ・ 誰も住んでいない部屋を再利用しなければなりません。
- ・ 今日ワークショップで話し合ったことを実践して欲しいです。
- ・ 空き地をコミュニティに使わせてもらい、幼稚園や喫茶店や病院にできればよいです。
- ・ 遺跡を大事にしたい。
- ・ 空き地を再利用しなければなりません。
- ・ 緑を増やして欲しいです。ダルブ・ウンシーヤで古くなってきた病院を新しくして、再利用しなければなりません。
- ・ 文盲の問題。
- ・ 空き地を上手に使うこと。
- ・ 地域が発展すること。

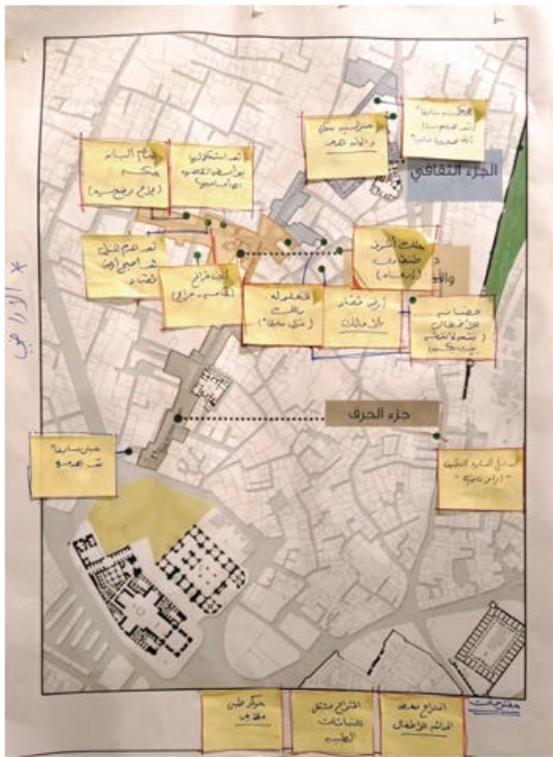
3- 自由記述

- ・ ワークショップに出た話を実際に実行することです。
- ・ 空き地を綺麗にして、幼稚園や展覧会として使えたらいいのに！
- ・ コミュニティに対して空き地を使わせてくれるといいです。
- ・ 今日ワークショップで話し合ったことを実践して欲しいです。
- ・ 空き地をコミュニティに使わせてもらい、幼稚園や喫茶店や病院にできればよいです。
- ・ みんなエジプトが本当に好きなのだろうか！
- ・ 読み書き出来ない人のための教室を開く必要があります。
- ・ 文化的意識を広めるのは大事です。

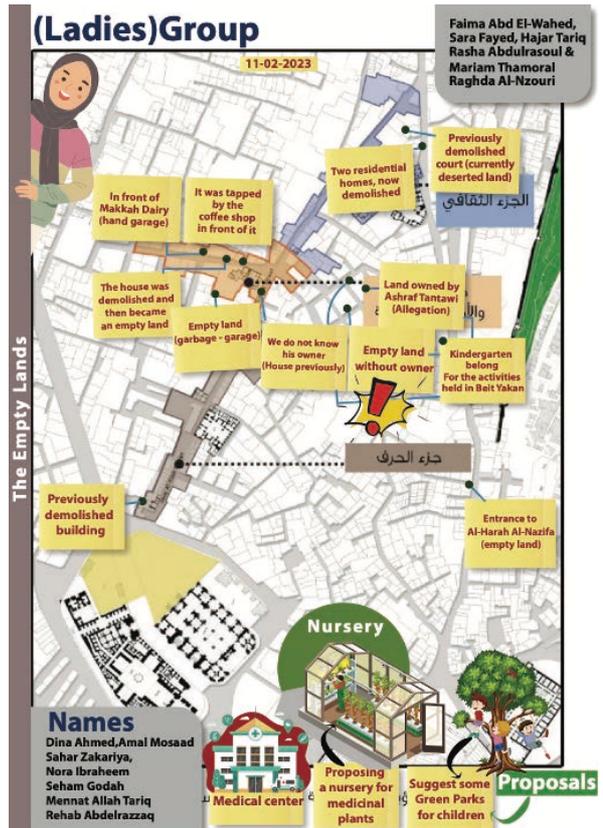
住民ワークショップの風景（2023年2月）

	
2月ワークショップ（ディスカッション）	2月ワークショップ（発表）
	
2月ワークショップ（ディスカッション）	2月ワークショップ（発表）

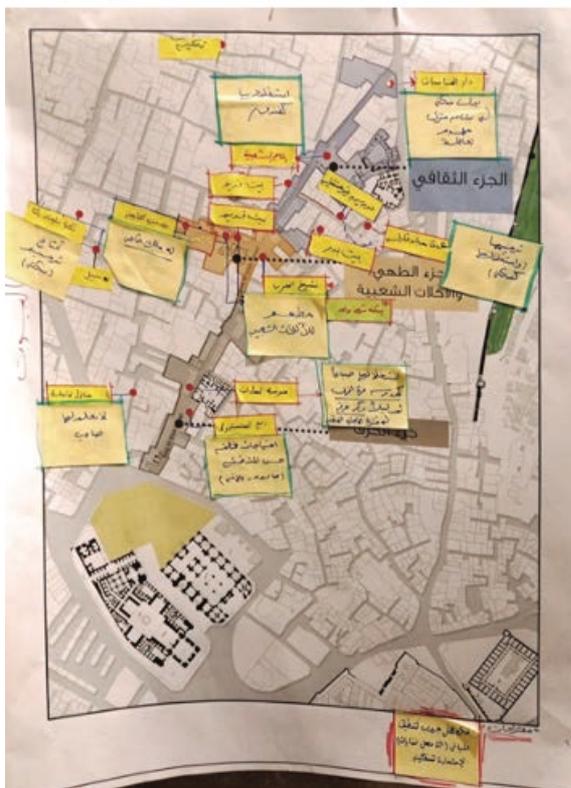
【⑨ 空き家、空き地利用：2月11日（土）】住民ワークショップ（女性）



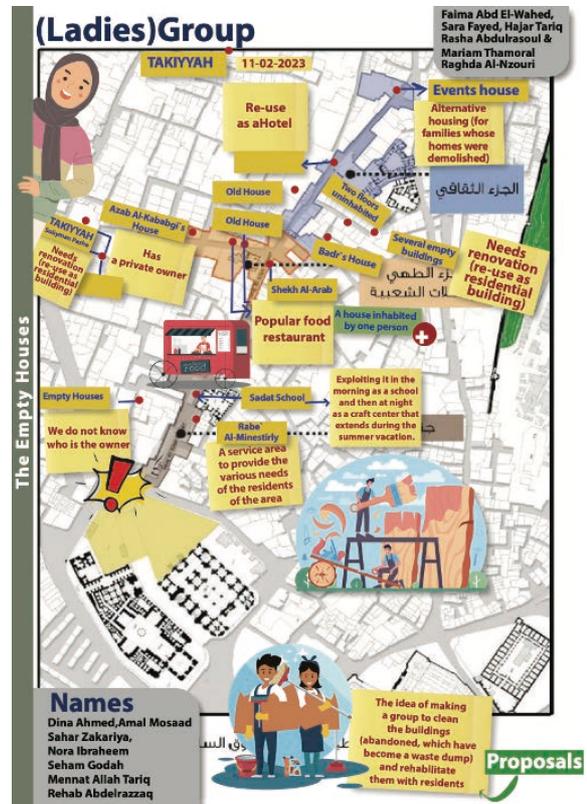
女性グループ 地域の空き家（アラビア語）



女性グループ 地域の空き家（英語訳）

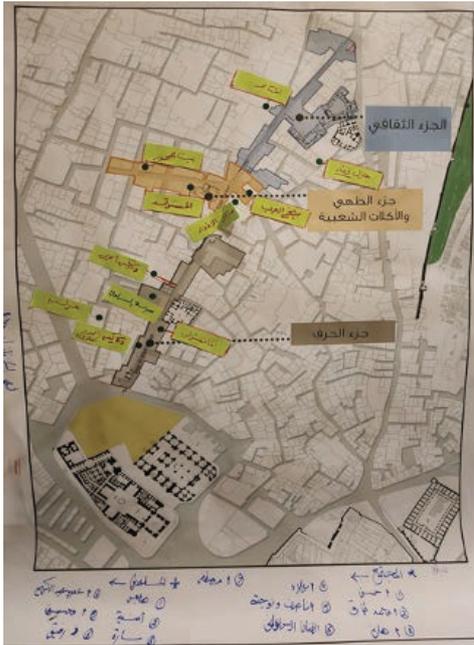


女性グループ地域の空き地（アラビア語）

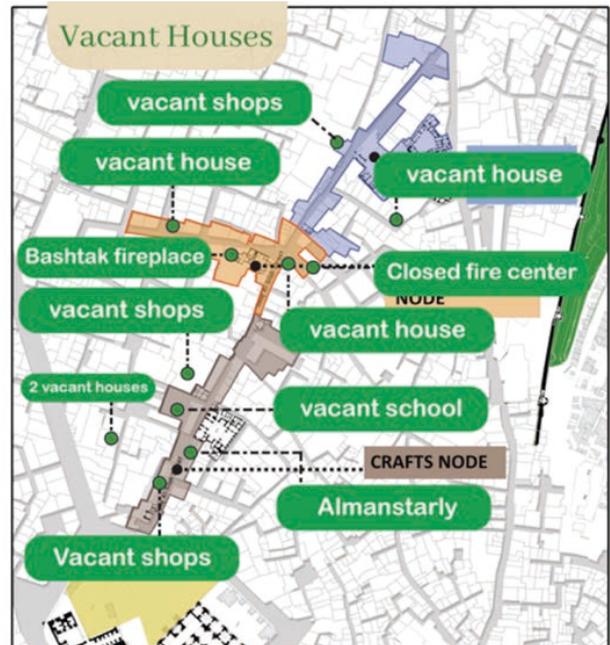


女性グループ 地域の空き家（英語訳）

【⑨ 空き家、空き地利用：2月12日（日）】住民ワークショップ（男性）



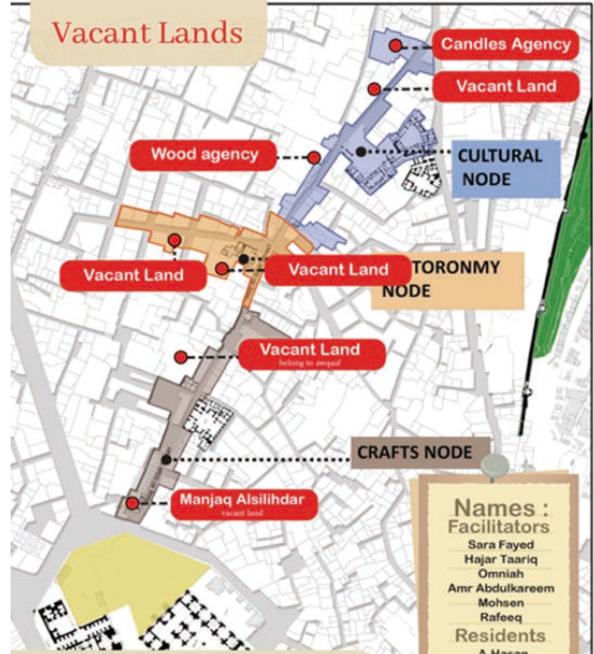
男性グループ 地域の空き家（アラビア語）



男性グループ 地域の空き家（英語訳）



男性グループ 地域の空き地（アラビア語）



男性グループ 地域の空き地（英語訳）

MEN GroupA

Vacant Houses & Lands

12th February workshop

- 1- Gardens, plant nurseries and playgrounds.
- 2- health-care units\Band aid.
- 3- Traditional restaurants.
- 4- Administrative offices
- 5- Public toilets.
- 6- Reopening of the fire station.

- documentation office - postal service office.

suggestion

Names:

Facilitators

A. Hasan

A. Mohamed Tarek

A. Hany

A. Alaa

A. Nasef and his wife

A. Halawany

A. Mustafa

男性グループ 提案（英語訳）

■4. シンポジウム（事業の総括会／Ceremony of Engagement Program）

① 概要報告(磯野哲郎)

2023年3月5日（日）、今回の事業の総括会として、以下の内容のシンポジウムをバイト・ヤカンにて開催した。

□プログラム

1. 11:30～11:50 開会
2. 11:50～12:00 ファシリテーター講座修了者への修了証書授与
3. 12:00～13:00 グループワーク
4. 13:00～13:30 グループワークの結果発表
5. 13:30～14:00 結果発表に対する意見・講評
6. 14:00 閉会

□参加者

コミュニティ（女性9名、男性8名）、ファシリテーター（11名）、その他（22名）
（別紙を参照）

□開会

アラール氏

- ・ 本日の参加者に深く感謝を申し上げる。
- ・ 今日のシンポジウムでは、これまで1年にわたり開催してきたワークショップの総括として、4つのテーマに沿ったグループにわかれてスーク・シラーハの将来について討議したい。
- ・ 住民の意見や意向を取りまとめ、政府の施策に反映させることでスーク・シラーハの文化遺産を持続可能な形で保存と活用が可能となると考える。
- ・ これまで開催してきた9つの要素からなるワークショップを4つのテーマに集約した。ごみの収集やまちの美化、住民の積極的な参加の重要性、災害に備えたまちづくり、歴史的な建物の再利用、物理的でない遺産の活用、市場のニーズにあった工芸品の創作、歴史的な建物や空き地をどのように社会事業や観光などの経済活動に利用し保全していくかなどを話し合ってきた。
- ・ 本日のシンポジウムには、観光考古省をはじめとする政府関係者も参加しており、4つのグループからの成果の発表を基に忌憚ない意見交換がされることを期待している。

深見氏

- ・ スーク・シラーハについての活動記録をまとめた2冊の本を制作したので、参加者にはぜひ中身を見て欲しい。
- ・ 制作した本の1冊には、現在の状況と将来のスーク・シラーハの姿が描かれている。
- ・ もう1冊には、昨年6月から今年の2月までのワークショップの結果を記録した。みなさんの発言や意見も掲載している。
- ・ これらの記録を基に、みなさんの参加によるまちづくりを進めてもらえることを期待したい。

□ファシリテーター講座修了者への修了証書授与

連氏

- ・ このコースは、11回の講義と9回の住民ワークショップで構成され、8回以上の講義受講とレポート提出、1回以上の住民ワークショップへ参加した者に対してJCAABEから修了証が発行される。
- ・ 修了証書の授与に先立ち、これまでの11回のファシリテーター講座を振り返ってみる。
 1. ファシリテーターとは何か（連）
 2. ファシリテーション技術（連）
 3. 事前復興まちづくり（市古）
 4. 市民と協働するための手助け（松村）
 5. カイロのイスラーム建築の特徴（深見）
 6. エリアマネジメント（宍戸）
 7. 歴史的建造物と景観の保全（荻谷）
 8. 文化遺産-ハードとソフト（岡田）

9. 住民参加による遺産の持続可能な活用（磯野）
 10. 町は今、体験する場に ー伝統的な産業の展開 川越の事例ー（荒牧澄多）
 11. コスモスとしてのカンボン（布野）
- ・ 続いて、ファシリテーター講座修了者へ修了証書の授与を執り行った。

□グループワーク

- ・ コミュニティからの参加者は、以下の4つのグループに分かれ、スーク・シラーハの課題に対する解決策についての提言案を話し合った。
 1. 公共サービス（交通、ごみ処理など）
 2. リスクマネジメント（歴史的建物の再利用）
 3. 無形文化遺産
 4. スーク・シラーハの経済再生

□グループワークの結果発表

グループ1：公共サービス（交通、ごみ処理など）

- ・ スーク・シラーハを歩行者優先道路とする
- ・ ルートを定める等の手段によってトゥクトゥクの通行量を減らす
- ・ 自動車の通行が可能な時間を制限する
- ・ 店舗が道路を商品販売などに使うことを規制する
- ・ 大きな駐車場を作る
- ・ 現在の消防署が遠いので、近くに消防署を作る
- ・ ごみの分別や食用油のリサイクルの推進（ただし、分別するデポはスーク・シラーハの外に）

グループ2：リスクマネジメント（歴史的建物の再利用）

- ・ 街灯の整備と美化
- ・ 電気と水道の配管を別々にする
- ・ サビールの貯水槽を防火用水として再利用する
- ・ 学校を避難場所に指定し、必要な整備を行う
- ・ 火事を防ぐためにごみの分別を導入し、廃棄場所を指定・規制する
- ・ 歴史的な建物を本来の役割に戻して利用する
- ・ クッターブを売店、塾・教室などに利用
- ・ ハマーム、サビールをアートセンター、オープンシアターなどに再利用する
- ・ 行政に任せればよいという住民の意識を向上させたい
- ・ 緑の多い街にしたい
- ・ 問題を報告するホットラインを作る（ごみの不法投棄、水道管の破裂など）
- ・ 皮革工房などの防火対策の定期的点検制度の導入

グループ3：無形遺産

- ・ 子どもの頃からここで暮らしてきた
- ・ 文化遺産や伝統工芸だけではなく意識やマナーなども伝承していきたい
- ・ 道路の整備もしたい、大型モニターを設置し、見どころなどの紹介を流す
- ・ 携帯電話だけでなく、頭脳や五感を使ってヘリテージを生かすことを考えて欲しい
- ・ エジプトの様々な飲み物もヘリテージである
- ・ 鳩のフンを髪につけると養毛剤になる
- ・ ラマダン中の伝統行事を継承していきたい
- ・ エジプトの伝統的な人形を復活させる
- ・ エジプトのことわざ：「壺をひっくり返しても娘は母に似る」
- ・ ドアに大小2つのドアノッカーがあり、男女の訪問者によって使い分けをしていた
- ・ 病人のいる家に黄色い花を飾る（近隣の人たちが騒音に配慮、見舞いをする目安となった）

グループ4：スーク・シラーハの経済再生

- ・ ハマームを再興し、その前の広場を伝統的料理や手芸品の展示場として使う
- ・ サビールをクッターブかこどもの図書館として復活させる
- ・ スーク・シラーハは、ひとつのオープンミュージアムである

- ・ 住民たちによる観光を振興するため、文化センターを作って魅力を発信する
- ・ 若い人たちがスーク・シラーハの外に出て行かないでも済むように伝統工芸を継承する
- ・ 町工場や商店などを再興する
- ・ 空き家や老朽化した建物を活用し、住民の集いの場を設ける
- ・ スーク・シラーハの魅力を紹介する住民による観光プログラムを創出し振興する
- ・ 学校を通じて地元の魅力を発信する、学校で伝統工芸を教える

□結果発表に対する意見・講評

Mohamed Soleiman 氏

- ・ サビールの貯水槽を防火用水として再利用するという提案があったが興味深い。
- ・ エジプトは雨が少ないので参考にならないかもしれないが、日本の京都では道路に降った雨水を集めて防火用水に利用している。

塚崎氏（日本大使館広報文化センター長）

- ・ 初めてスーク・シラーハ地区とバイト・ヤカンを訪問した。
- ・ コミュニティの課題を解決していくことは容易なことではないが、みなさんが活発に議論している様子と熱意を感じることができた。

荻谷氏

- ・ 過剰なトゥクトゥクなどの交通問題、ごみの処理と分別、消防署の問題など、住民から具体的な提案が聞けて良かった。
- ・ 歴史的建造物の保存と活用とともに、伝統工芸を継承していこうという意欲を感じた。
- ・ スーク・シラーハを素晴らしい町にして、多くの人を訪れるひとつの観光地にしたいという意向には賛成したい。

岡田氏

- ・ 今日新しい話を聞くことができた。
- ・ このようなコミュニティの交わりを続けていくことでより良い住環境につなげていくことができると確信した。

連氏

- ・ まちづくりファシリテーターコースを受講されたファシリテーターが住民の意見をまとめている姿を観て嬉しく思う。このように住民と専門家のアイデアをブレンドすることが大切である。
- ・ スーク・シラーハには歴史的な建物があり、観光ということも考えて活かしていくことで経済的にも持続可能な街づくりにつながることに期待している。

以上のように、シンポジウムでは、コミュニティ、ファシリテーター、行政を含むその他の関係者、日本から遠隔で参加した専門家の間で有益で活発な意見交換が行われ、スーク・シラーハの将来像に対する方向性が共有された。

今後は、コミュニティからのメッセージが単なる願望や要望に留まることなく、それをどのように具現化していくかが問われることになる。様々な制約がある中で、これらを実現していくためには、資金的、人的な投入リソースに裏付けられた具体的なアクションプランが不可欠となるであろう。

本日のシンポジウムが新たな出発点となることを期待してやまない。

□エジプト側が用意したシンポジウムについてのプレスリリース

2023年3月5日（日）、観光考古省財務行政担当大臣補佐官イハブ・サーレム少将は、バイト・ヤカンで開催されたコミュニティによるシンポジウムに出席した。メヌーフィア大学の建築と遺産保存の教授であるアラー・ハブシ博士は、オーラ・サラー・サイド工芸学校に勤める夫人とともに参加を歓迎した。

ダルブ・アフマルのコミュニティメンバーが参加するプロジェクト「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業/住民参加のまちづくり（日本文化庁文化遺産保護国際貢献事業）」は、これまでの2年間、月例ワークショップを通し、文化遺産を再利用することで遺産地区の環境、社会、経済的利益を踏まえて活性化するため、地域の改善と活性化、および生活の質の向上のために共同で詳細なビジョンを話し合ってきた。

シンポジウムでは、スーク・シラーハの女性と男性グループの代表により、プロジェクト期間中に提案された計画が発表された。これらには、公共サービスの提供にコミュニティがどのように参加するかが含まれる。歩行者のための都市構造を考えると、ごみを分別しリサイクルすることで廃棄物を管理する方法、それから利益を得る方法、老朽化した建物や施設の再利用法、インフラの欠陥などを持つ都市構造から引き起こされる災害リスクを回避すること、特に歴史的資産を再利用することが検討された。バシュタク公衆浴場、ルカイヤ・ドゥドゥの給水所、マンジャク・シラフダール邸の門などの歴史的資産を、この地域の住民や訪問者のために、また観光客にとっても通りを特徴付ける歴史的モニュメントとし、これらの遺産の維持における社会の役割を活性化する方法も検討された。また、ダルブ・アフマルで人気のある食べ物、オリジナルな習慣と伝統、伝統工芸に代表される無形遺産が地域に利益をもたらし、投資をひきおこすという社会的ビジョンと、コミュニティ観光の推進による地域経済の活性化、空き家の有効活用も検討された。

プロジェクトでは、この包括的ビジョンをアラビア語と英語の小冊子にまとめ、これらすべての軸を図面と詳細な記述にまとめた。コミュニティをサポートするファシリテーターは、それらの準備と編集を助けた。小冊子は、すべての参加者、特に地域社会のメンバーに配布された。このビジョンを確立する上で積極的な役割を果たす証であり、近い将来、ビジョンを実現するための指針となる。

プロジェクトの専門家である国際開発センターの磯野氏と日本学術振興会カイロ研究連絡センターの深見氏が、講習を受けたファシリテーターひとりひとりに修了証書を授与した。日本大使館情報文化センター長の塚崎氏は、シンポジウムに参加できなかった岡浩大使の代理として、プロジェクトへの支持と激励の言葉を伝えた。加えて、日本建築まちづくり適正支援機構の連代表理事、小山工業高等専門学校名誉教授の荻谷氏、国土舘大学名誉教授で日本イコモス会長の岡田氏からも講評を得た。

シンポジウムに出席したイハブ・サーレム少将と観光考古省の幹部職員たちは、スーク・シラーハのコミュニティの女性たちが用意した料理を賞味しながら、カイロの歴史的に最も重要な地区のひとつであるスーク・シラーハで持続可能な開発を目指すビジョンを共有することができた。

□シンポジウム参加者

〈住民参加者〉

	女性	男性
1	Marwa El Husany Ibrahim El Shahed	Hamdy Mohmed Aly Osman
2	Nirmen Mahmoud Abdel Wahid	Alaa Mohamed Mahdy
3	Dina Ahmed Abdel Aziz	Hany Mohamed Aly
4	Siham Gouda Mitwaly	Mohamed Nabegh
5	Hend Fathy Ahmed	Ashraf Mohamed El Tantawy
6	Sayieda Madbouly Ahmed	Tarek Mahmoud Ahmed
7	Amal Mousad	Ahmed Amir
8	Shimaa Mahmoud	
9	Rehab Abdel Razeq mohamed	

〈ファシリテーター参加者〉

	名前
1	Hajar Taariq Sayed
2	Mariam Ahmed Thamarat
3	Yassmen Hesham Mohmed
4	Sabrin Aly Ibrahim
5	Sara Fayed
6	Hiwayada Mukhtar
7	Fatem Abdel Wahed
8	Omniya Shirif Mahmoud
9	Rasha abdel Rasoul
10	Marwa Said
11	Yasmine Nasr

〈その他参加者〉

	名前	所属
1	Amr Abdel Kerim	Supervisor of the Heritage Management Unit
2	Mirvat Abou El Fehtouh El Komy	
3	Dr. Mohamed Soilam	Ministry of Tourism and Antiquities
4	Mohsen Anwar Hassan	Chief inspector of Muskie
5	Rafiq Salah Mohamed	Cairo North fence manager
6	Fatema Al Zahraa Mohamed Aly	Inspector of the Archaeological unit in historic Cairo
7	Mona Darwish	The ministry of Tourism and Antiquities
8	Israa Mohamed Hassan	Antiquities restoration student
9	Omniaya Mohamed Moustafa	Antiquities restoration student
10	Omar Ashraf Ahmed	Antiquities restoration student

11	Mohamed Ahmed Ragab	Antiquities restoration student
12	Moustafa Mohamed	
13	Ihab Husen Abbas	Structural Engineer at IMCT
14	Soha Bahgat	assistant Minister of Tourism and Antiquities
15	Agnes Deboulet	元 CEDEJ 所長
16	Zahra Mevabot	North South Consultant Exchange
17	Hayedi	Urban Harmony
18	Katarzyana Domagalska	University of Warshawa
19	Poland	Artist
20	Yuko Abe	Student
21	Nader Ali	
22	Madeha alaa	Civil



دعوة لاحتفالية المشاركة المجتمعية

يتشرف بيت يكن وبيت يكن و مشروع الحفظ المستدام في القاهرة التاريخية: تنمية المجتمع بمشاركة السكان المحليين* (المرحلة الثانية) بدعم من وكالة الشؤون الثقافية 2022 وبرنامج التبادل الدولي للتعاون في مجال التراث الثقافي أن يدعوكم لمشاركة مجتمع شارع سوق السلاح وحي الدرب الأحمر في احتفالهم بإرساء رؤية مشتركة بينهم لإحياء منطقتهم ولتعزيز جودة الحياة بها، وجودك ومشاركتك هو دعم وتشجيع لمسيرة أهالي الدرب الأحمر، وإشادة لجهودهم التعاونية في "احتفالية المشاركة المجتمعية"، سيقام الحفل في بيت يكن في شارع سوق السلاح بالدرب الأحمر، يوم الأحد الخامس من مارس في الساعة 11:30 صباحاً.



Invitation to the Ceremony of Engagement

Bayt Yakan and the "Project for Sustainable Conservation in the Historic Cairo/Community Development with the Participation of Local Residents" (phase 2) supported by the Agency for Cultural Affairs 2022; International Exchange Program for Cooperation in Cultural Heritage are delighted to invite you to participate with the community of Souq al-Silah Street and the neighborhood of al-Darb al-Ahmar their celebration for shaping a communal vision for the regeneration of their area, for enhancing the quality of the residents' lives.

Please join and participate to encourage them, and to applaud their collaborative efforts in a "Ceremony of Engagement".

The Ceremony will take place in Bayt Yakan located in Souq al-Silah Street in al-Darb al-Ahmar, Sunday the 5th of March at 11:30 AM.



Ceremony of Engagement Program

Ceremony of Engagement Program		احتفالية المشاركة المجتمعية	
Community & Facilitators	11:30- 11:40 Welcome Note (Naoko Fukami & Alaa el-Habashi)	11:30 – 11:40 كلمة ترحيبية (ناووكو فوكامي & علاء الحبشي)	المجتمع والمساعدون
	11:40 – 12:00 Facilitators' Certificate Ceremony (Eng. Takeo Muraji & Eng. Tetsuo Isono)	11:40 - 12:00 حفل شهادة المساعدين (م. تكارو موراجي & م. تيسيو ايسونو)	
	12:00-12:15 Residents' Participation Recognition (Naoko Fukami)	12:00 - 12:15 الاحتفاء بمشاركة المجتمع (ناووكو فوكامي)	
	12:15-12:45 Planning Ceremony of Engagement (Alaa el-Habashi)	12:15 - 12:45 تخطيط لاحتفالية المشاركة (علاء الحبشي)	
	12:45-13:00 Light lunch	13:00 - 12:45 غداء خفيف	
Stakeholders & Foreign Institutions	13:00-13:15 Welcome Note and Introduction (Naoko Fukami & Alaa el-Habashi)	13:00-13:15 تخطيط لاحتفالية المشاركة (ناووكو فوكامي وعلاء الحبشي)	شركاء التنمية والهيئات الأجنبية
	13:15-13:25 Presentation 1 & Debate (Community group 1 & Facilitator) (Public Services): Mobility and management of garbage.	13:15-13:25 عرض مجتمعي 1 & نقاش (مجموعة 1 من المجتمع ومساعد) (الخدمات العامة): الحركة في العمران وإدارة النفايات.	
	13:25-13:35 Presentation 2 & Debate (Community group 2 & Facilitator) (Management of built fabric): Risk Mitigation, reuse of historic buildings, and maintenance of urban assets.	13:25-13:35 عرض مجتمعي 2 & نقاش (مجموعة 2 من المجتمع ومساعد) (إدارة النسيج المبنى): درء الحواطر، وإعادة استخدام المباني التاريخية وصيانة الأصول العمرانية.	
	13:35-13:45 Presentation 3 & Debate (Community group 3 & Facilitator) (Intangible Aspects): Intangible heritage and traditional crafts.	13:35-13:45 عرض مجتمعي 3 & نقاش (مجموعة 3 من المجتمع ومساعد) (المظاهر غير المادية): التراث غير المادي، والحرف التقليدية.	
	13:45-13:55 Presentation 4 & Debate (Community group 4 & Facilitator) (Economic Reform): Community tourism and the use of vacant buildings and unused areas.	13:45-13:55 عرض مجتمعي 4 & نقاش (مجموعة 4 من المجتمع ومساعد) (الإصلاح الاقتصادي): السياحة المجتمعية، والمنفعة من المباني غير المستخدمة والمناطق المهجورة.	
	14:00-14:30 Debate among all the Attendees and distributing the Community Vision book. (Served Refreshments)	14:00-14:30 عرض مجتمعي 1 & نقاش وتوزيع كتاب الرؤية المجتمعية (مع تقديم مأكولات ومشروبات)	
	14:30 Ceremony ends, development works start	14:30 الاحتفالية تنتهي ويبدأ العمل التنموي	

② ステークホルダーの会合

8月21日に10時からバイトヤカンで開催した会合には、アラー氏、ユネスコの高橋暁氏、連氏、荻谷氏、深見の他に以下のメンバーおよびその代理が出席した。令和3年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」の成果をまず報告し、現在行われている令和4年度文化遺産保護国際貢献事業「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり Phase II」での事業としてのファシリテーター・コースおよびワークショップを紹介した。さらに Souq al-Silah; Maps Building & Vision（英語版 A3 サイズ）を贈呈した。通訳として JSPS 秘書のサブリーンが参加した。

- 1) Dr. Eman Ziadn, MoTA (development Dept.)
- 2) Dr. Osama Talaat (Head of Islamic and Coptic Monuments)
- 3) Dr. Suha Bahgat (vice minister for Tourism) (delegated Waleed Tawfiq)
- 4) Mr. Islam Gharib (Coordinator for the development of al-Darb al-Ahmar)
- 5) Mr. Mahmoud Abdel Basset (Head of the Historic Cairo)
- 6) Eng. Mohamed Abou Saeda (from NOUH)
- 7) Eng. Khaled Seddiq (head of the Urban Development Fund)
- 8) Mr. Ehab Hanafi (General Coordinator of the Urban Development Fund).
- 9) Ambassador Dhalia (MoTA)

論点は、以下の通りである。

- ・スーク・シラーハの登録歴史的建造物の利活用の方向を模索する。その際に一連の文化庁プロジェクトで集めた住民からの意見を考慮する。
- ・スーク・シラーハのインフラストラクチャーの向上のための事業を実施方向で考える。
- ・ワークショップのテーマとなった交通問題、ゴミ問題は、カイロ市との調整の上で検討する。
- ・スーク・シラーハのプランからアクションプランを選び、ステークホルダーの会合の中で、外国からの支援を含み、どのグループが何を担当するのかということを確認にする必要がある。
- ・ステークホルダーの集まる機会として、セミナーを開催する方向性も考えられる。
- ・更新案の具体化については、現在バシュターク公衆浴場前のスーク・シラーハ交差点とそれに続くコーカリアーン給水所周辺を検討することが決まりつつある。

11月28日に11時からバイトヤカンで開催した会合には、アラー氏、ユネスコの高橋暁氏、岡田氏、荻谷氏、深見の他に、住民側からシハーム女史とハムディ氏が参加した。以下のメンバーおよびその代理が出席した。8月以来の事業の推移を紹介すると同時に、住民側からの意見を述べた。ダルブ・アフマル地区の伝統工芸として木工業の進展のために、日本大使館の草の根事業での協力例（バイト・ヤカンに木工業訓練所を設置）を提示し、12月に金沢から職人を招聘してワークショップおよび展示会を開催することを広報した。また、地元で住民の間に組合の設置への方向性が生まれていることも指摘した。ステークホルダーとしての参加者は以下のメンバーおよびその代理であった。通訳として JSPS 秘書のサブリーンが参加した。

- 1) Dr. Eman Ziadn, MoTA (development Dept.)
- 2) Dr. Osama Talaat (Head of Islamic and Coptic Monuments)
- 3) Dr. Suha Bahgat (vice minister for Tourism) (delegated Waleed Tawfiq)
- 4) Mr. Islam Gharib (Coordinator for the development of al-Darb al-Ahmar)

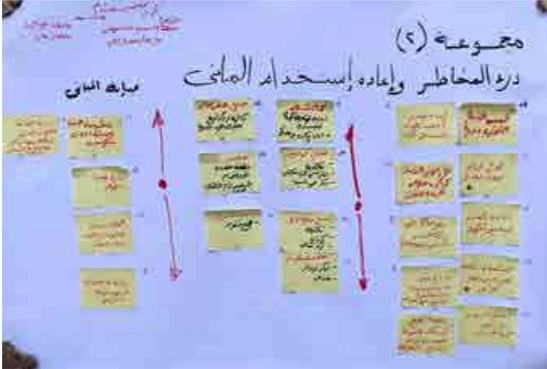
- 5) Mr. Mahmoud Abdel Basset (Head of the Historic Cairo)
- 6) Eng. Mohamed Abou Saeda (from NOUH)
- 7) Eng. Khaled Seddiq (head of the Urban Development Fund)
- 8) Mr. Ehab Hanafi (General Coordinator of the Urban Development Fund).
- 9) Dr. Amr Abd El-Karim(MoTA)

論点は、以下の通りである。

- ・住民は、コーカリアーン給水所の活用について、大きな期待を抱いており、早く事業が実現することを願っていると訴えた。
- ・コーカリアーン給水所は2021年に修復を終え、良い状態であるので、早期の活用が望まれる。またその際には隣り合うラブア（通りに面した商店建築）の上階も一体として考える必要がある。
- ・アーバン・デベロップメント・ファンドにより、フトゥフ門、ハーラ・ルーム、スルターン・ムアイヤッド・モスク近傍、ダルブ・ラッバーン周辺などで、開発事業が起こっている。これに関しては、情報の共有が必要である。
- ・ユネスコの歴史的カイロにおける無形文化遺産保全のプロジェクトと、スーク・シラーハの歴史的建造物の利活用のプロジェクトが結びつくような形が望ましい。
- ・バイト・ヤカンで行われている子供や女性のための伝統工芸の教室と、登録建造物の利活用や無形遺産の保全を統合する形での発展を考えている。



③ まとめ

	
<p>グループ（１）交通・ゴミ問題</p>	<p>グループ（１）発表風景</p>
	
<p>グループ（２）地域資源の管理</p>	<p>グループ（２）発表風景</p>
	
<p>グループ（３）無形遺産</p>	<p>グループ（３）発表風景</p>
	
<p>グループ（４）地域経済の再生</p>	<p>グループ（４）発表風景</p>

【シンポジウム：3月5日（日）】住民ワークショップ（男性・女性）

〈住民ワークショップのアンケート結果〉合計 16 名

1- 今回のワークショップに対する評価

良い（14名）：普通（0名）：悪い（0名）：無回答（2名）

2- 今回のテーマに関する問題や提案

- ・ 歴史的な建物（遺跡）を使わせてくれないのは問題です。
- ・ 遺跡の価値観の意識の欠如が問題です。住民が歴史的な建物の価値が知らないし、どう使えたらいいのかも知らないです。
- ・ 壊れている家を修復するべきです。
- ・ 下水で壊れている道路を再舗装するべきです。
- ・ 子供には将来があるので、災害（雨）が危険（電気）に立ち向かう方法などを教えるべきです。学校を使って子供や若者に知識を広げることは大切です。
- ・ 問題と言えばトクトクです。ゴミのリサイクルをしなければなりません。
- ・ 野良犬や猫は子供にも大人にも危険です。空地进行を駐車所ではなく、ゴミ集めるセンターにすればいいと思います。
- ・ 工房や店舗などが、商品やテーブルなどを道に出すことが交通の邪魔になっているので、片づけるべきです。
- ・ 家や建物のメンテナンスをするべきことです。
- ・ トクトクを減らすべきです。
- ・ レザー工房を住宅地域から遠くへと移すべきです。

3- 自由記述

- ・ ワークショップに出た話を実際に実行することです
- ・ 建造物を公開して、再利用させてもらいたいです。
- ・ 住民に遺跡の価値観を教えるべきです。
- ・ スーク・シラーハ通りを守るために今日のワークショップに出た話を実際に実行することです。
- ・ 今日のワークショップに相談したことを全部実践できるように願っています。
- ・ ゴミは家まで来て収集してもらった方がいいです。それに、ゴミ捨て場も決めた方がいいです。
- ・ ゴミリサイクルをするのに業者に頼む必要があります。
- ・ 動物保護施設を作るべきです。

シンポジウム（総括会）のまとめと感想

[荻谷勇雅]

- ・ シンポジウムでは出席の市民から活発な意見表明があり、たいへんうれしく、また頼もしく感じた。
- ・ まちの環境についてはあらためて、トゥクトゥクなどが通りに過剰に進入しているなどの交通問題、街路や歴史的建物敷地に散乱するごみの問題、近くに消防署がない、水利施設がないなどの防災問題など、住民から具体的な指摘があった。その解決には行政に頼るだけで無く、市民の力でもできることがある、たとえばゴミの分別に取り組もうなどの提案を聞くことができた。また、歴史的建造物については、すでに無くなってしまったものもあるが、残っているものは大事にしたい、うまく保存し活用したいとの強い気持ちも表明された。
- ・ 伝統工芸や生活習慣、マナーなどもエジプトの伝統を伝える文化遺産であり、大事にしたいとの声もあがった。
- ・ 歴史的建造物の保存と活用、空き家問題の解決とともに、これらの伝統を継承することにより、スーク・シラーハを住民にとって素晴らしい町にして、多くの人が訪れるひとつの観光地にしたいという希望も伝わってきた。
- ・ これらの住民や当日出席した各機関の代表者たちの発言を聞くと、地域自身のまちづくりの資源とエネルギーとともに、これを何年にもわたり励まし、促してきた日本側の努力が一定の効果を上げつつあることを実感し、たいへんうれしく思った。

[連健夫]

まちづくりファシリテーターコースを受講されたファシリテーターが話し合いをうまく進行されている姿を観て、嬉しく思いました。保存まちづくり活動は、住民自身が自分たちの街を作っていくという自主的な気持ちがある街を作ることができるので、専門家が一方的に方向付けをしてもうまくいきません。その意味で、専門性を持つファシリテーターが住民の意見をまとめるプロセスを通して、住民と専門家のアイデアをブレンドさせることがポイントになります。発表を聞き、それが形に現れたと感じました。サビールの利活用において、観光の視点で捉えると共に地下の水を災害時に利用するというアイデアは具体的で、是非、実現してほしいと感じました。観光の視点は参加者の収入にも繋がり、地域の活性化と文化を活かすことになるので、これからも話し合いを続けられると良いと思いました。

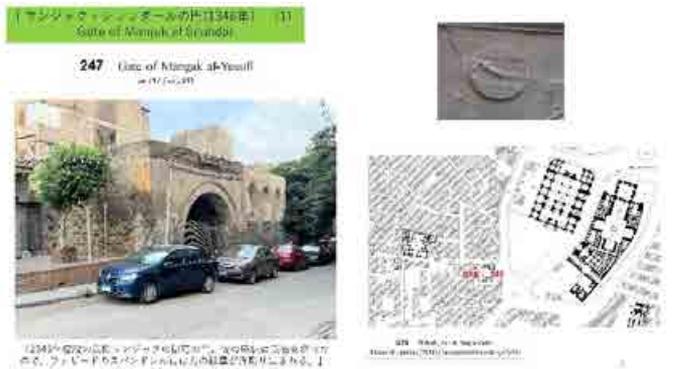
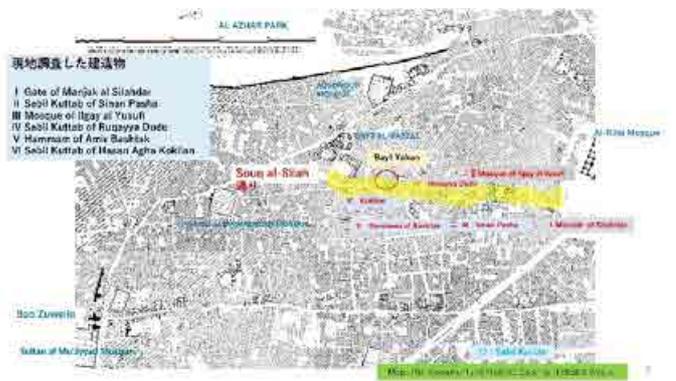
■ 5. 現状調査 ① スーク・シラーハの歴史的建造物の概略調査 荻谷勇雅

1. はじめに：スークシラーハの6つの主要な歴史的建造物について、エジプト政府観光考古省の担当官の協力と立ち会いの下、2022年11月21日に、深見、岡田、荻谷が実地の観察調査を行った。ここでは、当日の写真のほか、関連の資料も一部掲載した。なお、当日は、Ms. Sabrin Ali の通訳支援を得た。

2. スークシラーハ通りの位置：Nicholas Warner の The Monuments of Historic Cairo (2004) 掲載の地図を合成し、スークシラーハ通りを赤線で示した。世界文化遺産 Historic Cairo の枢要部に位置する。西の近傍には城壁の向こうにアル・アズハル公園がある。

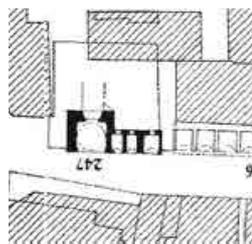
3. 調査建造物の位置：前掲地図に調査建造物の位置をプロットした。いずれもスークシラーハ通り沿いにあり、このうち3件はサビール・クッタブ（給水所兼寺子屋）である。バイト・ヤカンはコーカリアンのサビール・クッタブと接続している。周りには多くの重要な歴史的建造物が分布する。なお、以下の調査建造物の説明は令和3年度報告書の「2—①スークシラーハと保存対象建物」P.15-P.18 の記述を一部援用している。

4. マンジャク・シラフダールの門(1)：リーファイ・モスクとスルタン・ハサン・モスクからスーク・シラーハ通りに入るの南の入口の西側に位置する。1346年建設のシラフダール（武器司、the sword bearer or armorer）であった Mangak al-Yusufi の邸宅の門。武器司らしく、門のファザードのスパンドレルには両側に刀の紋章が浮彫りにされる（右上）。



5. マンジャク・シラフダールの門(2): ここには門のホールとそれに続く3連アーチのファサードのみ残存する。ホールはドーム構造で、1903年に描かれた見上図がある。流麗・精緻な意匠である。今回、コンベックスとレーザー距離計でホールの寸法を計測した。左右の壁面間距離は6124mm、柱面間距離は5560mm、ドーム天井高は6377mmであった。

1 マンジャク・シラフダールの門(1346年) (2)
Gate of Manjak al Silahdar



ドームの見上図
1903年の図面
18弁



平面図 今回の計測値
6124mm(壁面間)
5560mm(柱面間)
天井高 6377mm

Plan of palace of Manjak al Silahdar
+ Bab al-Silahdar
+ Bab al-Silahdar

5

6. マンジャク・シラフダールの門(3): 門は鉄柵で囲われており、通常は入れない。今回は観光考古省の担当官の案内と立ち会いの下に現地調査を行った。門の前面は駐車場の列が隣接の旧商館建物の前にも続いている。旧商館では破損が進み、現在は閉じられている。2階部分も失われている。

1 マンジャク・シラフダールの門(1346年) (3)
Gate of Manjak al Silahdar



門の正面は
柵で囲われ
ている。



Wahid
(原稿) 二
の横付け

6

7. マンジャク・シラフダールの門(4): 門のドームの見上げ写真。5. の見上げ図の意匠がほとんど残っている。ペンデンティブ部分の刀の紋章彫刻も認められる。ただ、全体に亀裂や破損があり、修理が施されているものの、破損部分を暫定的に埋めただけで、美しい意匠の回復や構造的修理に至っていない。

1 マンジャク・シラフダールの門(1346年) (4)
Gate of Manjak al Silahdar



ドームの見上

This was the entrance to the palace of Mangak al-Yusufi whose mosque (no. 138) is in the Bab al-Wazir cemetery. It seems appropriate that he, as armorer (*silahdar*), should have built his palace here at the entrance to the street of the sword market. The gate has a shallow stone dome; faint traces of the inscription band within are still visible. Three stone arches survive to the south of the gate, but all other remains of the palace have now disappeared.
©The Monuments of Historic Cairo, Nicholas Warner

7

8. マンジャク・シラフダールの門(5): ホールの四方向の写真。土砂で覆われているホールの床面は道路面より低く、階段を降りて入る。道路面が長年の土砂堆積や舗装のやり替えで高くなったからであろう。ペンデンティブの立ち上がり部分がよく観察できるが、低いライズのアーチは一部変形が見られ、開いた石の目地は埋められているものの、やや稚拙な修理施工である。

1 マンジャク・シラフダールの門(1346年) (5)
Gate of Manjak al Silahdar



8

9. マンジャク・シラフダールの門(6): ペンデ
ンティブ部分の詳細。刀の紋章彫刻が認めら
れる。石積みは全体に亀裂、ズレ、破損、一
部脱落が起こっている。修理はその破損等を
修正すること無く、そのまま目地を埋めてい
るだけである。文化財の修理として問題があ
ると言えよう。修理報告書が発行されていれ
ば確認したいものだ。

10. マンジャク・シラフダールの門(7): 前記
のように観光考古省の担当官が今回の現地
調査中ずっと先導と案内をしてくれた。コン
ベックスやレーザー距離計でホール内の平面
やドーム高さを簡易計測している様子。

11. マンジャク・シラフダールの門(8): 門の
ホールより内側はほぼ完全な瓦礫と化して
いる。通りに面する三連アーチはファサード
の壁だけが立っている。今後とも自立でき
るか不安がある。下段の写真はホールから出
て見返したところ。このあたりも大破して
おり、アーチ等が構造的に不安定に見える。13.
にサラール・ザキー教授による整備・活用案が
示されているが、まず、このホールや残存す
る三連のアーチについて、全体的な解体修理
と補強が必要であろう。

12. マンジャク・シラフダールの門(参考):
これは、ユネスコ世界遺産センターが世界文
化遺産 Historic Cairo の保存計画策定のため
に、2010年に設置した URHC(Urban
Regeneration Project for Historic Cairo) の様々
な調査研究のうち、2014年に刊行された Study
on the Monuments in the Action Area のマンジ
ャク・シラフダールの門のスタディについて
引用したものである。ドームの状況は悪いと
記述されている。現在は修理・清掃されてい
るものの基本的に2014年当時の状況と大き
な差はないようである。



マンジャク・シラフダールの門(1338年) (6)
Gate of Manjak al-Salhiyah



マンジャク・シラフダールの門(1340年) (7)
Gate of Manjak al-Salhiyah

中央は案内を留めて
いただいた観光考古
省の担当官



マンジャク・シラフダールの門(1345年) (8)
Gate of Manjak al-Salhiyah

内側の状況：ほとん
ど瓦礫と化している

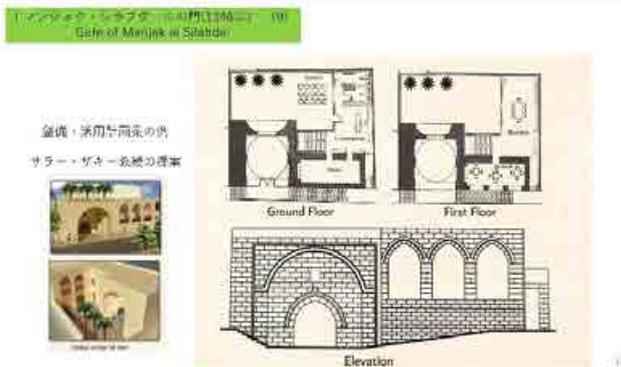


マンジャク・シラフダールの門(1345年) (参考)
Gate of Manjak al-Salhiyah

参考
Study on the Monuments
in the Action Area, Cairo
2014, by URHC 104

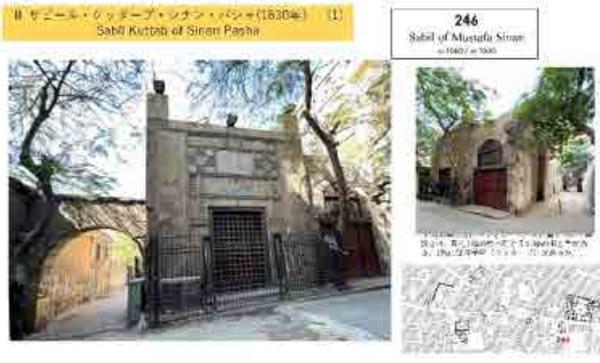
13. マンジャク・シラフダールの門(参考 2) :

2022年3月4日にバイトヤカンで開催された「未来のスーク・シラーハへ向けてのワークショップ」において、アズハル大学建築学部教授サラー・ザキー氏により提案された歴史的建造物の更新案の一つ。この門をスークシラーハ通りの入口のビジターセンターとして整備し、図書コーナー等も設け、2階はスルタンハッサンを望むオープンテラスのコーヒーショップを設置するというもの。



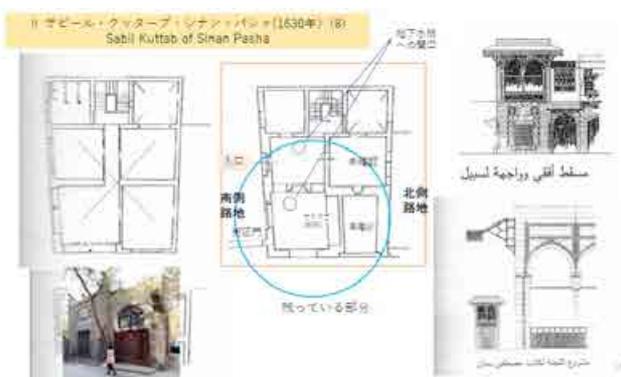
14. サビール・クッターブ・シナン・パシャ

(1) : この建物は1630年に商館(ウイカーラ)に付属する形で建設され、現在1階の給水所とその脇に路地への街区門が残る。2階には寺子屋(クッターブ)があったが、失われている。



15. サビール・クッターブ・シナン・パシャ

(2) : 観光考古省から提供された図面。中央の1階平面図のうち、青丸で囲んだ範囲が概ね残存している。左下部分がかつてのサビール(給水所)で、スーク・シラーハ通りに面する。立面図・断面図に見るようにかつては2階があり、クッターブ(寺子屋)であった。隣接して2階建ての商館があった。



16. サビール・クッターブ・シナン・パシャ

(3) : このサビール・クッターブの両側は路地になっており、壁面は奥までほぼ残っている。南側路地には路地門がある。サビールの入口はこの南側路地に開く。ここも鉄柵で厳重に囲われている。



17. サビール・クッターブ・シナン・パシャ

(4) : 入口を入ると中庭的な空間があり、地下水層への開口部が開く。修理・整備されているが、この水槽が機能していたときの実際の形状・使用状況等は今ではわからなくなっている。説明板等もない。

II サビール・クッターブ・シナン・パシャ(1630年) (4)
Sabil Kuttab of Sinan Pasha



地下水層への開口部

18. サビール・クッターブ・シナン・パシャ

(5) : サビールの内部。床は石敷き。左端の写真の開口部はスーク・シラーハ通りに面し、かつて通り側に給水口があったところ。現在は木とガラスの建具が入っている。この開口部に向かって左側には広い幅のマスタブと呼ばれる腰掛が設置されている。天井は精緻で美しい装飾がほどこされている。中庭側等からの入口戸が2カ所ある。

II サビール・クッターブ・シナン・パシャ(1630年) (5)
Sabil Kuttab of Sinan Pasha

サビール内部



マスタブ (後右)

19. サビール・クッターブ・シナン・パシャ

(6) : 同じくサビールの内部。左：高い天井に大きなマスタブ。中：木製の入口戸の上部は平面アーチになっており、その上にもアーチ状の石組みが見える。右：サビール内にも地下水層の開口部がある。17. と同様、修理・整備し、造り替えられているので原形はわからない。

II サビール・クッターブ・シナン・パシャ(1630年) (6)
Sabil Kuttab of Sinan Pasha

サビール内部



アルコーブとマスタブ (後右)



地下水層への開口部

20. サビール・クッターブ・シナン・パシャ

(7) : サビール外側正面の青銅製のグリル。高度な製造技術が感じられる。このグリルの上の壁面は青色のイズニックタイルをはめ込んだ円形パネルやアーチ型の飾り、精巧な大理石碑文などで美しく構成されている。これらの前面も鉄製の柵で囲われている。

II サビール・クッターブ・シナン・パシャ(1630年) (7)
Sabil Kuttab of Sinan Pasha



サビール正面のブロンズのグリル

21. サビール・クッターブ・シナン・パシャ

(参考) : 12. と同様、Study on the Monuments in the Action Area からの引用。建物のファサードには碑文とイズニク・タイルがはめ込まれた独特の装飾がある、また、天井は木製のマムルーク様式の装飾であるが、保存状態は悪い等と記されている。現状は 2014 年当時と基本的には変わっていないが、以降に修理・整備されている。



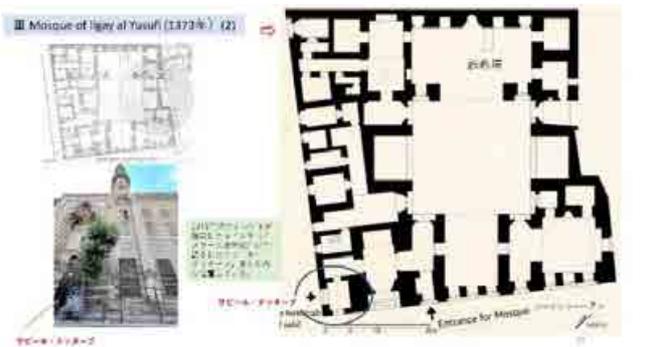
22. イルゲイ・ユーズフィー・モスク(1) : 武

将であったイルゲイ・ユーズフィーのこのモスクは 1373 年に建立された。三層構造の塔と、石のリブが 45 度にたわみ塔の先端の冠に向かってうねっていくという独特の外観のドーム、大小の三層のアーチ窓や鍾乳石デザインのコーニスなどで装飾されるファサードなど、マムルーク朝期の建築の特色を示している。南側に接続する 17 世紀建立の商館は傷みがひどく、2 階は失われている。



23. イルゲイ・ユーズフィー・モスク(2) : 中

庭周りに 4 つのイーワン（ヴォールトを架けた前方開放式の空間施設）の礼拝室や教室、墓室、神学校（法学院）、通りの角にサビール（給水所）とクッターブ（コーラン寺子屋）等を備えた大型の複合建築である。



24. イルゲイ・ユーズフィー・モスク(3) : モ

スクの入口は小規模のイーワン状を呈しており、高い天井には見事なムカルナスを備える。入口戸を入った前室の天井も複雑・華麗なムカルナスとなっており、通路は屈曲して中庭に至る。



29. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
 ドウ(2): 観光考古省から提供された図面をもとに、平面、断面の計測を行った。サビールの通り側は半円平面で、横幅は最大の箇所
 で8mを超え、大規模である。高さも1階天井
 高が5,840mm,2階が4,257mmと、堂々とした
 施設である。



30. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
 ドウ(3): 左: 外観の詳細。右の古い絵画に描
 かれた華麗な外観をほとんど維持している。
 しかし、スークシハーラの他の歴史的建物と
 同様、柵で閉じられていて、通常は入ることが
 できない。

IV サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウドウ(1761年) (3)
 Sabii Kuttab of Raqqayya Duda



柵で閉じられているのが残念



31. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
 ドウ(4): この建物は2018年に修理され、美
 しい外観装飾がよみがえっている。道路面が
 建物基礎面より高くなっており、いったん階
 段を降りてから、入口で再び階段を上って
 入る。

IV サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウドウ(1761年) (4)
 Sabii Kuttab of Raqqayya Duda



2018年より撮影



32. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
 ドウ(5): サビールの給水口部分の詳細。精巧
 な細工の金属グリル、ムカルナス風の彫刻が
 施された石のカウンターなど、意匠の粋がこ
 らされている。

IV サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウドウ(1761年) (4)
 Sabii Kuttab of Raqqayya Duda



2018年より撮影



33. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
ドウ(6) : 壁面は非常に細かい文様の彫刻や青
いタイルなどで豊かに装飾されている。木製
の入口戸も重厚なレリーフが彫刻されてい
る。

IV サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ(1761年) (6)
Sabih Kuttah of Rucayya Duda



3階まで飾りかき美しい装飾

34. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
ドウ(7) : 1階から2階への階段室部分。

IV サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ(1761年) (7)
Sabih Kuttah of Rucayya Duda



35. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
ドウ(8) 左半分 : 1階のサビールの室内。太
い柱と扁平アーチの窓。右半分 : 2階のクッ
ターブの室内。高い天井にアーチの明かるい
連続窓。通風もよさそうで、快適な空間であ
る。

IV サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ(1761年) (8)
Sabih Kuttah of Rucayya Duda



1階のサビール部分

2階のクッターブ部分

36. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
ドウ(9) 左半分 : 1階のサビールのアルコー
プ、マスタブと天井、 右半分 : 2階のクッ
ターブの天井と柵。

IV サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ(1761年) (9)
Sabih Kuttah of Rucayya Duda



1階天井

2階天井

1階アルコープとマスタブ

2階柵

37. サビール・クッターブ・ルカイヤ・ドウ
ドウ(10)：背面部分は失われ、学校に続いて
いる。右端に学校の入口がある。



7階背面部分、右は学校

38. アミール・バシュタークのハンマーム
(1)：武将バシュタークが 1341 年に建設した
ハンマーム（公衆浴場）の入口部分だけが残
っている。ハンマームは 2007 年まで使用さ
れていた。取り囲む柵は 2020 年に設置。入口
の背後にはハンマームの荒廃した遺構が残
る。



2007年まで使用。現在は入口だけ残る。柵は2020年に設置

39. アミール・バシュタークのハンマーム
(2)：左の平面図の右上の入口部分のみ残っ
ている。他の大部分（脱衣室、温浴室等）は瓦
礫と化して、屋上には仮設的な住宅がある。
南西側の集合住宅の前庭からは瓦礫と化し
た遺構が見える。右下の写真は、集合住宅の
住民でハンマーム遺構の所有者という女性
が、観光考古省の担当官に早く買い取ってほ
しいと要望しているところ。



南西側の集合住宅の前庭から瓦礫と化した遺構が見える。

40. アミール・バシュタークのハンマーム
(3)：残っている入口部分の背後には瓦礫とな
ったハンマーム遺構がある。かつての屋上
には低所得者の仮設的な住宅がある。ゴミも散
乱、集積して劣悪な状況である。



入口背後の瓦礫と化したハンマーム遺構
かつての屋上には低所得者の住宅がある。

41. サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカーリアン(1):1694年にコーカーリアンが建設したサビール・クッターブで、本来は商館や邸宅と同時に建設された。バイトヤカンへのアプローチの北側角に建つ。



42. サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカーリアン(2): バイトヤカンへのアプローチ側にはカフェがあり、時にその客用の椅子がコーカーリアンの壁に沿って並ぶ。サビールへの入口はバイトヤカンの入口ドアの手前左にある。路面が高くなっているためか、入口戸は潜戸状に高さが低くなっている。入口を入ると狭い通路と2階への階段室がある。通路の奥を左に入ると前室で、地下水層の開口がある。前室の幅は2414mm,地下水面までは2479mmを計測した。



43. サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカーリアン(3): 左端は19世紀末の写真で、コーカーリアンの外観はほとんど変化していない。サビールとクッターブは右の平面図で見るとおり、同寸法の矩形である。



44. サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカーリアン(4): 1階のサビール。床、天井、壁とも吟味された材料と密度の濃いデザインで仕上げられている。入口側の壁にはシャビルワンという、水が落ちてくる小さな滝のような装置がある。



45. サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーリアン(5) : 1階のサビール。左上はスークシラーハ側の開口。手前に給水用の水盤がある。シャビルワンは水の流れ落ちる様子を効果的に見せるようにデザインされている。床のモザイクが美しい。天井も細やかな装飾が施されている。



46. サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーリアン(6) : 2階のクッタブ。明るい大きなアーチの大きな窓の下に開き戸。外側に転落防止用の柵がある。板床。柱も繊細にデザインされている。右下は1階前室の天井見上げ。



47. シェイフ・マスウードの廟 : 1534年建設のシェイフ・マスウードの廟。基礎石の上にブロンズ・グリルの窓があり、漆喰塗の煉瓦ドームが乗っている。ドームは緑のタイルで覆われていた。内部は未調査。



スークシラーハ通りの主な歴史的建造物は46. までの6件であるが、そのほかにこの廟のほか、多くの歴史的建造物があるが、そのほとんどが保護されること無く、朽ち果てつつある。

48. まとめ :

(1)今回概略調査した建物の多くは近年に修理されているが、その修理報告書等の資料が未見であるため、修理内容や工事の適否がわからない。構造的に破損している部分を補修しているものもあるが限定的な工事と見受けられ、それによって構造的な安定性を回復できているのかがわからない。

(2)代表的な歴史的建造物の歴史的価値、建立後の変遷等をさらに詳細に調査に解明すべきではないか。そのことにより、修理活用整備の方針が変わることも十分あり得る。

(3)現在提唱されている利活用のプランは、まず文化財としての価値に鑑み、そのような

利活用が適切か、特に現状変更を伴うものであれば学術的な審査・判断が必要である。

(4)上記の活用に関わって、周辺の整備・開発が必要となる場合、遺産影響評価 (HIA) にしたがって実施することが必要である。

■ 5. 現状調査

②ダルブ・アフマル調査地区

ダルブ・アフマル(朱殷)地区全体について、昨年度の事業から今年度にわたって調査、整理を実施した。この作業過程においてベースマップを作成し、ナポレオン地図(19世紀初頭測量)、1938年測量地図との比較において、道路網の都市組成、各建物の写真のページを作成した。以下にそれらの概要を示す。

スーク・シラーハ(武器市場)通りの西側(a&b地区からf地区)、および同通りの東側(G地区からA地区)については、昨年度の報告書『令和3年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業/住民参加のまちづくり』198から211ページに掲載済みである。地域分けは、調査の便宜のために分けたものであり、都市の歴史的ブロック(街区、ハーラとも呼ばれる)については、さらなる検討が必要である。

ここでは昨年度掲載済みのスーク・シラーハ通りを取り巻く地区の外側を対象とする。すなわち、バーブ・ズウェイラ(ズウェイラ族の門、ファーティマ朝カイロの南門)から南進する一連のハイヤメイヤ(テント造商)通り、マグレブリー(篩商)通り、スルギーヤ(馬具商)通りと同門から南東方向に進むバーブ・ワズィール(宰相門)通りに挟まれた西側地区(i地区から④地区)、スーク・シラーハ通りの東側バーブ・ワズィール通りに挟まれた東側地区(H地区からN地区)の詳細を掲載する。なお、後者のさらに南東側O地区からW地区に関しては、現在データをまとめている最中であり、本報告書に掲載することはできなかった。機会をあらためて報告したい。

[i] 地区

マリダーニーモスクの南側を通過してバーブ・ワズィール通りとマグレブリー通りをつなぐマリダーニー通りの南側に位置する。南西側はガニベキーヤ通りを介してv地区、k地区と接する。ナポレオン地図、1938年地図、現在まで道路、後2者においては敷地形状にほとんど変化は見られない。歴史的建造物としては、ユースフ・アガー・ハブシー廟(1604年建設、観光考古省登録番号229)は荒廃した状態で放置され、i-5は本来は石造持ち送りが残り、オスマン朝期の住宅建築であったと推察される。i-8は1938年地図にはモスクと表記されているが、現在は空地となり、外壁の石積みの一部が残る。ガニベキーヤ沿いのi-17から24は、セグメント・アーチや半円アーチを用い、切石積みの建築で、1850年以後、1938年頃までの建築と推定される。i-8や26などは空地となっており、今後古い部分は壊され、高層のアパートが建設される懸念がもたれる。

[j] 地区

西辺の一部はスルギーヤ通りから続く周回道路ダリー・フセインを介してk地区につながり、東辺はマリダーニー通りを介してh地区につながる。北辺と南辺に関しては、便宜的に住宅境界線で区切った。南東の住宅(A)はj-1、2、3、13、12の一部に分割され、2つの通りをつなぐ大敷地のうち南の住宅(B)はj-5、6、11、12の大半、14に、北の住宅(C)はj-7、16、17、18、18-1、18-2に分割されたことがわかる。さらに北のj-8、9、10はi地区の巨大住宅(D)の一部であった。敷地が細分される過程で、マリダーニー通りとダリー・フセイン通りの通り抜けが可能となり、j-18の南側には広い空地が残された状況である。Aの一部がj-3として、Bの一部がj-11、14としてCの一部がj-18、18-1、18-2として残っている。なお、j-4、19から21の敷地は1938年の形状がそのまま残るが、j-14は石造持ち送りで2階を張り

出す形でオスマン朝の建築と推察される。

[k] 地区

北からガニベキーヤ通からダリー通りまでの間を k-1 地区、ダリー通りからダリー・フセイン通りの間を k-2 地区、ダリー・フセイン通りからナフィー通りまでの間を k-3 地区とした。ナポレオン地図によるとガニベキーヤ通り(I-45)は同名で表され、ループ状の袋小路となっている。また、ダリー通りとダリー・フセイン通りはスルギーヤ通りを起点とするループ状の袋小路でダリー・フセイン通り(I-41)という単一の名称をとる。ナポレオン地図、1938年地図共に、道路形状は変わっていないが、j地区で述べたように、ダリー・フセイン通りは敷地の細分化によりマリダーニー通りへと通り抜けが可能となった。また k-1 地区南西部では、住居が取り払われ、南側のガニベキーヤ通りとダリー通りをつなぐ広場となった。k-1 地区においては、大規模敷地の細分化が見られるが、k-2、k-3 地区での敷地変容(k-37～40、55/71/72、62～66、60/61)は内端なのは、1938年時点において、巨大な住宅が少なかったからで、むしろ新住宅の建設に際して敷地の統合が行われた箇所(k-23)もある。k-1～3 は石造持ち送りから、1850年以前に遡ると推察され、本来は2階建ての小規模住宅であったと思われる。k-4～6、31、32、45 は洋風の住居、k-33 は伝統的構法の住居で、1938年以前と推察される。総じて、1938年から1980年頃までの建築が多いが、現在空地も目立ち、今後建物の建て替えが起こることが懸念される。

[l] 地区

西側から北辺へ t 地区との境界のナフィー通りが走り、南辺はメアマル通りを介して m 地区と、東辺はアブー・モティ通りを介して g 地区と接する矩形の範囲である。ナポレオン地図においても同様な形状で、1938年地図では巨大な南西敷地と中央敷地と周辺の小規模住宅(l-1、3、4、5)の敷地形状は現在もほぼ同様の形である。巨大な南西住宅の一部が遺構として残っており、オスマン朝様式の持ち送りが確認できる(l-6)。2つの巨大敷地を合体、開発していく際に、通り抜け道路ではなく、L字型の袋小路が用いられている。

[m] 地区

ナポレオン地図では周囲を囲む通り(アブダッラー・ベイの名がつく、m-2、3地区)に北から2本の袋小路が入り込み、北側の通りがスルギーヤ通りと結びつき、m-1地区の西端の通りは袋小路という構成である。1938年地図においては、m-2、3地区内に巨大敷地があり、すでに荒廃していると書き込まれるが、周囲を中規模の大邸宅(全てが中庭を有する9軒)が囲む形で、上質の住宅地であったことが推察される。一方、西側の区画は、西端はイスマーイル・ベクの袋小路となっている。m-2、3地区の大邸宅敷地には、U字型の通り抜け道路が構築され、小規模敷地に分割され、アパート群へと変化した。おそらくムバラク時代のことであると推察される。m-2地区では No.2 はニコラスによるとバイト・ガズィア(U-71)と表記され、現在でもファサードの持ち送りや上階のマカードのアーチの痕跡が残っている。m-1地区の北東端には、キーマリーの廟(1329年建設、観光考古省登録建築番号128)とモスク(19世紀建築)があり、前者は鍵がかかっているが、モスクは現在も使用されている。アブドゥッラー・ベク通りに面する建物(No.7-10)は、1階が切石の組積造で、おそらく1938年以前の建物であると推定される。西端のイスマーイル・ベク通りは袋小路のままであるが、多くの建物は新建築に置き換わってしまった。

[n] 地区

19世紀末から20世紀初頭にかけて開発された地区で、1912年測量の1000分の1の地図(41-J)には、空地として示されている。それ以前の形態は、ナポレオン地図に示されているが、東西道路としてのバシュターク通り(I-31)および南北通りとしてのムハンマド・アガー通り(I-30)はこの住宅地開発によって姿を消した。現在は、ナポレオン地図にのるアブダッラー・ベイ通り(I-33)が北端ヒラリーヤ通りと名前をかえ、全体は田の字型の構成となっている。中には、20世紀初頭から1938年頃までに建設されたと思われる住宅も存在する。No.6、8、10、22、25、27、28、31、35などがその例であると推察される。ヨーロッパ風の住宅で、当時としては旧市街内の新たな開発街区という位置付けであった。これらの住宅は、入り口部分から続く露天部分や、光庭としての吹き抜けを持ち、現在はほとんどが集合住宅として使用されているが、No.22やNo.28はヴィラタイプの戸建住宅であった。建物の老朽化により空地となってしまった敷地も多く、No.7、19、29、30で、現在は駐車場などとして利用されているが、今後高層のアパートが建設されることが懸念される。

[o] 地区

19世紀半ばに建設された直線広幅員道路ムハンマド・アリー通りによって、切り裂かれた。同通りに面するファサードはいずれも第2次世界対戦後の建物で、②はナーセル大統領時代のものと思われるが、①、11、12はいずれも6層と高い。③の部分は1938年地図を見ると、いくつかの敷地に分割され、奥にザウィヤ(小礼拝堂)と廟の表記がなされるが、現在は更地となって確認はできない。また、1938年地図におけるb地区の大規模敷地(現在のサダト小学校)の西側の大邸宅敷地に、通りが構築され、アパート群に変容した。この変容は1980年以後のことと推察される。時代なお、地区の北西部にあたるザウィヤと廟(シディ・タージ・アッディン、No.20)およびその隣の建物(No.21)は、1938年以前の組積造の躯体が確認できる。しかしながらNo.20は、外装等が新装されている。この廟の南側には建物のセットバックにより小さな広場が作られてはいるものの、配電所や駐車場になり、有効利用はなされていない。また、ダルブ・フッダーム通り(袋小路)に面するいくつかの建物は、1938年以後からナーセル時代に建設されたものと推察される。同通りはナポレオン地図にも袋小路として表記される袋小路である。

[p] 地区

o地区同様に、ムハンマド・アリー通りによって切り裂かれた地区である。同通りが構築されたときに、o地区とp地区の境界にセッカ・イマーラット・シャムシェルギー通りが、p地区とq地区との間にカルア通りが開通した。これらの3本の通りによって囲まれた三角形の地区である。ほとんどすべての建物はすべて4階以上で、おそらくムバラク時代になってから構築されたものと推察される。ムハンマド・アリー通りに面する部分には、一応アーケードが構築されているが、その部分に出店が張り出すなどして、歩道の役割は薄れている。

[q] 地区

p、o地区同様に、ムハンマド・アリー通りによって切り裂かれた地区である。しかしながら地区の中央に位置するドゥードゥ通りはナポレオン地図にもアトファ・ハンマーム・ドゥードゥとして表記される歴史的な二股に分かれる袋小路である。この通りの名称の所以となったドゥードゥ公衆浴場(は、現存するが保存状況は極めて悪い。ムハンマド・アリー通りが新設された際に、本来ダルブ・コース

ーン(現在のスルギーヤ通り)に面していた入口を後退させ、新たに復古様式で建設した入口が残されている。この公衆浴場の建物自体はおそらくオスマン朝のものであるが、その由来はマムルーク朝時代のアミール・サイフ・アッディン・ドゥドゥ・ガジャンキーリーが、1259年に建設したことに始まると言われる。ムハンマド・アリー通りから入る二股のドゥドゥ通り沿いには、19世紀に遡ると思われる住宅も数軒存在する。特に西側の分かれ道は、道路高が低く、現在もなお袋小路を保っている。しかしながら近年の開発により、空地となってしまった敷地や、新建築に置き換わった建物も見られる。ドゥドゥ公衆浴場の東側には、1039年地図を見ると2つの庭付きの大邸宅が存在した。これらの敷地が分割され、6階建てのアパート群に置き換わっていったのは、おそらくムバラク時代のことであろう。r、n地区との境界にあたるアトファ・リモーンには、観光考古省によって登録されたサビール・クッターブ・タハ・ハサン・ワルダーニー(18世紀、Re.No.236)が現存する。この建物はナポレオン地図ではムハンマド・アガーのザウィヤとして表記されている。この通り沿いにも No.22 および No.36 は、1938年以前と推定される上質のヨーロッパテイストを取り入れた建物が残っている。

[r] 地区

ズウェイラ門から真っ直ぐ南に伸びる古くからの主街道の一部スルギーヤ通りに面する地区である。北側を区切るアンバリー通りはナポレオン地図には記載がない。地区の東側を区切るヒラリーヤ通りは、ムハンマド・アリー通り建設後、19世紀末にグリッド街区として開発された地区の通りで、n地区との境界になっている。また、ハンマーム・バシュターク通りも同様で、スーク・シラーハ通りからe地区とd地区の境界を通り、n地区を横切りタキエ・スレイマニエ(1543年建設、No.1、観光考古省登録番号 225)へと通じ、アトファ・リモーンと接続する。タキエ・スレイマニエは、オスマン朝様式の建築で、通りよりかなり高く中庭を作り、その周囲を1層のアーケードと個室群が巡る。西からの入口は階段で中庭に達し、その軸線上東側がミフラーブを備えた礼拝室、南東の角が廟となる。個室は現在居住者が占拠している。1938年地図を見ると、現在のNo.1の部分だけではなく、No.2、3、4、およびNo.5と24の一部をしめる巨大な敷地が、店舗や住区として使われおり、No.5の入り口からのアクセスがあった。1938年以前の建物としては、地区の北西部のNo.7がいわゆる伝統的な店舗建築、ハンマーム・バシュターク通りに面するNo.9は1927年建設のヨーロッパ風の小型のアパートである。

[s] 地区

スルギーヤ通り沿い東側の一帯で、北端はアブドゥッラー・ベク通りを介してt地区に続き、南端はアンバリー通りをとおしてr地区に続き、東側はヒラリーヤ通りとイスマーイール・ベク通り(袋小路)でm、n地区と接する。ナポレオン地図には、アンバリー通りは記入されていない。1938年地図によると、すでにn地区を中心とした住宅地開発が起こっており、ナポレオン地図に描かれた南北通りとしてのアブドゥッラー・ベク通りの位置は不明である。1917年測量の地図を見ると、アンバリー通りはスルギーヤ通りから東進し、北に曲がる鉤形の袋小路なので、n地区での開発に伴い、1938年までには通り抜けられるようになったことがわかる。おそらく、この通りは北から伸びるイスマーイール・ベク通り(袋小路)の延長線上あたりに位置し、r地区にあるタキエ・スレイマニエの南を走るリモーン通りに通じていたことが推察される。歴史的な建造物としては、s-1地区のNo.2は、ガーネム・パフラーワンのモスクと廟(1478~1510建設、観光考古省登録番号 129)で、調査当時は修復工事が行われていた。その北側に続くs-1地区のNo.3、4(おそらく中庭式商館建築)およびs-2地区のNo.13は、1938年地図以前の建物であると推察される。s-3地区のNo.4は、1938年地図によるとs-2地区のNo.4、12も含めた広大な

敷地が一つの建築となっているが、アパートがたち、s-3 地区の No.4 の周囲の部分だけが残りに、中には仮設住宅が建ち、貧しい人々が住み着いている。また、アブドゥッラー・ベク通りに面する s-1 地区の No.15、19、後者の隣の s-3 地区の No.1 も 1938 年以前の中規模な邸宅建築である。

[t] 地区

スルギーヤ通り沿い東側の一帯で、北端はダリー・フセイン通りを介して u 地区に続き、南端はアブドゥッラー・ベク通りをとおして s 地区に続き、東側はアブドゥッラー・ベク通りから北進するナフィー通りが入り込み 1 地区と接する。アブドゥッラー・ベク通りは北進する分岐袋小路、ナフィー通りは西進する 2 本の分岐袋小路をもつ。ナポレオン地図には北端はダリー・フセイン通り(I-41)、南端はイブン・アブドゥッラー・ベイ通り(I-32)、東の袋小路は 2 つの分岐袋小路を含めてアブドゥッラー・ベイ通り(I-33)として書き込まれ、地図上での変化はない。1938 年地図でも同様ながら、南西の角と北端中央部に巨大敷地がある。歴史的建築としては、オウラード・アスヤド廟(t1-11、14 世紀建設、観光航行省登録番号 215)とスルギーヤ通りに面する商館入口(t1-2)が残る。この商館はナポレオン地図にも商館(I-114、ウィカーラ・コラル)として書き込まれ、マムルーク朝期の廟の北側にオスマン朝に商館が作られ、1938 年地図によれば廟の入口は北側のダリー・フセイン通りであった。現在はインスクリプションが残る組積造入口の北隣に鉄柵の廟の入口が作られている。この南隣の大敷地も本来は商館であったと推察され、現在は、2 つに分割され、東側(t2-10)は新建築に置き換わり、西側の古い部分(t1-1)は 1 層でパン屋などに使用されている。アブドゥッラー・ベク通りにはヌービー袋小路とハッダード袋小路があり、前者の袋小路奥に 1938 年地図の中規模邸宅敷地(一部その遺構が t2-8 として現存)が現在は分割され(t2-7、8、9、一部 11)木材加工工場として使われている。1938 年以前と推察される建築として、モスク(t1-4)、廟を併設するアパート(t2-12)、伝統的小規模住宅(t1-7、t2-4、5)がある。

[u] 地区

マグレブリーンの東側に広がる地区で、北はガニベキーヤ通り、南はダリー・フセイン通り、東はオマル・アガー通りで k 地区へとつながる。ナポレオン地図、1938 年地図、現在まで道路、後 2 者においては敷地形状にほとんど変化は見られない。歴史的建造物としては、北西隅にガニベク・モスク(1426 年建設、観光考古省登録番号 119、u1-22)があり、現在モスクとして使用されるが、付属のサビール・クッターブは使用されていない。この建物に続く u1-23 は本来はモスクの付属建築であり、1938 年以前に建設されたと思われる。なお、1850 年から 1938 年の間の建物と考えられるものとして、u1-29 モスク(1898 年建設)、u1-1 商業建築、u1-18 及び u#-2 は洋風住宅、u2-3 及び 15 は伝統的住宅である。都市組成は変わっていないが、各所で建て代わりが起こっている。

[v] 地区

マグレブリーンの西側の地区で、北側はウンシーヤ通りを介して③地区と、南側はガニベキーヤ通りを介して u 及び v 地区と、北東側はマリダーニー通りを介して x 地区、ハムザ・ベク通りを介して i 地区と連なる。ナポレオン地図、1938 年地図、現在まで道路、後 2 者においては敷地形状にほとんど変化は見られない。ただし、1938 年地図には巨大な 3 つの中庭邸宅建築が記され、一つは歴史的建造物としてカイト・バイの家(v-22、1485 年建設、観光考古省登録番号 228)で未修理の状況で放置され、v-17 は崩壊が進んだまま貧困者層の仮設住宅地域となり、v-30 は小学校敷地となっている。マグレブリーンの沿いの v-5 はアブドゥル・ラフマーン・カトゥフダーの小モスク(1729 年建設、観光考古省登録

番号 214)である。同じくマグレブリー沿いの v-1、2 は 1938 年以前と思われる商業建築で、v-13 は 20 世紀前半のアパート建築、v-17 及び 19 の一部にも古そうな遺構の残骸が見られる。

[w] 地区

マリダーニー・モスクの北西地区で、北西側をウンシーヤ通り、南をマリダーニー通りが画し、タッバーナ通り沿いに広がる地区である。ナポレオン地図に書かれたマリダーニー通りから北進する短い袋小路は、1938 年地図にはガンバリ袋小路と記されている。この地区は、マリダーニー・モスク(w-1、1337-9 年、観光考古省登録番号 120)の背後の巨大敷地中庭住宅が、袋小路によって細分化される変化を遂げた。w-5、6、14 への分化は中庭を広場とする形で進み、1980 年以前にこのような大邸宅(A)の解体が起こっていたことがわかる。w-14 は当時、織物工場となっていた。一方、マリダーニー・モスクの北側 w-26~34(B)へのアパートへの細分化は 1980 年以後の現象であろう。タッバーナ通り沿いの w-2、8、10 は、主要通りに面する小規模な中庭住宅の例で、洋風の意匠が使われる。一方、裏通りの w-13 は、元は A の一部であったと推察され、1938 年地図には荒廃の文字が書き込まれるが、外壁を共有しており、その外壁具が残っている。

[x] 地区

マリダーニーモスクの南側を西進し、スルギーヤ大通りに抜けるマリダーニー通りの北側の地区である。ナポレオン地図には、タッバーナ通りからハイヤメイヤ通りに曲折しながら進むウンシーヤ通りが表記されており、1938 年地図でも通りの構成は変わらない。すなわち、w 地区の西に続き、北側のウンシーヤ通りと、南側のマリダーニー通りが西側で、接続する。ナポレオン地図にも同様な通りが描かれ、1938 年地図には北側の大規模住宅が子供治療センター予定敷地として描かれ(現在では保健所 x-7 となっている)、その一部である x-8 は貧困者層の集合住宅と化し、x-9 には 7 階建てのアパートに変わっている。1938 年地図にあるシディ・マダニーの廟とモスクは存在するが新しい建築に置き換わっている。1938 年の地図には、北西部に子供用の保健所が記載されるが、おそらくここは w 地区同様の大邸宅が、20 世紀に入って病院に転用されたことが推察される。

[y] 地区

ナポレオン地図には、タッバーナ通りからハイヤメイヤ通りに曲折しながら進むウンシーヤ通りが表記されており、この通りの北側を占める区域である。西側はハイヤメイヤと並行するムスク通りで画される。ムスク通りは、マフムード・クルディ・モスク(④-12)の北東で、枝分かれし、東進する通りはさらに枝分かれする袋小路となり、一部は②地区に記述する。また、東側は、ウンシーヤ通りから枝分かれするモブラグ袋小路となり、比較的閉じた性格の強い地区である。1938 年の地図には、中庭付きの中規模住宅が数多い。この状況を伝えるものとして、y-1、7、11、33 などが残存している。ただし、外壁のみが残存しほぼ空地になっているものも多く、y-10、14、18、20、22 などがその例である。袋小路の奥の敷地が新たな建築に置き換わっている点は興味深い。

[z] 地区

ファーティマ朝カイロの南門ズウェイラ門から城塞へと通じる通り(この部分は現在ダルブ・アフマル通りと呼ばれる、ナポレオン地図にはクンダーギエ通りおよびダルブ・アフマルと記される)の南西側に広がる区域である。ナポレオン地図には、直線の長いバラショウニー袋小路が記載され、1938 年地

図でも形態は同様ながら名称はヤンシーヤ袋小路に変化している。東の端に、アフマド・ミフマンダール・モスク(z-33、1324年建設、観光考古省登録番号 115)、その隣にユーズフ・アガ・ダール・サアダ給水所(z-65、1677年建設、観光考古省登録番号 230)、さらに西隣にユーズフ・アガ・ダール・サアダ商館(z-64、1677年建設、ニコラス U 39)が続く。前者の南側はナポレオン地図によると通り抜け通りとなっているが、現在は閉じられている。後者は近年の火災により、荒廃が激しく、また一部はアパート(z-35)に置き換わってしまった。北西端の建物(z-1)も、持ち送りの形状から、オスマン朝の建築であると推察される。ハーラ・モカッシャート通り沿い(z-7、13、14、16)、そこからさらに分岐するラビエ袋小路(z-4)、ヤンシーヤ袋小路沿い(z-37、39、45、47)などは、1938年以前の住宅建築である。

〔①〕 地区

ファーティマ朝カイロの南門ズウェイラ門から城塞へと通じる通り(この部分は現在ダルブ・アフマル通りと呼ばれる、ナポレオン地図にはクンダーギエ通りと記される)の南側に広がる区域である。ナポレオン地図には、短い袋小路が3本示され(そのうちの中央のものはカーディリー、東の通りはモカッシャートと記載)しているだけであるが、1938年地図には枝分かれする袋小路が示され、古くはモカッシャート通りと呼ばれたと記される。モカッシャート通りの西への分岐は古くは袋小路であったが、現在サラーフ・タラーイー・モスクの南側が整地され、ハイヤメイヤ通りへと通り抜けることができる。1938年地図と現状の敷地分割に大きな差異はない。サラーフ・ターリー・モスクの東沿いの①-1~3、大通り沿いの①-9、10、及びモカッシャート通り沿いの①-20、21は、洋風要素を加味した19世紀後半から20世紀前半の建築である。また現在アーバン・プロジェクトによりファサードの統一化がなされており、①-6~9では改装工事が進行中であった。

〔②〕 地区

ファーティマ朝カイロの南門ズウェイラ門の南東側、サリーフ・タラーイー・モスク(②-29、1160年建設、観光考古省登録番号 116)の南東に広がる地区である。ナポレオン地図には、ハイヤメイヤ通り(地図中にはズウェイラ門通りと記載)から東側にすすむワリー門袋小路が記され、その奥にワリーの住宅が示される。1938年地図には、通り名はサリーフ・タラーイー通りと表記され、閉じた広場に通じている。ハイヤメイヤ通りから東に進むムスク通りは、枝分かれ枝分かれ袋小路となる。歴史的建造物としては、ファーティマ朝のサリーフ・タラーイーのモスクは、現在は礼拝用に使われてはいるものの、ファーティマ朝期から地盤が随分と高くなったために、周囲に堀割が作られている。近年の地下水位の上昇により、基壇の小室部分には、水浸しとなってしまっている。ハイヤメイヤ通りの東側のファサードであるカサバ・ラドワン・ベイ(②-1、17世紀建設、観光考古省登録番号 408)とそこに続くラドワン・ベイの小モスク(②-2)は、店舗や礼拝用の小モスクとして使用される。しかしながら上層部は修復されずに放置されている。本来は工房や倉庫として上層が役立っていたことが推察される。モスクの水場(②-3)は、敷地形状はそのままであるが、おそらく再建されたものであろう。袋小路の奥にあるアルバイン小モスク(②-28)およびその周囲の住宅(②-18、21、26、27)はいずれも小規模であるが、1938年以前の建築であろう。

〔④〕 地区

ハイヤメイヤ沿い、東へ広がる帯状の地区である。ナポレオン地図にも同様に東側の道が記載され、メスク通りと記載される。現状と1938年地図の敷地分割はほとんど変わらない。歴史的建造物として、

マフムード・クルディ・モスク(④-12、1393年建設、観光考古省登録番号117)、イナール・ユースフイー・モスク(④-8、1392-3年建設、観光考古省登録番号118)は、現在モスクとして使用されている。また、サビール・ワファーイーヤ(④-9、1442年建設、観光考古省登録番号557)は鍵がかかって使用されておらず、サビール・クッターブ No.5(④-4、18世紀建設、ニコラス U 44)、マカード No.15(④-15、18世紀建設、ニコラス U 49)は住宅として使用される。ハイヤメイヤ沿いの商業建築④-10は伝統様式の石造持ち送りから、1850年以前の建築であると推察される。ハイヤメイヤ沿いの④-5、7には洋風要素が加味され、1850年から1938年の商業用建築であると思われる。

[H] 地区

バーブ・ワズィール通りに面する地区である。この地区の北西端に関しては、ナポレオン地図にはウナム・スルターン・シャアバーン・マドラサに面するカシャーフ通りが袋小路(サキーヤ通り、VIII-161)として描かれているが、現在ではスーク・シラーフへと通じている。また南東辺のハティーブ通り(カッザーズィン通り、VIII-155)は最初の角で折れ曲がって南下する通りとして表記されるが、現在は20世紀中葉にグリッド街区として開発されたI地区へと通じている。これに伴って、本来はイブラヒム・パシャ・ヤカンの邸宅中庭であった部分に延長道路と住宅(H-25～29)が建設された。一方、地区の北隅の中規模敷地(A、おそらく商業建築)は細分割され(H-6～11、15)、ガーウィシュ袋小路の終点にあった中庭建築シディ・ハダル廟(H-16)は更地となり、バーブ・ワズィール通りに面する2敷地も細分された(H-18、19及びH-20、21)。H-22は更地となるが古い石積みが残り、1850年以前と推察される。Aの一部をなしていた部分(H-7、9)、カシャーフ通りのサーバート(通り抜けトンネル状通路)と通じるH-4、シディ・ハダル廟(H-16)と隣り合うH-17、24等は、1938年以前の建造物であることであろう。

[I] 地区

ナポレオン地図には北西から南東に向かって走るガンドゥール通り(アンサーリー通り、VIII-162)以外街路の記載はない。1938年地図には巨大な庭園と中庭を持つイブラヒム・パシャ・ヤカンの邸宅として表記される。この地域が1938年以後、グリッドの住宅地に改造されたのがこの地区である。直行する街路で分割し、複数のアパートで一つの区画が構成される方式をとる。いくつかの建物は1980年以後に建て替えられている。

[J] 地区

バーブ・ワズィール通りから分岐するハティーブ通りの西、イブラヒム・パシャ・ヤカン邸開発地域の東に挟まれた地区である。ナポレオン地図には東のハティーブ通り(カッザーズィン通り、VIII-155)と北西から南東に向かって走るガンドゥール通り(アンサーリー通り、VIII-162)以外街路の記載はない。特にJ2地区としたイブラヒム・パシャ・ヤカン邸の南に当たる区域は、1938年地図によると中規模の中庭建築で構成されていたが、現在は細長い敷地に細分されたり、空地となっている部分(J2-19、20、26)も多い。歴史的建造物は、ムハンマド・ドゥルガムの小モスク(J1-10、16世紀建設、観光考古省登録番号241)及びその北隣で路面に突出するサビール(J1-11)、2つの背面部に当たる(J1-6、本来はイブラヒム・パシャ・ヤカン邸の内壁であったと思われる)が、1850年以前に遡ると推察される。J2-18は、洋風の要素の入った住宅建築である。

[K] 地区

ガンドゥール通り(ナポレオン地図ではアンサーリー通り VIII-162)に面する地区である。ナポレオン地図にはガンドゥール袋小路(ガンドゥール通り VIII-148)が開き込まれている。1938年地図における大規模な通廊建築(K-1、おそらく何かの工場)が空地となってしまうている。ガンドゥール通りに面する部分では、敷地の細分も見られる(K-20~22)。K-22にはファサードに1850年以前に遡ると思われる部分が存在する。

[L] 地区

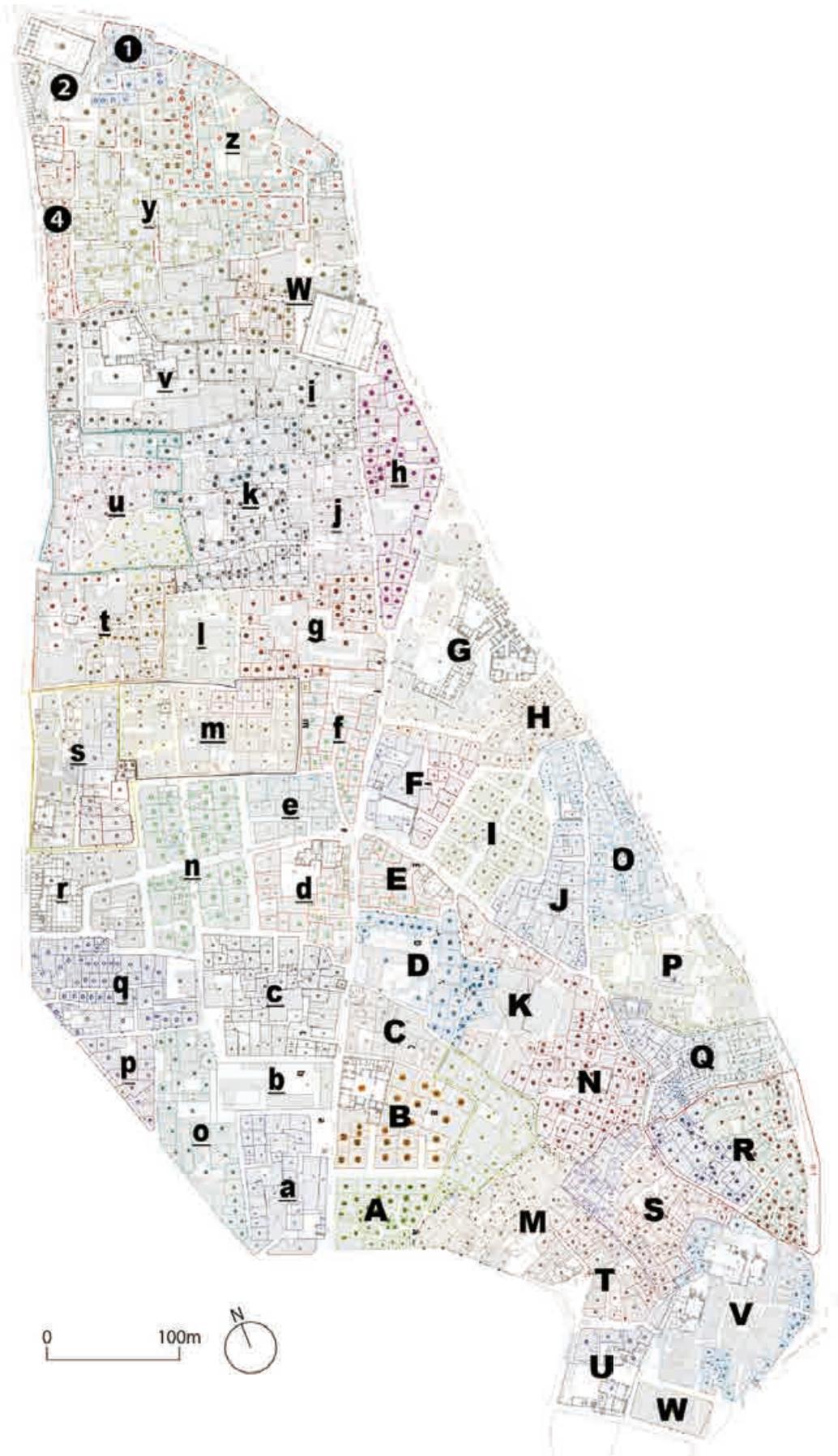
スーク・シラーハ通りから分岐するサリーム通りとハラワート通りに囲まれ、C地区の東側に位置するL字型の地区である。ナポレオン地図においては同様な形態だが、通りはハラワート通り(VIII-141、142)と表記される。1938年地図と現状を比較するとその敷地割はほとんどかわらない。L-1、17は歴史的な建造物で、双方とも主として工房に使われている。敷地割はそのままに、建物が建て替わった地区である。

[M] 地区

ハラワート通りから分岐するサリーム・パシャ通りの南側で、内部へとコブワ袋小路が入り込む。ナポレオン地図でも同様だが、道路名はハラワート通り(VIII-141)である。19世紀末にリファーイーモスク建設に伴い、現在のカラア通りが整備された地区で、ハサン・パシャ・ラシードの家(M-2、1920年建設、ニコラス U-90)も当時の建築であるが、洋風ではなく復古調の伝統様式を使っている。アミール・ハリールのサビール(M-29、1761年建設、観光考古省登録番号376)は現在使用されておらず、痛みも激しい。コブワ袋小路にはさらに分岐袋小路で、住宅地が再分割された。

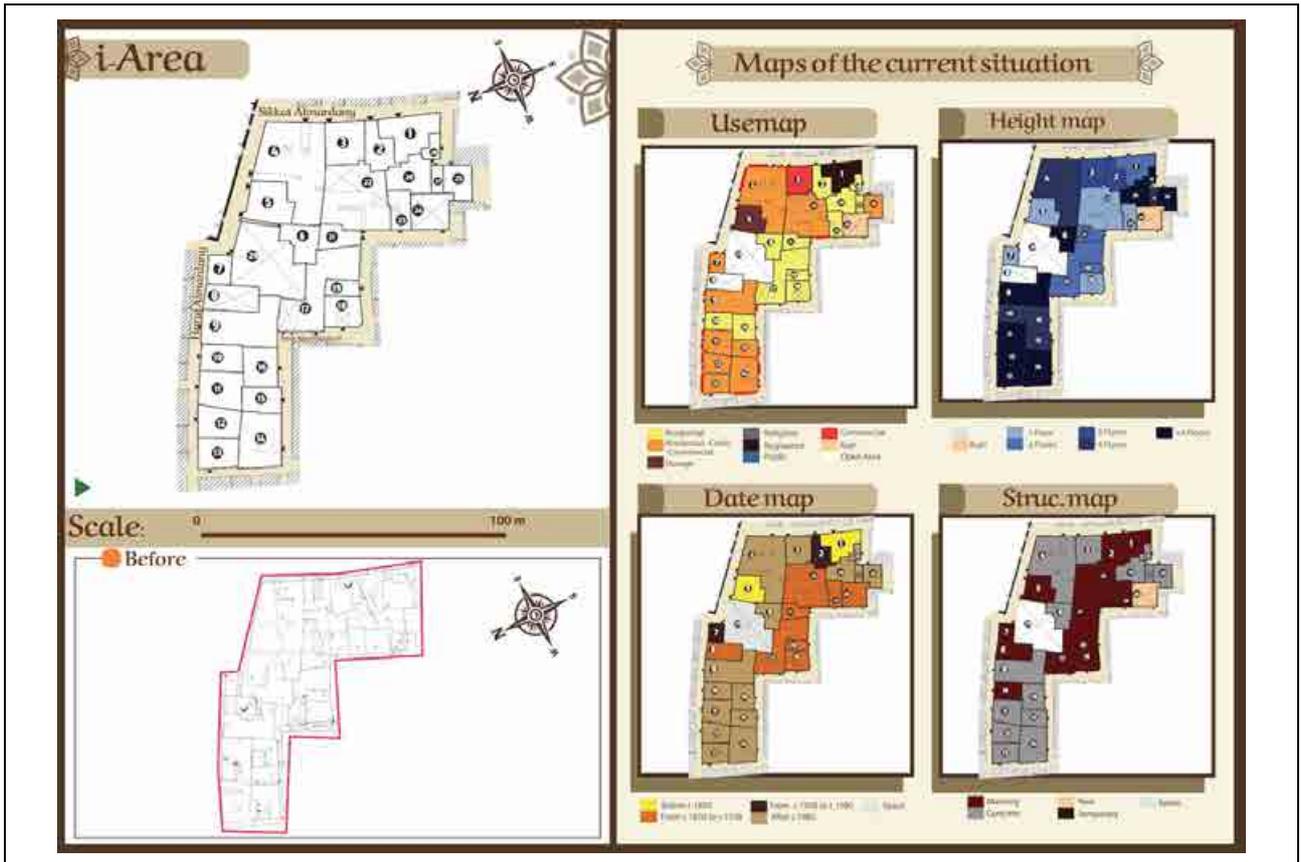
[N] 地区

ガンドゥール通りから南東へと続くイブラヒム・パシャ・ヤカン通り(ナポレオン地図ではコウミー通り VIII-59)の西側一帯で、南側にハラワート袋小路がある。1938年地図を見ると、いくつかの袋小路が指摘できる。イブラヒム・パシャ・ヤカン通りから、ハンマーム袋小路、アルクスーシー袋小路があり、ハラワート袋小路からカランフィーリー袋小路が分岐する。これらの構成は変わっていないが大規模敷地が順次分割された様子がわかる。歴史的建造物はアフマド・イブン・スレイマーンのリバット(M-51、1291年建設観光考古省登録番号245)があり、2020年に修復されたが、敷地に鍵がかかり公開はされていない。戸建住宅 N-10、19、38、53 洋風アパート N-20、27、53などは1938年以前に遡ると思われる建築である。

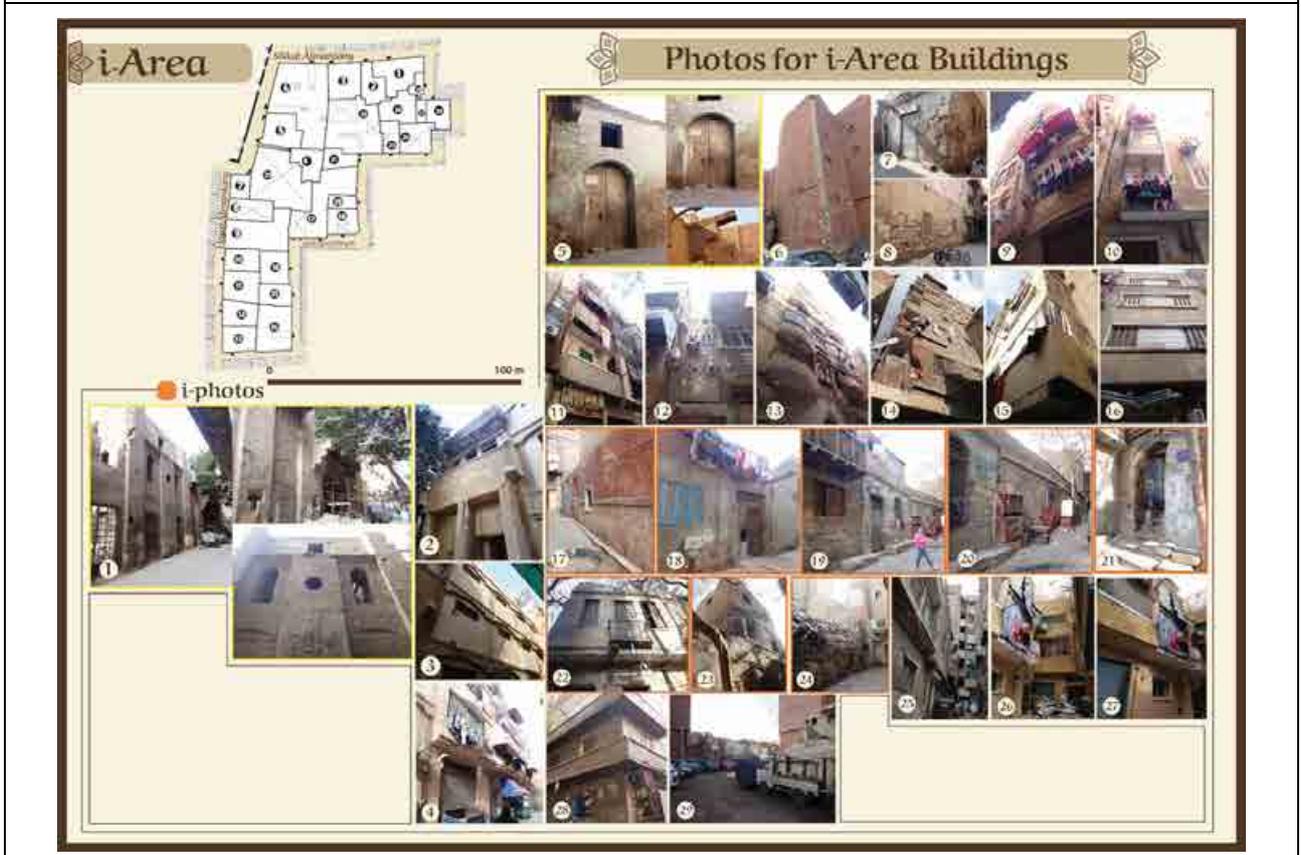


地区調査の際の地域分け地図

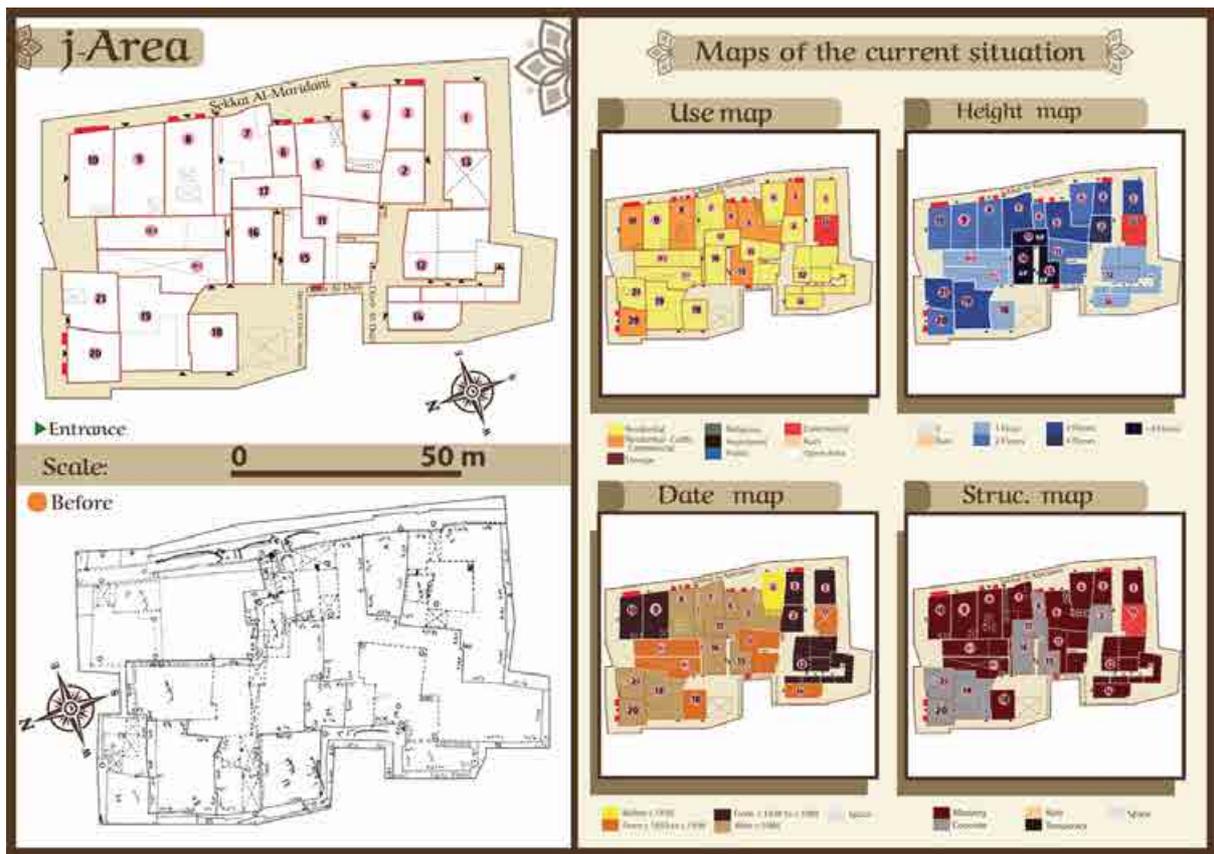
現状調査作成地図



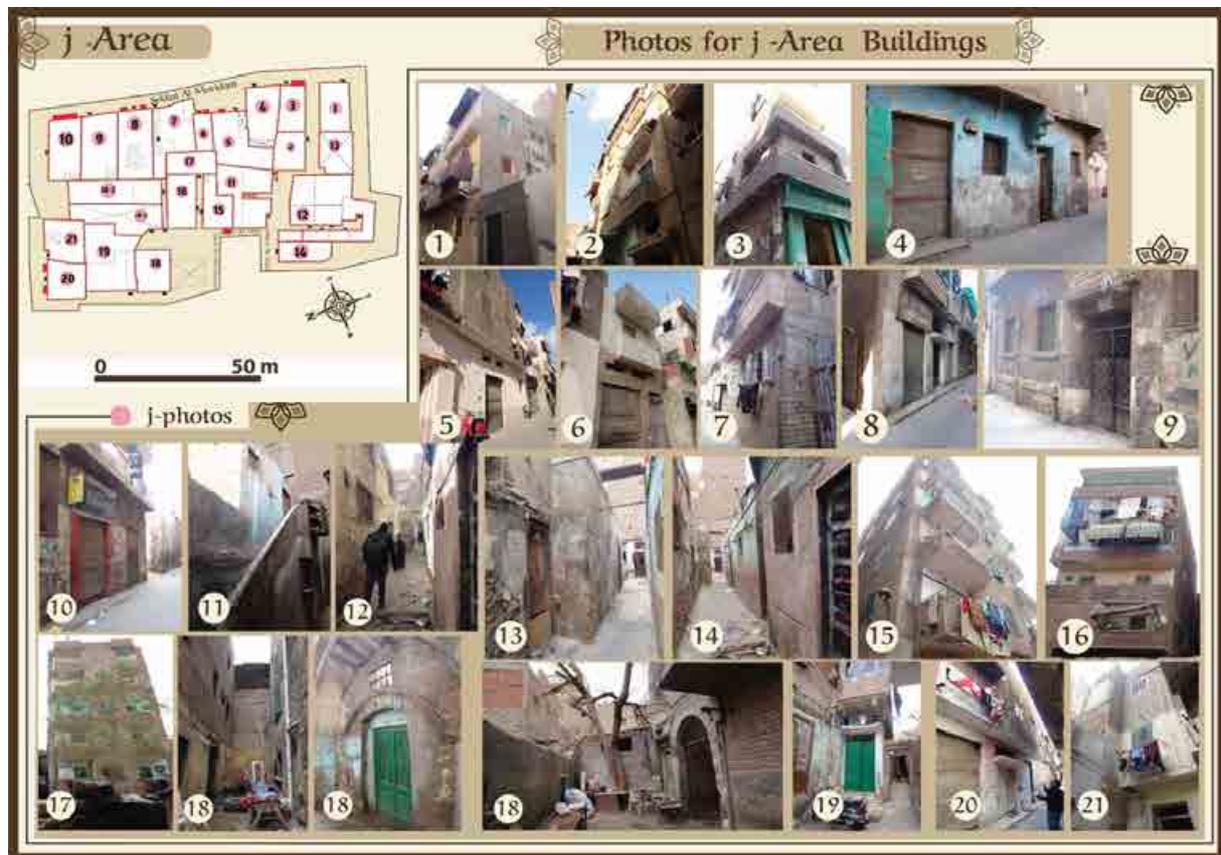
i-Area 現状地図、1938 年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



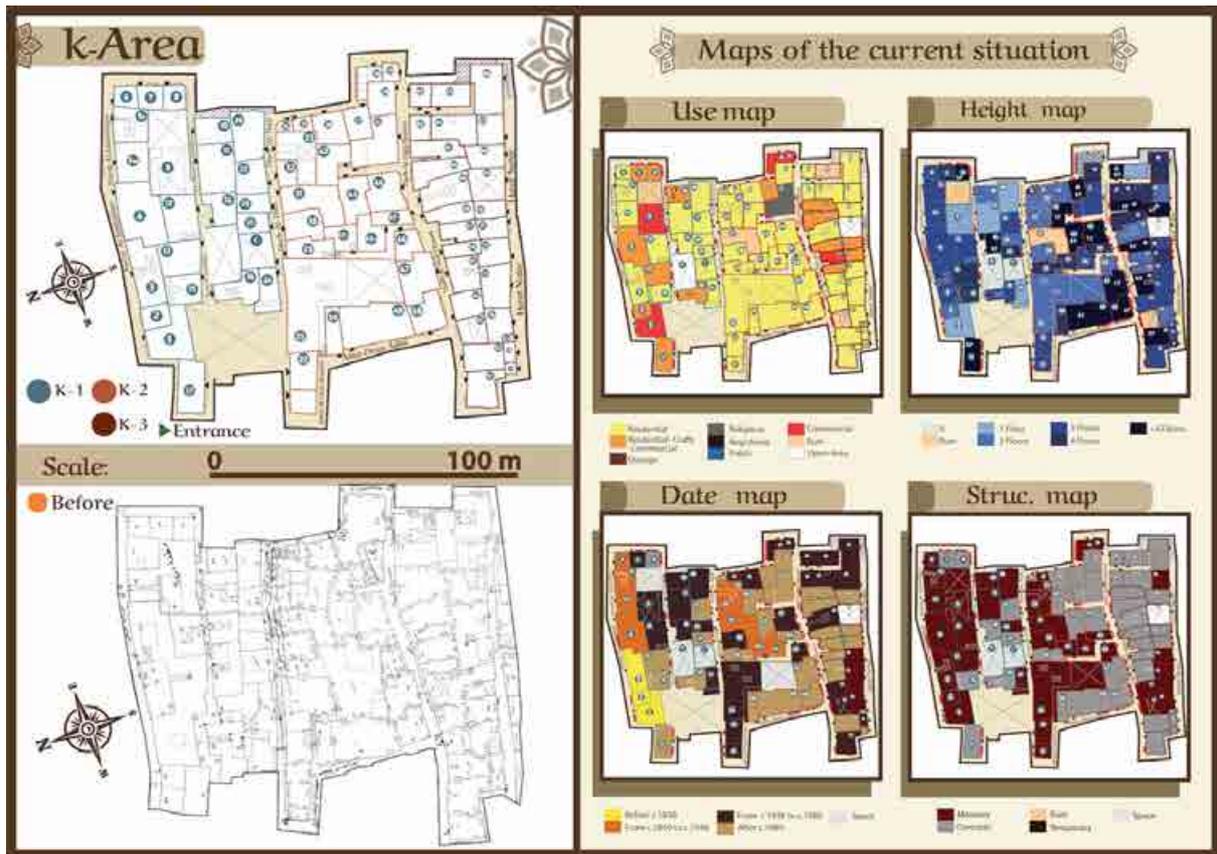
i-Area それぞれの建物のファサード写真



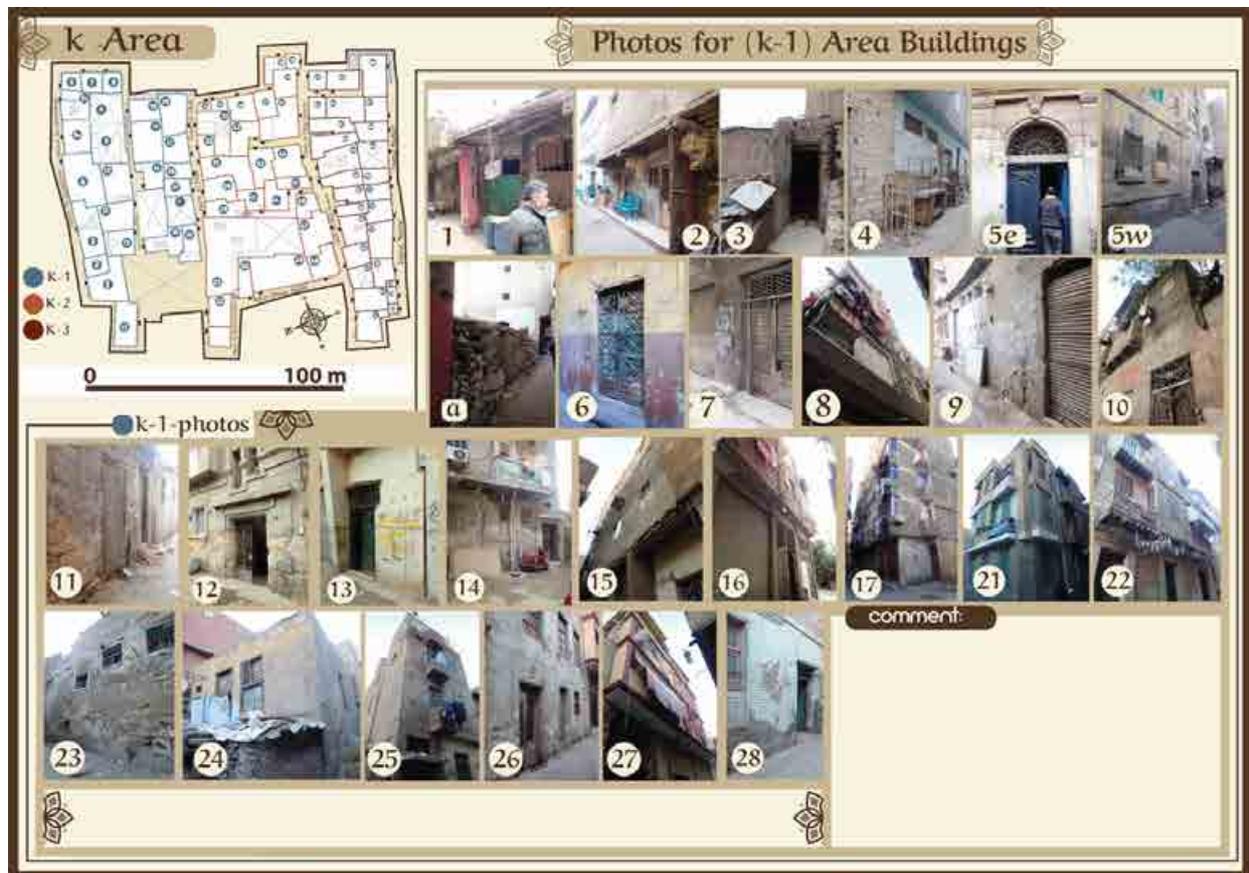
j-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



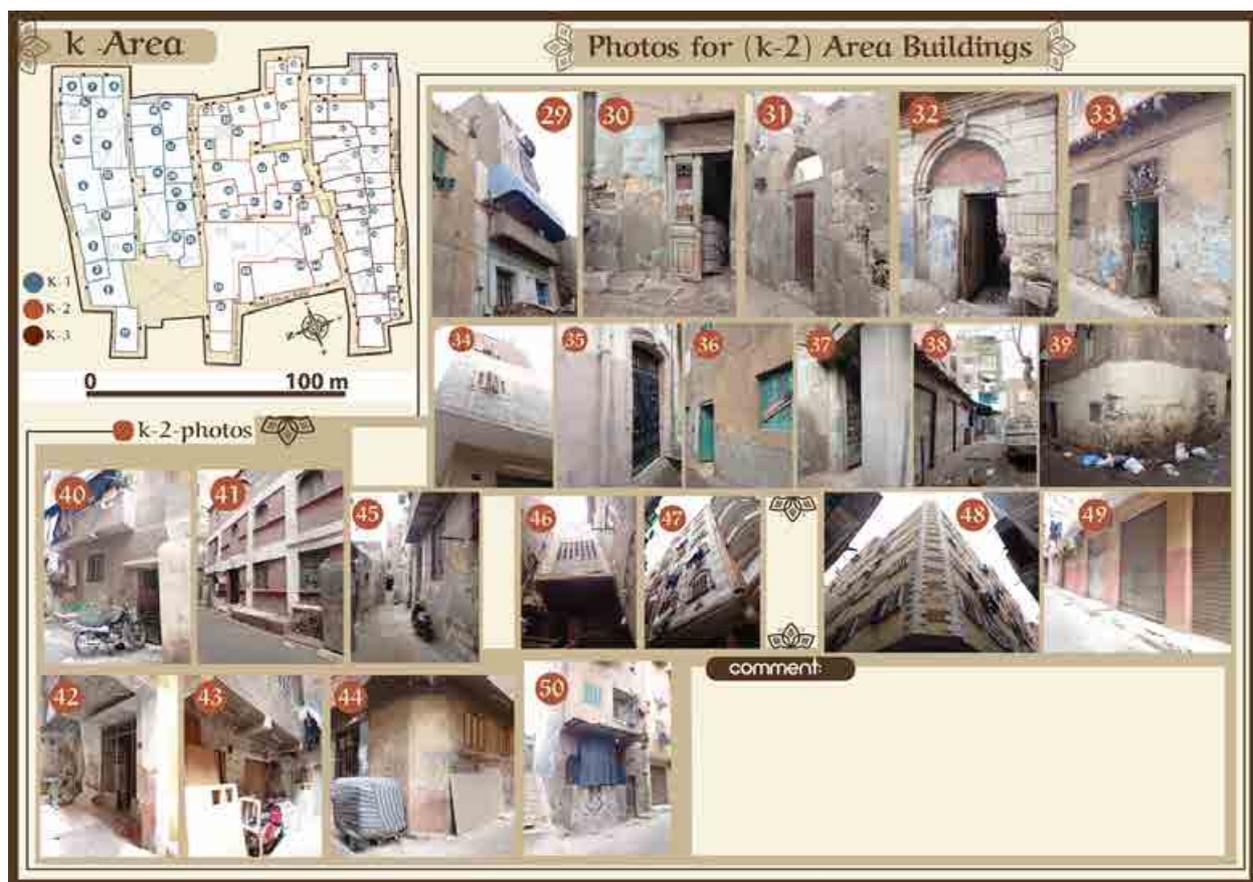
j-Area それぞれの建物のファサード写真



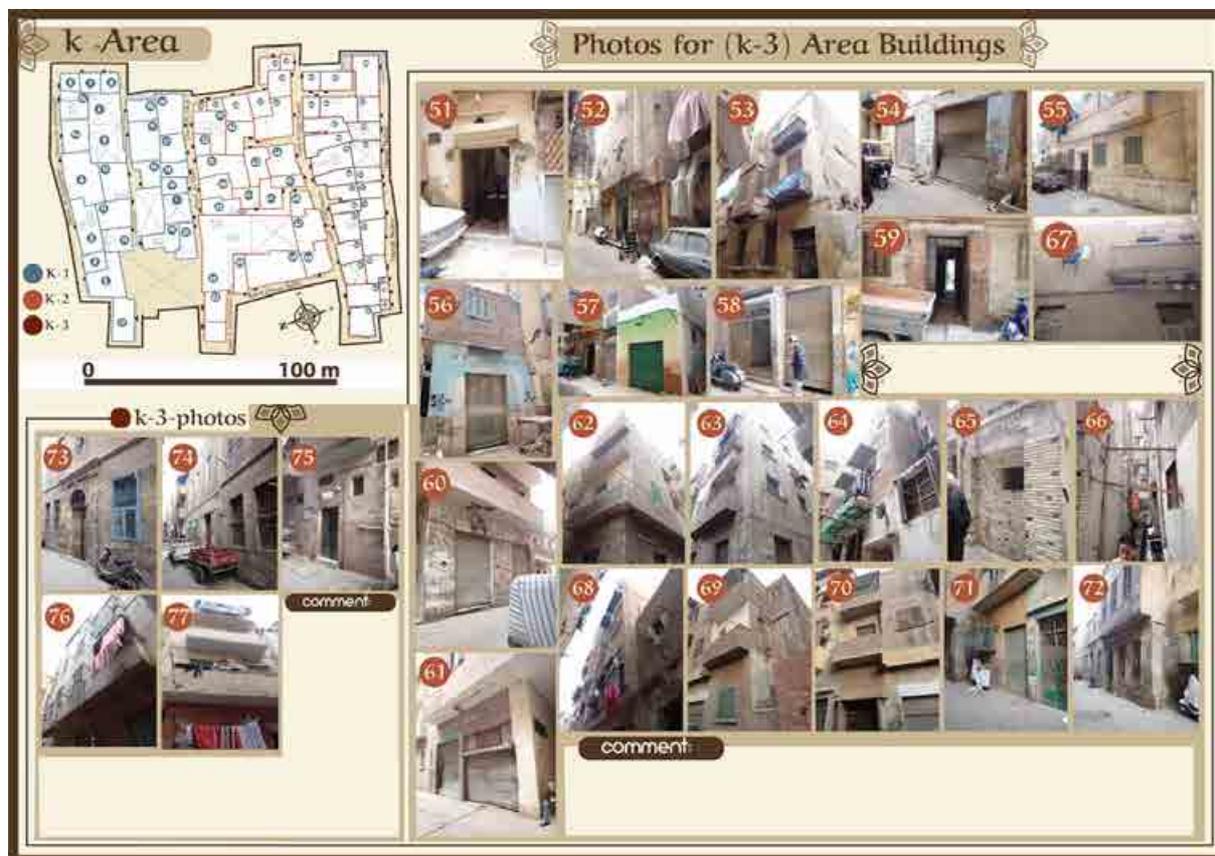
k-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



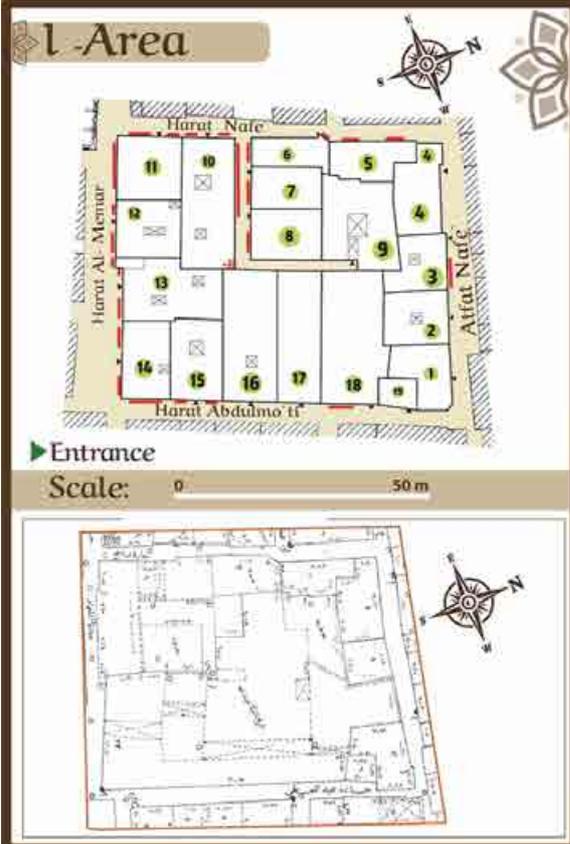
k1-Area それぞれの建物のファサード写真



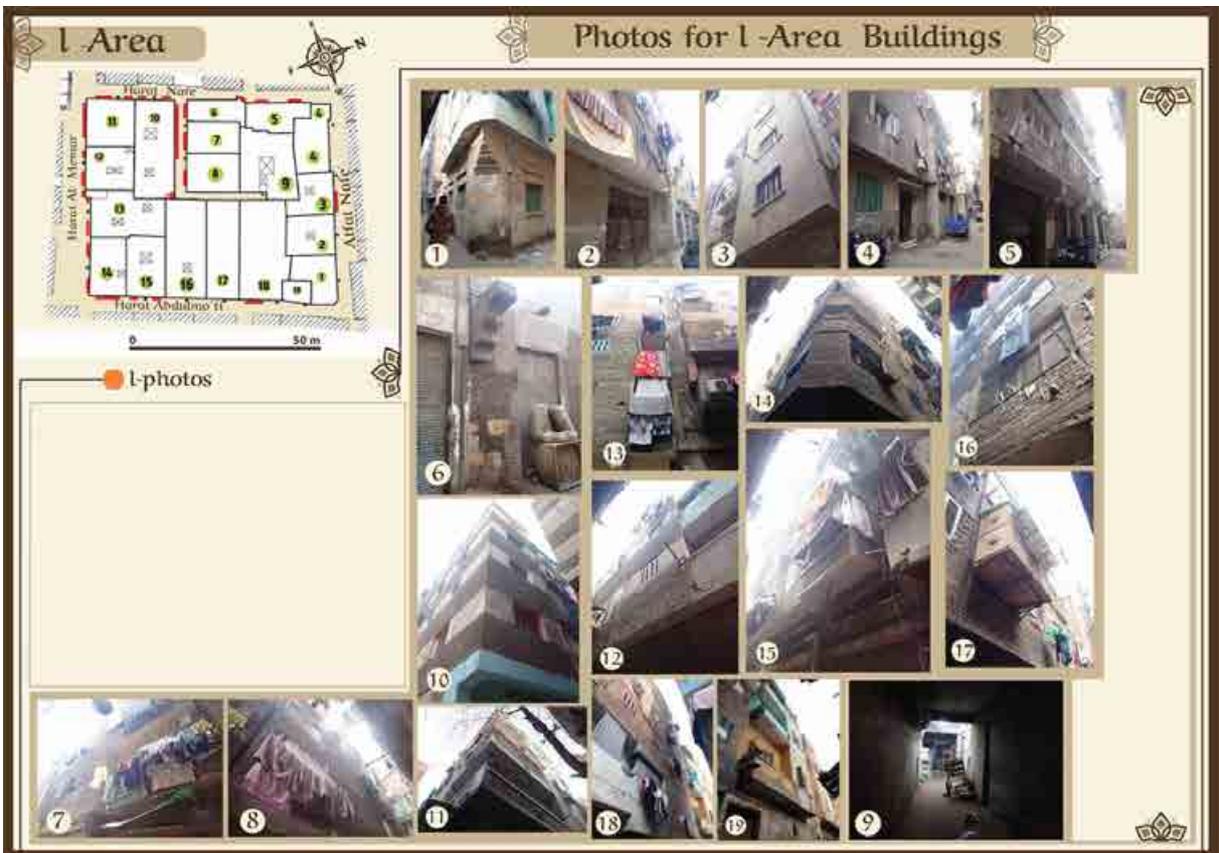
k2-Area それぞれの建物のファサード写真



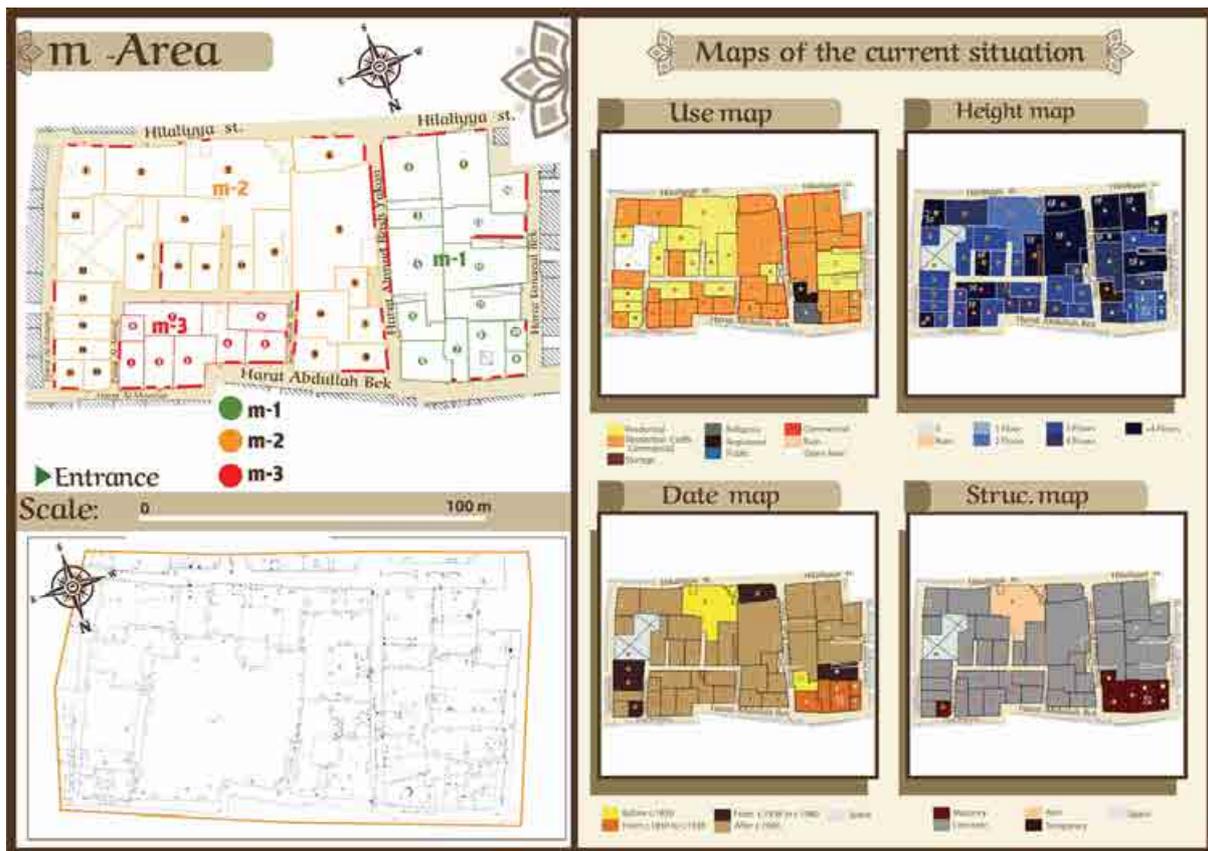
k3-Area それぞれの建物のファサード写真



I-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



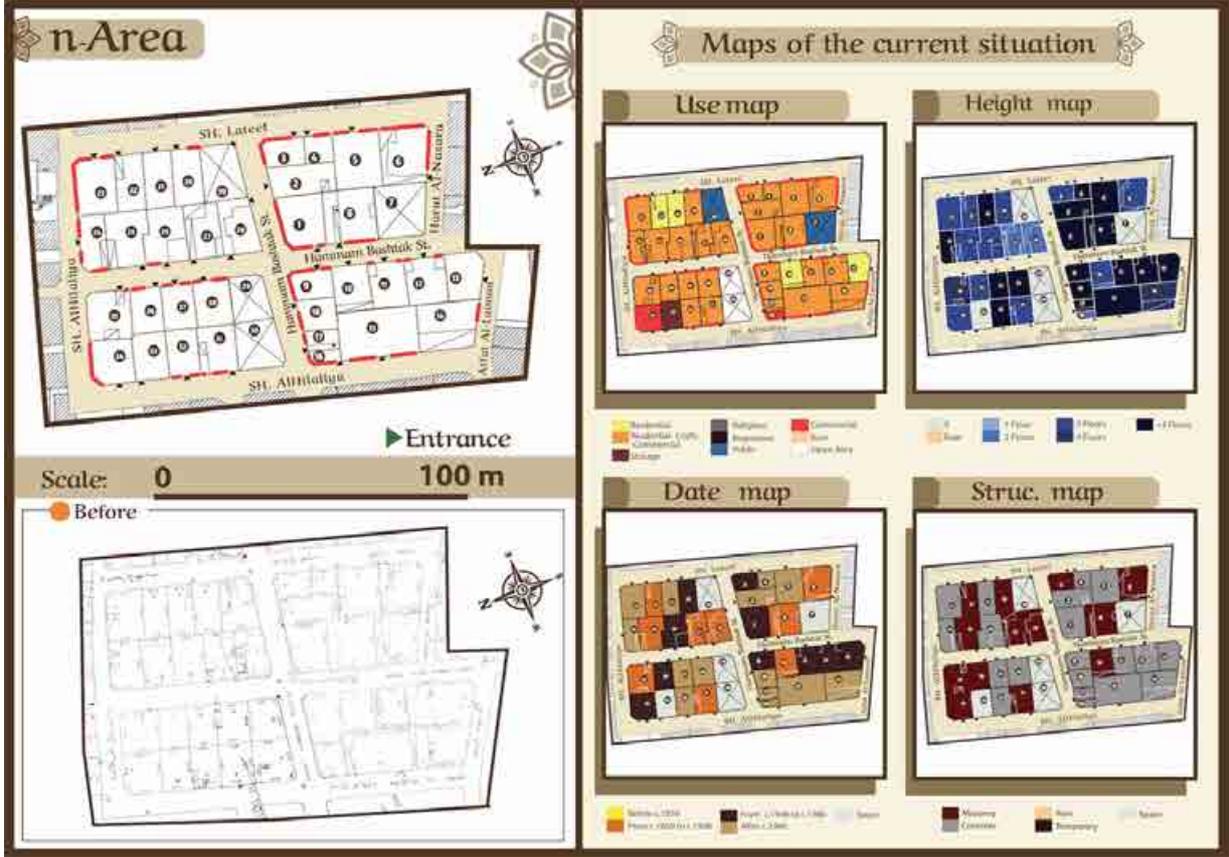
I-Area それぞれの建物のファサード写真



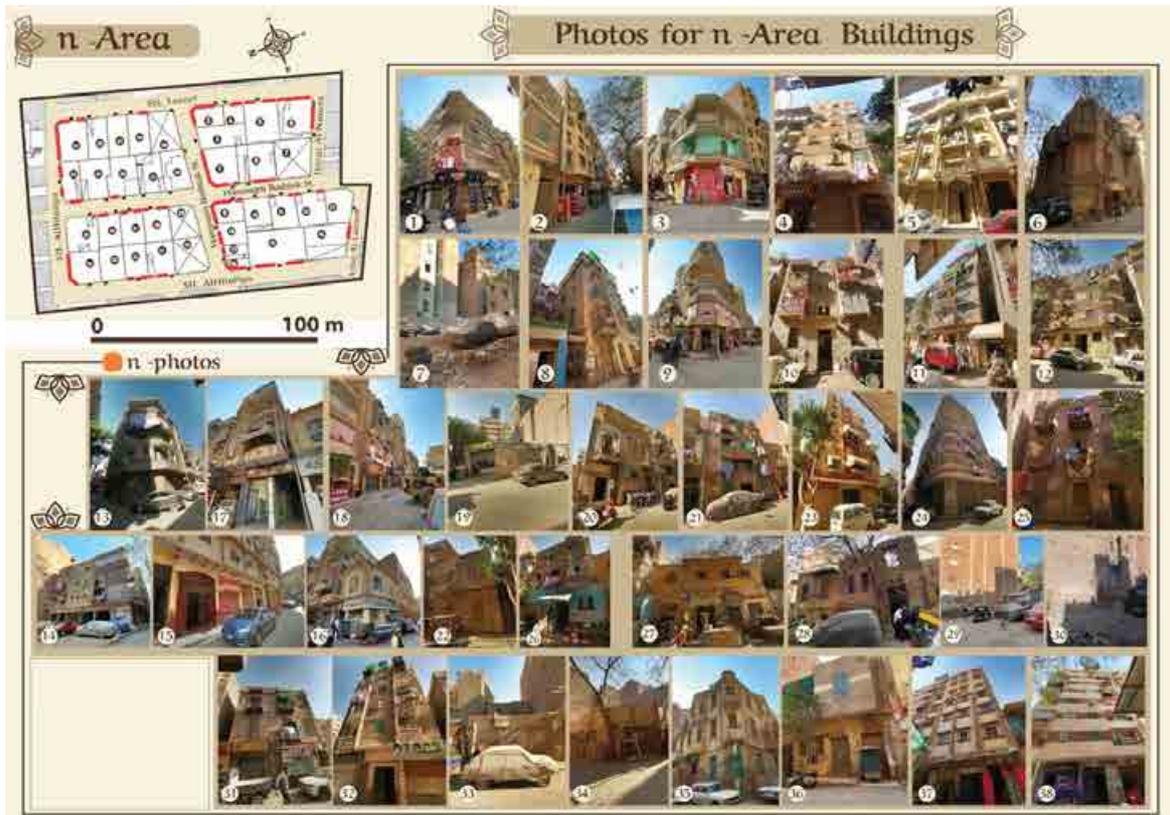
m-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



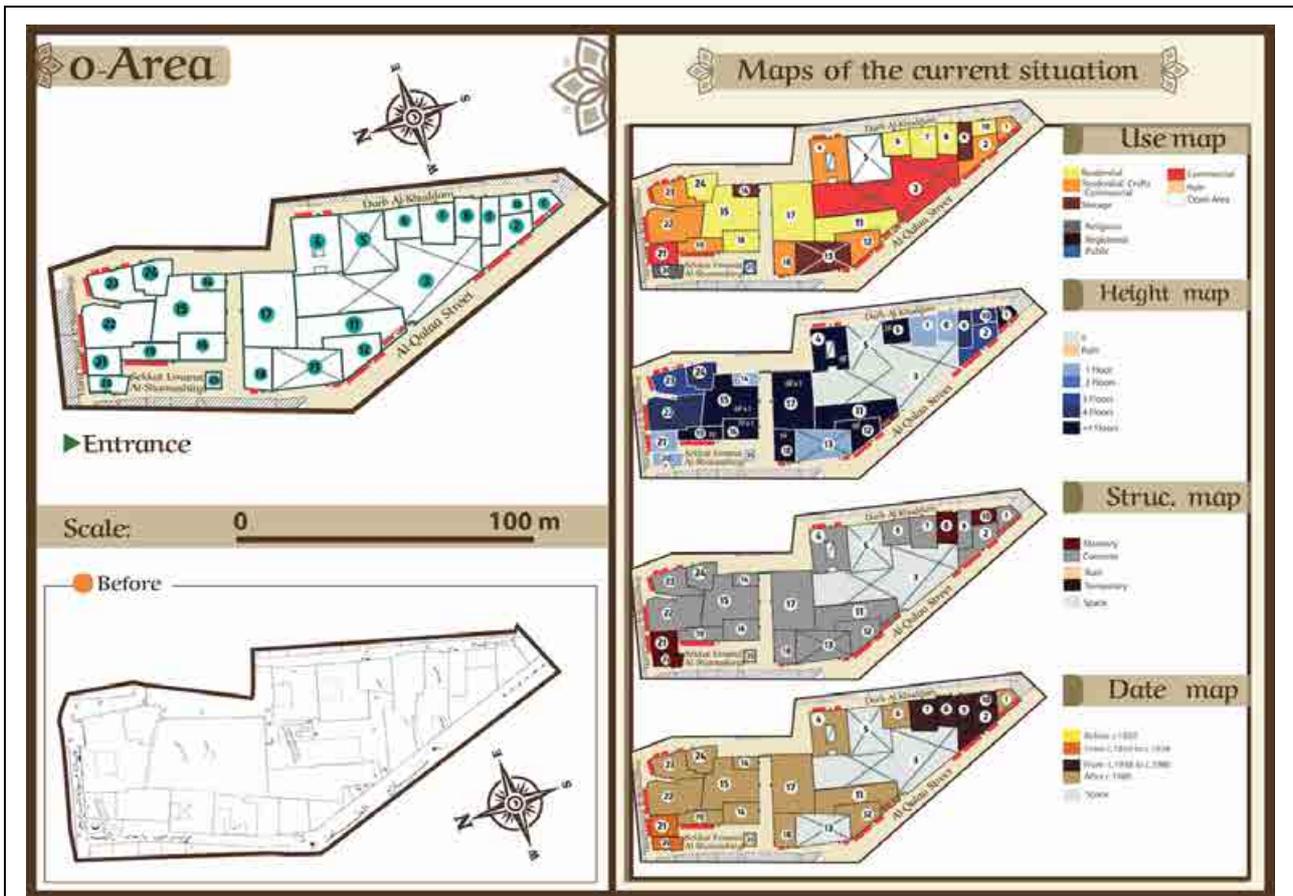
m-Area それぞれの建物のファサード写真



n-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



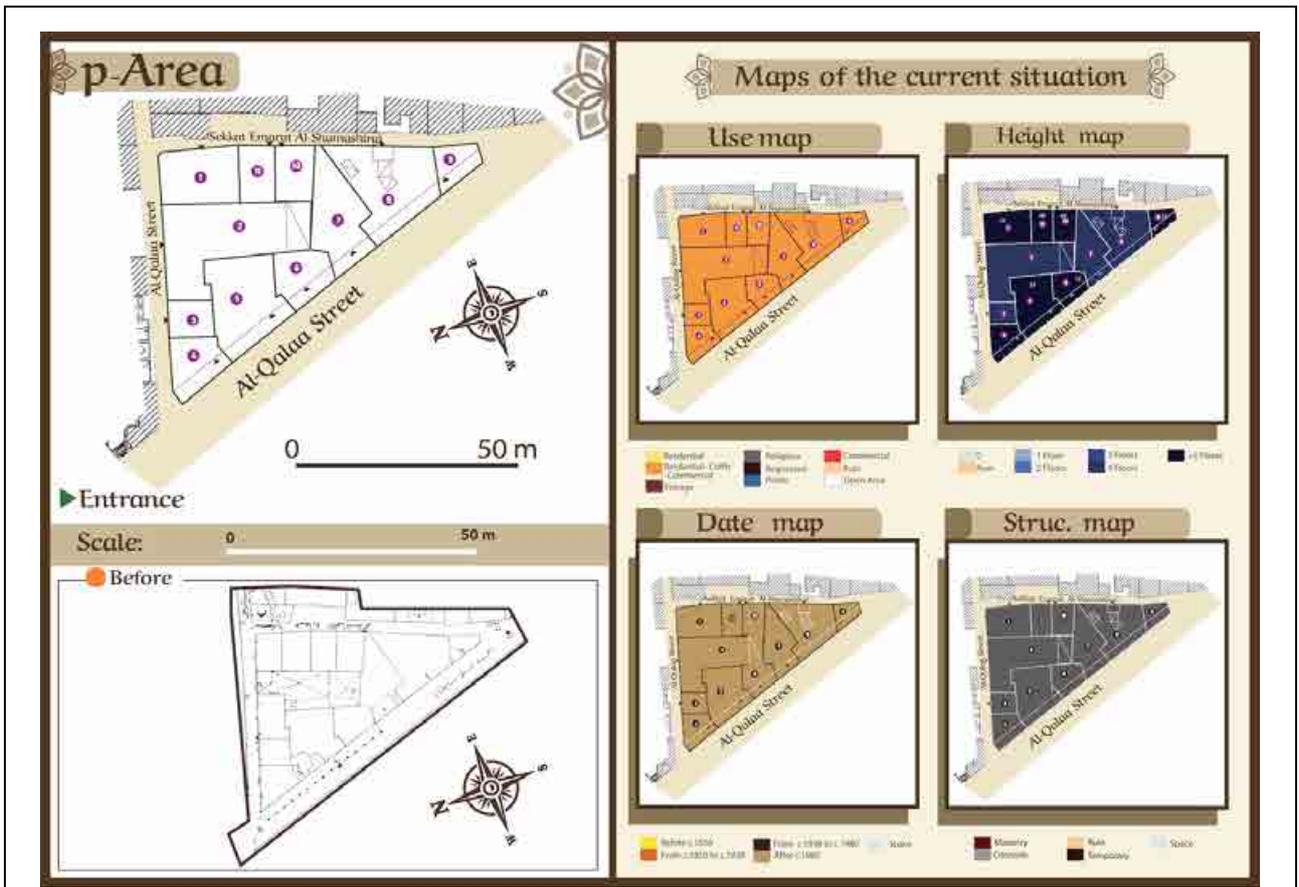
n-Area それぞれの建物のファサード写真



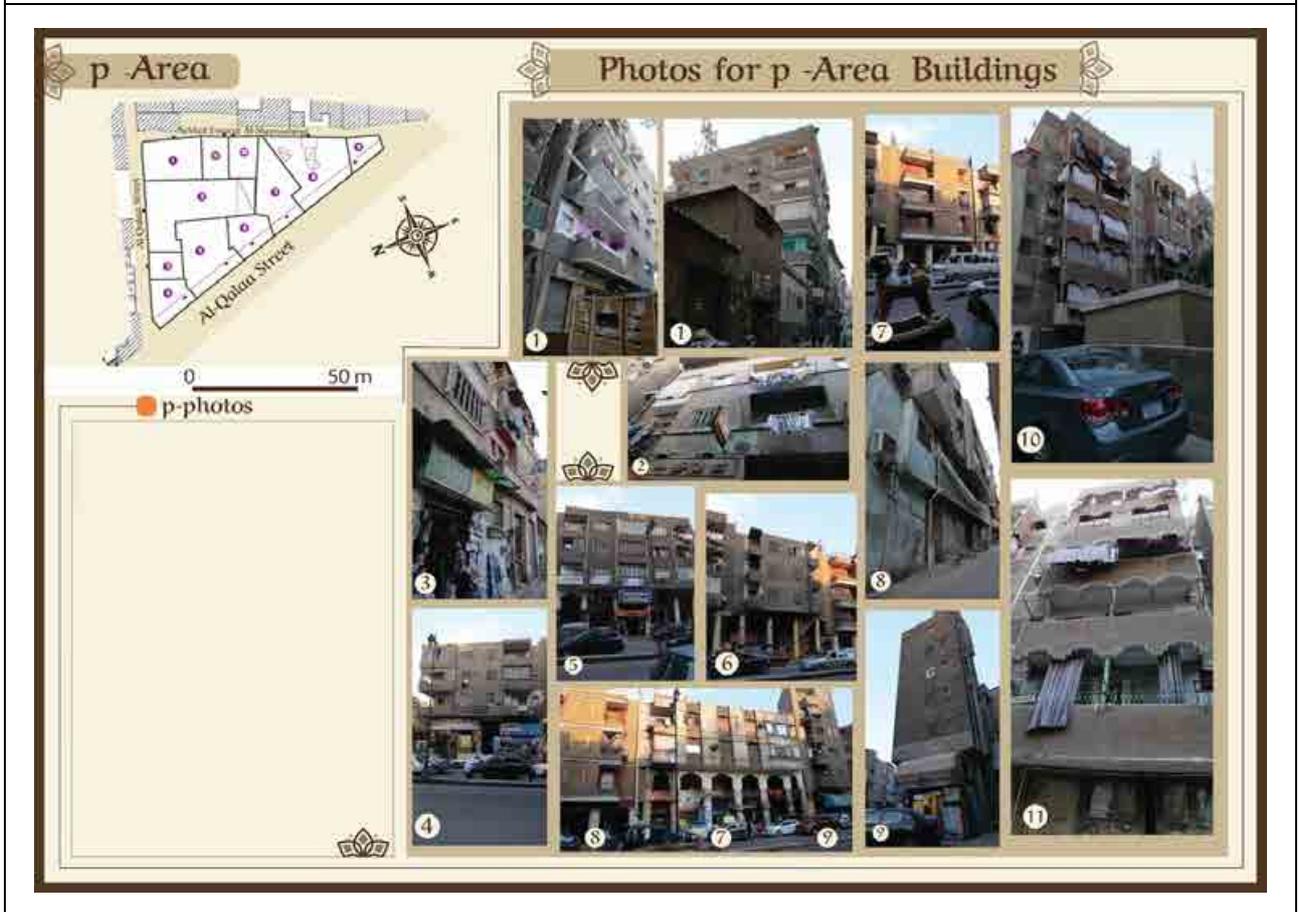
o-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



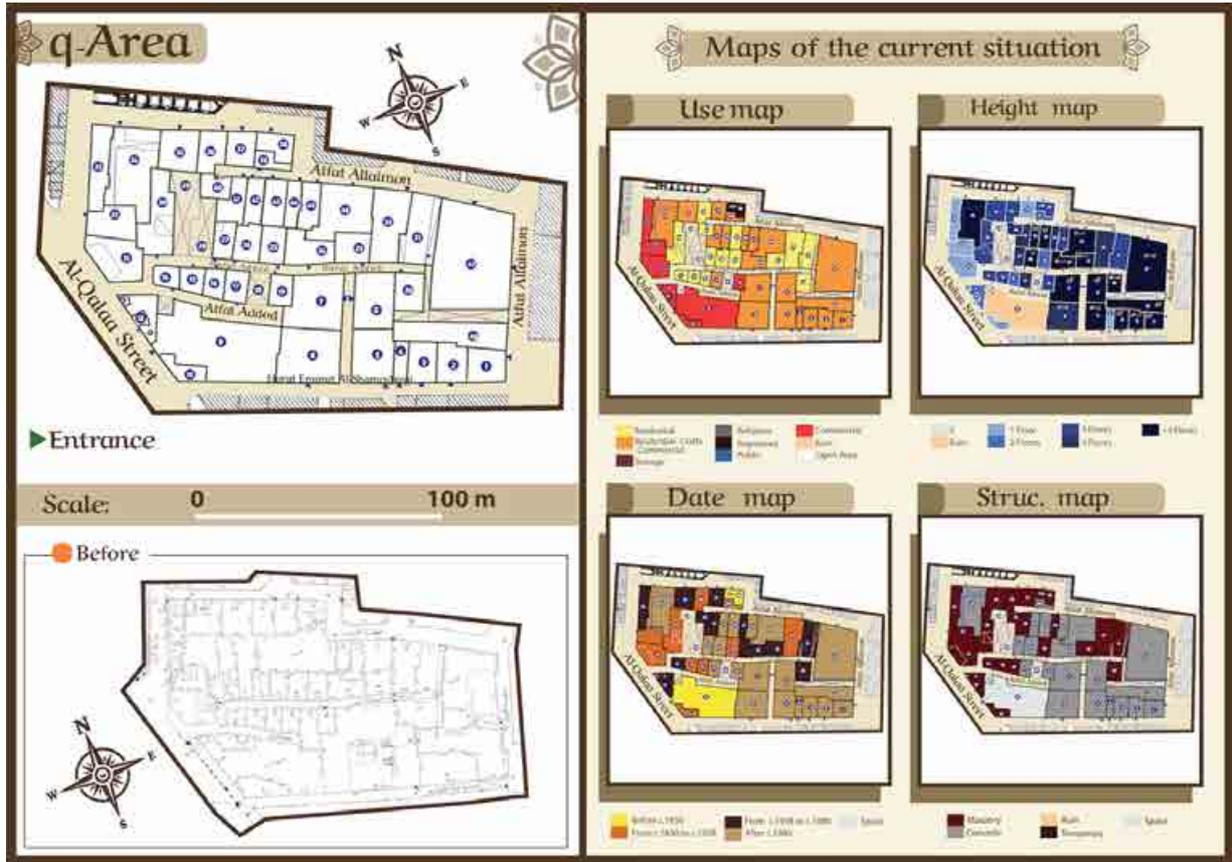
o-Area それぞれの建物のファサード写真



p-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



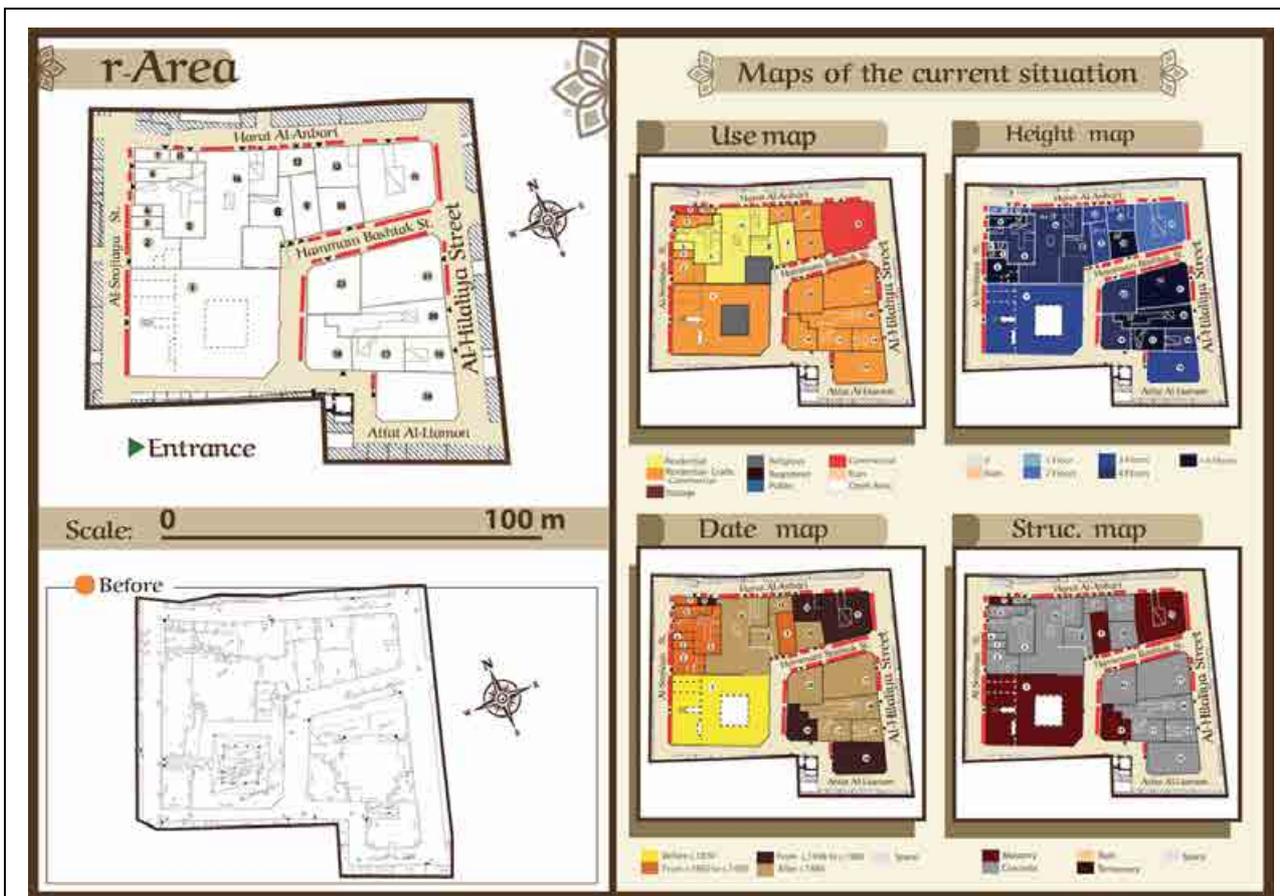
p-Area それぞれの建物のファサード写真



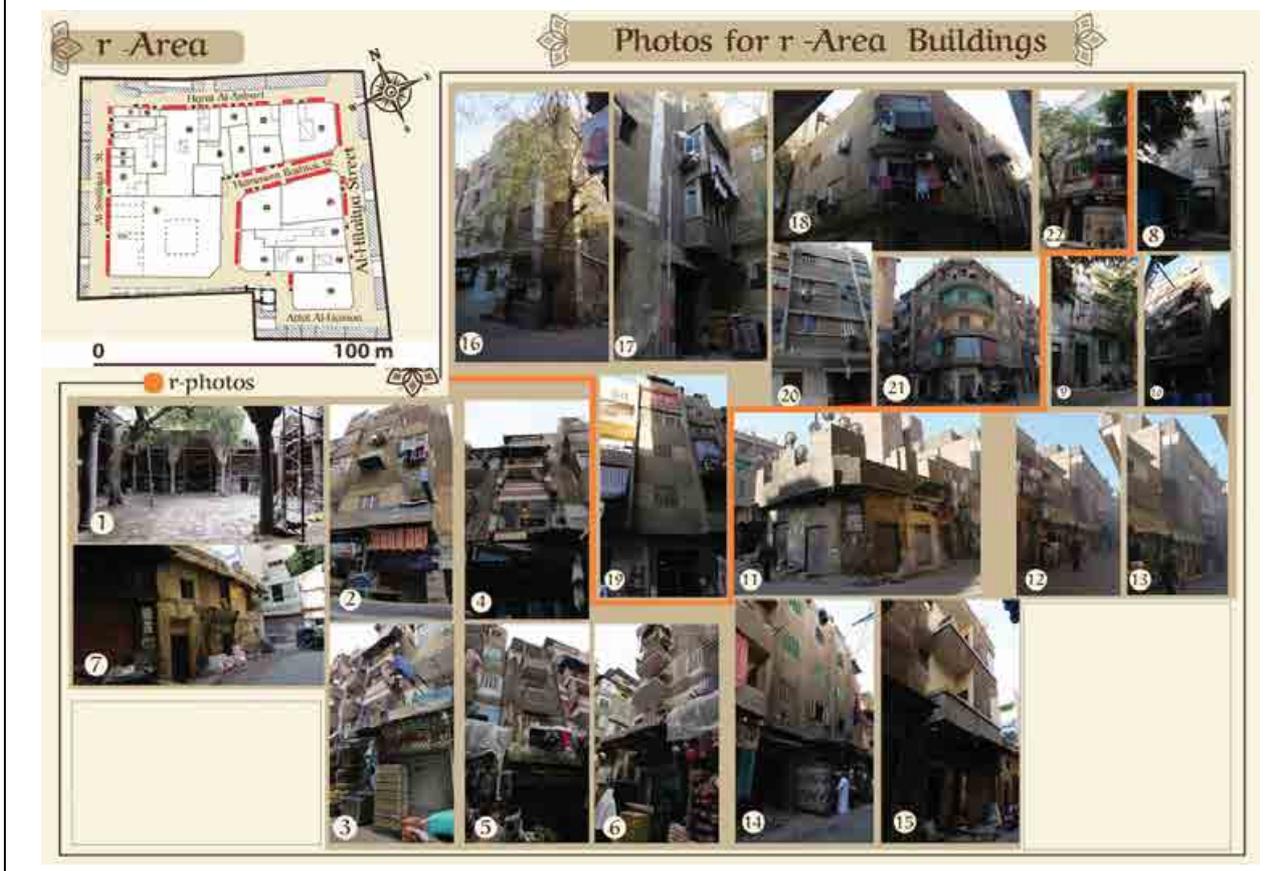
q-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



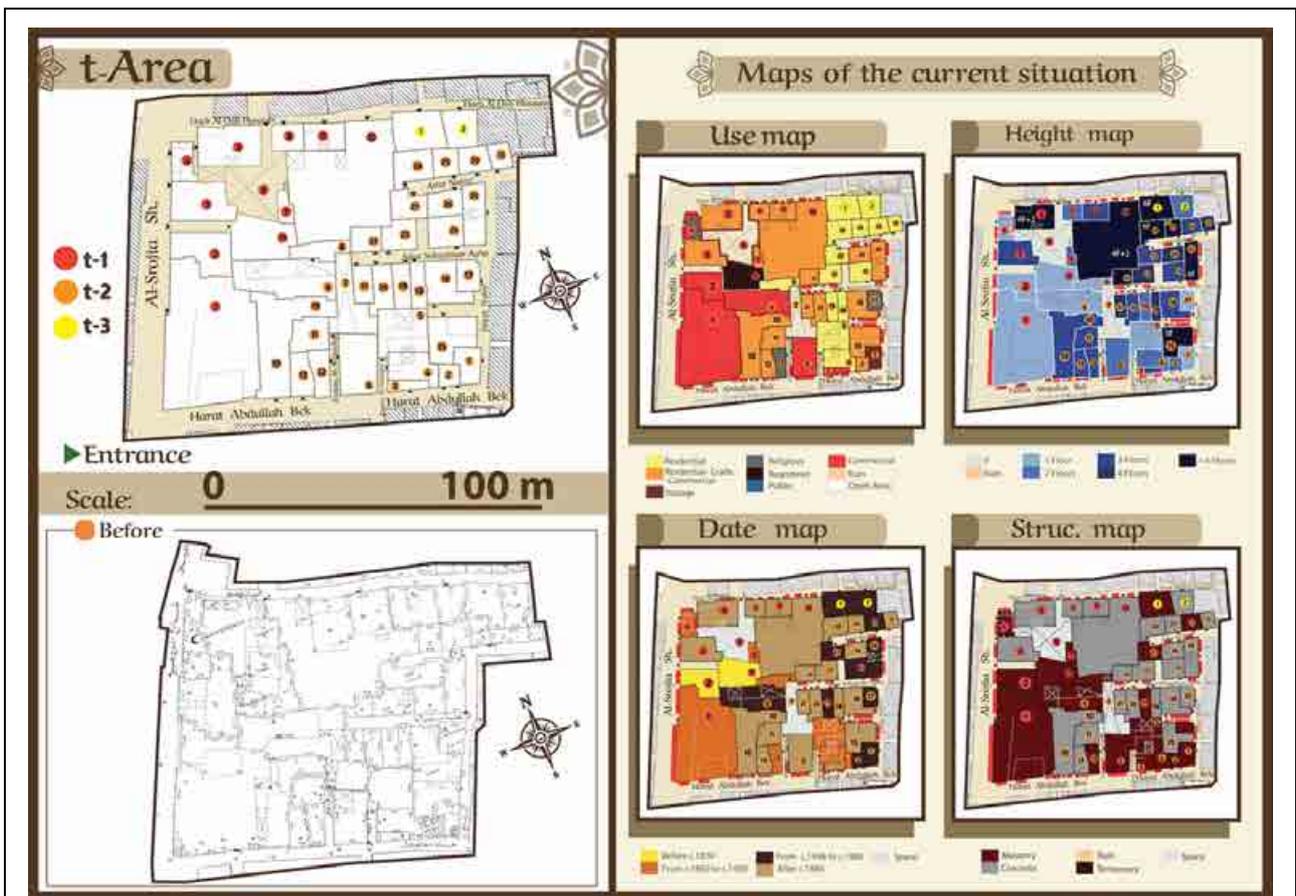
q-Area それぞれの建物のファサード写真



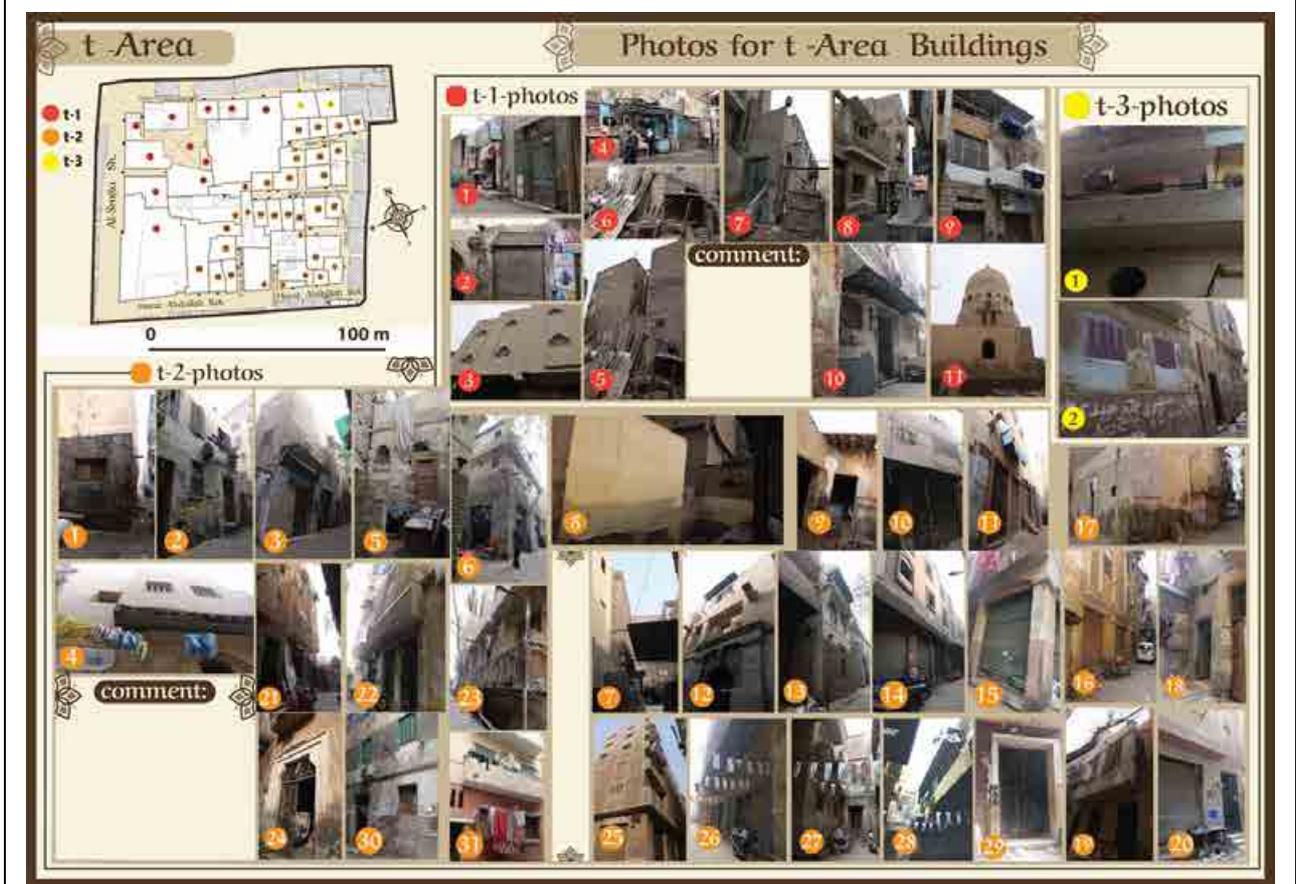
r-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



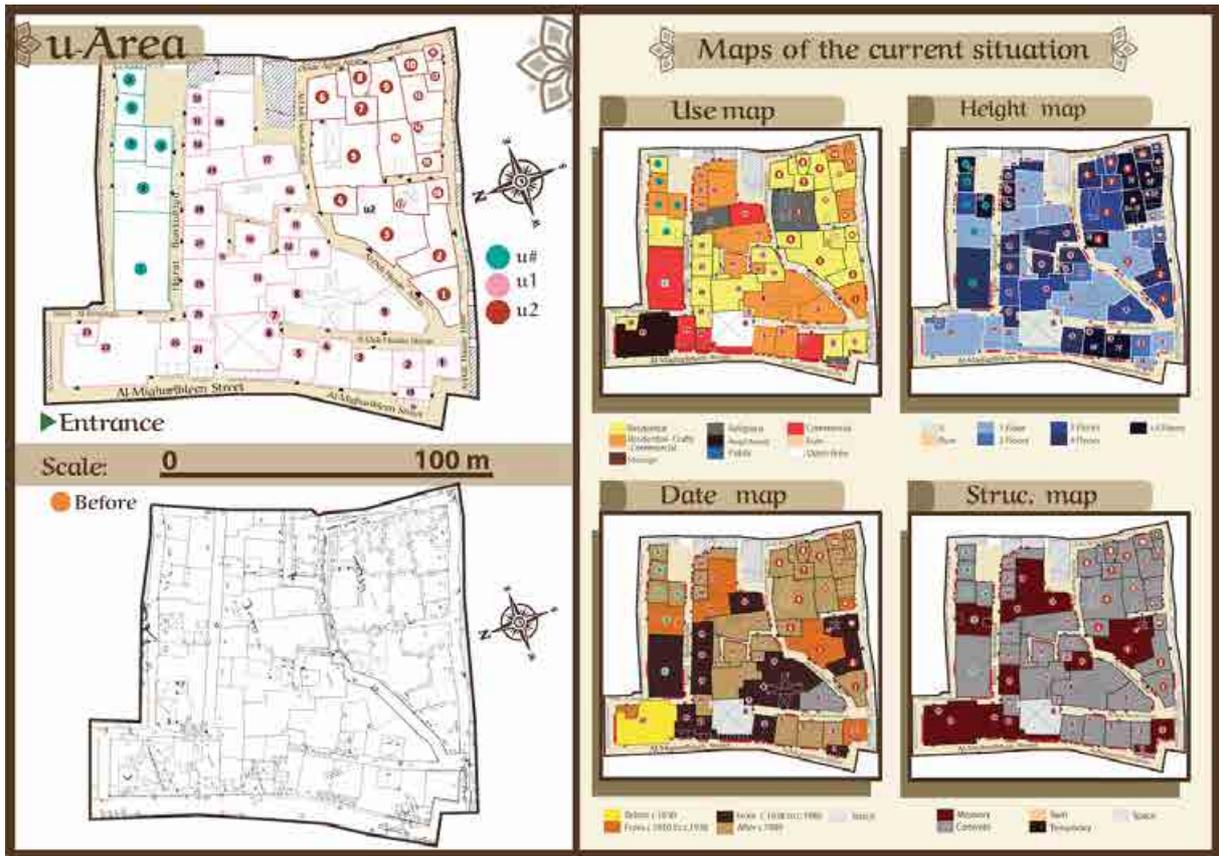
r-Area それぞれの建物のファサード写真



t-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



t-Area それぞれの建物のファサード写真



u-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



u-Area それぞれの建物のファサード写真



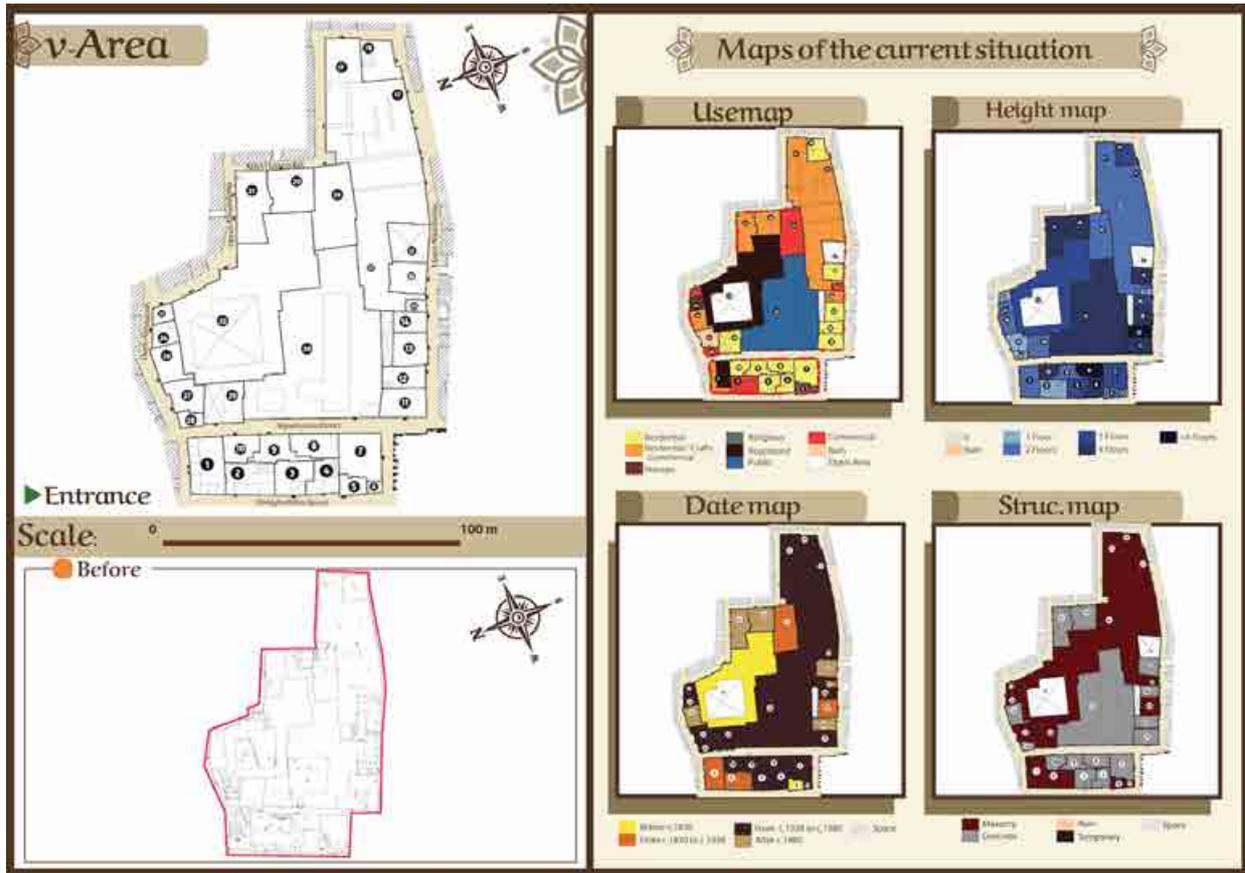
Photos for u-Area Buildings

● Comment:

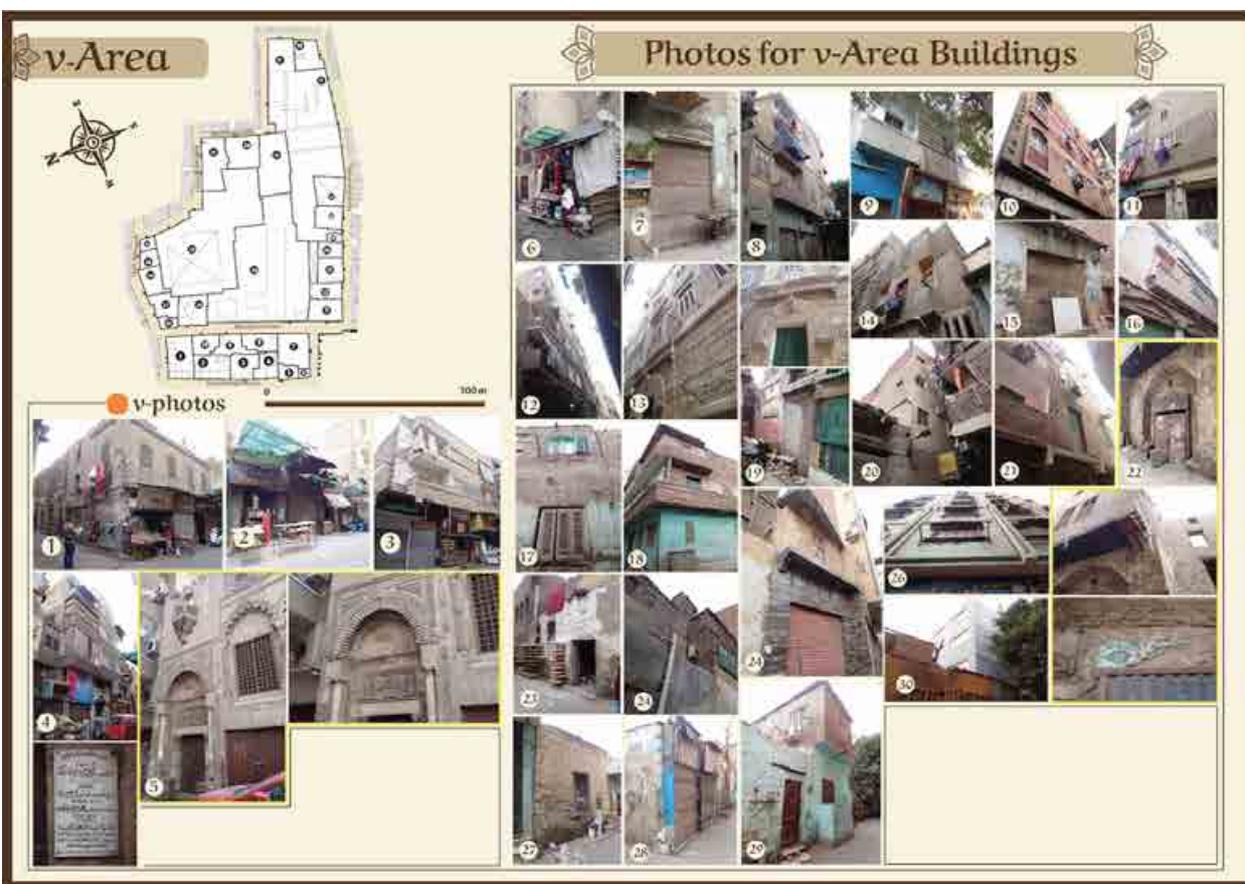
Empty text area for user comments.



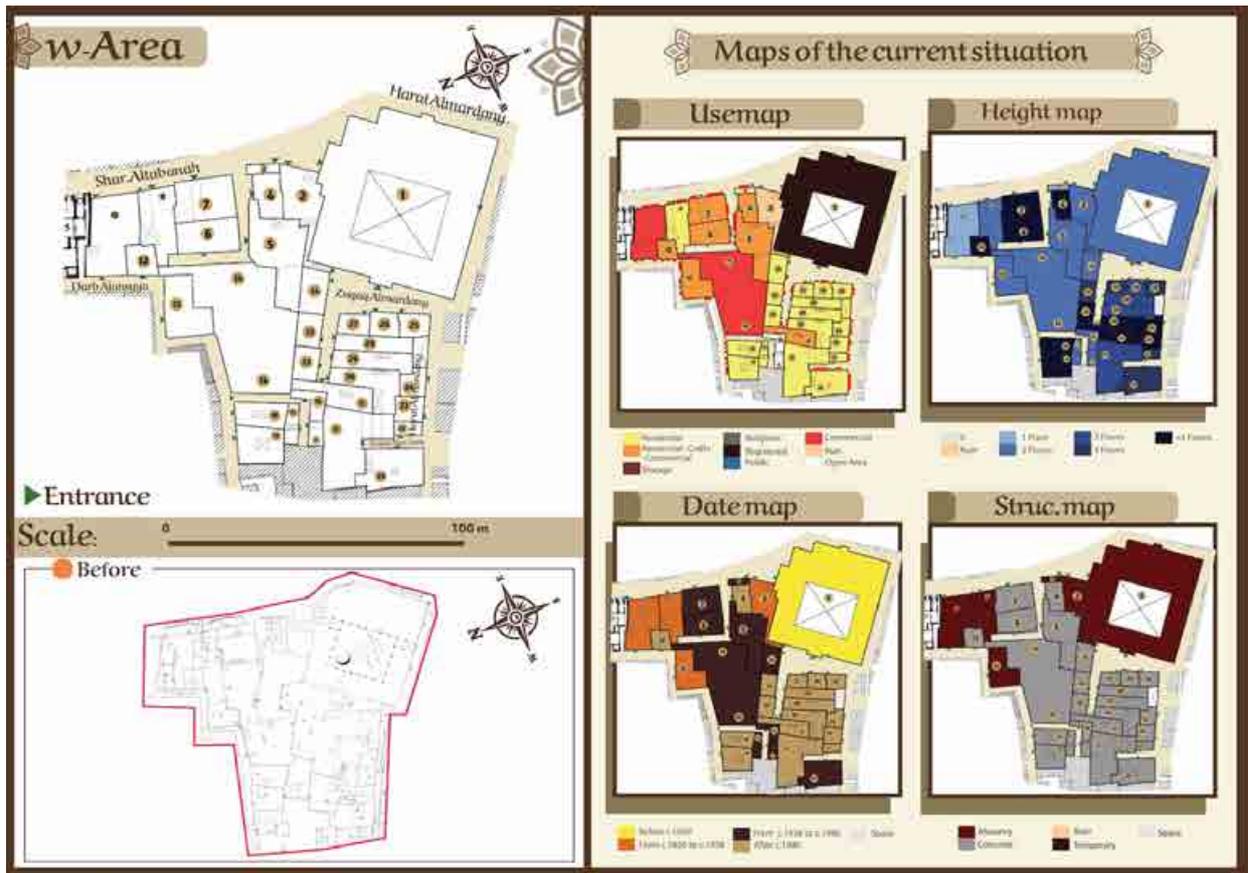
u-Area それぞれの建物のファサード写真



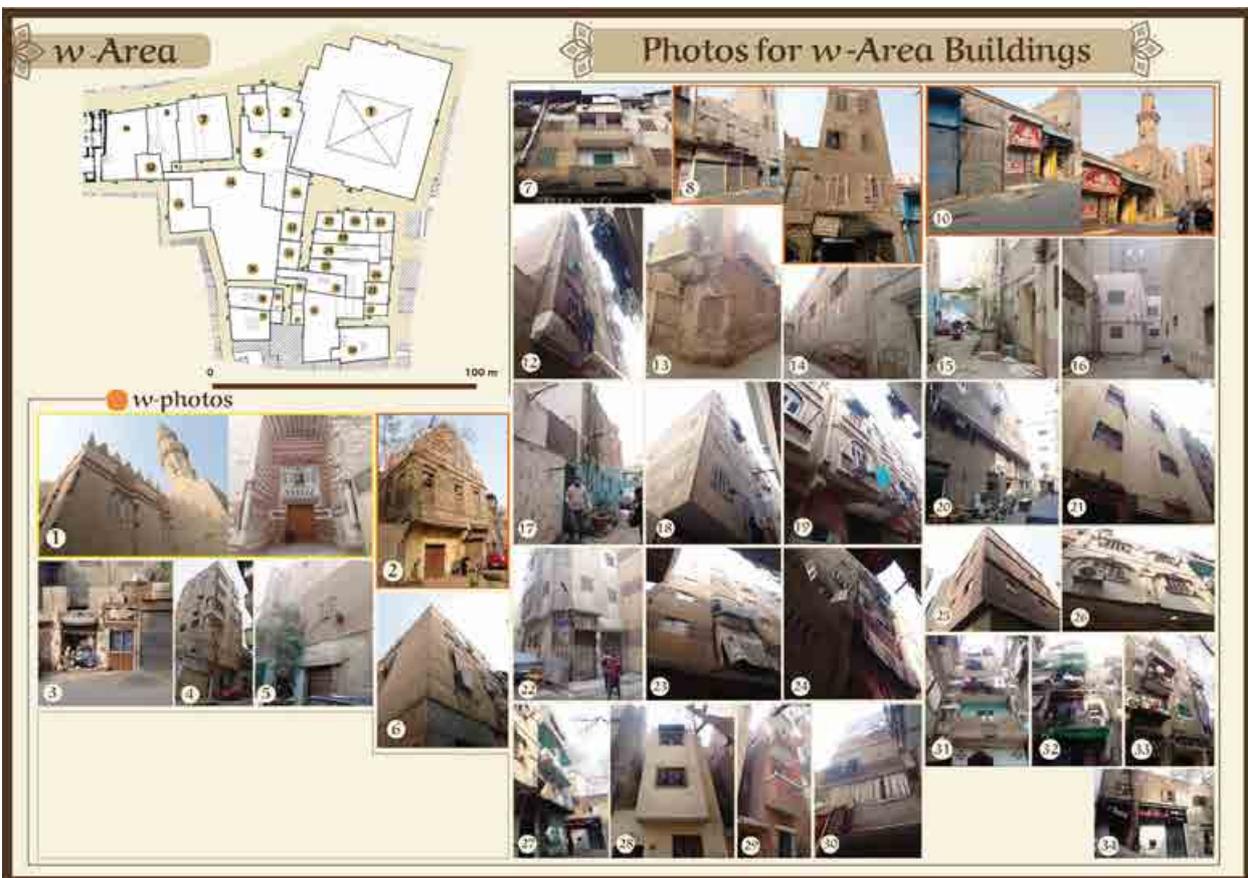
v-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



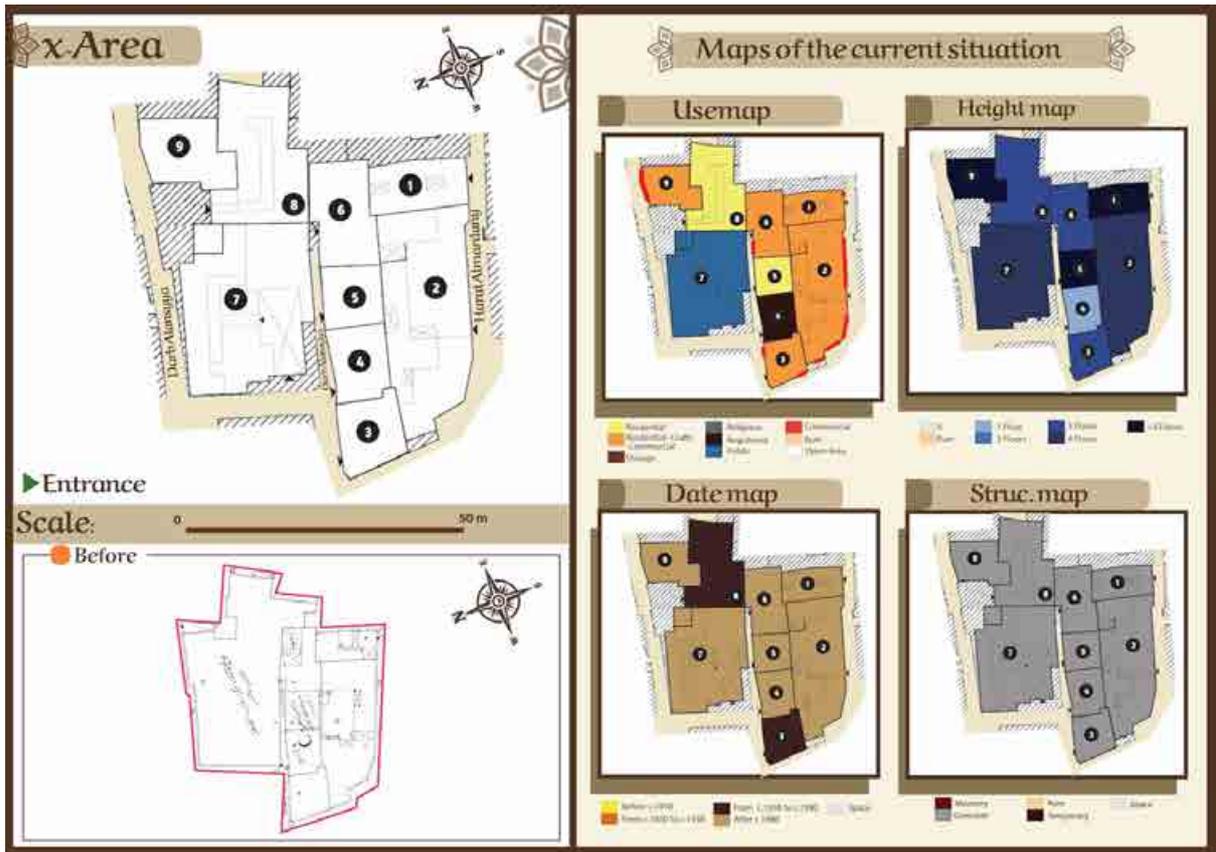
v-Area それぞれの建物のファサード写真



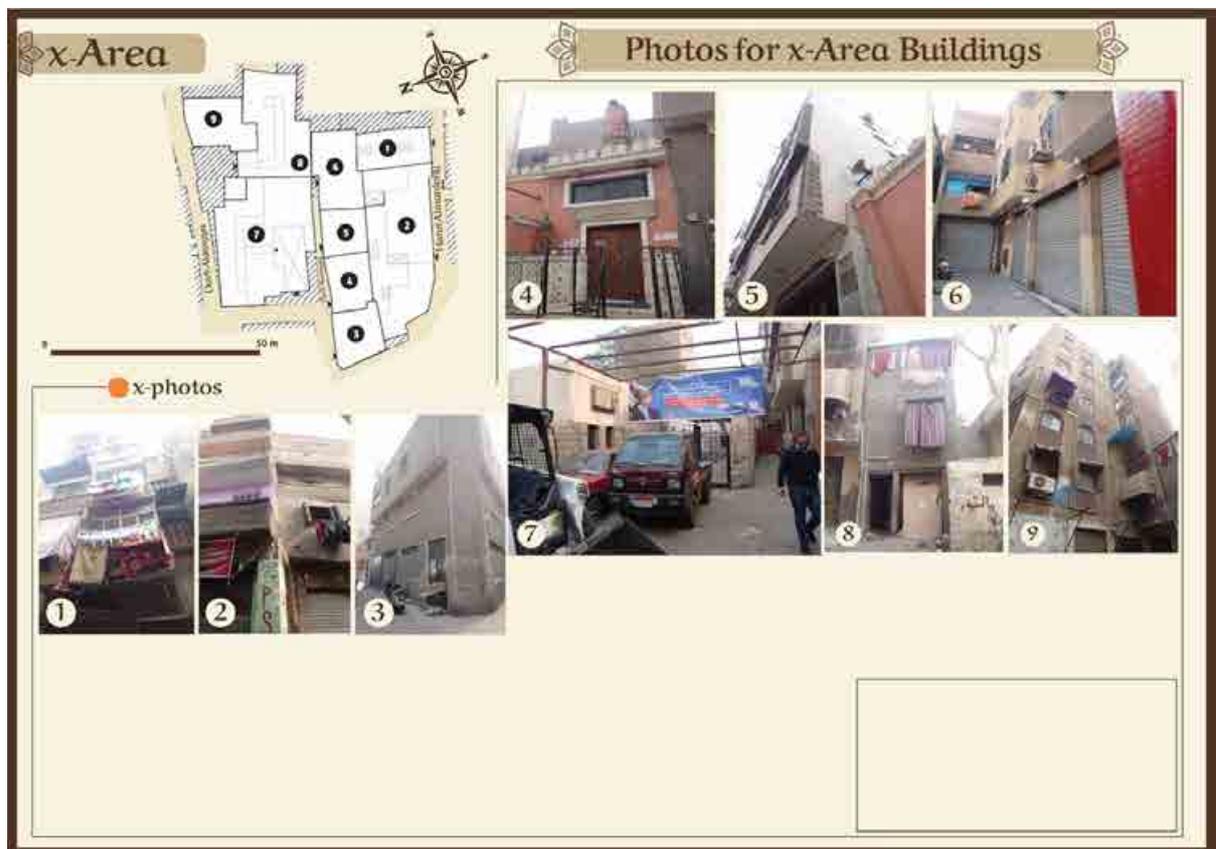
v-Area 現状地図、1938 年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



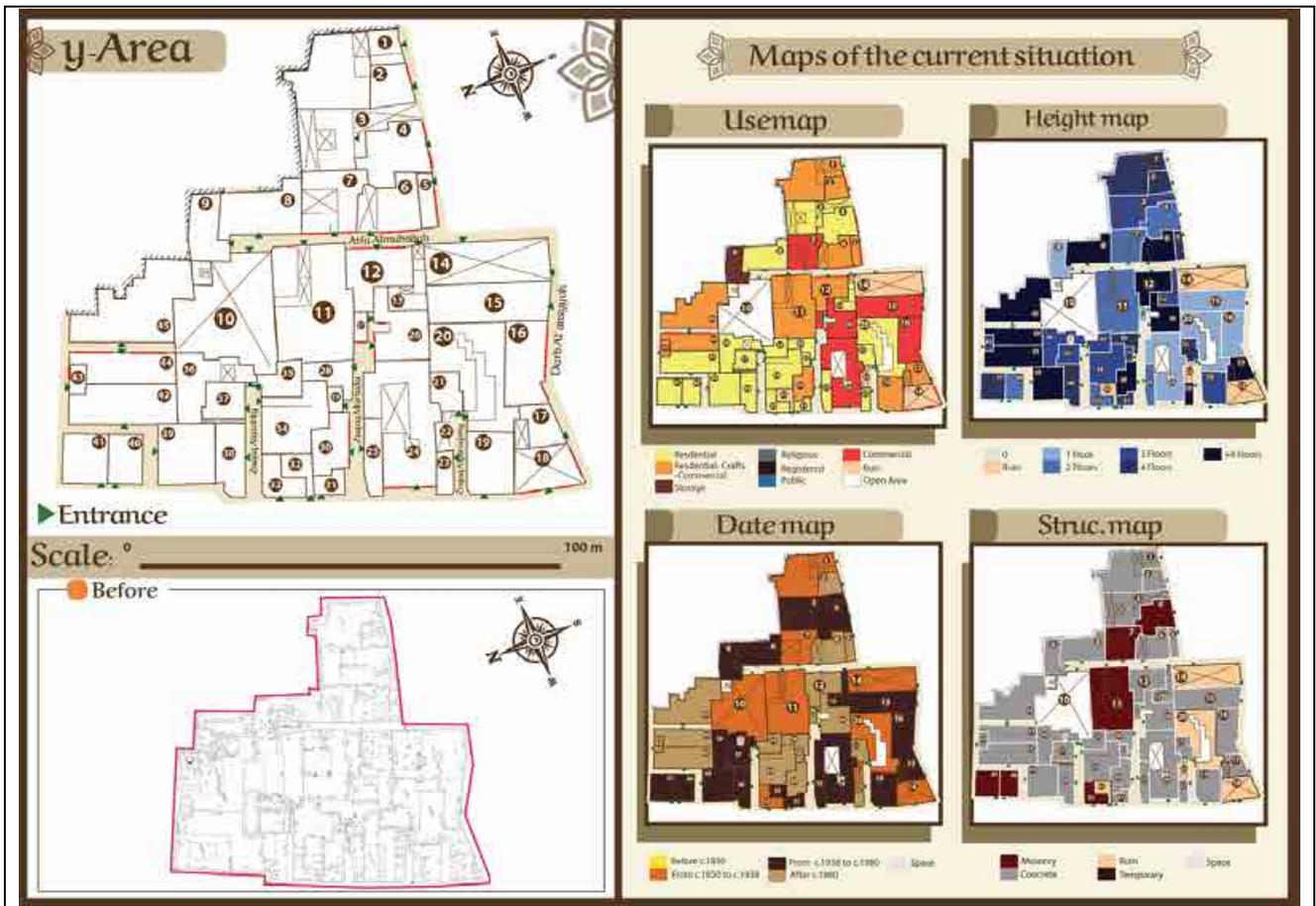
v-Area それぞれの建物のファサード写真



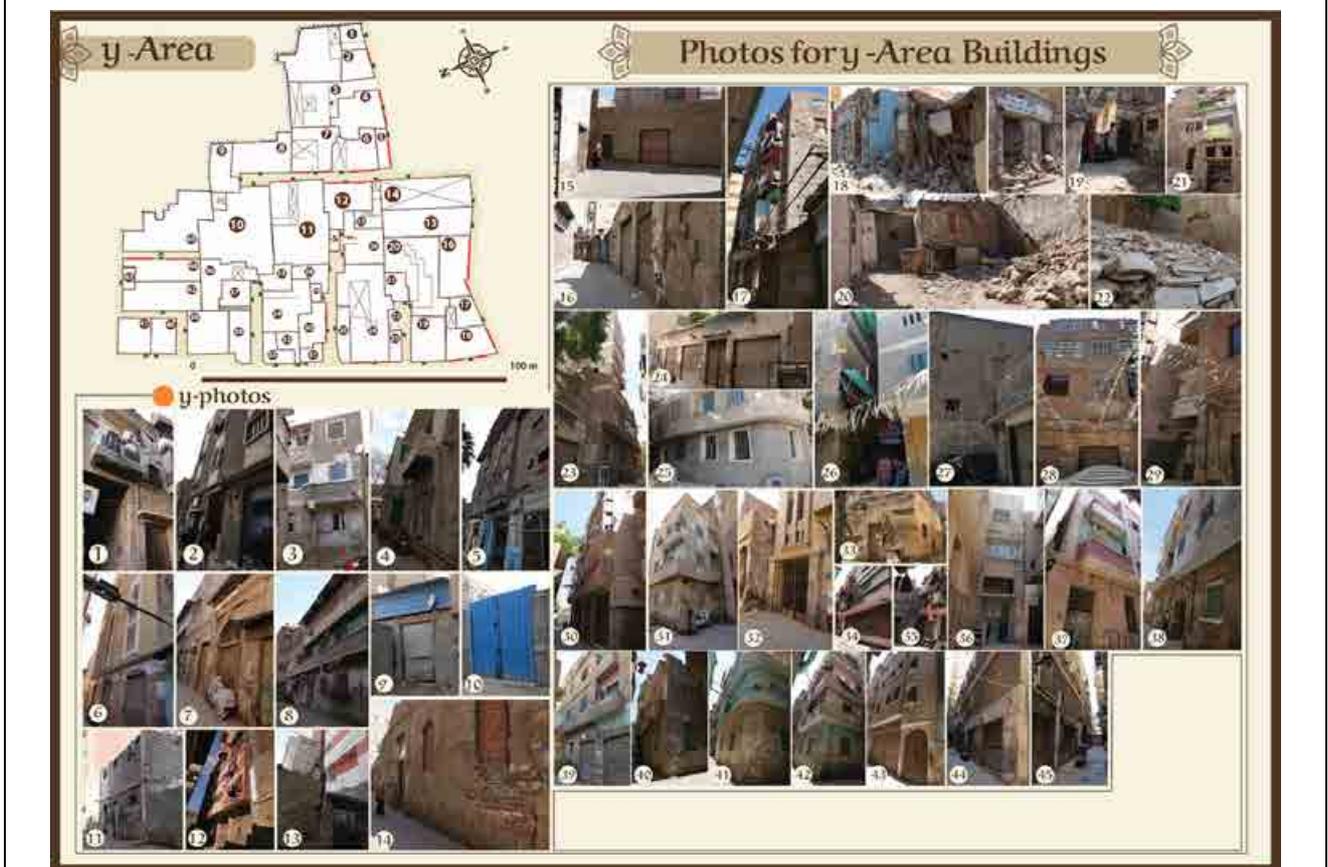
x-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



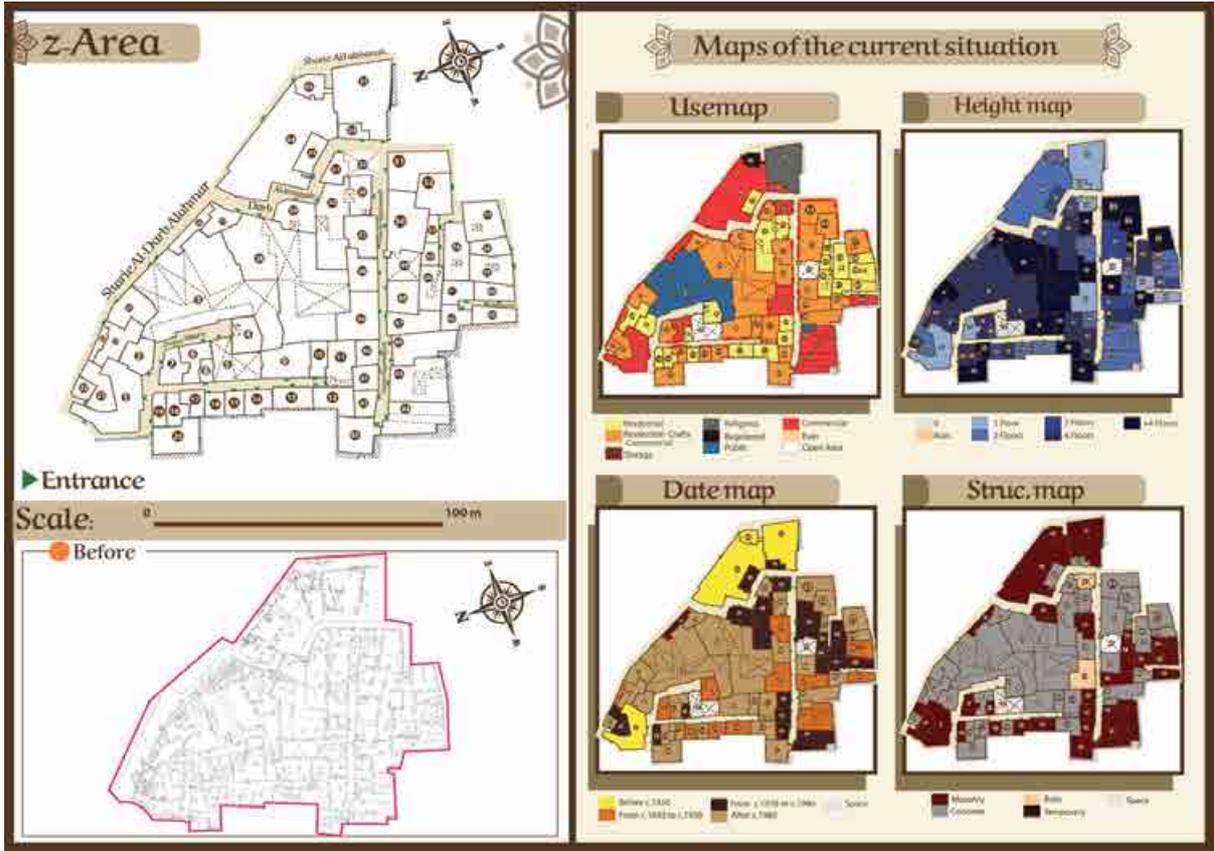
x-Area それぞれの建物のファサード写真



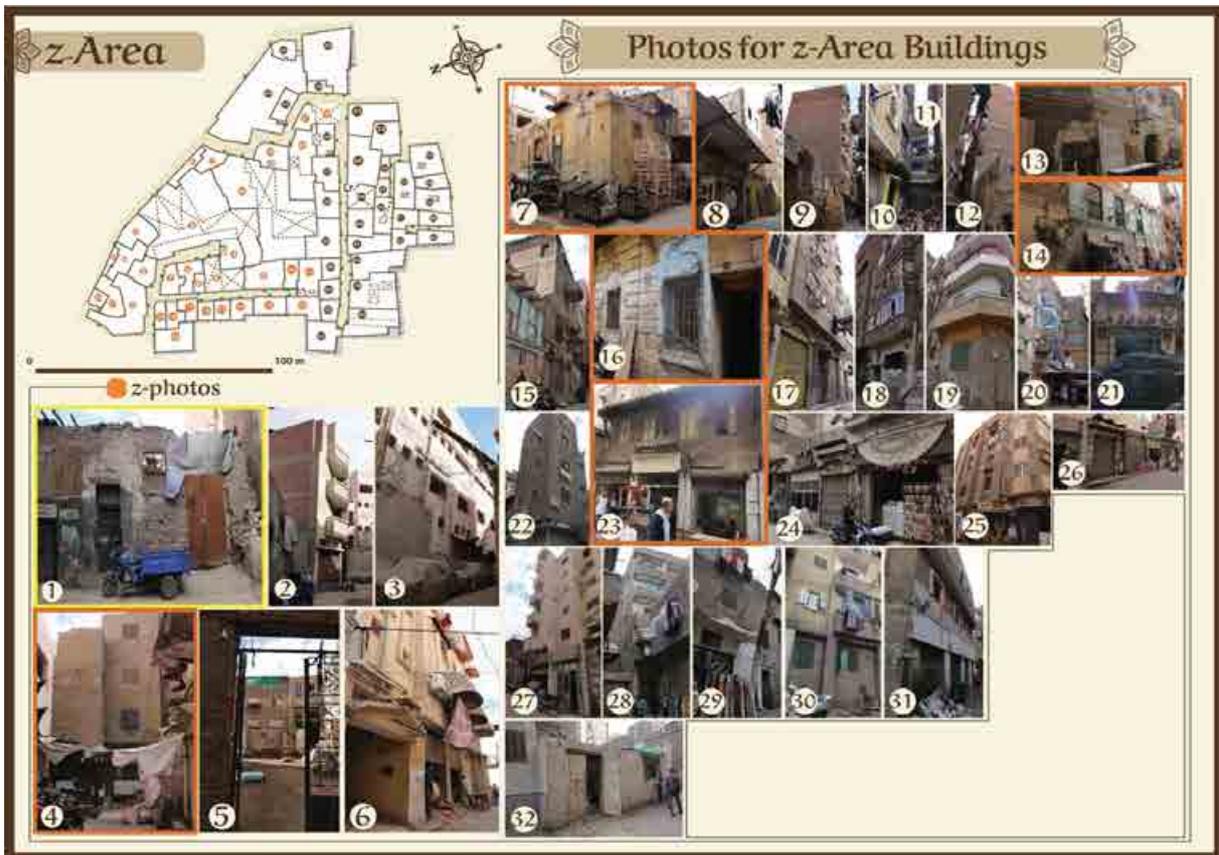
y-Area 現状地図、1938 年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



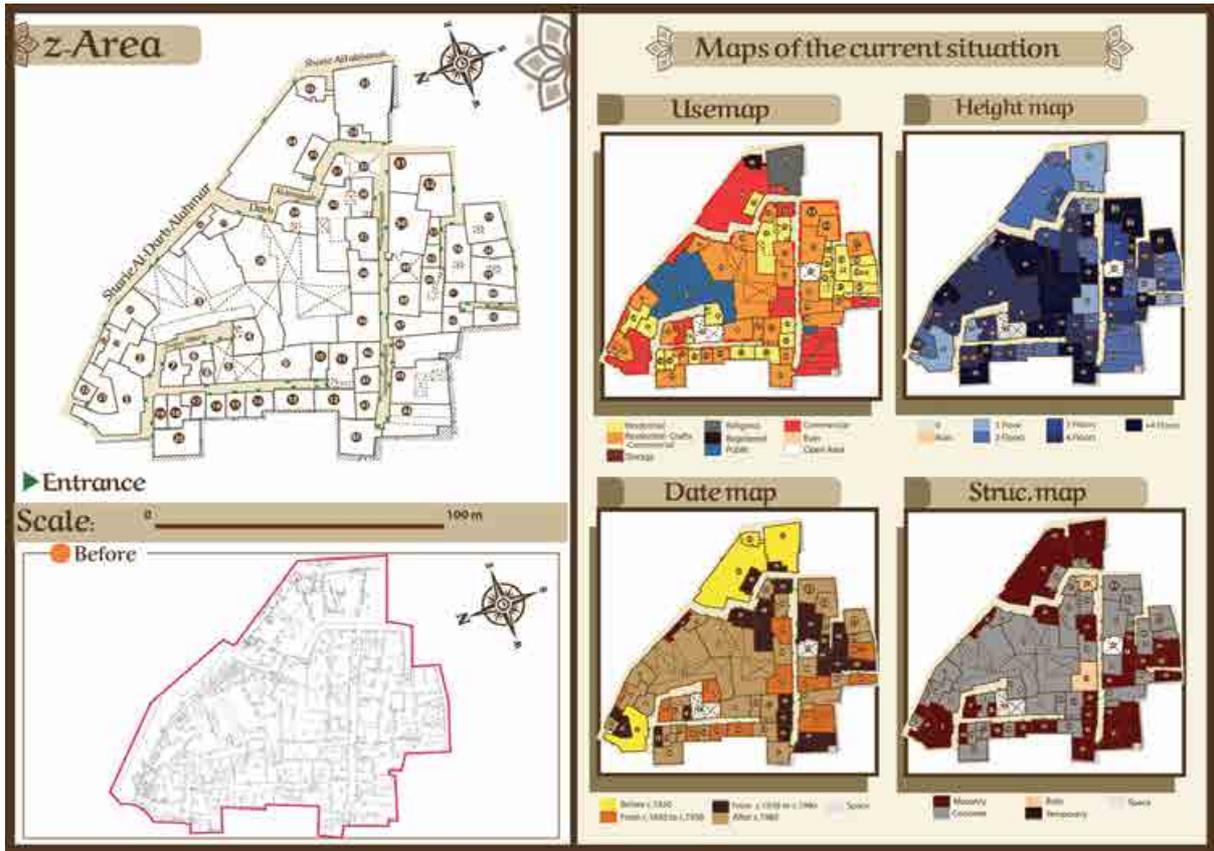
y-Area それぞれの建物のファサード写真



z-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



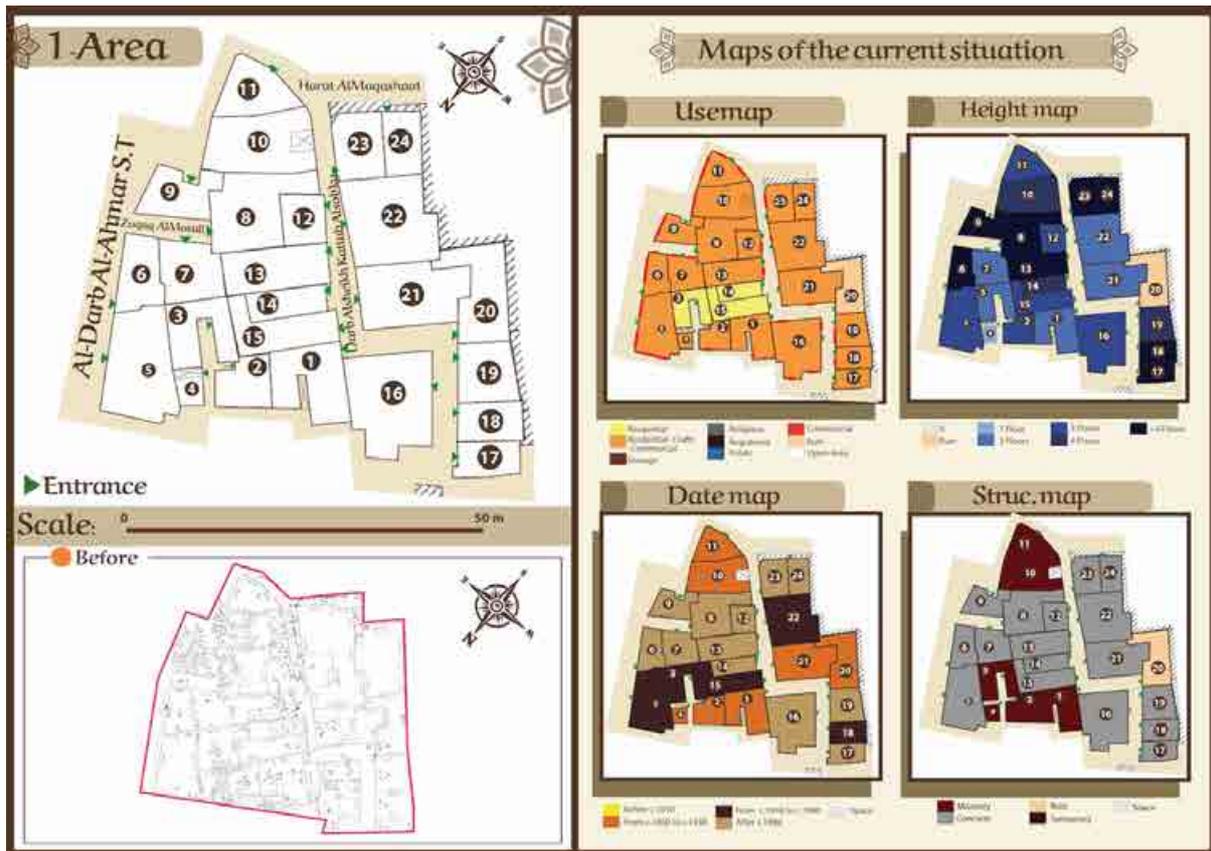
z-Area それぞれの建物のファサード写真



z-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



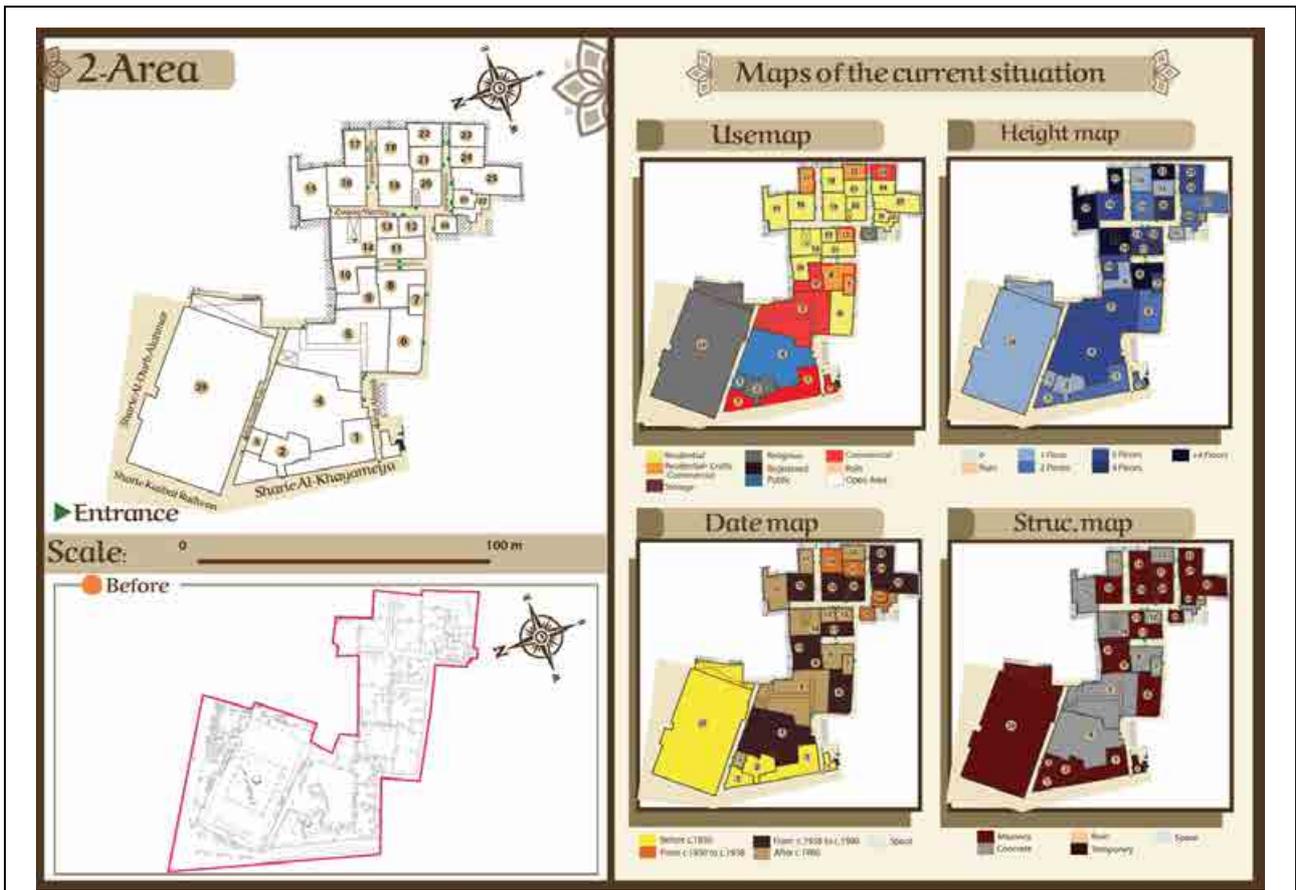
z-Area それぞれの建物のファサード写真



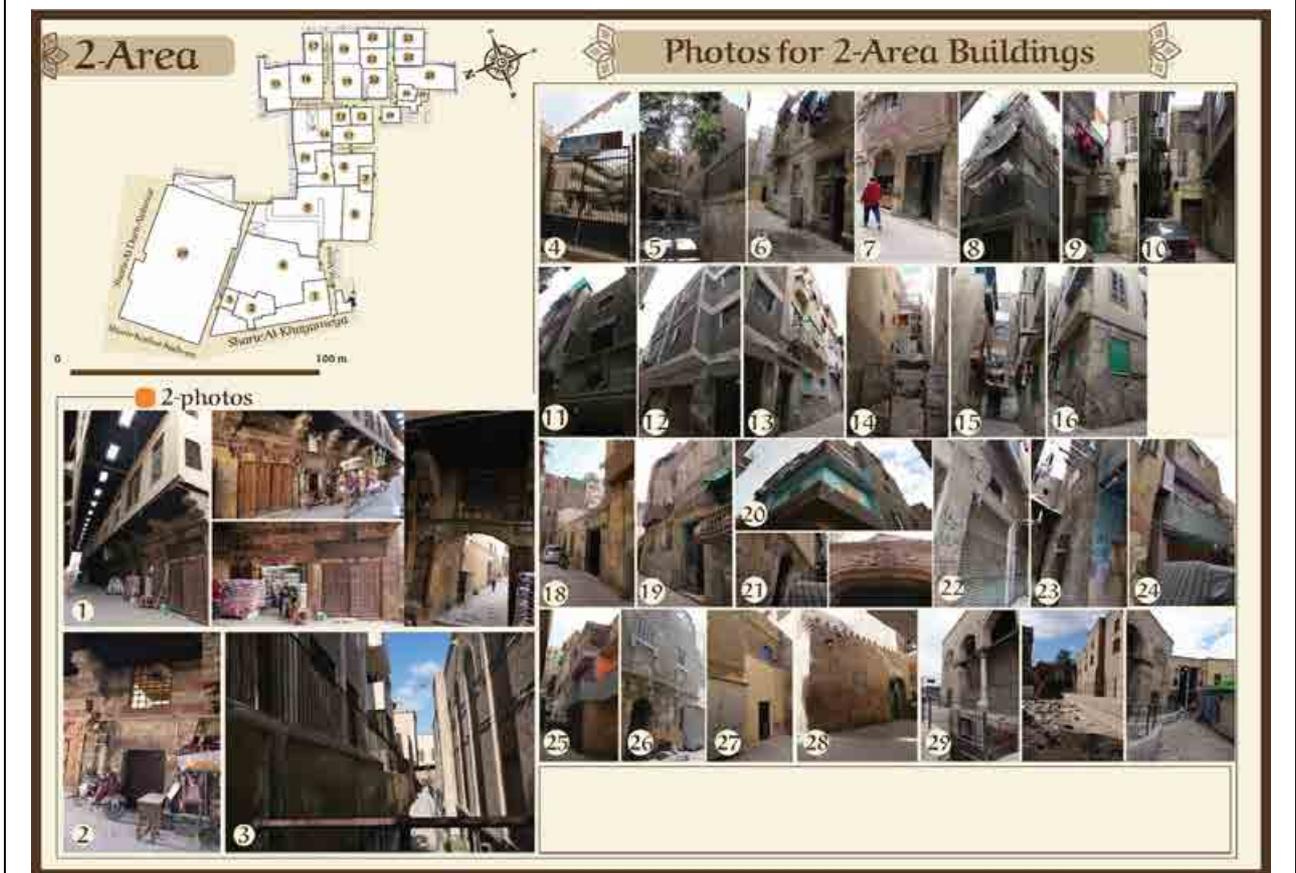
1-Area 現状地図、1938 年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



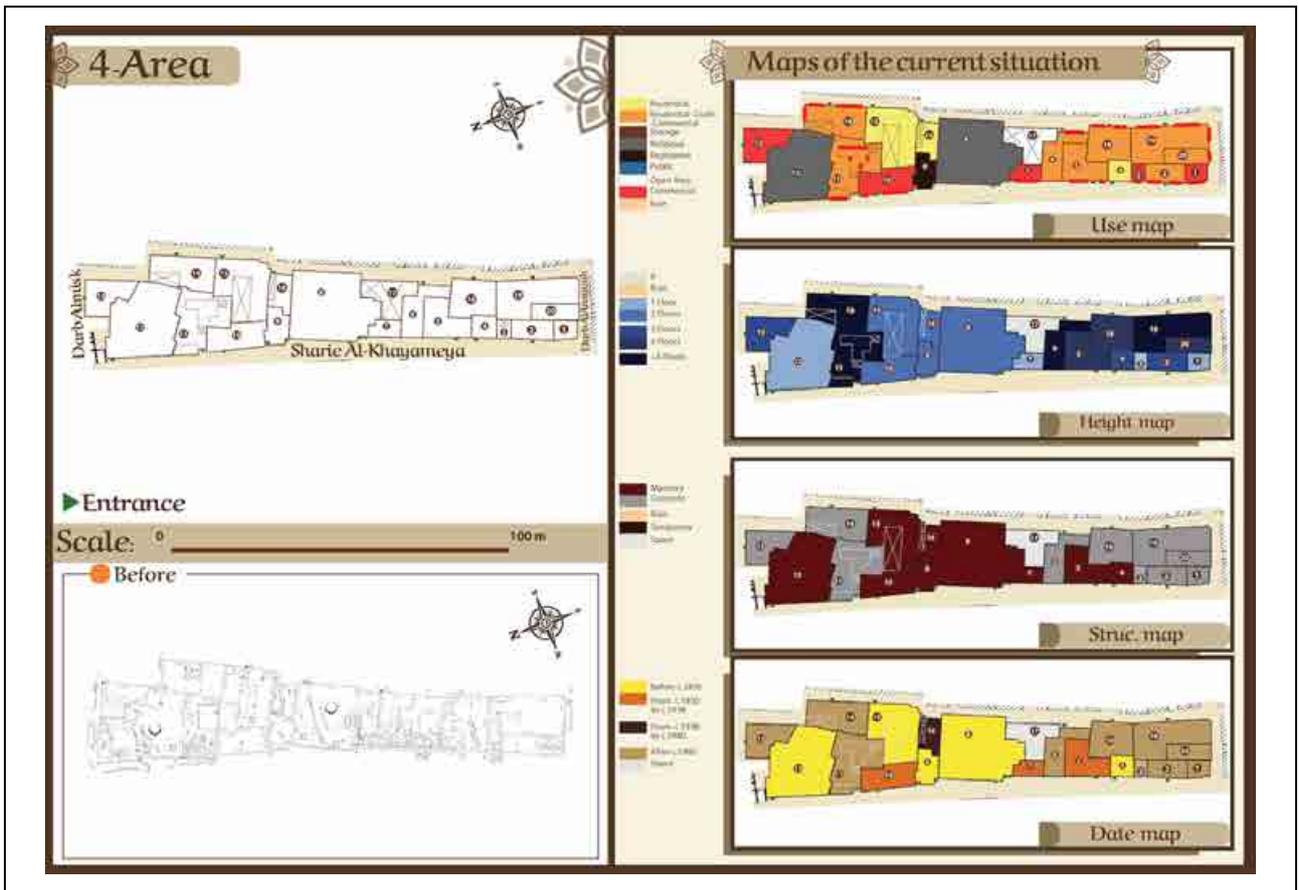
1-Area それぞれの建物のファサード写真



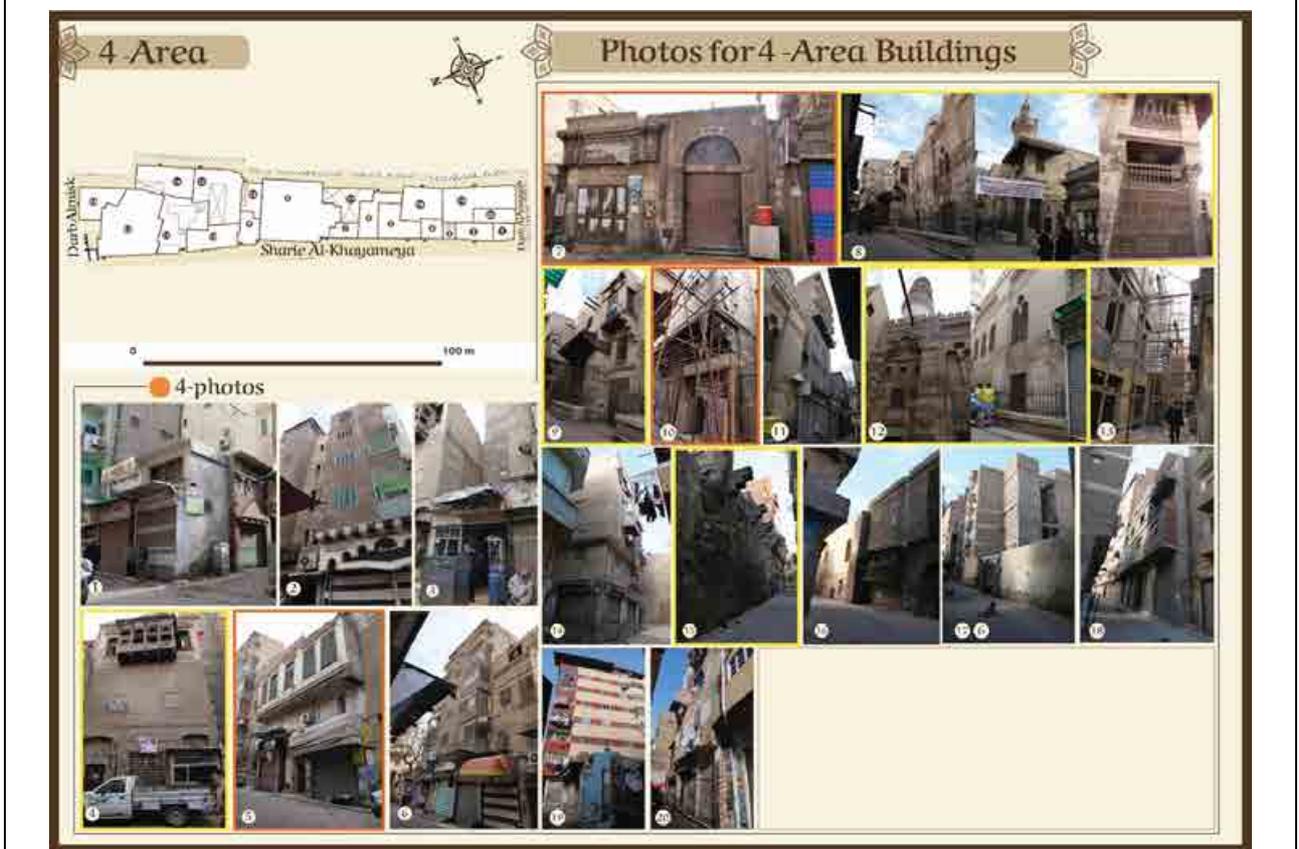
2-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



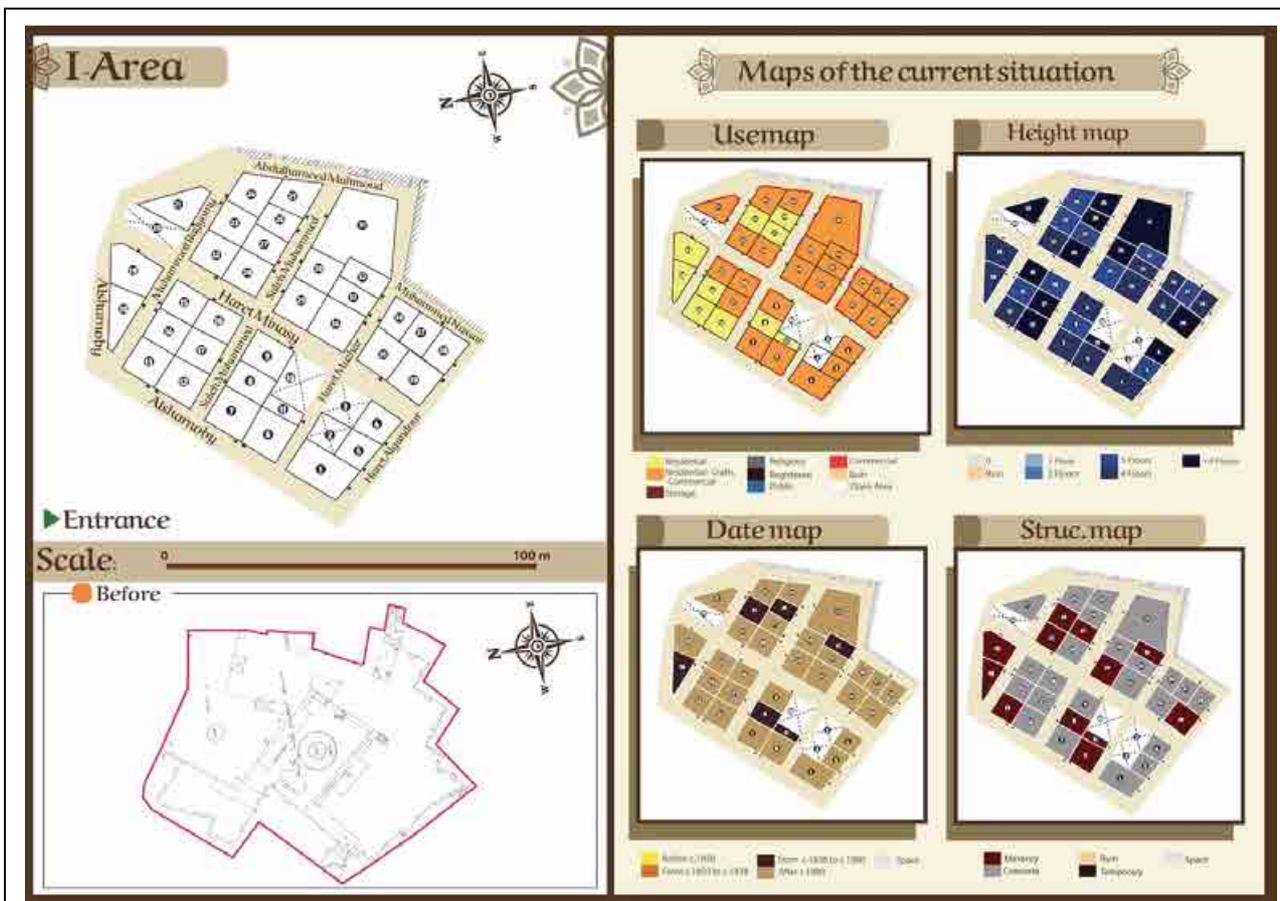
2-Area それぞれの建物のファサード写真



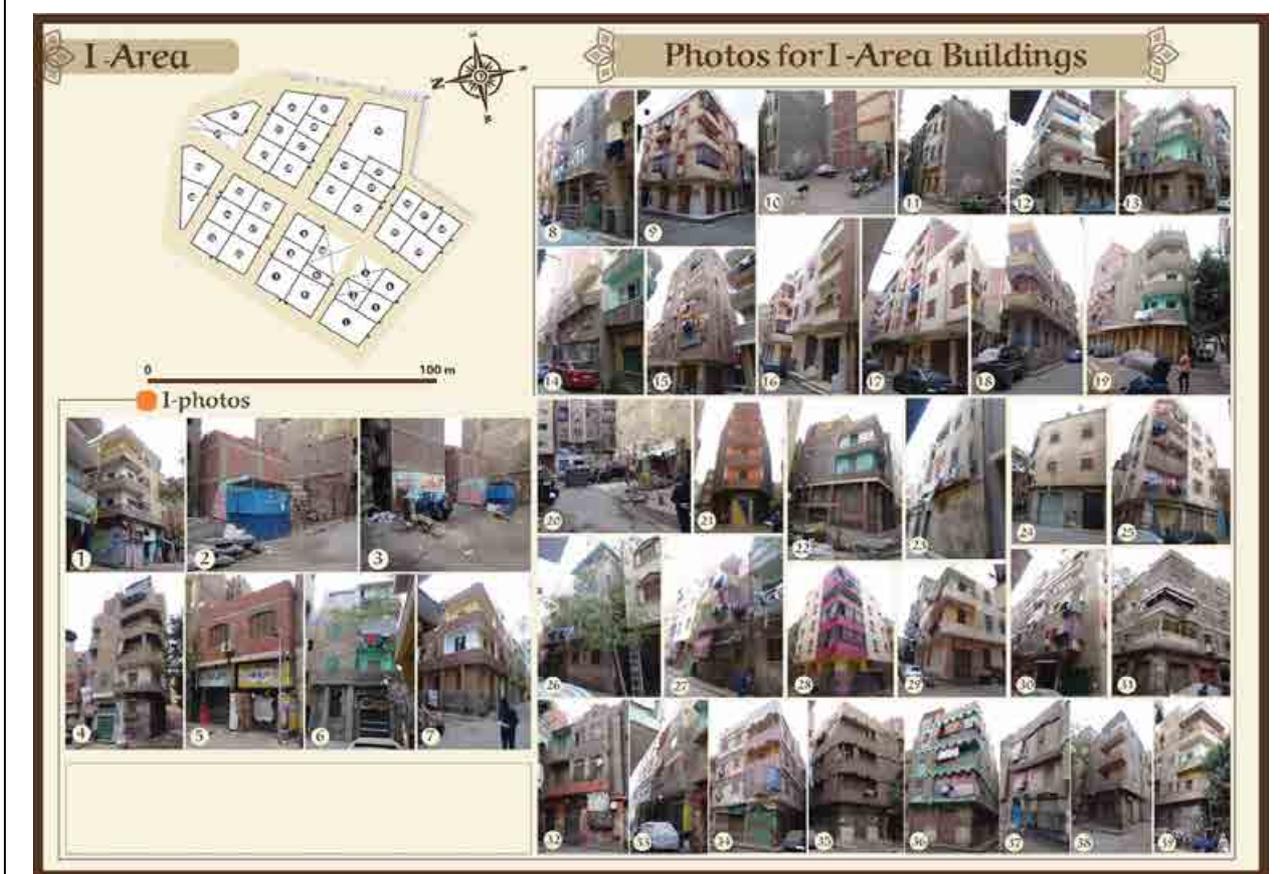
4-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



4-Area それぞれの建物のファサード写真

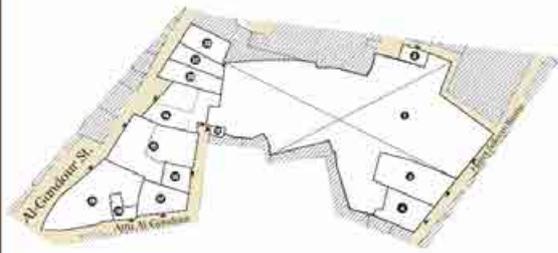


I-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



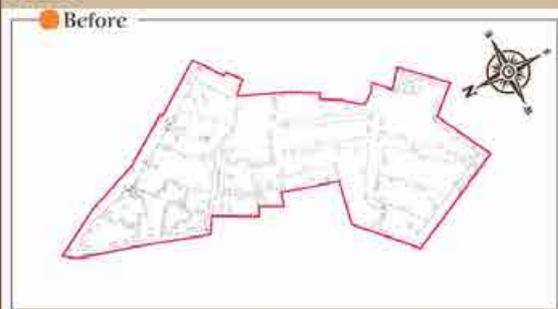
I-Area それぞれの建物のファサード写真

K-Area



▶ Entrance

Scale: 0 100 m



Maps of the current situation

Usemap



Residential
 Residential Craft
 Commercial
 Storage

Height map



1 Floor
 2 Floors
 3 Floors
 4 Floors

Date map



Before 1950
 Between 1950 and 1980
 From 1980 to 1990
 After 1990

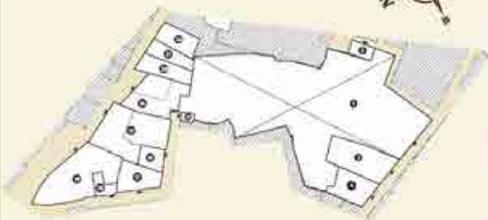
Struc. map



Masonry
 Concrete
 Paper
 Synthetic

K-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料

K-Area

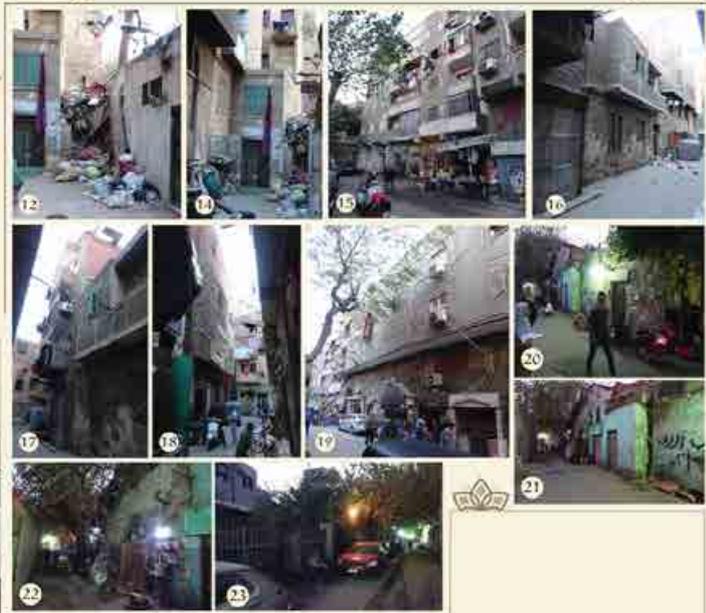


0 100 m

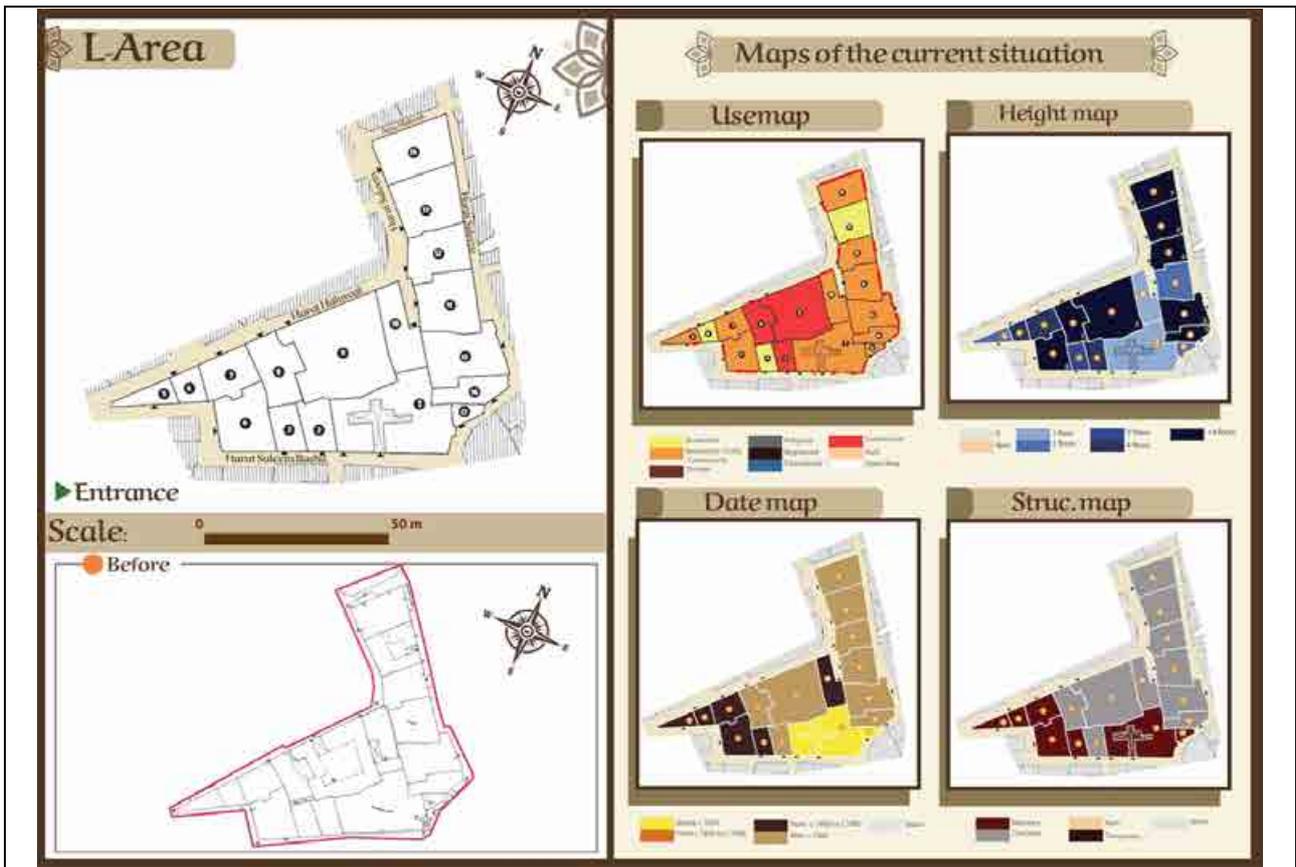
● K-photos



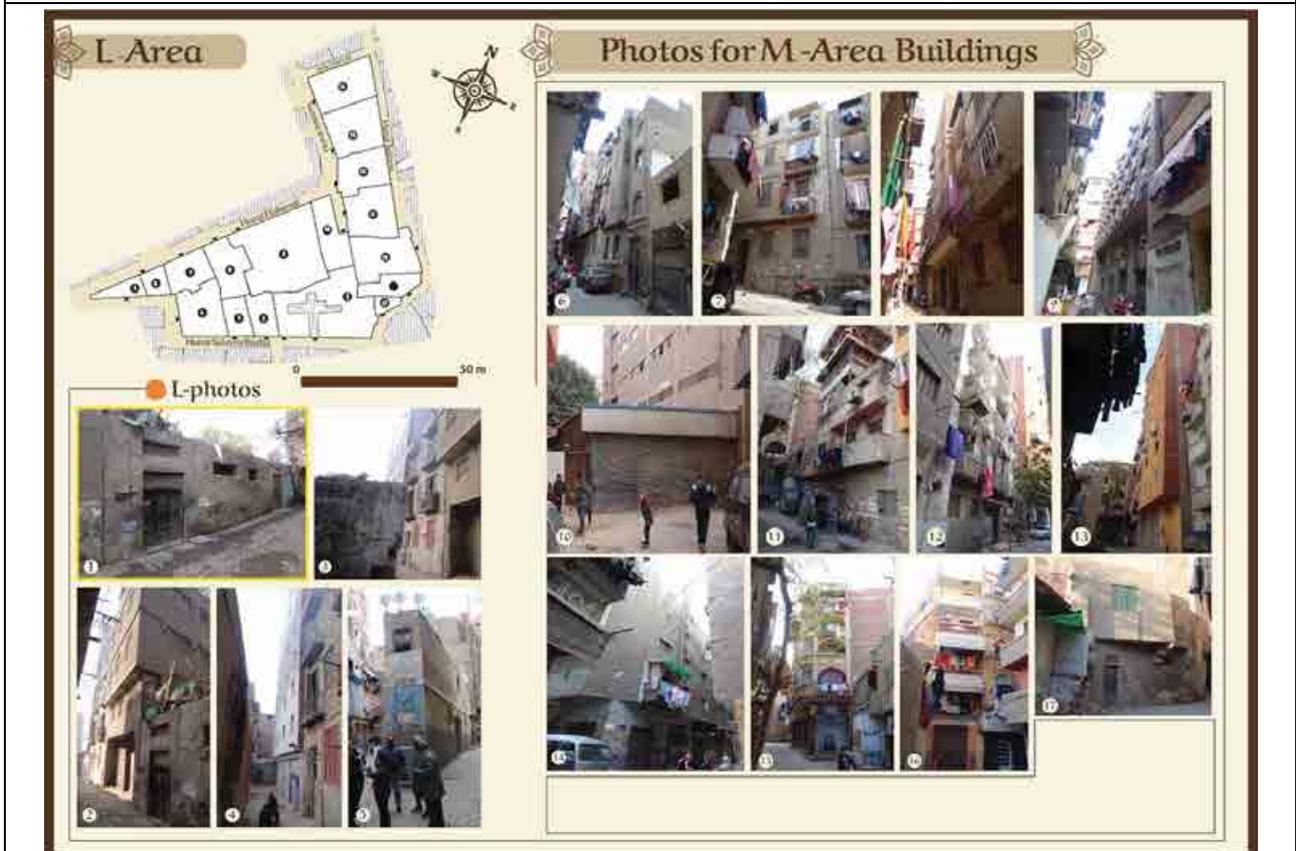
Photos for K-Area Buildings



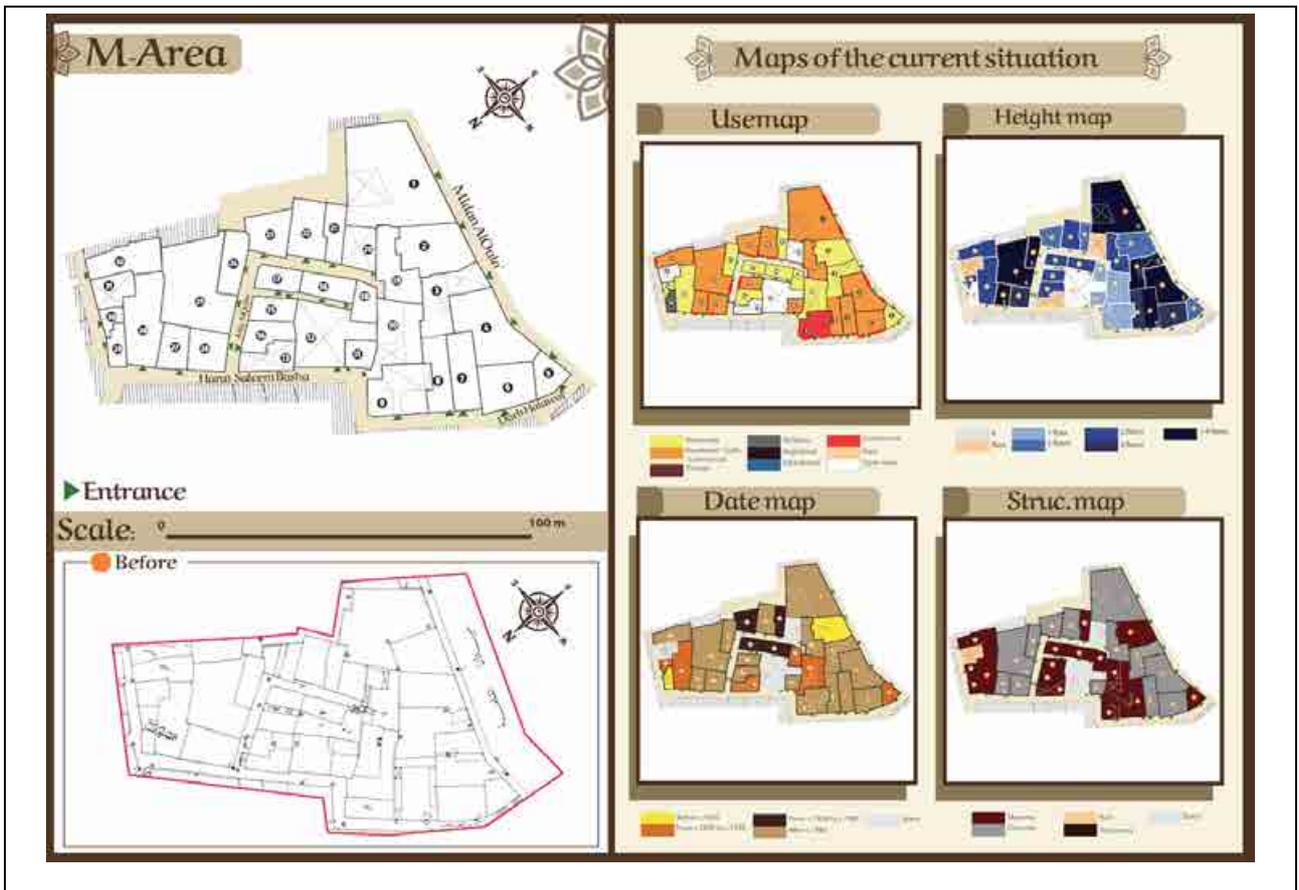
K-Area それぞれの建物のファサード写真



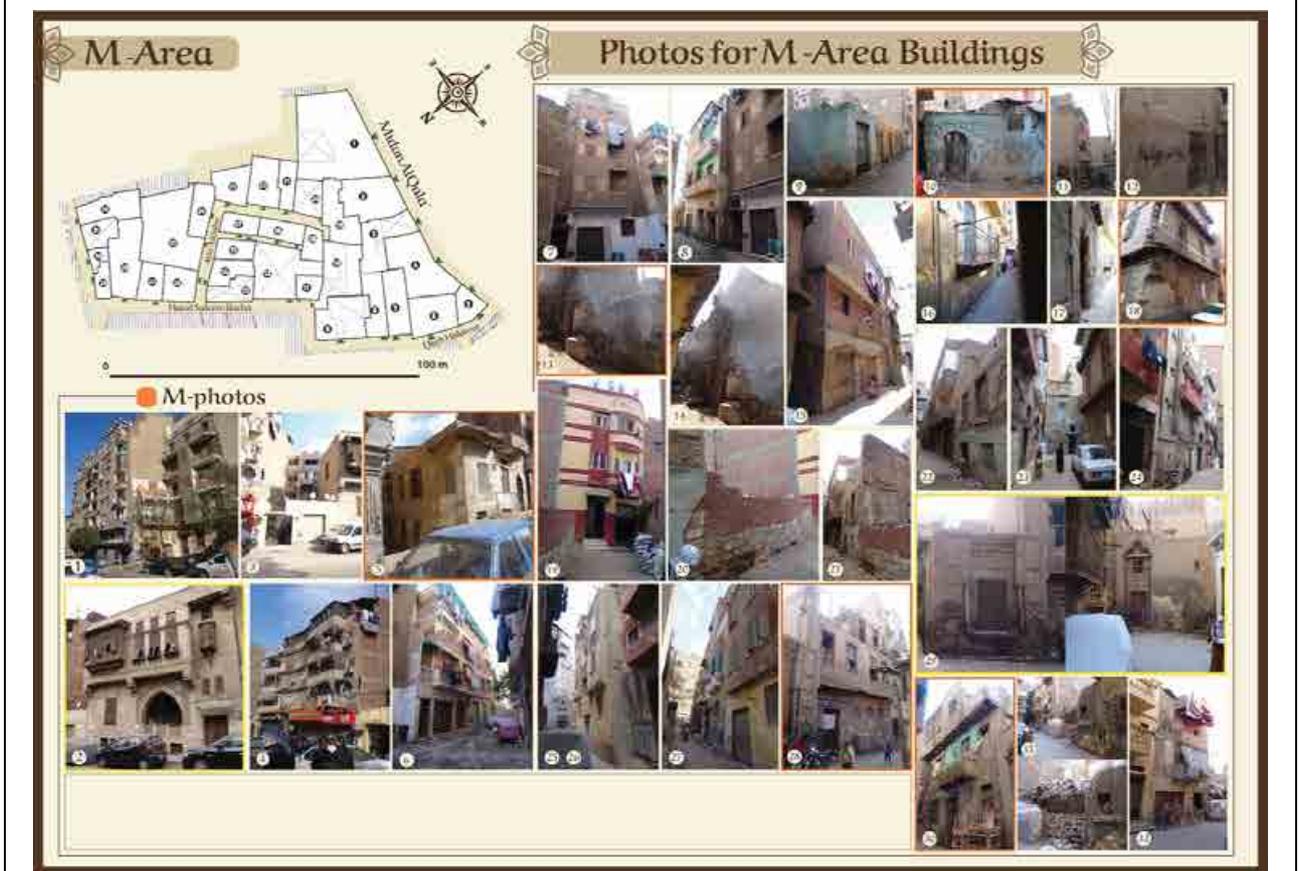
L-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



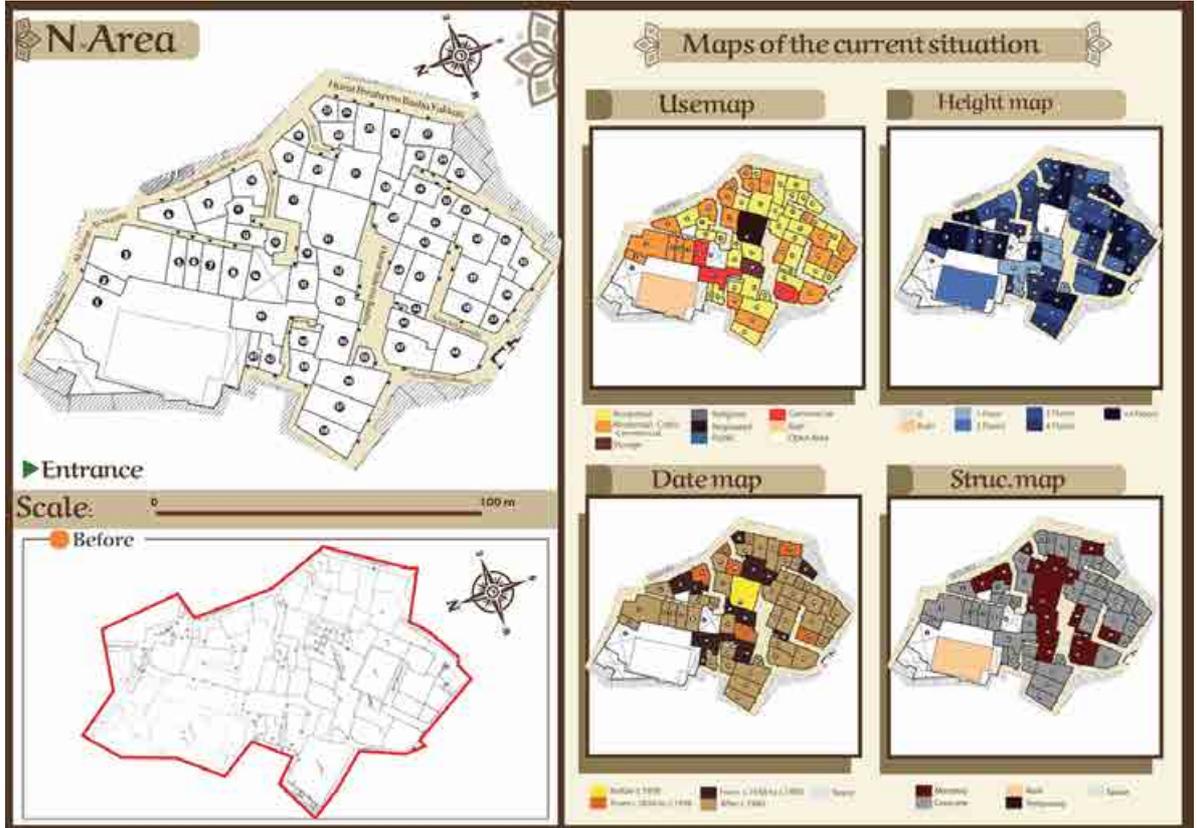
L-Area それぞれの建物のファサード写真



M-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



M-Area それぞれの建物のファサード写真



N-Area 現状地図、1938年地図、機能、階高、建設年代、建築材料



N-Area それぞれの建物のファサード写真

□参加専門家プロフィール

■現地の専門家

【深見奈緒子】日本学術振興会カイロ研究連絡センター・センター長、横浜国立大学博士（工学）

1956年群馬県生まれ、東京都立大学卒業、同大学院修了、アフローラシアの7世紀以後の建築、特にイスラーム教徒が関与した建築や都市の歴史を研究する。早稲田大学イスラーム地域研究機構教授等を経て、2015年より現職にて、現在カイロ滞在中。同時に国士館大学イラク古代文化研究所共同研究員を兼務する。著書に『イスラーム建築の見かた』（2003）、『世界のイスラーム建築』（2005）、『イスラーム建築の世界史』（2013）、『世界の美しいモスク』（2016）など。

【柏木裕之】早稲田大学大学院博士後期課程修了。博士（建築学）。東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授

吉村作治早大名誉教授率いるエジプト調査隊の建築主任として、クフ王第2の船保存プロジェクトや発掘調査などに従事。共著に「ピラミッドの建て方」（実業之日本社）など。

【檜山元一郎】日本設計 監理群 上席主管、一級建築士。専門は工事監理

1969年千葉県生まれ、明治大学卒業、2019年からカイロ大学のプロジェクトに関わる。

■日本からの専門家

【連健夫】日本建築まちづくり適正支援機構代表理事、認定まちづくり適正建築士

1956年京都市生まれ、多摩美術大学卒業、東京都立大学大学院修了、建設会社勤務、1991年渡英、AAスクールAA留学、AA大学院優等学位取得の後、同校助手、東ロンドン大学非常勤講師、在英日本大使館嘱託、1996年帰国、連健夫建築研究室設立、建築設計の傍ら、まちづくりに関わる。早稲田大学、芝浦工業大学非常勤講師、著書に、「イギリス色の街」「心と対話する建築・家」、共著「建築系のまちづくり入門」「対話による建築まち育て」、白鷗幼稚園おもちゃライブラリー（栃木県景観賞）

【布野修司】日本大学客員教授

1949年松江市生まれ。工学博士（東京大学）。建築計画学、地域生活空間計画学専攻。東京大学助手、東洋大学講師・助教授、京都大学助教授、滋賀県立大学教授、副学長・理事、日本大学特任教授を経て現職。JCIC-Heritage 東南アジア・南アジア分科会座長。『インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究』で日本建築学会賞受賞（1991年）。主要著作に『曼荼羅都市』『ムガル都市』『大元都市』『近代世界システムと植民都市』『世界都市史事典』『アジア都市建築史』など。

【岡田保良】国士館大学名誉教授、京都大学博士（工学）。専門は西アジア建築史

1949年大阪市生まれ。1977年京都大学工学部助手、1980年国士館大学イラク古代文化研究所講師、95年同教授。2009～2018年同所長。2020年退職。2005～2011年NGO国際記念物遺跡会議（イコモス）本部執行委員。2019年から一般社団法人日本イコモス国内委員会委員長（代表理事）。おもな著作として、『メソポタミア建築序説―門と扉の建築術―』（共編訳1985）、「古代メソポタミアの宗教建築」（『世界美術大全集東洋編』2000所収）、『世界文化遺産の思想』（共著2018）。

【苅谷勇雅】小山工業高等専門学校名誉教授・元校長、元文化庁文化財鑑査官、京都大学博士・一級建築士

専門は文化財及び景観保存。1948年岐阜県生まれ。京都大学工学部、同大学院博士課程単位取得退学。京都市都市計画局勤務後、1995年文化庁建造物課主任文化財調査官。同建造物課長、同参事官（建造物担当）、文化財鑑査官を経て、2009年国立小山高専校長、2014年退職。一般社団法人日本イコモス国内委員会副委員長（2022年度まで）。主な著書に「京都―古都の近代と景観保存」（至文堂 2005）、「日本の町並み」上下巻（共編著、山川出版社 2016）など。

【市古太郎】東京都立大学都市政策科学科・教授、博士（都市科学）

1972年神奈川県生まれ、名古屋大学卒業、東京都立大学大学院修了、阪神・淡路大震災をきっかけに、トルコ・マルマラ地震、台湾集集地震、インド洋大津波、ネパールゴルカ地震といった国外も含めた災害復興調査に従事。また東京の木造住宅密集地域において事前復興まちづくりを実践し学術的体系化を図る。2017年より現職。著書に『伊豆諸島の自然と災害』（2023）、『都心周縁コミュニティの再生術』（2021）『東日本大震災合同調査報告 建築計画編』（2016）など。

【荒牧澄多】川越まちづくりNPO会員、NPO全国町並み保存連盟役員、認定まちづくり適正建築士

1956年埼玉県川越市生まれ。東京都立大学卒業、同大学院修了。専門は民家、町並み保存。元川越市職員。市では営繕、再開発、文化財保護、都市景観、博物館等に携わる。蔵造り商家の文化財指定、伝統的建造物群保存地区、歴史的風致維持向上計画、景観計画等に携わる。川越市立博物館展示模型設計。以下共著等。「川越の蔵造り―川越市指定文化財調査報告書」「日本の都市環境 デザイン 1」「景観法と景観まちづくり」「川越商都の木綿遺産」「歴史文化遺産 日本の町並み」他

【磯野哲郎】国際開発センター主任研究員、認定まちづくり適正建築士

1956年東京都生まれ、東京都立大学卒業、同大学院修了、建築設計事務所、国際協力機構での勤務を経て2004年から現職。ヨルダン観光遺跡省、シリア観光省、レバノン観光省、チュニジア観光省、イラン遺跡手工芸観光庁などで観光開発戦略を策定；ラオス情報文化観光省、ペトラ観光開発庁、ジンバブエ観光省などで観光開発顧問；著書に「観光を通じた地域開発：ペトラとハロン湾」（2016）、「ASEAN 経済統合が地域観光を活性化させる」（2015）、「ラオス：ルアンパバーンの観光」（2010）など。

【宍戸克実】鹿児島県立短期大学准教授（工学修士・一級建築士）

1975年尾道市生まれ。関西大学工学部建築学科卒業、法政大学大学院工学研究科建設工学専攻（客員研究員としてイスタンブール工科大学大学院留学）修了。株式会社ドトールコーヒー設計管理事業部、株式会社エルム都市計画設計室勤務。愛知産業大学造形学部建築学科非常勤助手、鹿児島県立短期大学助教を経て2016年より現職。主な著書（共著）に「トルコ・イスラーム都市の空間文化（山川出版社）」「イスラーム建築がおもしろい！（彰国社）」がある。

【松村哲志】日本工学院専門学校建築学科教師、AMBIENCE ARCHITECTS 主催 JCAABE 理事、修士（工学）、認定まちづくり適正建築士

1970年東京都生まれ、日本大学生産工学部建築工学科卒業、同大学院修了、名古屋大学教育発達科学研究科博士後期課程単位取得満期退学、専門は建築設計、建築教育、参加協働の建築づくり・まちづくり、2019年からその経験を活かし市民と参加協働することができる建築の専門育成「まちづくりファシリテーター養成講座」を文科省委託事業として取り組み現在も実施。

本報告書は、文化庁の委託業務として、一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構が実施した令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。

令和5（2023年）3月

JCAABE

一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構

<https://jcaabe.org>